



Fiery Command WorkStation

© 2023 Fiery, LLC. 本書に記載されている情報は、本製品の『法律上の注意』の対象となります。

2023年12月14日

目次

Fiery Command WorkStation	15
Command WorkStation ワークスペース	15
Fiery スマート検索	16
ジョブセンター	17
処理中ジョブと印刷中ジョブの状況	17
キュー内のジョブを管理するコマンド	18
デバイスセンター	20
Fiery server を追加して接続する	22
Fiery server に接続するためのアクセスレベル	22
Fiery server への接続	22
Fiery server を追加して接続する	23
使用可能な Fiery server を検索する	23
Fiery server からログオフする	24
別の Fiery server を表示する	24
サーバーリスト	24
Command WorkStation のアンインストール	26
Command WorkStation のカスタマイズ	27
Set Command WorkStation preferences	27
サーバー一覧のカスタマイズ	28
ジョブセンターの列を管理する	28
列の表示を変更する	29
カラムの幅を調整する	29
ペインの展開/折りたたみ	29
ツールバーをカスタマイズする	30
ジョブセンターのツールバーのアイコン	30
Fiery IQ アカウントを使用したワークスペース設定のバックアップと共有	31
Command WorkStation を Fiery IQ アカウントに接続する	32
ワークスペース設定のバックアップ	32
ワークスペース設定の復元	32
ワークスペース設定の共有	33
Fiery IQ クラウドアカウントの招待を承認する	33

Fiery server 設定	35
Configure へのアクセス	35
Command WorkStation から Configure にアクセスする	35
WebTools から Configure にアクセスする	35
証明書を管理する	36
Configure のヘルプやその他の情報を参照する	37
Configure を終了する	37
サーバー設定の内容を表示、保存、または印刷する	37
サーバー設定の内容を表示する	37
サーバー設定をファイルとして保存する	38
サーバー設定ページを印刷する	38
ユーザーとグループ	38
新規ユーザーを作成する	39
グループを作成する	39
ユーザーを既存グループに追加する	41
スキャンジョブ用のメールボックスを作成する	41
グループからユーザーを削除する	41
ユーザー属性を変更する	42
グループ権限を変更する	42
ユーザーまたはグループを削除する	43
EFI Cloud Connector	43
Fiery server に EFI Cloud Connector をインストールする	44
Fiery server を Fiery IQ アカウントに接続する	44
EFI Cloud Connector を管理する	44
Fiery Dashboard を開く	45
EFI Cloud Connector から Fiery server を外します。	45
バックアップと復元について	46
Fiery server 設定のバックアップまたは復元を行う	46
ジョブの表示	49
Command WorkStation の Fiery Preview	49
ジョブプレビューウィンドウでのジョブの表示	49
スプール済みジョブのプレビュー	52
Fiery Preview のツールバーアイコン	52
ラスターイメージをプレビューする	52
ラスタープレビューのツールバーアイコン	54
プレビューでページをマージする	55

VDP ラスタープレビュー	55
印刷	57
印刷ジョブをインポートする	57
ジョブを印刷キューにインポートする	57
外部のアーカイブや Fiery server ハードディスクからジョブをインポートする	59
印刷オプションの設定	59
ジョブのプロパティを表示する	59
ジョブのプロパティウィンドウのジョブアクション	60
印刷オプションのカテゴリ	61
すべてのジョブのプロパティにデフォルトを設定する	62
ジョブのプロパティの Fiery Impose テンプレート	63
プリセットのプリント設定	65
サーバープリセット	69
Fiery JobExpert	73
Fiery JobExpert ルール	74
JobExpert 列を追加する	74
JobExpert を使用してジョブをインポートする	74
JobExpert を仮想プリンターに追加する	75
JobExpert を Fiery Hot Folders に追加する	76
ジョブセンターで JobExpert を適用する	76
JobExpert 設定を除去する	77
Fiery JobExpert レポートを表示	77
ジョブからラスターデータを除去する	77
ラスター曲線エディター	78
印刷方法	78
トレイ調整を使用する	79
サンプル印刷	79
プルーフ印刷	81
ジョブを管理する	83
ジョブを検索する	83
簡易なジョブ検索	83
すべての Fiery servers での検索	84
高度なジョブ検索	84
ジョブサムネイルの表示	85
ジョブにジョブタグを割り当てる	85
ジョブタグの管理	86

完了ビューの使用	86
現在のビューをエクスポート	87
ジョブグループ	87
ジョブグループを作成	88
ジョブグループの編集	88
ジョブをジョブグループから削除	89
ジョブグループを削除	89
別のキューにジョブを移動する	89
ジョブを並べ変える	90
ジョブを別の Fiery server に送信する	90
ジョブをアーカイブする	91
アーカイブマネージャーでの初回セットアップ	91
アーカイブマネージャーを使用してジョブをアーカイブする	92
アーカイブ済みジョブの概要	92
移行中にアクセスできないフォルダー	93
アーカイブ先を管理する	93
アーカイブを共有する	93
アーカイブ済みジョブの検索	94
アーカイブ済みジョブを使用する	94
アーカイブマネージャーを無効にする	94
アーカイブマネージャーを使用せずにジョブをアーカイブする	95
サーバーの初期化	95
ドラッグアンドドロップによるファイル管理	95
インク使用量の推定	96
コストやジョブに関連する列を設定する	96
コストを見積もる	97
推定印刷時間を表示する	98
Fiery プリントスケジューラー	98
Fiery プリントスケジューラーを開く	98
ジョブのスケジュール	99
ジョブのスケジュール変更	99
スケジュールのキャンセル	100
次に印刷するジョブの指定	100
スケジュールされているジョブの検索	100
Command WorkStation で Fiery JobFlow を適用する	100
Command WorkStation からワークフローを作成	101
仮想プリンターを使用して Fiery JobFlow ワークフローを適用する	103

Fiery JDF ジョブ	104
Fiery JDF と JMF について	104
Fiery JDF の設定	104
JDF 送信アプリケーションを使用可能に設定する	105
Fiery JDF ワークフロー	105
JDF ジョブを送信する	105
Command WorkStation の JDF 列見出しを表示する	106
Fiery JDF ジョブと仮想プリンター	106
ジョブの JDF 設定を指定する	106
ジョブ情報タブ	107
ランリストタブ	107
ジョブの終了タブ	108
に追加する JDF ジョブメディアを Paper Catalog またはメディアカタログに追加する	108
JDF ジョブの用紙の競合を解決する	109
Fiery Central ワークフローの管理	110
Fiery Central について	110
Fiery Central server に接続するか、接続を切断する	111
Command WorkStation の Fiery Central server	112
Fiery Central ジョブセンターをカスタマイズする	112
Fiery Central ライセンスの表示または編集	113
Fiery Central を設定する	114
Fiery Central マネージャー	114
Fiery Central マネージャーにアクセスする	115
Fiery Central プリンターグループ	115
Fiery Central のバックアップまたは復元を実行する	119
Fiery Central Paper Catalog を使用する	120
VDP ファイル検索パスを設定する	121
カラーを管理する	123
カラー印刷オプション	123
デフォルトのカラー印刷オプションを表示または編集する	123
プロファイル	139
プロファイルプロパティを表示する	140
プロファイルの色の範囲を比較する	140
プロファイルをインポートまたはエクスポートする	141
プロファイルを作成または削除する	141

プロファイル設定を編集する	143
プロファイル内容を編集する	143
テストページを印刷する	145
プロファイルのグレーバランスを調整する	146
キャリブレーターの概要	146
従来の CMYK および白黒印刷用のキャリブレーション	147
モノクロ印刷のキャリブレーション	147
キャリブレーションのワークフロー	148
キャリブレーターを起動する	148
キャリブレーションページの印刷	148
分光測色計を使用してパッチを測定する	149
ColorCal を使用してパッチを測定する	150
代替測定器から測定値をインポートする	152
測定結果の表示	153
測定データをエクスポートする	154
測定データのリセット	154
Calibrator 設定	155
出力プロファイルのキャリブレーション設定	158
Calibrator 3	161
分光測色計を使用してパッチを測定する	162
分光測色計のキャリブレーション	163
キャリブレーションページの測定	163
濃度ベースのキャリブレーションワークフロー	163
タスクの選択	164
サーバーのキャリブレーションの作成	164
キャリブレーション設定のカラー出力プロファイルを作成する	167
測定結果の表示	167
測定データをエクスポートする	168
測定データのリセット	169
Calibrator 設定	169
出力プロファイルのキャリブレーション設定	171
再キャリブレート	172
キャリブレーションマネージャー	174
L*a*b*ベースのキャリブレーションワークフロー	175
タスクの選択	176
サーバーのキャリブレーションの作成	177
再キャリブレート	185
キャリブレーションマネージャー	187

インクジェット Delta E ベースのキャリブレーションワークフロー	188
Fiery サーバーを選択する	189
サーバーのキャリブレーションの作成	189
キャリブレーション設定	190
インクコントロールの設定	191
リニアリゼーションの合計インク制限を設定する	192
キャリブレーションの概要	192
出力プロファイルの設定	193
再キャリブレート	193
キャリブレーションマネージャー	196
画像補正	197
高品位イメージ画像設定をカスタマイズする	197
Image Enhance Visual Editor	198
スポットカラー	205
スポットカラーグループと定義	205
スポットカラー編集用の出力プロファイルを選択する	206
スポットカラーまたはカラーグループの優先順序を変更する	206
スポットカラーを検索する	207
スポットカラーを編集する	207
スポットカラーを最適化する	208
スポットカラーまたはカラーグループの作成、名前変更、削除を行う	209
カスタムカラーグループをインポートおよびエクスポートする	210
カラーグループの色の範囲を表示する	211
カラーズウォッチページとスウォッチブック	212
カラーズウォッチページまたはスウォッチブックを印刷する	213
スポットカラー値を測定およびインポートする	214
代替カラー	215
2色印刷マッピング	216
Spot Pro のスポットカラー	217
Spot Pro を起動する	218
Spot Pro ワークスペース	218
Spot Pro グループタイプ	220
Spot Pro カラータイプ	220
Spot Pro のカスタマイズ	221
Spot Pro の環境設定	221
Spot Pro 列を管理する	222
スポットカラーライブラリの有効化/無効化	223
Spot Pro ツールバーアイコン	224

スポットカラーを検索する	225
スポットカラーを検索する	225
スポットカラーを編集する	225
スポットカラーのバリエーション	227
スポットカラーまたはカラーグループを削除する	229
スポットカラーまたはスポットカラーライブラリの複製またはエクスポート	229
ジョブのスポットカラーを編集する	229
Spot Pro スポットカラーのエイリアス	230
エイリアススポットカラー	231
特殊なカラーとエイリアススポットカラー	233
特殊カラーとスポットカラーのミックス	233
特殊カラーとスポットカラーをミックスする	233
特殊カラーを使用したスポットカラーの目視検査	234
特殊カラーミックスおよび出力プロファイル	234
スポットカラーを最適化する	235
色域警告	236
階調曲線編集によるスポットカラー	237
カラーグラデーションエディターを使用する	237
カラースウォッチページとスウォッチブック	238
カラースウォッチページまたはスウォッチブックを印刷する	238
1つまたは複数のスポットカラーのスウォッチブックを印刷する	239
グループ内のすべてのスポットカラーのスウォッチブックを印刷する	240
代替カラー	240
代替カラーの作成や編集を行う	241
Fiery TrueBrand を使用する	242
サーバーリソースを管理する	244
Fiery システムソフトウェアのアップデートとパッチ	244
Command WorkStation からの Fiery server システムソフトウェアのアップデート	244
サーバーのパフォーマンスとセキュリティを調べる	245
サーバーを最適な稼働状態で維持する	245
仮想プリンター	246
デフォルト設定	246
仮想プリンターを作成、編集または複製する	246
仮想プリンターを管理する	248
仮想プリンターへ印刷する (Windows の場合)	249
Mac コンピューターから仮想プリンターへ印刷する	249
用紙カタログ	250

Paper Catalog から用紙を選択する	251
Paper Catalog を設定する	253
Paper Catalog データベースを管理する	261
用紙属性	263
トレイ関連付け	273
メディアカタログ	277
メディアカタログにアクセスする	278
メディアカタログ設定を選択する	280
メディアカタログの新規エントリの属性	280
メディアカタログエントリを作成する	281
メディアカタログエントリのサイズ属性を定義する	282
カラープロファイル設定を指定する	282
メディアカタログエントリをお気に入りとしてページマークするまたは削除する	283
メディアカタログエントリを使用しているジョブの検索	284
用紙カタログエントリを変更する	284
一時的なカスタム用紙サイズを割り当てる	286
メディアカタログエントリをジョブに割り当てる	287
メディアエントリ	287
メディアカタログを管理する	296
トレイ関連付け	298
スマート用紙	300
サイズカタログ	303
バリアブルデータ印刷リソース	306
FreeForm 1 および 2 マスターを管理する	307
バリアブルデータ印刷リソースをバックアップする	307
バリアブルデータ印刷リソースを復元させる	308
グローバルリソースを表示および削除する	309
フォント	309
Fiery サーバーのフォントを管理する	309
フォントのバックアップと復元を実行する	310
ユーザーとグループ	310
グループを表示または追加する	311
ジョブログを使用する	311
ジョブログを表示する	311
ジョブログ列のカスタマイズ	312
ジョブログエントリの詳細情報を表示する	312
ジョブログを印刷する	312
ジョブログのコンテンツをエクスポートする	312

ジョブログのコンテンツをエクスポートおよび消去する	313
Graphic Arts ツール	314
Fiery グラフィックアート機能	314
Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition	314
Fiery Productivity Package	315
Fiery Graphic Arts Pro Package	315
Fiery Automation Package	316
Fiery ColorRight Package	316
コントロールバー	316
ページサイズとコントロールバー (FS150/150 Pro)	317
デフォルトでコントロールバーを印刷する (FS200/200 Pro および FS150/150 Pro)	318
デフォルトでコントロールバーを印刷	318
コントロールバーを表示および編集する	318
カスタムまたは複製のコントロールバーを作成する	319
カスタムコントロールバーをエクスポート、インポート、または削除する	320
出荷時のデフォルトのコントロールバーを復元する	320
トラッピング	321
すべてのジョブにデフォルトの自動トラッピングを設定する	321
トラッピング幅を指定する	321
トラッピングカラーリダクションを指定する	322
トラッピングセル形状を指定する	322
オブジェクトのトラッピング方法を指定する	322
プログレッシブ	323
校正用ハーフトーンシミュレーション	323
カスタムハーフトーンスクリーンを表示または編集する	323
用紙シミュレーションの白色点編集	324
用紙シミュレーションの白色点値を編集する	324
プリフライト	325
プリフライトチェックの設定と実行	327
Fiery Preflight Pro	327
Fiery ImageViewer	328
ImageViewer の必要条件	329
ImageViewer を起動する	329
Fiery ImageViewer ツールバーを使用して共通アクションにすばやくアクセスする	330
イメージプレビューウィンドウでルーラーを表示する	331
イメージプレビューウィンドウで距離を測定する	332
イメージプレビューを調整する	332

画像位置の調整	333
画像のサイズを変更する	334
画像内のカラー値を表示する	334
オブジェクトインスペクター	334
カラー置換	335
ローカルカラー置換	336
色分解の表示と印刷	337
ImageViewer の編集	337
曲線を使用して応答を編集する	338
色相環を使用して色を編集する	339
画像からグレー応答曲線を編集する	339
カラー編集を 1 ページまたは全ページに適用する	340
ローカルファイルを使用してカラー編集を適用する	340
サーバープリセットを使用してカラー編集を適用する	340
Curve2/Curve3/Curve4 ファイルからカラー曲線を適用する	342
グレー応答曲線の編集を適用する	342
Fiery ImageViewer でページを管理する	343
編集したジョブを印刷する	345
校正を印刷する	345
ソフト校正を PDF にエクスポートする	345
白黒ソフト校正を PDF にエクスポートする	346
モニタープロファイルと出力プロファイルを比較する	346
Fiery server に現在の編集を実装する	346
Fiery server で出荷時のデフォルト応答曲線に復帰する	347
Set Fiery ImageViewer preferences	347
Fiery ImageViewer 3.0 から Fiery ImageViewer 4.0 への変更	348
製本メーカー	349
製本メーカーの面付け	349
製本メーカーおよび Fiery Impose について	349
Booklet Maker へのアクセス	350
プリンタードライバーから製本メーカーにアクセスする	350
Command WorkStation から Booklet Maker にアクセスするには	350
ブックレットを作成する	350
Booklet Maker ウィンドウにブックレットを作成する	351
製本メーカーウィザードを使用してブックレットを作成する	351
製本タイプ	352
中とじ	353

複合中とじ	354
無線とじ	356
1-up 無線とじ	357
用紙サイズ 2-up	357
書類サイズと同じ	358
選択した用紙サイズに合わせて書類ページを縮小する	358
用紙に合わせて縮小オプション	359
ページの調整	363
ページを調整する	364
ページ調整ととじしろ	366
クリープ補正用紙種類	368
1-up 無線とじでの用紙種類の混合	369
Booklet Maker で用紙種類の混合設定を指定する	369
用紙種類の混合でジョブのナビゲーションを行う	370
ジョブのレイアウトをページとして表示する	371
ジョブのレイアウトをシートとして表示する	371
Booklet Maker 用紙種類の混合の制限事項	372
表紙を追加する	372
アプリケーション内で書類サイズを変更する	373
測定単位を変更する	373
ブックレットをプレビューする	373
ブックレット印刷事例	374
無線とじのブックレットを印刷する	374
中とじのブックレットを印刷する	374
複合中とじのブックレットを印刷する	375
1-up 無線とじブックレットを印刷する	375
Booklet Maker の制限事項	376
Booklet Maker 用語集	376

Fiery Command WorkStation

Command WorkStation は、Fiery servers の印刷ジョブ管理インターフェイスです。

Command WorkStation では、複数の Fiery servers に接続したうえで、1つの場所でジョブの管理を行うことができます。直観的なインターフェイスにより、オペレーターやシステム管理者は、処理するジョブの数やタイプに関係なく、複雑なタスクを簡単に処理できます。

ジョブセンターとデバイスセンターは Command WorkStation の統合機能であり、これらにはジョブの検索とレビュー、ワークフローの割り当て、デジタルおよびオフセット印刷ジョブの管理を行うためのツールが含まれています。Command WorkStation ツールを使用して、以下のタスクを実行できます。

- ジョブの変更とマージ
- ジョブと Fiery servers に関する情報の表示
- カスタム印刷オプションの表示、選択、変更
- カスタムワークフローの表示と変更
- プリプレスジョブワークフローの管理
- Fiery アプリケーション (Fiery Impose など) による他のタスクやリソースの管理

Fiery servers には数々のオプション機能が用意されており、それらはすべてこのヘルプシステムで文書化されています。ただし、Command WorkStation には、接続している Fiery server でサポートされているオプション機能 (HyperRIP モードなど) のみが表示されます。

Fiery server にインストールされている Fiery システムバージョンは、以下で確認できます。デバイスセンター > 一般情報. ([Command WorkStation ワークスペース](#) (15 ページ) を参照してください)。

Command WorkStation 機能の詳細は、取扱説明書の『ユーティリティ』を参照してください。

Command WorkStation ワークスペース

メインウィンドウでは、接続しているすべての Fiery servers または選択したサーバーで発生しているアクティビティの概要が表示され、各種機能にアクセスできます。

Fiery server を Command WorkStation に追加する方法については、[Fiery server を追加して接続する](#) (22 ページ) を参照してください。

メモ：表示される内容は、Fiery server によって異なります。詳細は、ヘルプメニューを参照してください。

Command WorkStation メインウィンドウには以下の領域が含まれます。

- メインメニュー - 各種コマンドにアクセスできます。
- サイドバー - ボタンによるナビゲーションを Fiery ログの直下の次の画面に表示します。
 - ホーム - 接続している Fiery servers の状況の概要と、1 週間以内に実行した印刷プロダクションに関する統計情報のスナップショットが表示されます。
 - ジョブセンター - 接続されている Fiery server に送信されるジョブの表示および管理に使用します。
 - サーバー - ジョブキューやジョブ状況が一覧表示されます。一部の Fiery servers では、使用可能な用紙や消耗品も表示されます。各 Fiery server の表示を折りたたむと、表示できるサーバーの数が増えます。
 - ジョブ状況 - 現在処理中のジョブと印刷中のジョブの状況が表示されます。これらのジョブを管理するには、サーバー一覧で処理中キューまたは印刷中キューをクリックします。
 - プレビュー - 処理済みジョブの内容がサムネイルで表示されます。Fiery システムソフトウェア FS300/300 Pro 以降を搭載した Fiery server では、スプール済みジョブや処理済みジョブのサムネイルが表示されます。
 - 概要 - ジョブ名またはタイトル、ページ数またはシート数、部数など、選択したジョブの情報が表示されます。スプール時間または処理時間、使用されている用紙、プリフライトまたはジョブの検証結果など、その他の情報が、選択した Fiery server 別に表示されます。鉛筆アイコンをクリックすると、一部のジョブプロパティのフィールドを編集できます。
 - ジョブ一覧 - ジョブのリストと、実行できるジョブアクションをまとめたツールバーが表示されます。ジョブを右クリックすると、ジョブアクションの完全なリストが表示されます。
 - アプリおよびリソース - インストールされているすべての Fiery アプリケーションに 1 回のクリックでアクセスできるほか、Fiery server について他のアプリケーションやリソースも表示されます。選択した Fiery server でサポートされている無料のソフトウェアトライアルやダウンロードにもアクセスできます。

メモ：使用可能なアプリおよびリソースの一覧を表示するには、インターネット接続が必要です。
- Fiery スマート検索 - Fiery のナレッジベースを検索して、Command WorkStation や Fiery 機能について詳しく知ることができます。

Fiery スマート検索

Fiery スマート検索で、情報やトレーニングリソースを検索して、Command WorkStation や Fiery 機能の詳細を調べることができます。

Fiery スマート検索では、Fiery のナレッジベースで以下のリソースを検索できます。

- ヘルプ文書
- Fiery Communities
- ハウツーガイド
- Fiery 製品ガイド

- 1 ジョブセンターで、Fiery サイドバーの左下にある Fiery スマート検索アイコン (拡大鏡) をクリックします。Fiery スマート検索は、別のウィンドウがジョブセンター上で開かれていない限り、いつでも左下のサイドバーで使用できます。
- 2 Fiery 情報の検索領域で検索用語を入力し、Enter を押します。マウスまたはスクロールバーでリストをスクロールできます。検索ウィンドウには一度に 10 件の結果が表示されます。
- 3 検索結果をクリックします。情報はデフォルトの Web ブラウザーで開きます。

ジョブセンター

Command WorkStation のジョブセンターは、接続済みの Fiery server に送信されるジョブの表示と管理を一元的に行うことのできる場所です。ジョブセンターには印刷中キューと処理中キュー、待機ビュー、印刷済みビュー、アーカイブ済みビューおよび完了ビューがあります。

ジョブセンターを使用して、以下の操作を行えます。

- 検索するそれぞれの Fiery server 内のジョブの検索、ジョブのプロパティの表示、ジョブのプレビュー。ツールバーで、ジョブの詳細な情報を表示可能
- ワークフローの割り当てとジョブの管理
- カスタムビューによるジョブのグループ化と効率的なジョブ管理
- すべてのジョブビューのすべてのジョブを表示し、すべてのキューにあるすべてのジョブを表示
- ジョブの場所に関係なく、Fiery server のすべての印刷済みジョブを完了ビューに一覧表示
- Fiery servers の状況をすべて表示
- プリンター、消耗品と用紙、ジョブ要件などの情報の表示
- ジョブのプレビュー
- ジョブのサムネイルアイコンの表示
- 印刷以外のアクティビティの表示
- ジョブ概要パネルでの部数、ジョブ名、ワークフローの編集
- デスクトップから Command WorkStation へのジョブのドラッグアンドドロップ

処理中ジョブと印刷中ジョブの状況

ジョブセンターの上部にある処理中ペインと印刷中ペイン (青い長方形) には、それぞれ処理中のジョブと印刷中のジョブの進行状況が表示されます。

処理中および印刷中のペインにジョブをドラッグアンドドロップすることができます。

Fiery server が HyperRIP モードをサポートしている場合は、さらに詳しい状況を知ることができます。ジョブがページ平行モード (単一ジョブモード) で処理されている場合は、ジョブセンターの処理中ペインに表示される進行状況バーが分割され、使用中のプロセッサごとの進行状況が示されます。ジョブがジョブ平行モード (複数ジョブモード) で処理されている場合は、処理中ペインのジョブ状況カラムがさらに分割され、処理中のジョブごとの進行状況が示されます。

キュー内のジョブを管理するコマンド

ジョブセンターの待機、印刷済みまたはアーカイブ済みキューに表示されるジョブ向けのコマンドを利用できます。キュー内のジョブを右クリックしてコマンドの一覧を表示したり、アクションメニューからコマンドを選択したりできます。

オプション機能については、接続している Fiery server でサポートされている機能だけが表示されます。

JobExpert の適用	個々の PDF ジョブに推奨ジョブプロパティ設定を適用します。詳細は、 Fiery JobExpert (74 ページ) を参照してください。
ワークフローを適用	選択したジョブに適用できるサーバープリセットおよび仮想プリンターの一覧を表示します。
アーカイブ	選択したジョブをアーカイブします。
ジョブをキャリブレート	キャリブレーターに接続します。
キャンセル	選択されているジョブをキャンセルします。これは、印刷中または処理中キューに表示されているジョブにのみ適用できます。
JobExpert の消去	選択したジョブの JobExpert によって設定されたジョブのプロパティの推奨設定を削除します。詳細は、 Fiery JobExpert (74 ページ) を参照してください。
Compose (オプション)	Fiery Compose を開きます (サポートされている場合)。ジョブの章分けを定義したり、ページの範囲を異なる用紙に印刷したり、ページ間に白紙を挿入したり、(プリンターでタブ印刷がサポートされている場合は) テキストラベルを印刷したタブ用紙を挿入したりできます。
コピー先	別の Fiery server のキューにジョブをコピーします。送信先の Fiery server が Command WorkStation に接続されている必要があります。接続されていないサーバーはリストに表示されません。
ジョブグループを作成	ジョブグループウィンドウを開きます。これにより、ジョブグループの設定を指定できます。詳細は、 ジョブグループ (87 ページ) を参照してください。
削除	選択したジョブを削除します。
複製	選択したジョブのコピーを作成します。
Fiery Verify (オプション)	Fiery Color Profiler Suite の一部である Fiery Verify を開きます。
待機	選択したファイルを待機リストにインポートします。
Image Enhance Visual Editor (オプション)	Image Enhance Visual Editor (IEVE) を開きます。これは、Fiery servers に送信される PDF または PostScript ジョブ (Fiery JDF ワークフロー経由で送信されるジョブを含む) 内にある個々のイメージを補正するための視覚的ワークスペースを提供する高品位イメージ補正アプリケーションです。
ImageViewer	1 つのジョブの最初のページ (複数のジョブが選択されている場合は最初の選択ジョブのページ) を表示する Fiery ImageViewer を開きます (サ

ポートされている場合)。詳細は、[Fiery ImageViewer](#) (328 ページ) を参照してください。

Impose (オプション)	Fiery Impose を開きます。Fiery Impose は、ジョブに面付けレイアウトを適用して、印刷、綴じ、裁断をカスタマイズします。また、Fiery Impose は、バリエーションデータジョブに面付けを行うことができ、面付け済みジョブを PDF ファイルとして保存します。
JobMaster (オプション)	Fiery JobMaster を開きます。Fiery JobMaster は、スキャニング、タブの作成や挿入、ページ番号付け、章作成および後期編集のための PDF ベースの高度なジョブの印刷準備ツールを提供します。
移動先	Fiery server に Fiery システムソフトウェア FS350/350 Pro 以降がインストールされている場合は、ジョブを別の Fiery server に移動できます。移動先の Fiery server は Command WorkStation に接続されている必要があります。移動先のシステムソフトウェアはサポートされているバージョンであればどれも問題ありません。そうでない場合、サーバーはリストに表示されません。
上へ移動/下へ移動	選択されているジョブの順序を変更します。これは、印刷中または処理中キューに表示されているジョブにのみ適用できます。
プリフライト	出力エラーがよく発生する項目をチェックしてファイルが正常に印刷されるようにするために、選択されている 1 つのジョブ (複数のジョブが選択されている場合は最初の選択ジョブ) が表示された状態でプリフライト設定ダイアログボックスを開きます。詳細は、 プリフライト (326 ページ) を参照してください。
Preflight Pro	選択した PDF または PDF/VT jobs ジョブに適用できるプリセットの一覧が表示されます。このオプションは、Fiery システムソフトウェア FS500 Pro 以降が搭載された Windows ベースの Fiery サーバーでの PDF または PDF/VT ジョブにのみ使用できます。Fiery Preflight Pro には Fiery Graphic Arts Pro Package が必須です。詳細は、 Fiery Preflight Pro (328 ページ) を参照してください。
プレビュー	ジョブのページのサムネイル画像を表示できるプレビューウィンドウを開きます。
印刷	選択したジョブを印刷します。
印刷後削除	選択したジョブの印刷を実行したうえでそのジョブを削除します。
印刷後待機	選択したジョブが処理されている場合、ジョブは印刷中キューに送信されます。選択したジョブが処理されていない場合、ジョブは処理中キューに送信されます。ジョブを印刷した後、待機リストに戻ってもジョブのラスタデータは保持されます。
次に印刷	現在印刷中のジョブを中断せずに、選択したジョブを印刷中キューの最上位に送信します。ジョブを印刷中キューの最上位にドラッグすると同じです。
処理後待機	選択したジョブを待機、印刷済み、アーカイブ済みリストから処理中キューに送信します。

次に処理	現在印刷中のジョブを中断せずに、選択したジョブを処理中キューの最上位に送信します。ジョブを処理中キューの最上位にドラッグすると同じです。
ブルーフ印刷	ジョブのオリジナルの部数を変更せずに選択したジョブの校正用プリント（コピー）を印刷します。詳細については、 ブルーフ印刷 （81 ページ）を参照してください。
プロパティ	選択したジョブに関する情報（印刷設定など）が表示されるジョブのプロパティ ウィンドウを開きます。複数のジョブが選択されている場合、選択されたジョブが共有していないプロパティは空欄になります。
ラスターデータ除去	待機またはアーカイブ済みリストから選択したジョブのラスターデータを削除します。
名前の変更	選択したジョブ名を変更します。
割り込み印刷	現在印刷中のジョブを中断して、選択したジョブを印刷中キューの最上位に送信し、そのジョブを直ちに印刷します。
印刷日時指定	Fiery プリントスケジューラーウィンドウを開きます。これにより、ジョブの印刷日時をスケジュールできます。詳細は、 Fiery プリントスケジューラー （98 ページ）を参照してください。
JobExpert レポートの表示	JobExpert レポートを開きます。レポートは、Fiery JobExpert が適用されたジョブにのみ使用できます。詳細は、 Fiery JobExpert （74 ページ）を参照してください。
プリフライトレポートを表示	プリフライトレポートを開きます。プリフライトされたジョブのレポートのみを表示できます。詳細は、 プリフライト （326 ページ）を参照してください。 Fiery Preflight Pro レポートは、Fiery システムソフトウェア FS500 Pro 以降が搭載された Windows ベースの Fiery サーバーのプリフライトされた PDF または PDF/VT ジョブにのみ使用できます。

デバイスセンター

Command WorkStation では、1 つのワークスペース内にシステム情報を表示します。デバイスセンターを使用すると、接続されている Fiery server を設定したり、各種印刷管理ツールにアクセスしたりできます。

デバイスセンターにアクセスするには、詳細アイコン（3 つのドット）をクリックしてデバイスセンターを選択するか、サーバーリスト内の Fiery server 名をダブルクリックします。

デバイスセンターを使用すると、以下のタスクを実行できます。

- 接続されている Fiery server に関する情報の表示（関連付けられているプリンター上の消耗品に関する情報を含む）
- カラーデフォルトの設定
- Paper Catalog またはメディアカタログ、バリアブルデータ印刷（VDP）、カラープロファイル、スポットカラーテーブル、フォント設定の表示と変更

- 使用可能な仮想プリンターおよびサーバープリセット、Image Enhance 設定による自動画像補正の表示と作成
- 処理済みおよび印刷済みジョブの詳細ログの表示

デバイスセンターには以下の設定があります。

- 一般 - IP アドレス、容量 (HDD の空きエリア)、インストール済みのオプションとパッケージリストを含む接続されている Fiery server に関する情報を表示します。一般セクションには、一般情報、サーバー設定、ツールなどの機能が含まれています。
- カラー設定 - カラー設定セクションには、カラー管理があります。また、接続している Fiery server でサポートされている場合、コントロールバー、トラッピングおよびハーフトーンシミュレーションが含まれることがあります。
- リソース - Paper Catalog またはメディアカタログ、バリアブルデータ印刷 (VDP)、カラープロファイル、スポットカラーテーブル、フォント設定の表示と変更リソースセクションには、バリアブルデータ印刷リソース、プロファイルおよびフォントがあります。また接続している Fiery server でサポートされている場合、Paper Catalog、用紙カタログ、特殊カラーおよび Spot Pro が含まれることがあります。
- ワークフロー - 使用可能な仮想プリンターおよびサーバープリセットのリストを表示し、高品位イメージ画像設定による画像の補正を自動化します。ワークフローセクションには、ジョブプリセット、仮想プリンターおよび高品位イメージ画像が含まれます。
- ログ - 処理済みおよび印刷済みジョブの詳細ログを表示します。ログタブにはジョブログタブがあります。
- Fiery アップデート - Fiery server の入手可能なアップデートとパッチを表示およびインストールします。また、インストール済みのアップデートとパッチの履歴を表示します。Fiery アップデートセクションにはアップデート、パッチ、履歴があります。

Fiery server を追加して接続する

Fiery server に接続するためのアクセスレベル

システム管理者、オペレーターまたはシステム管理者がアクセス権を付与した任意のユーザーとしてログオンできます。システム管理者は各ユーザーに対し、パスワードを設定できます。

- **システム管理者** - Command WorkStation および Fiery server のすべてのコントロールパネルにアクセスできます。システム管理者のパスワードが必要です。
- **オペレーター** - ジョブセンターの全機能にアクセスできます。デバイスセンターで、オペレーターは Configure、バックアップ/復帰、パスワードの変更およびジョブログの削除にはアクセスできません。オペレーターは Paper Catalog またはメディアカタログ、仮想プリンター、カラー管理機能の表示はできますが、編集はできません。システム管理者のみがこれらの項目を編集できます。
- **ユーザー名** - システム管理者は、ユーザーを作成してグループに割り当て、そのグループに権限（ゲスト権限、サーバープリセットを作成する権限など）を割り当てます。

アクセスレベル設定の詳細は、取扱説明書の『Configure のヘルプ』および『設定管理』を参照してください。

Fiery server への接続

Command WorkStation を使用するには、Fiery server に接続する必要があります。

Command WorkStation のサーバーリストにより、使用可能なすべての Fiery server へのアクセスを管理します。Fiery server の追加（および接続）、削除、切断を選択できます。

ダイアログボックスにサーバー名または IP アドレスを入力して、Fiery server を検索できます。サーバーを接続して認証した後、IP アドレスをサーバーリストの Fiery server 名に切り替えます。Command WorkStation は、一度に一つ以上の Fiery server に接続できます。

Fiery server への接続が切断された場合、Command WorkStation は自動的に再接続を試みます。自動再接続に関する詳細については、[Command WorkStation の環境設定を設定する](#)（27 ページ）を参照してください。

Fiery server への接続を失った時点でいずれかの Command WorkStation プラグインウィンドウが現在開いている場合、Fiery Impose、Fiery Compose または Fiery JobMaster でユーザーにメッセージが表示され、統合 PDF としてジョブを保存するオプションが提供されます。

統合 PDF として保存する方法の詳細については、『Fiery JobMaster/Fiery Impose/Fiery Compose のヘルプ』を参照してください。

Fiery server を追加して接続する

Fiery server を追加し、そこに接続したり再接続したりできます。

Fiery server を追加するには、そのサーバー名または IP アドレスが必要です。

サーバー名または IP アドレスがわからない場合は、検索機能を使用してネットワーク上で使用可能な Fiery server を見つけることができます。詳細については、[使用可能な Fiery server を検索する](#) (23 ページ) を参照してください。

- 1 サーバーリストまたはホームスクリーンでプラス記号 (+) をクリックします。Fiery server の IP アドレスまたはサーバー名を入力し、**追加**をクリックします。
- 2 ユーザーリストからユーザーを選択し、適切なパスワードを入力します。
ユーザーはデフォルトのユーザー名 (システム 管理者およびオペレーター) に加えて、独自のユーザー名でもログインできます。ただし、その場合はネットワーク管理者がユーザーをいずれかのグループのメンバーに設定しておく必要があります。
- 3 ログインをクリックします。
- 4 サーバーリストの Fiery server に接続したことがある場合は、その Fiery server を選択し、**接続**をクリックします。

使用可能な Fiery server を検索する

Fiery server のサーバー名または IP アドレスがわからない場合、ローカルエリアネットワークで Fiery server を検索できます。ローカルコンピューターが含まれているサブネット内か、特定のサブネットまたは IP アドレスの範囲内を検索できます。

- 1 サーバーリストでプラス記号 (+) をクリックします。
- 2 Fiery サーバー追加ダイアログボックスにローカルサブネットの自動検索結果が表示されない場合や、サーバー名または IP アドレスが不明な場合は、**高度な検索**をクリックします。
- 3 次のいずれかを行います。
 - 特定の IP アドレス範囲内の Fiery servers を検索するには、**検索**ドロップダウンメニューから **IP 範囲**を選択します。
 - 検索を開始する IP アドレスを**開始**に入力します。オクテットの最初から検索するには、「0」と入力します。例：10.100.10.0
 - 検索を終了する IP アドレスを**終了**に入力します。オクテットの最後まで検索するには、「255」と入力します。例：10.100.10.255

- 特定のサブネット範囲内の Fiery servers を検索するには、**検索**ドロップダウンメニューからサブネットを選択します。
- 検索対象に含めるサブネット範囲を示すサブネットアドレスを入力します。どの数値でもかまわないオクテットには、「0」を入力します。たとえば、「10.100.10.0」を入力すると、「10.100.10.1」から「10.100.10.255」の範囲が検索されます。
- 検索対象から除外するサブネット範囲を示すサブネットマスクを入力します。何も除外しない場合は、「0」を入力します。たとえば、「255.255.255.0」を入力すると、先頭の3つのオクテットのサブネットアドレス以外はすべて除外され、4番目のオクテットでは任意の値が許可されます（10.100.10.30など）。

4 実行をクリックします。

検索条件に適合する Fiery server が表示されます。キーワードでフィルタリングフィールドにキーワードを入力することで、検索結果リストを絞り込むことができます。

5 結果リストから Fiery server を選択し、OK をクリックした後、追加をクリックしてサーバーリストに追加します。

Fiery server からログオフする

Fiery server からログオフすると、Fiery server と Command WorkStation の間が切断されます。

- 1 サーバーリストから Fiery server を選択します。
- 2 Fiery server の名前の横にある詳細アイコンをクリックしてログアウトします。

別の Fiery server を表示する

Command WorkStation では、接続している Fiery server から別のサーバーに表示を切り替えることができます。

- 接続している Fiery server から別のサーバーに表示を切り替えるには、サーバーリストで別の Fiery server をクリックします。

サーバーリスト

サーバーリストには、現在接続中または過去に接続された（現在は接続解除されている）Fiery servers に関する情報が表示されます。

サーバーリスト内に Fiery server の IP アドレスを表示するには、ポインターをその名前の上に移動します。

サーバーリストは「ドロップゾーン」です。つまり、サーバーリスト内のキューにファイルをドラッグアンドドロップできます。サーバーリストは、接続しているプリンターの情報が Fiery server の名前のすぐ下に表示されるように設計されています。Fiery server の名前の左側にあるプラス記号をクリックして、個々の Fiery server を展開できます。Command WorkStation を終了しても、サーバーリストは残ります。

消耗品

消耗品とは、ジョブを印刷するためにプリンターで使用（消費）される用紙、トナーやリンク、ホチキスの針などの限りあるリソースです。

消耗品に関する情報は、以下で参照できます。

- サーバーリスト（Fiery server のキューの名前の下）
- デバイスセンター > 一般 > 一般情報 > 消耗品

サーバーリストとデバイスセンターのどちらの消耗品セクションにも、使用可能な用紙トレイ、用紙レベルおよび現在のトナーまたはインクレベルに関する情報が含まれています。デバイスセンターでは、廃棄トナー、フューザーオイルおよびホチキスの針に関する追加情報も確認できます。トレイに関する情報を表示するには、次の操作を行います。

- トレイをダブルクリックします。
- トレイを選択し、矢印をクリックします。

Fiery server がトレイの関連付けをサポートしている場合は、Paper Catalog の用紙エントリまたはメディアカタログを特定のプリンターのトレイに割り当てることができます。

サーバー情報

Fiery server 情報を詳細な形式で表示するには、デバイスセンター > 一般 > 一般情報を選択します。

用紙ミスマッチエラー

ジョブが印刷へ送信され、用紙または用紙トレイ属性にミスマッチがあると、ジョブにエラーが発生します。ジョブは、Fiery server の設定に基づき、印刷キューにとどまるか、ブロック、キャンセルまたは一時停止されます。

Fiery server には次のミスマッチエラーがあります。

- ミスマッチ一時停止
- ミスマッチ取り消し

ミスマッチ一時停止のジョブは、設定で定義した時間（「タイムアウト期間」）の間、印刷キューに残ります。この間、ミスマッチエラーメッセージとタイマーが表示されます。タイマーは、エラーを訂正する時間がどのくらいあるかを示すものです。この時間が 0 になると、ジョブが印刷キューから削除され、キャンセルされます。ジョブが自動的にキャンセルされないようにするには、タイムアウト期間が終了する前に適切な用紙を用紙トレイにセットする必要があります。その間は次のジョブが印刷されます。タイムアウト期間が終了する前にそのジョブの印刷が終わると、ミスマッチ一時停止のジョブが印刷キューに再送信されます。

用紙が見つからない場合のジョブの処理については、『Configure のヘルプ』を参照してください。

Command WorkStation のアンインストール

Command WorkStation とその関連するアプリケーションをアンインストールする必要がある場合には、Fiery Software Manager を使用します。

アンインストールは、そのコンピュータ上でアプリケーションが不要になった場合や、問題のトラブルシューティング時に新たにインストールしたい時などに役立ちます。Command WorkStation はパッケージの一部であるので、パッケージをアンインストールすると、Fiery Software Manager を含む関連アプリケーションもアンインストールされます。

1 Fiery Software Manager を起動します。

Fiery Software Manager は、インストールされているアプリケーションの Fiery グループまたはコンピュータのデスクトップ右下隅にあるシステムトレイにあります。

2 Fiery Command WorkStation Package のエントリの上にカーソルを合わせ、削除アイコン（ゴミ箱）をクリックします。

3 画面の指示に従います。

4 または、Windows のコントロールパネル > プログラムと機能、および macOS の Fiery Software Uninstaller からアプリケーションをアンインストールすることもできます。

Command WorkStation のカスタマイズ

Set Command WorkStation preferences

You can set preferences globally for Command WorkStation, for example, to reset the application settings to their original defaults.

1 To open the Preferences window:

- On a Windows computer, click Edit > Preferences.
- On a Mac computer, click Command WorkStation > Preferences.

2 Under General, specify any of these general setting preferences:

- Auto reconnect - Select Enable Auto reconnect to automatically reconnect to disconnected servers with saved passwords.
- Updates - Click Check now for more recent software versions.
- Reset settings - Click Reset to restore application settings to their original defaults.
メモ : Fiery servers that have been added will be retained in the Servers list, along with their passwords.
- Clear data - Click Clear data to clear saved passwords, for all users and all servers that Command WorkStation has saved passwords.
- Archive Manager - Select whether to enable or disable Archive Manager.
- Job Tags - Select whether to display tags (a maximum of 10) in the server list.
- Fiery Health Monitor - Select Display status in Job Center to show the Fiery server health status in the top-right corner of Job Center.
- Improvement program - To help Fiery improve the quality, reliability, and performance of the software by sending anonymous usage data but not your name, address, or any other personally identifiable information, click the relevant check box.

3 Under Region, specify any of these regional setting preferences:

- Language - Select the language you want to display Command WorkStation. By default, Command WorkStation uses the local operating system language, if the language is supported. If the language is not supported, Command WorkStation defaults to English.

メモ： Changing the language of Command WorkStation will also apply to Fiery Hot Folders, and vice versa, if installed on the same client computer.

- Measurement units - Specify the units of measurement used to display attributes, such as page sizes and custom sizes. This setting does not affect predefined page-size values.

メモ： If Fiery Impose is enabled, the Measurement units setting also applies to the values entered manually in the imposition window.

4 Under Export, you can share settings with another Command WorkStation client.

- Import - Click Import to import Command WorkStation settings from another computer.
- Export - Click Export to export Command WorkStation settings to a zip file, which can be used to set up other Command WorkStation clients.

5 Click OK to save and close the Preferences window.

サーバー一覧のカスタマイズ

- 1 サーバーウインドウに表示されている Fiery serversFiery servers の順序を並べ替えるには、サーバー一覧のカスタマイズアイコン (≡) をクリックします。
 アイコンは、+ボタン (サーバーの追加) の左側にあるサーバー一覧の一番上にあります。
- 2 Fiery server の名前を選択し、上へ移動または下へ移動をクリックして、Fiery server を目的の位置に移動します。
- 3 OK をクリックします。

ジョブセンターの列を管理する

キューの列見出しをカスタマイズできます。特定の印刷環境に関連する情報が表示されるように、これらの列の順序を変更するか、または列を追加/削除します。

列の表示を変更する

ジョブセンターの列セットを指定したり、列の追加/削除を行ったりできます。

- 1 列見出しバーを右クリックします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - 標準セット、バリエブルデータ印刷セット、または JDF セットを選択し、既定の列レイアウトを使用します。
 - 新規追加の上にマウスのポインターを合わせ、列を選択して、使用可能なカテゴリから特定の列ヘッダーを追加します。
メモ：追加した列が、選択した列の左側に表示されます。列名をドラッグアンドドロップすると、列を移動できます。
 - 削除を選択すると、現在選択されている列が削除されます。

カラムの幅を調整する

ジョブセンターのカラムの幅を変更できます。

- そのためには、カラムの境界を左または右にドラッグします。

ペインの展開/折りたたみ

ジョブプレビュー、ジョブ概要、サーバーペインを展開したり折りたたんだりできます。サーバーペインで個々のサーバーを折りたたむこともできます。

- 次のいずれかを行います。
 - プレビューウィンドウのタイトルバーにある矢印アイコンをクリックして、ウィンドウを展開したり、折りたたんだりします。
 - サーバーリストでサーバーの隣にあるプラス記号またはマイナス記号をクリックします。
 - サーバーペイン全体を左に折りたたむには、左下のバーの矢印アイコンをクリックします。
 - ジョブ概要ペイン全体を右に折りたたむには、右下のバーの矢印アイコンをクリックします。

ツールバーをカスタマイズする

ジョブセンターでツールバーをカスタマイズできます。デフォルトのツールバーアイコンを復元することも可能です。

一部のツールバーアイコンは、Fiery server でサポートされている場合のみ使用できます。

- 1 ツールバー上で右クリックし、表示されるサブメニューから**カスタマイズ**を選択します。
標準セットがツールバーアイコンのデフォルトセットです。
- 2 ツールバーのカスタマイズウィンドウでツールを選択した後に、**追加**または**削除**をクリックし、ツールバーアイコンを追加または削除します。標準セットには次のツールバーアイコンを追加できます。
 - 処理後待機 - 選択されたジョブを処理して待機リストに保持します。
 - アーカイブ - 選択されたジョブをアーカイブします。
 - 印刷の一時停止/印刷の再開 - 全ジョブについて印刷の一時停止と再開を切り替えます。
 - Impose - 選択されたジョブの Fiery Impose ウィンドウを開きます。
 - Compose - 選択されたジョブの Fiery Compose ウィンドウを開きます。
 - JobMaster - 選択されたジョブの Fiery JobMaster ウィンドウを開きます。

標準セットのアイコンの一覧については、[ジョブセンターのツールバーのアイコン](#) (30 ページ) を参照してください。

- 3 使用可能なツールリストからツールを選択したツールリストに追加するには、リストでツールを選択し追加をクリックします。選択したツールリストからツールを削除するには、ツールを選択し除去をクリックします。
- 4 ツールを選択し上または下ボタンをクリックして、ツールバーアイコンの表示順序を指定します。
- 5 標準セットをクリックすると、デフォルトのツールバーアイコンに戻ります。

ジョブセンターのツールバーのアイコン

ジョブセンターのツールバーには、一連の標準的なアイコンが表示されます。

インポート	ファイルのインポートウィンドウを開きます。
印刷	選択したジョブを印刷します。
プロパティ	選択したジョブのジョブのプロパティウィンドウが開きます。
プレビュー	選択したジョブを表示する Fiery プレビューウィンドウが開きます。

スケジュール	Fiery プリントスケジューラーウィンドウを開きます。ここでは、選択したジョブの印刷スケジュールを設定できます。
新規ジョブ	コンピューターでアクティベートされているライセンスに応じて、Fiery JobMaster、Fiery Impose または Fiery Compose ウィンドウを開き、新しい印刷ジョブを作成できます。
削除	選択したジョブを削除します。
キャリブレート	Fiery server のキャリブレーターウィンドウが開きます。
ログ	ジョブログウィンドウが開きます。
Paper Catalog またはメディアカタログ	Paper Catalog またはメディアカタログウィンドウが開きます。
Spot Pro	Spot Pro ウィンドウが開きます。
サンプル印刷開始	個々のページまたは完了した出力セットを、開いている出力トレイに印刷して、出力を確認します。

メモ：一部のツールは、Fiery server でサポートされている場合にのみ使用できます。

Fiery IQ アカウントを使用したワークスペース設定のバックアップと共有

Command WorkStation ワークスペース設定を Fiery IQ クラウドにバックアップして、ワークスペース設定を他のユーザーと共有できます。

ワークスペース設定には、次のものが含まれます。

- Fiery server リスト
- ジョブセンターの列、ツールバー、および保存済みのビュー
- ジョブのプロパティクイックアクセス設定およびローカルプリセット
- Fiery Impose テンプレートおよび Image Enhance Visual Editor プリセット

ワークスペースタブで設定をバックアップしても、次の設定はキャプチャされません。

- Fiery ソフトウェアライセンスのバックアップ
- Fiery server 設定のバックアップ
- Fiery servers を Fiery IQ にオンボード

Command WorkStation を Fiery IQ アカウントに接続する

Fiery IQ クラウドサービスにアクセスするには、Command WorkStation の環境設定ウィンドウから Fiery IQ アカウントに接続します。

1 環境設定ウィンドウを開くには：

- Windows コンピューターの場合は、**編集 > 環境設定**をクリックします。
- Mac コンピューターの場合は、**Command WorkStation > 環境設定**をクリックします。

2 EFI IQ クラウドアカウントで、次のいずれかを行います。

- サインインをクリックして、既存のログイン情報で Fiery IQ クラウドアカウントにサインインします
- サインアップをクリックして、新しい Fiery IQ アカウントを作成します。

メモ：Fiery IQ アカウントの作成を確認するために、有効なメールアドレスを指定する必要があります。

ワークスペース設定のバックアップ

Fiery IQ アカウントに Command WorkStation を接続すれば、ワークスペース設定を Fiery IQ クラウドにバックアップできます。

- 環境設定ウィンドウのワークスペースで、今すぐバックアップをクリックします。
ワークスペース設定は Fiery IQ クラウドにバックアップされます。

ワークスペース設定の復元

Fiery IQ クラウドからコンピューターの Command WorkStation にワークスペース設定を復元できます。

1 環境設定ウィンドウのワークスペースで、クラウドバックアップから復元をクリックします。

2 必要なワークスペースを選択するには、次のいずれかを行います。

- プライベート設定を復元するには、**プライベート**を選択します。
- 共有されているワークスペースのリストから選択するには、**共有**を選択します。
詳細については、[ワークスペース設定の共有](#) (33 ページ) を参照してください。

デフォルトでは、すべてのワークスペース設定が選択されています。また、復元する特定のワークスペース設定を選択することもできます。

3 復元をクリックして、選択したワークスペース設定を Command WorkStation コンピューターに復元します。 ワークスペース設定の変更を適用するために Command WorkStation を再起動します。

メモ：復元時にワークスペース設定が現在の設定とマージされます。

4 キャンセルをクリックして、設定の変更を保存せずにウィンドウを閉じます。

ワークスペース設定の共有

設定を Fiery IQ クラウドにバックアップした場合のみ、ワークスペース設定を他のユーザーと共有できます。

- 1 環境設定ウィンドウのワークスペースで、共有をクリックします。
- 2 ワークスペース設定の共有ウィンドウで、次の操作を行います。
 - a) ワークスペースの名前フィールドに、他のユーザーと共有するワークスペースの名前を入力します。
 - b) 説明フィールドにグループの説明を入力します。
- 3 共有をクリックします。
- 4 共有が成功した場合は、ユーザーにアカウントの作成を招待して、共有したワークスペース設定を使用できます。
EFI IQ アカウントを持つユーザーは、EFI IQ クラウドから共有ワークスペース設定を復元できます。
- 5 ユーザーを招待ウィンドウで、次の操作を行います。

- a) ユーザーの E メールアドレスを入力します。
- b) ユーザーが管理者になるか、またはオペレーターになるかを選択します。

オペレーターのロールを持つユーザーは、Command WorkStation でワークスペース設定を共有できますが、他のユーザーを招待することはできません。また、オペレーターのロールを持つユーザーは、iq.efi.com の EFI IQ 管理コンソールにもアクセスできません。

管理者の役割を持つユーザーは、他のユーザーが共有ワークスペース設定を使用できるように招待することはできます。

- c) 追加をクリックします。

招待の通知は、指定した E メールアドレスに送信されます。

ユーザー招待ウィンドウのチームメンバーセクションには、次の内容が表示されます。

- 招待のステータスとユーザーのロール
- システム管理者のロールを持つ同じプリンターに接続されている既存の Fiery IQ ユーザーの詳細

- 6 完了をクリックします。

Fiery IQ クラウドアカウントの招待を承認する

Fiery IQ アカウントがない場合は、Fiery IQ ユーザーから送信された招待メールを承認することでアカウントを作成できます。Fiery IQ アカウントの作成後、共有ワークスペース設定を Command WorkStation コンピューターに適用できます。

- 1 E メールアドレスに送信された Fiery IQ 登録メールを開きます。
- 2 招待を承認をクリックします。

3 パスワードの作成ページで、次の操作を行います。

- 1** 名のフィールドに、名前を入力します。
- 2** 姓のフィールドに、名字を入力します。
- 3** パスワードを入力してください。
- 4** パスワードの確認フィールドに、パスワードを再入力します。
- 5** パスワードの作成をクリックします。

Fiery IQ アカウントがアクティベートされました。

メモ：異なる Command WorkStation コンピューターに同じ Fiery IQ ログイン情報を使用できます。

使用している Command WorkStation コンピューターの共有ワークスペース設定の使い方について詳しくは、[ワークスペース設定の復元](#) (32 ページ) を参照してください。

Fiery server 設定

Configure へのアクセス

Fiery server を初めて起動した後や、システムソフトウェアをインストールした後は Fiery server を設定する必要があります。設定を行わなかった場合はデフォルト設定が使用されます。使用している印刷環境に合った設定を選択してください。ネットワーク環境や印刷環境が変わった場合は、設定の調整が必要となる場合があります。

デフォルトの Web ブラウザーでプロキシサーバーを使用する場合、Command WorkStation から Configure を起動できないことがあります。デフォルトのブラウザー設定で、Fiery server の IP アドレスを例外として登録します。デフォルトのブラウザーの接続設定を検証し、適宜調整します。

Configure を使用してクライアントコンピュータから Fiery server を設定できます。Configure には次の場所からアクセスできます。

- Command WorkStation
- WebTools (サポートされているインターネットブラウザーを使用)

Command WorkStation から Configure にアクセスする

- 1 Command WorkStation から対象の Fiery server に接続し、システム管理者としてログインします。
- 2 Configure を起動するには、次のいずれかを行います。
 - デバイスセンターで一般情報を選択し、右下隅の Configure をクリックします。
 - サーバーメニューで、Configure をクリックします。
- 3 Configure で、Fiery server の現在の設定オプションを変更します。

WebTools から Configure にアクセスする

Configure を使用して Fiery server を設定します。設定は初めて Fiery server を起動する際、またはシステムソフトウェアをインストールした後に必要です。Configure を使用すると、ネットワーク環境に関する情報やユーザーが Fiery server に送信したジョブの印刷環境の設定を指定することもできます。

- 1 インターネットブラウザーを開き、Fiery server の IP アドレスを入力します。
プリンターのコントロールパネルから Web サービスを無効にした場合は、https://IP アドレスを入力する必要があります。

2 WebTools で設定タブをクリックします。

メモ：Configure を起動すると、ブラウザーにセキュリティ証明書のエラーが表示されることがあります。エラーが発生しても安全に進めることができます。

3 システム管理者権限でログオンします。

証明書を管理する

Fiery server では、ユーザーコンピューターと Fiery server のコンポーネント間を安全に接続する必要があります。HTTPS over TLS は、2つのエンドポイント間の通信を暗号化します。WebTools から Fiery server に接続するには、HTTPS が必要です。これらの通信は、TLS 1.2 および TLS 1.3 で暗号化されます。

Fiery server では、システム管理者が TLS 通信中に使用する証明書を管理できます (Base64 でエンコードされた x.509 証明書形式)。Fiery server は 4096、3072、2048 ビットのキー長で RSA 証明書をサポートします。

次の方法で証明書を管理できます。

- 自己署名デジタル証明書の作成。
- Fiery server の証明書および対応する秘密鍵の追加。
- 信頼できる証明書権限からの証明書の追加、参照、表示および削除。

メモ：自己署名証明書はセキュアではないため、信頼できる認証局 (CA) の証明書を使用する必要があります。

信頼できる証明機関によって署名された証明書を取得したら、Configure セクションで証明書を Fiery server にアップロードできます。

証明書または秘密鍵を追加する

証明書または秘密鍵を追加する際には、その場所を指定します。

- 1 証明書についての情報を表示するには、証明書名の上にマウスを移動し、眼のアイコンをクリックします。証明書を削除するには、ゴミ箱のアイコンをクリックします。
- 2 Configure で、セキュリティ > 信用証明書を選択します。
- 3 追加をクリックします。
- 4 参照をクリックし、ファイルを選択してから追加をクリックします。

Fiery server の Web サーバー部分に証明書を割り当てる

Web サーバーで使用する証明書の割り当てまたは再割り当てを行うことができます。

- 1 Configure で、セキュリティ > サーバー証明書を選択します。
- 2 自己署名入り証明書作成をクリックします。
- 3 証明書情報を指定し、保存します。

- 4 Web サーバーで使用する証明書を変更するには、証明書を選択して**証明書変更**をクリックし、証明書または秘密鍵の場所を指定します。

割り当てた証明書を削除する

割り当てた証明書を削除できます。

- 1 **Configure** で、**セキュリティ > 信用証明書**を選択します。
- 2 削除する証明書の上にカーソルを置きます。
削除アイコン（ゴミ箱）が表示されたことを確認します。
- 3 削除アイコンをクリックします。

Configure のヘルプやその他の情報を参照する

Configure で、画面右側のヘルプアイコンをクリックします。

このヘルプ（『**Configure** のヘルプ』）に記載されていない **Configure** のセットアップオプションについての詳細は、取扱説明書の『**設定管理**』を参照してください。

メモ：Configure オプションの一部は、お使いの Fiery server でサポートされていない場合があります。

Configure を終了する

一部の設定は Fiery server をリブートしないと反映されません。設定変更の反映に再起動、リブート、またはその他の動作が必要な場合、ページ上部にメッセージが表示されます。

- 1 必要な変更を行います。
リブートが必要な設定を複数行う場合、すべての設定変更を完了してからリブートします。
- 2 変更が反映されるように、Fiery server をリブートします。

サーバー設定の内容を表示、保存、または印刷する

Command WorkStation の「サーバー設定」タブに現在の Fiery server 設定が一覧表示されます。

サーバー設定の内容を表示する

サーバー設定タブでは、Fiery server 設定のカテゴリを表示したり、設定オプションを変更したりできます。

- 1 Command WorkStation から対象となる Fiery server に接続し、**デバイスセンター > 一般 > サーバー設定**をクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- ページの左にあるショートカットをクリックして、表示したいカテゴリの設定内容を表示します。
- ウィンドウの右下隅にある **Configure** をクリックして、現在の **Fiery server** 設定オプションを変更します。

サーバー設定をファイルとして保存する

接続先の **Fiery server** ごとに、サーバー設定をファイルとして保存できます。これは特に、複数の **Fiery servers** を管理している場合に、各 **Fiery server** の設定の変更を把握するのに便利です。

- 1 **Command WorkStation** から **Fiery server** に接続します。
- 2 **デバイスセンター** > **一般** > **サーバー設定** をクリックします。
- 3 **別名保存** をクリックします。
- 4 ファイル名と保存場所を指定します。
- 5 ファイルのタイプとして **PDF** または **テキスト** を選択します。
- 6 **保存** をクリックします。

サーバー設定ページを印刷する

設定を行った後、サーバー設定を印刷して設定を確認し、**Fiery server** の近くに掲示してすぐに参照できるようにします。ユーザーは、現在のプリンターのデフォルト設定など、このページの情報が必要です。

- 1 **Command WorkStation** から適切な **Fiery server** に接続し、次のいずれかの操作を行います。
 - **デバイスセンター** > **一般** > **サーバー設定** をクリックします。
 - **サーバー** > **印刷** > **サーバー設定** を選択します。
- 2 次のいずれかを行います。
 - **印刷** をクリックし、サーバー設定ページを送信するプリンターを選択します。現在 **Fiery server** でデフォルトとして設定されている印刷ジョブとは別のジョブのプロパティを指定したい場合は、**定義** をクリックします。印刷をもう一度クリックしてそのページを印刷します。
 - **ファイル** > **印刷** > **サーバー設定** をクリックします。サーバー設定ページが、現在接続されているプリンターに送信されます。**Fiery server** のデフォルトの用紙サイズとオプションでページが印刷されます。

ユーザーとグループ

Fiery server にアクセスするユーザーを作成し、グループに割り当てることによってユーザーの権限を定義できます。初期設定でいくつかのグループが設定されていますが、新規にグループを作成することも可能です。同じグループ内の全ユーザーが同じ権限を持ちます。

メモ：Command WorkStation では、既存の管理者グループまたはオペレーターグループのユーザーのみがログインでき、ユーザーが作成したカスタムグループからはログインできません。

ユーザーとグループに関する詳細情報は、**Configure > ユーザーアカウント**で確認できます。

作成したユーザーをグループに割り当てるだけでなく、組織全体のアドレスリストからユーザーを追加することもできます。これを行うには、最初に、Fiery server で LDAP サービスを使用可能に設定する必要があります。

新規ユーザーを作成する

グローバルアドレスリストや連絡先リストにユーザーが存在しない場合、手動でユーザーを作成できます。連絡先リストに表示される任意の名前をユーザーとしてグループに割り当てることができます。

「システム管理者」および「オペレーター」グループには、それぞれ「システム管理者」および「オペレーター」という名前のデフォルトユーザーが含まれています。

- 1 **Configure** で、**ユーザーアカウント**を選択します。
- 2 **Fiery 連絡先リスト**ボタンをクリックします。
- 3 **Fiery 連絡先リスト**ダイアログボックスで、**ユーザー追加**ボタンをクリックします。
- 4 **ユーザー作成**ダイアログボックスで、必要な情報を指定します。**作成**をクリックします。
- 5 **閉じる**をクリックします。

グループを作成する

グループを作成する際には、グループの権限を定義します。グループ作成時に新規または既存ユーザーを追加することも、ユーザーを追加せずにグループを作成して後でユーザーを追加することもできます。

組織のグローバルアドレスリストからユーザーを追加するには、まず **Configure** から、Fiery server 上の LDAP サービスを有効にする必要があります。

- 1 **Configure** から、印刷を認可済みユーザーのみに制限するには、**セキュリティ > 印刷権限**で、印刷許可を認可済みユーザーに設定します。
 - 全ユーザーが選択されている場合は、だれでも Fiery server に対して印刷を実行できます。その人物がユーザーとして定義されているか、グループにユーザーが追加されているか、そのグループに権限が割り当てられているかは関係ありません。
 - 認可済みユーザーが選択されている場合は、印刷権限が有効になっているグループに属するユーザーだけが印刷を実行できます。また、「ゲスト」グループに印刷権限を設定しない限り、「ゲスト」グループのユーザーは印刷できません。デフォルトでは、「ゲスト」グループに印刷権限はありません。

メモ：プリンターでもユーザー認証手法が提供されている場合、プリントデバイスと Fiery server で同時には認証方法を使用できない可能性があります。

2 ユーザーアカウントのグループ追加をクリックします。

現在のグループの一覧が表示されます。この中にはデフォルトグループも含まれます。

3 グループ追加ダイアログボックスで、グループ名と説明を入力します。

4 グループに適切な権限を選択します。

メモ：以下の権限は、一部の Fiery server ではサポートされていない可能性があります。

- キャリブレーション - このグループのメンバーは Fiery server のキャリブレーションを実行できます。デフォルトグループでは、システム管理者グループとオペレーターグループのみこの権限を持ちます。ユーザーが作成したグループの場合は、ユーザーがこの権限を持ちます。
- サーバプリセット作成 - このグループのメンバーは、ユーザーがジョブに対して選択できるプリントオプションのセットを保存できます。
- Fiery メールボックス - このグループのメンバーは、各自、スキャン用のメールボックスを持つことができます。
- ワークフロー管理 - サーバプリセットや仮想プリンターを作成、編集、および削除できます。
- 白黒で印刷 - このメンバーは白黒印刷のみに限定されます。
- カラーおよび白黒で印刷 - このメンバーはカラーとグレースケールで印刷できます。

メモ：印刷許可を認可済みユーザーに設定している場合、Hot Folders から Fiery server へのジョブも認証なしに許可されます。

5 次のいずれかの操作を行います。

- ユーザーを追加せずにグループを作成するには、保存をクリックします。
- グループにユーザーを追加するには、ユーザー保存および追加をクリックします。

ユーザー保存および追加を選択した場合、ユーザー指定ダイアログボックスが表示されます。

6 ユーザー指定ダイアログボックスでは、Fiery 連絡先リストまたはグローバル連絡先リストのいずれかに対してユーザーの追加または削除を行います。

- Fiery 連絡先リスト - 作成済みのユーザーが含まれています。
- グローバルアドレスリスト - LDAP を設定して有効にする必要があります。所属組織の企業データベースにある名前が含まれています。

Configure で作成されたグループは、LDAP 経由で企業サーバーから取得したドメイングループを共有し、動的に更新されます。これが便利なのは、Fiery server が LDAP ドメイングループ内の変更内容（グループメンバーの追加など）の検証と Fiery server グループの更新を自動的に行ってくれるためです。

ユーザーを既存グループに追加する

既存のユーザーを既存のグループに追加したり、ユーザーを作成して既存のグループに追加したりできます。ユーザーは複数のグループに追加できます。

ユーザーのアカウントを作成しても、そのユーザーをグループに追加するまでは、権限を与えたことにはなりません。

すべてのユーザーに認証なしの印刷を許可する場合（セキュリティ > 印刷権限で、印刷許可を全ユーザーに設定）、グループに所属していないユーザーは、印刷はできますが、その他の権限を持ちません。

- 1 Configure で、ユーザーアカウントを選択します。
- 2 ユーザーを追加するグループを選択します。
- 3 ユーザー指定をクリックします。
- 4 次のいずれかの方法でユーザーをグループに割り当てます。
 - 新規ユーザーを作成してグループに割り当てるには、ドロップダウンリストから新規ユーザー作成/指定を選択して、ユーザー作成ダイアログボックスに情報を入力し、作成をクリックします。
 - 既存のユーザーアカウントをグループに割り当てるには、連絡先リストから追加を選択します。ユーザー指定ダイアログで、Fiery 連絡先リストのユーザーにアカウント名を入力し、Enter キーを押すか、リストに表示されたアカウントを選択し、ユーザー追加をクリックします。
 - グローバルアドレスリストからユーザーを指定する場合は、グローバルアドレスリストから追加を選択します。LDAP が設定済みで使用可能になっている場合、このリストには、所属する組織の企業データベースから取得された名前が含まれます。LDAP 設定ボタンが表示されたら、ボタンをクリックして、Command WorkStation に対応するように LDAP 設定を行います。
- 5 ユーザーアカウントをグループに追加し終わったら、閉じるをクリックします。

スキャンジョブ用のメールボックスを作成する

メールボックスを作成する場合は、Fiery メールボックス権限を持つグループにユーザーを追加します。

- 1 グループにユーザーを追加します。

デフォルトのスキャンユーザーグループに限らず、任意のグループにユーザーを追加できます。
- 2 ユーザーを追加したグループに、Fiery メールボックス権限を割り当てます。

ユーザー名と同じ名前のメールボックスが作成されます。

グループからユーザーを削除する

グループからユーザーを削除できます。ユーザーを削除した後でも、Fiery server へ送信済みのジョブは処理されます。ジョブログにはジョブ情報にユーザー名が残ります。

グループからユーザーを削除しても、Fiery 連絡先リストからは削除されません。

メモ：「システム管理者」または「オペレーター」という名前のデフォルトユーザーは削除できません。

- 1 Configure で、ユーザーアカウントを選択します。
- 2 ユーザーが所属しているグループを選択します。
- 3 グループから削除するユーザーの名前の上にカーソルを置きます。編集および削除のアイコンが表示されます。
- 4 削除アイコンをクリックします。ユーザーは、グループから削除されますが、Fiery 連絡先リストからは削除されません。

ユーザー属性を変更する

ユーザーのパスワードやメールアドレスなどの属性を変更できます。ユーザーがすでにログインしている場合は、そのユーザーがログアウトして次に再びログインするときに変更が適用されます。

システム管理者およびオペレーターのデフォルトパスワードを変更するには、次の手順に従うか、新しいパスワードの設定を行います。

- 1 Configure で、ユーザーアカウントを選択します。
- 2 Fiery 連絡先リストボタンをクリックします。
- 3 ユーザー名の上にカーソルを移動します。編集アイコンが表示されます。
- 4 編集アイコンをクリックします。ユーザー編集ダイアログボックスで、ユーザー属性を編集し、保存をクリックします。

グループ権限を変更する

- 1 Configure で、ユーザーアカウントを選択します。
- 2 グループ名の上にカーソルを移動します。編集アイコンが表示されます。
- 3 編集アイコンをクリックします。グループを編集ダイアログボックスで、権限を選択またはクリアし、保存をクリックします。

メモ： 次の権限は、一部の Fiery servers ではサポートされていない可能性があります。

- キャリブレーション - この権限を持つグループのメンバーは Fiery server のキャリブレーションを実行できます。デフォルトグループでは、システム管理者グループとオペレーターグループのみこの権限を持ちます。ユーザーが作成したグループの場合は、ユーザーがこの権限を持ちます。
キャリブレーション権限を持つグループ内のユーザーも、TrueBrand アプリケーションにアクセスできます。
- サーバプリセット作成 - この権限を持つグループのメンバーは、ユーザーがジョブに対して選択できるプリントオプションのセットを保存できます。
- Fiery メールボックス - この権限を持つグループのメンバーは各自メールボックスを持つことができます。

- ワークフロー管理 - この権限を持つグループのメンバーは、サーバープリセットや仮想プリンターを作成、編集、削除できます。
- 白黒で印刷 - このメンバーは白黒印刷のみに限定されます。
- カラーおよび白黒で印刷 - この権限を持つメンバーは、カラーとグレースケールで印刷できます。
- ジョブ編集 - この権限を持つメンバーは、待機キューまたは印刷済みキューのジョブを編集できます。

ユーザーまたはグループを削除する

Fiery server からユーザーを完全に削除できます。ユーザーを削除した後でも、Fiery server に送信済みのジョブは処理されます。ジョブログにはそのユーザーの名前が関連するジョブ情報と共に残ります。

グループを削除しても、グループに含まれるユーザーはシステムから削除されません。

メモ： Administrator、Operator、および Guest という名前のデフォルトユーザーは削除できません。また、「システム管理者」、「オペレーター」、および「ゲスト」の各グループも削除できません。

- 1 Configure で、ユーザーアカウントを選択します。
- 2 Fiery server からユーザーを完全に削除するには、次の操作を行います。
 - a) Fiery 連絡先リストボタンをクリックします。
 - b) Fiery 連絡先リストダイアログボックスで、削除するユーザーの名前の上にカーソルを置きます。編集および削除のアイコンが表示されます。

メモ： 削除アイコンは、ユーザーの削除を許可されている場合にのみ表示されます。
 - c) 削除アイコンをクリックします。
Fiery server からユーザーが完全に削除されます。
 - d) 閉じるをクリックします。
- 3 グループを削除するには、次の操作を行います。
 - a) グループカラムで、削除するグループの名前の上にカーソルを置きます。編集および削除のアイコンが表示されます。

メモ： 削除アイコンは、グループの削除を許可されている場合にのみ表示されます。
 - b) 削除アイコンをクリックします。
確認を求められたら、はいをクリックします。Fiery server からグループが完全に削除されます。

EFI Cloud Connector

EFI Cloud Connector は Fiery server を Fiery IQ アカウントに接続します。Fiery IQ アカウントから Fiery server を接続または切断できます。Fiery server を接続すると、Fiery IQ アカウントへの接続を管理することもできます。

Fiery server に EFI Cloud Connector をインストールする

FS400 以前の場合は、まず EFI Cloud Connector を Fiery server にインストールする必要があります。

EFI Cloud Connector をインストールする前に、Fiery server は使用可能な状態でインターネットに接続されている必要があります。

- 1 サーバーウィンドウの Fiery server を選択します。
- 2 EFI Cloud Connector に接続するには、次のいずれかの操作を行います。
 - サーバーメニューで Fiery IQ を選択し Fiery server をアップデートをクリックします。
 - 通知をクリックし、Fiery server をアップデートをクリックします。
- 3 アップデートが必要ダイアログボックスで、続行をクリックします。
Fiery server はアップデート後に自動的にリブートします。

Fiery server を Fiery IQ アカウントに接続する

EFI Cloud Connector を使用すると、Fiery server を Fiery IQ アカウントに接続できます。

- 1 サーバーウィンドウの Fiery server を選択します。
- 2 Fiery IQ に接続するには、次のいずれかを実行します。
 - サーバーメニューで Fiery IQ を選択、し Fiery IQ に接続をクリックします。
 - 通知をクリックし、Fiery IQ に接続をクリックします。

Fiery IQWeb ページが開きます。

- 3 デバイスのアクティベートの Web ページで、次のいずれかを行います。
 - 既存の Fiery IQ アカウントログイン情報でサインインします。
 - Fiery IQ アカウントを作成します。

Fiery IQ アカウント作成の詳細については、『EFI IQ のヘルプ』を参照してください。

EFI Cloud Connector を管理する

Fiery server への EFI Cloud Connector の接続を管理できます。プロキシサーバーに接続することもできます。

- 1 サーバーウィンドウの Fiery server を選択します。
- 2 サーバーメニューで Fiery IQ を選択し EFI Cloud Connector を管理をクリックします。
EFI Cloud Connector が Web ページで開きます。

EFI Cloud Connector 用のプロキシ設定の構成

EFI Cloud Connector を使用して、ファイアウォールを介して Fiery IQ に接続するようプロキシ設定を構成できます。

- 1 サーバーウィンドウの Fiery server を選択します。
- 2 サーバーメニューで Fiery IQ を選択し EFI Cloud Connector を管理をクリックします。
EFI Cloud Connector が Web ページで開きます。
- 3 プロキシ設定構成をクリックします。
- 4 プロキシ設定ウィンドウで、プロキシを使用を選択します。
- 5 テキストフィールドに次の情報を指定します。
 - プロキシサーバー名
 - ポート
 - プロキシユーザー名
 - プロキシパスワード
- 6 テストをクリックします。
プロキシ設定のテストが成功すると、プロキシ設定ウィンドウにメッセージが表示されます。
- 7 保存をクリックします。

Fiery Dashboard を開く

Fiery server を Fiery IQ アカウントに接続した後、Command WorkStation から Fiery Dashboard に移動できます。

- 1 サーバーウィンドウの Fiery server を選択します。
- 2 サーバーメニューで Fiery IQ にカーソルを置きます。
- 3 Dashboard に移動をクリックします。
Fiery Dashboard が Web ページで開きます。

EFI Cloud Connector から Fiery server を外します。

Fiery IQ アカウントから Fiery server を切断できます。

- 1 サーバーウィンドウの Fiery server を選択します。
- 2 サーバーメニューで Fiery IQ を選択し EFI Cloud Connector を管理をクリックします。
EFI Cloud Connector が Web ページで開きます。
- 3 ユーザー名をクリックします。
メモ：ユーザー名は、Fiery IQ アカウントに登録されているメールアドレスです。
- 4 ECC のアクティベート解除をクリックします。

- 5 ECC のアクティベート解除ダイアログボックスで、はいをクリックします。

バックアップと復元について

Fiery リソースと設定、または Fiery server の全体的なシステムイメージのいずれかのバックアップを取ることができます。

バックアップとシステムイメージの詳細については、取扱説明書の『設定管理』を参照してください。

Fiery server 設定のバックアップまたは復元を行う

Fiery server 設定を Command WorkStation にからバックアップ/復元できます。Fiery server が Fiery システムソフトウェア FS350/350 Pro 以前を搭載している場合、Configure にから設定をバックアップ/復元することもできます。

メモ：一部の Fiery server では、Fiery 設定復元および Fiery デフォルト設定復元オプションが使用できない場合があります。

Configure (FS350/350 Pro 以前) から Fiery server 設定をバックアップする

Configure から、バックアップしたい Fiery server 設定を選択できます。

- 1 Configure で、Fiery サーバー > バックアップを選択します。
- 2 画面の指示に従って設定をバックアップします。

Command WorkStation (FS350/350 Pro 以前) から Fiery server 設定をバックアップする

Command WorkStation から、バックアップしたい Fiery server 設定を選択できます。

- 1 Fiery server に接続して、次のいずれかを実行します。
 - デバイスセンター > 一般 > ツール > バックアップ/復元をクリックします。
 - サーバー > バックアップ/復元を選択します。
- 2 バックアップをクリックします。
- 3 バックアップする項目を選択します。
- 4 表示されるダイアログボックスで、ファイルの保存先を選択し、バックアップファイルの名前を指定します。
- 5 (オプション) ファイル名に日付を追加を選択することもできます。
- 6 次へをクリックし、終了をクリックします。

Command WorkStation (FS400/400 Pro 以降) から Fiery server 設定をバックアップする

Command WorkStation から、バックアップしたい Fiery server 設定を選択できます。

バックアップファイルは Fiery server ではなく、ネットワークサーバーに保存してください。Fiery サーバーに保存すると、システムソフトウェアを再インストールした場合、バックアップファイルが削除されます。

設定は、機種とバージョンが同じであれば、別の Fiery server に復元できます。ただし、サーバー名、IP アドレス、ネットワーク設定などの設定は復元されません。既存の設定がそのまま維持されます。同じネットワーク上にある両方の Fiery servers に問題が発生するのを防ぎます。

- 1 システム管理者として Fiery server に接続し、次のいずれかを実行します。
 - デバイスセンター > 一般 > ツール > Fiery リソースおよび設定をクリックします。
 - サーバー > バックアップ/復元を選択します。
- 2 表示される新しい Web ブラウザーウィンドウで、Fiery リソースと設定をクリックします。
- 3 今すぐバックアップをクリックします。
- 4 バックアップしたい項目を選択して、続行をクリックします。
- 5 表示されるダイアログボックスで、バックアップファイルの名前を指定します。
- 6 (オプション) ファイル名に日付を追加を選択することもできます。
- 7 続行をクリックします。
- 8 必要なファイルをダウンロードし、ファイルの場所を指定します。
.fbf ファイルと .DAT ファイルを選択する必要があります。

Configure (FS350/350 Pro 以前) から Fiery server 設定を復元する

以前に Fiery server の設定をバックアップしている場合、Configure からバックアップを復帰できます。

- 1 Configure から、Fiery サーバー > 復元を選択します。
- 2 画面の指示に従い、設定を復元します。

Configure (FS350/350 Pro 以前) から Fiery server デフォルト設定を復元する

Configure からデフォルト設定を復元した後、Fiery server はリポートしてデフォルト設定を復帰させる必要があります。

メモ: このトピックの情報は、Integrated Fiery server にのみ適用されます。

- 1 Configure から、Fiery サーバー > Fiery デフォルト設定復元を選択します。
- 2 Fiery デフォルト設定復元ボタンをクリックします。

Command WorkStation (FS350/350 Pro 以前) から Fiery server 設定を復元する

以前に Fiery server の設定をバックアップしている場合、Command WorkStation からバックアップを復元できません。

- 1 Fiery server に接続して、次のいずれかを実行します。
 - デバイスセンター > 一般 > ツール > バックアップ/復元をクリックします。
 - サーバー > バックアップ/復元を選択します。
- 2 復元をクリックします。
- 3 ダイアログボックスで、復元したい設定の場所を参照し、開くをクリックするか、最近のバックアップを選択します。
- 4 次へをクリックし、復元する項目を選択します。
- 5 次へをクリックし、終了をクリックします。
- 6 復元処理が完了した後で、Fiery server のリポートを求めるメッセージが表示された場合は、リポートを行います。

Command WorkStation (FS400/400 Pro 以降) から Fiery server 設定を復元する

以前に Fiery server の設定をバックアップしている場合、Command WorkStation からバックアップを復元できません。

設定は、機種とバージョンが同じであれば、別の Fiery server に復元できます。ただし、サーバー名、IP アドレス、ネットワーク設定などの設定は復元されません。既存の設定がそのまま維持されます。同じネットワーク上にある両方の Fiery servers に問題が発生するのを防ぎます。

- 1 システム管理者として Fiery server に接続し、次のいずれかを実行します。
 - デバイスセンター > 一般 > ツール > Fiery リソースおよび設定をクリックします。
 - サーバー > バックアップ/復元を選択します。
- 2 表示される新しい Web ブラウザーウィンドウで、Fiery リソースと設定をクリックします。
- 3 復元をクリックします。
- 4 ダイアログボックスで、ファイルを選択をクリックして復元したい設定の場所を参照し、開くをクリックします。
.fbf ファイルと.DAT ファイルを選択する必要があります。
- 5 続行をクリックします。
- 6 復元したい項目を選択し、続行をクリックします。
- 7 復元処理が完了した後で、Fiery server のリポートを求めるメッセージが表示された場合は、リポートを行います。

ジョブの表示

ジョブの内容は、さまざまな方法で表示することができます。

スプール済みで未処理のジョブの内容は、以下に表示できます。

- Fiery プレビュー - 詳細は、[Command WorkStation の Fiery Preview](#) (49 ページ) を参照してください。
- Command WorkStation ウィンドウのジョブプレビューペイン。[ジョブプレビューウィンドウでのジョブの表示](#) (49 ページ) を参照してください。

処理済みのジョブの内容は、次の方法で表示できます。

- ジョブのプレビューペイン - 処理済みジョブは、Command WorkStation メインウィンドウにあります。[ジョブプレビューウィンドウでのジョブの表示](#) (49 ページ) を参照してください。
- プレビューウィンドウ - 処理済みのジョブを表示します。[ラスターイメージをプレビューする](#) (53 ページ) を参照してください。
- Fiery ImageViewer - Fiery server でサポートされている場合に使用できます。[Fiery ImageViewer](#) (328 ページ) を参照してください。

Command WorkStation の Fiery Preview

Fiery Preview では、ジョブのプレビューが表示されます。スプール済みジョブと処理済みジョブはどちらも Fiery Preview で開くことができます。Fiery Preview で処理済みのジョブを開くと、ジョブはラスタープレビューモードで開きます。

Fiery Graphic Arts Pro Package、Fiery ColorRight Package、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition または Fiery Productivity Package がインストールされている場合は、Fiery ImageViewer で処理済みジョブのラスターイメージを表示して、カラーを調整したり、他のソフト校正アクションを実行したりすることができます。Fiery Preview ウィンドウの右上角にある Fiery ImageViewer アイコンが使用できます。

ラスターライズされたジョブを開き、Fiery Impose、Fiery Compose または Fiery JobMaster で設定を指定するには、Command WorkStation のジョブセンターを選択します。

ジョブプレビューウィンドウでのジョブの表示

ジョブプレビューウィンドウには、選択したジョブの特定の情報が表示されます。ジョブが処理済みである場合、ジョブ内のすべての面のサムネイルが表示されます。FS300 Pro 以降の Fiery server では、スプール済みジョブや処理済みジョブのサムネイルが表示されます。

ジョブが処理済みである場合、ジョブセンターのジョブプレビューウィンドウに内容のサムネイルを表示できます。スプール済みで未処理のジョブは、Fiery プレビューウィンドウに開くことができます。Fiery server で Fiery Graphic Arts Pro Package、Fiery ColorRight Package、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition または Fiery

Productivity Package がサポートされている場合は、Fiery ImageViewer で処理済みジョブを開くことができます。

Command WorkStation を起動し、待機リストからスプール済みジョブまたは処理済みジョブを選択してジョブプレビューウィンドウに表示します。ジョブに関する情報が表示されます。情報の一部のカテゴリは編集できます。

ジョブプレビューウィンドウは、Command WorkStation ウィンドウの右側にあります。ジョブが処理済みである場合、書類の内部を移動するためのツールが提供されます。下の図は、スプール済みジョブを示しています。



メモ：鉛筆アイコンのついたフィールドはいつでも編集することができます。

- 1 サムネイル
- 2 ジョブの名前
- 3 ジョブのページ数
- 4 印刷する部数
- 5 用紙情報（ページサイズ、用紙の種類、用紙重量など）
- 6 プリンターが最後にキャリブレーションされた日付
アイコンで状況が示されます。
- 7 プリフライト情報
アイコンで状況が示されます。
ジョブでエラーと警告を表示するには、レポート表示をクリックします。
- 8 スプール、処理、印刷など、ジョブに対して行った最新のアクションと日付およびタイムスタンプ
- 9 ジョブに適用された Fiery JobExpert のルール
ジョブに適用された推奨ジョブ設定を表示するには、レポートを表示をクリックします。また、クリアをクリックすると、Fiery JobExpert で設定した推奨ジョブ設定を削除できます。
- 10 ジョブに使用するワークフロー

メモ：使用可能な仮想プリンターまたはプリセットから選択できます。

- 11 ジョブで使用されたスポットカラーの数
- 12 現在ジョブに適用されているタグ

スプール済みジョブのプレビュー

Fiery Preview ウィンドウでスプール済みジョブを表示できます。

- 1 ジョブセンターで、待機リスト内のスプール済みジョブを選択します。

メモ：ジョブが処理済みの場合は、ラスタープレビューモードで表示され、機能は制限されます。

- 2 Fiery Preview ウィンドウを表示するには以下のいずれかを選択します。

- 右クリックし、プレビューを選択します。
- アクションメニューで、プレビューを選択します。
- Command WorkStation ツールバーのプレビューアイコンをクリックします。
- ジョブプレビューペインに表示されている画像をダブルクリックします。

Fiery Preview のツールバーアイコン

標準の Fiery Preview ツールバーは以下の通りです。

- Fiery Preview ウィンドウでシートまたはページを選択します。
- ウィンドウ内でプレビューをドラッグ
- ページ要素の寸法を表示
- ズームイン
- ズームアウト
- シート内容をトグルは、サムネイルビューとワイヤーフレーム表示を切り替えます。ワイヤーフレーム表示はレコードのページ番号を表示します。
- フィニッシャーレイアウトのラインを表示

メモ：フィニッシャーレイアウトのラインを表示アイコンは、Fiery Impose のライセンスが有効で、環境設定でフィニッシャー統合を許可チェックボックスが選択されている場合に表示されます。

詳細については、『Fiery JobMaster-Fiery Impose-Fiery Compose のヘルプ』を参照してください。

ラスターイメージをプレビューする

ジョブが処理済みであれば、ジョブセンターのプレビューウィンドウか、ラスターイメージが表示されているプレビューウィンドウにジョブのサムネイルを表示できます。

Fiery server で Fiery Graphic Arts Pro Package、Fiery ColorRight Package、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition または Fiery Productivity Package がサポートされている場合は、Fiery ImageViewer を開くことができます。

処理済みジョブのラスタープレビューを開くには、待機リストのジョブを選択し、次のいずれかを行います。

- アクションメニューからプレビューをクリックします。
- ツールバーのプレビューボタンをクリックします。

または

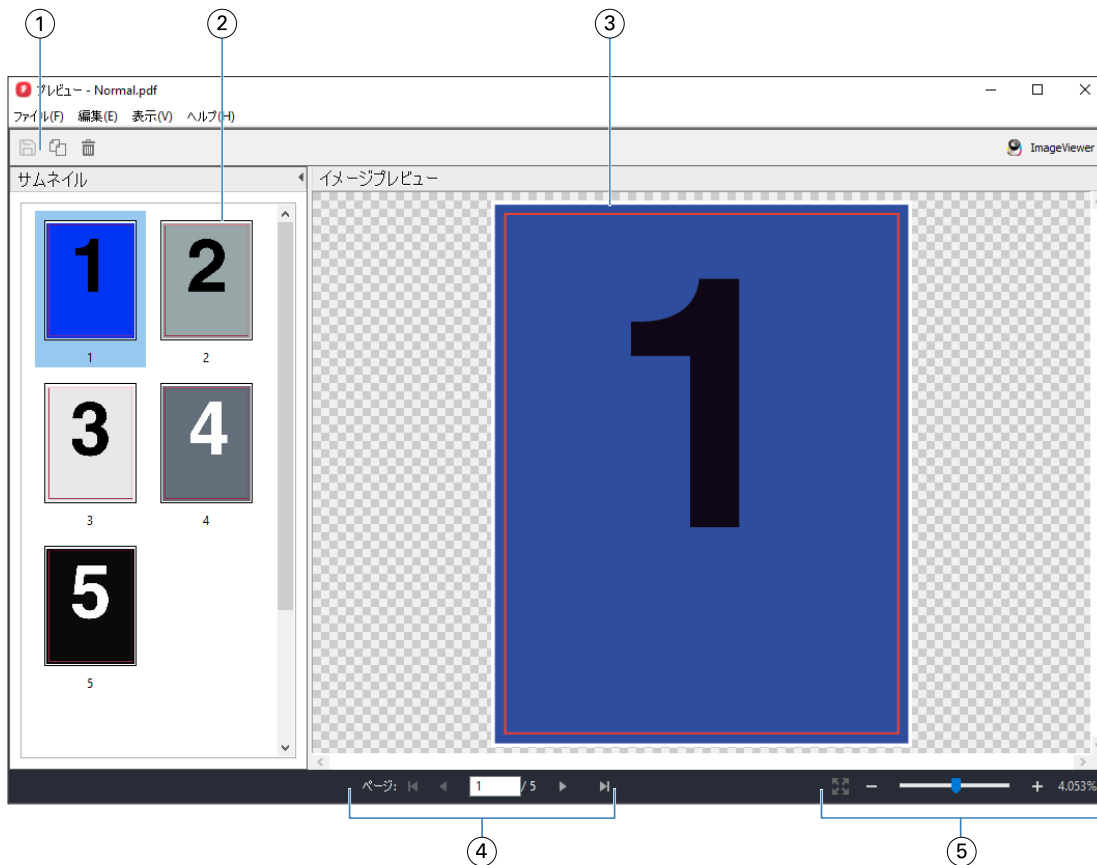
- 待機リストで選択したジョブを右クリック（Windows の場合）または `cmd` + クリック（macOS の場合）して、プレビューを選択します。
- プレビューウィンドウで画像をダブルクリックします。

非印画領域を表示するには、非印画領域 > 表示をクリックします。非印画領域の色は、環境設定で変更できます。

メモ：異なる処理済みジョブで複数のプレビューウィンドウを開くことができます。ただし、一度に複数の処理済みジョブを選択した場合、プレビューオプションは使用できません。

プレビューには、ラスター曲線エディターの結果が表示されます。Fiery server が純原色をサポートしている場合、プレビューはラスター曲線編集で純原色の効果を反映しません。Fiery ImageViewer はラスター曲線編集で純原色の選択を反映するので、ジョブは正常に印刷されます。

次の図では、ジョブのラスタープレビューが表示されています。



- 1 ジョブの保存およびジョブから選択したページの複製と削除に使用するツールバーアイコン
- 2 サムネイル
- 3 ラスターファイル
- 4 ジョブのページ移動およびシート数の表示に使用するナビゲーションコントロール
- 5 ページに合わせる、拡大縮小のズームコントロールアイコン

ラスタープレビューのツールバーアイコン

標準的なプレビューツールバーには、次のコントロールが含まれています。

- 保存 - クリックして、ジョブに加えた変更を保存するか、新規ファイルを保存します。
- 複製 - クリックして、選択したページを複製します。
- 削除 - クリックして、選択したページを削除します。
- ImageViewer - Fiery server が Fiery Graphic Arts Pro Package、Fiery ColorRight Package、Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition または Fiery Productivity Package をサポートしている場合、クリックして、Fiery ImageViewer ウィンドウでジョブを開きます。

プレビューでページをマージする

異なるジョブで複数のプレビューウィンドウを開くことができますが、どのジョブも同じ Fiery server から送信される必要があります。各ジョブは該当ウィンドウで編集できます。また、ページを別のウィンドウへドラッグすることもできます。

ページを別のウィンドウへドラッグすると、ドラッグ元のソースウィンドウは表示のみで編集はできなくなります。ドラッグ先のウィンドウで編集することはできますが、ソースウィンドウで再び編集できるようにするには、ドラッグ先のウィンドウでマージされたページが含まれる新しいジョブを保存する必要があります。

メモ：異なるジョブのプレビューウィンドウが複数開かれている場合、最後に編集したジョブを保存しない限り、他のジョブを編集することはできません。

VDP ラスタープレビュー

処理済みのバリアブルデータ印刷 (VDP) をプレビューウィンドウでプレビューできます。プレビューにはジョブに適用されている面付け設定も含まれています。ジョブの内容が、レコードまたは仕上げセットにより整理されて実際のサイズで表示されます。

VDP ラスタープレビューで、次の操作を実行できます。

- レコードまたは仕上げセット、およびページまたはサーフェスによるジョブのナビゲート。ジョブが面付けされているかいないかによって、表示されるナビゲーションパラメータが大きく変わります。
- サムネイルのサイズ変更。
- レコードまたはサムネイルの開閉。
- Fiery ImageViewer のウィンドウでジョブをオープン (Fiery server でサポートされている場合)。

メモ：保存、複製、削除の機能は、プレビューウィンドウに表示された VDP ジョブでは使用できません。

面付け前の VDP ジョブのプレビュー

面付け前の処理済み VDP ジョブがプレビューウィンドウに表示されているときは、レコードとページによるナビゲートができます。また Fiery server でサポートされている場合は、Fiery ImageViewer のウィンドウでそのジョブを開くこともできます。

メモ：保存、複製、削除の機能は、プレビューウィンドウに表示された VDP ジョブでは使用できません。

面付け後の VDP ジョブのプレビュー

面付け後の処理済み VDP ジョブがプレビューウィンドウに表示されているときは、仕上げセットとサーフェスによるナビゲートができます。

処理済みの VDP ジョブを面付けする場合は、ジョブを面付けして.dbp 形式で保存し、処理してからプレビューウィンドウで開くという手順が必要です。また Fiery server でサポートされている場合は、Fiery ImageViewer のウィンドウでそのジョブを開くこともできます。

メモ：保存、複製、削除の機能は、プレビューウィンドウに表示された VDP ジョブでは使用できません。

ギャングアップ VDP ジョブの表示

VDP ジョブがギャングアップ（カットスタックまたは Duplo）として面付けされていてスタックサイズがすべてに設定されている場合、そのジョブは1つの仕上げセットで構成されます。このワークフローではサーフェスのみでナビゲートできます。スタックサイズが1より大きい値に設定されている場合は、他の面付けされた VDP ジョブと同様、仕上げセットとサーフェスによるナビゲーションが行えます。

印刷

印刷ジョブをインポートする

ファイルは、Fiery server のキューに直接インポートすることによって印刷できます。あるいは、外部（Fiery server のハードディスク以外の場所）にアーカイブされたジョブをインポートすることができます。

ジョブを印刷キューにインポートする

Fiery server に直接ファイルをインポートしてファイルを印刷します。一度に複数のジョブをインポートしても各ファイルの形式は維持されます。

一度に複数のジョブをインポートできます。ファイルをキューにインポートすることは、プリンタードライバーを使用してアプリケーションからジョブを送信するのと似ていますが、インポート機能ではジョブのファイル形式が維持されます。印刷コマンドから送信されたジョブは PostScript ファイルに変換されます。ドラッグアンドドロップで次の場所へファイルをインポートできます。

- サーバーリスト内の接続済みの Fiery servers
- 印刷中キューまたは処理中キュー
- 待機キュー

ただし、ファイルのインポートを最適に管理するには、ジョブセンターツールバーのインポートアイコンか、ファイルメニューのジョブのインポートを使用します。参照ダイアログがすぐに表示されます。ファイルを選択すると、選択したファイルがファイルのインポートダイアログに表示されます。このダイアログボックスでは、インポート時にワークフロー（サーバープリセットまたは仮想プリンター）をファイルへ簡単に適用することができます。ドラッグアンドドロップ機能でファイルをインポートする場合、通常この機能は使用できません（例外はサーバーリストのみ）。

- 1 コンピューターから印刷中キュー、処理中キューまたは待機リストにファイルやフォルダーをドラッグアンドドロップします。

サポートされているファイルの種類は、PS、PRN（PostScript または PCL プリンタードライバーで作成した場合）、PDF、EPS、TIFF、PCL（PCL ドライバーで作成した場合）、PDF/VT、PPML、ZIP、VPS および Fiery FreeForm Plus です。

メモ： PCL、PPML、ZIP および VPS のファイル形式はすべての Fiery servers でサポートされていない可能性があります。

上記の場所へファイルやフォルダーをドラッグアンドドロップしても、ファイルのインポートダイアログボックスは表示されません。フォルダーにあるすべての内容がインポートされます。

- 2 サーバーリスト内、印刷中キュー、処理中キューまたは待機リスト内の接続している Fiery server にファイルをドラッグアンドドロップします。

ファイルのインポートダイアログボックスが開きます。手順 5 を参照してください。

- 3 コンピューターからファイルを直接インポートするには、次のいずれかの操作を行います。

- メニューからファイル > ジョブのインポートをクリックします。
- ジョブセンターのインポートツールバーアイコンをクリックします。

- 4 使用しているコンピューターの参照ダイアログで、アップロードするファイルを選択します。

ファイルのインポートダイアログボックスが開きます。

- 5 次のいずれかを行います。

- デフォルト設定を適用を選択して、ファイルに定義されている属性でファイルをインポートします。設定が定義されていない場合は、Fiery server のデフォルト設定が使用されます。
- サーバープリセットを使用を選択し、工場出荷時のデフォルトのプリセットまたは Fiery server で現在公開されているサーバープリセットのリストから選択します。
- 仮想プリンターを使用を選択し、Fiery server で現在公開されている仮想プリンターのリストから選択します。

サーバープリセットを使用および仮想プリンターを使用オプションは、Fiery server にサーバープリセットまたは仮想プリンターが設定されている場合にのみ表示されます。

- 6 ジョブアクションを選択します。例：

- 処理後待機（デフォルト）
- 印刷
- 印刷後待機
- 印刷後削除

Fiery server の機能によって、他の選択肢が表示される場合があります。

メモ：最後に選択されたアクションが表示されます。

外部のアーカイブや Fiery server ハードディスクからジョブをインポートする

外部の場所（Fiery server のハードディスクを含む）にアーカイブされたジョブをインポートします。

- 次のいずれかを行います。
 - ジョブを手動でインポートするには、**ファイル > アーカイブ済みジョブのインポート**をクリックします。ディレクトリを参照して、アーカイブ済みのジョブが含まれるフォルダーを選択します。ジョブを選択し、**OK**をクリックします。
選択したフォルダーがリストにない場合、**管理**をクリックしてディレクトリを参照し、フォルダーを追加して **OK** をクリックします。
インポートされたジョブが待機キューまたは印刷済みキューに表示されます。
 - コンピュータデスクトップ上からファイルを選択し、**Command WorkStation** の指定のキューにドラッグアンドドロップします。

印刷オプションの設定

ジョブの印刷オプション（ジョブのプロパティウィンドウからアクセス）は、ジョブを片面に印刷するか、両面に印刷するか、ステープル（ホチキス）で止める必要があるかどうかなどの情報を指定します。

印刷ジョブが Fiery server に到着すると、オペレーターは **Command WorkStation** のジョブのプロパティウィンドウで印刷オプションを表示したり、変更したりできます。たとえば、オペレーターは、次の操作を実行できます。

- ジョブの印刷設定を表示する（オペレーターへの指示を含む）
- 設定を書き換える
- 現在適用されているジョブのプロパティのリストをローカルプリンターで印刷する

ジョブのプロパティを表示する

待機キュー、印刷済みキュー、またはアーカイブ済みキューで選択したジョブの印刷オプションを表示または上書きできます。

オペレーターが **Command WorkStation** にあるジョブの設定や印刷オプションを何も変更していなければ、ジョブのプロパティウィンドウには、ユーザーがジョブを送信する際に **PostScript** プリンタードライバで指定したジョブ設定が反映されます。ジョブ設定がない場合は、**PostScript** プリンタードライバのデフォルトの設定が反映されます。

Command WorkStation にインポートされたジョブは、ジョブに含まれる設定（**PostScript** ジョブのみ）、または **Fiery server** のデフォルトのジョブ設定（**PDF** ファイルまたはジョブ情報なしでインポートされたジョブ）のどちらかを表示します。

現在実行されているジョブの場合、ジョブのプロパティを読み取り専用で表示できます。これには、処理中、処理待機中、印刷中、印刷待機中のジョブが含まれます。これにより、ジョブをキャンセルしなくても、アクティブなジョブのプロパティを確認できます。

ジョブのプロパティを表示または上書きする

ジョブの印刷オプションを表示または変更できます。

メモ：ジョブ概要ウィンドウでジョブのプロパティを直接編集して、上書きすることもできます。

- 1 待機キューまたは印刷済みキューのジョブをダブルクリック、またはジョブを選択して次のいずれかを行います。
 - 右クリックしてプロパティを選択します。
 - プロパティアイコンをクリックします。
 - アクション > プロパティをクリックします。

単一の Fiery server で複数のジョブを選択するには、Shift キーまたは Ctrl キーを押しながらクリックするか (Windows の場合)、cmd キーを押しながらクリックして (macOS の場合)、プロパティをクリックします。複数のジョブが開いたら、ジョブのプロパティウィンドウで値を指定するとその値はすべてのジョブにデフォルトで適用されます。概要タブでは、複数のジョブの印刷オプションを左右に並べて比較できます。

- 2 ジョブのプロパティのグループに設定された印刷オプションを表示するには、各アイコンをクリックします。

オプションによっては、設定を変更した後に、ジョブの再処理が必要となる場合もあります。

- 3 印刷オプションを書き換えたい場合は、変更を行ってから OK をクリックして設定を書き換えるか、印刷をクリックして保存し、その設定でジョブを印刷します。

印刷をクリックすると、ジョブのプロパティウィンドウが閉じ、現在の設定でジョブが印刷されます。

設定によっては、ジョブに適用した後でジョブの再処理が必要となる場合があるため、処理済みおよび待機状態にあるジョブに対しては即時適用できません。

ジョブの既存のプリントプロパティの概要を表示する

ジョブのプロパティウィンドウでは、ジョブの現在のプロパティの概要を印刷できます。

- 1 ジョブのプロパティウィンドウで、概要アイコンをクリックします。
- 2 ジョブの既存のプロパティのリストを印刷するには、概要印刷をクリックします。

メモ：プリンタードライバーで使用できる印刷オプションによっては、ジョブのプロパティウィンドウに表示されないものもあります。特定の印刷オプションと設定、およびそれらの設定方法については、Fiery server の取扱説明書を参照してください。

ジョブのプロパティウィンドウのジョブアクション

印刷や処理後待機など、一般的なジョブアクションをジョブのプロパティウィンドウ内で使用することができます。デフォルトのジョブアクションは、印刷です。

印刷

このジョブアクションを使用すると、Fiery server はジョブをキューに入れて処理を行い、印刷します。ジョブが処理済みの場合、Fiery server はキュー内のジョブを印刷します。

印刷後待機	このジョブアクションを使用すると、Fiery server はジョブをキューに入れて処理および印刷を行い、処理済みの状態でジョブを待機キューに戻します。
印刷後削除	このジョブアクションを使用すると、Fiery server はジョブをキューに入れて処理および印刷を行い、ジョブを削除します。このアクションにより、印刷済みジョブは印刷済みキューに保存されなくなります。これは印刷のセキュリティを高めるためによく行われる措置です。
待機	このジョブアクションを使用すると、オペレーターがさらにアクションを起こさない限り、ジョブは Fiery server にスプールされます。待機ジョブは、処理前状態または処理済み状態で存在します。
処理後待機	このジョブアクションを使用すると、Fiery server はジョブをキューに入れて処理を行い、その後、待機キューに戻します。このジョブアクションを使用すると、印刷前にジョブをプレビューすることができます。
プルーフ印刷	このジョブアクションを使用すると、ジョブを 1 部印刷して出力を確認できます。印刷完了後、ジョブは元の部数に戻されます。プルーフ印刷から作成された（すでに存在していた場合は、使用された）ラスタは保持されます。プルーフ印刷は、右クリックメニュー、ジョブのプロパティウィンドウ、および Fiery Hot Folders から利用できます。

印刷オプションのカテゴリ

ジョブのプロパティの印刷オプションは、簡単にアクセスできるようにカテゴリ別にグループ分けされています。

クイックアクセス	他のジョブプロパティのグループから複製した印刷オプションです。カスタマイズが可能であるため、表示から任意の印刷オプションを追加または削除できます。クイックアクセスタブを使用すると、ジョブのプロパティタブすべてに目を通すことなく印刷オプションをすばやく見つけることができます。
ジョブ情報	ユーザー認証に必要なユーザー情報、セキュア印刷プロパティ、ジョブの処理など、ジョブに関するすべての情報があります。
用紙	印刷および挿入する用紙の属性とソースが含まれています。
レイアウト	用紙/シート上の印刷ジョブの面付けや製本処理を設定します。ただし、仕上げオプションを補正する配置（たとえば、トレイ調整）を除きます。
カラー	カラー設定および追加の機能（オプションのカラー機能が有効になっている場合）。白黒プリンターに接続されている場合、このタブは非表示になります。
イメージ	接続されている Fiery server とプリンターでサポートされる、画像品質に関するすべての設定。
仕上げ	プリンターに装着された仕上げ装置、および仕上げオプションを補足する画像のシフトにのみ関係する印刷オプションです。

バリアブルデータ印刷	すべてのバリアブルデータ印刷 (VDP) 設定です。FreeForm や高度なバリアブルデータ印刷設定が含まれます。
スタンプ	ジョブの画像の追加または非表示/削除を行う画像スタンプオプションです。ウォーターマークの位置やスタイルを定義するウォーターマークのプロパティも含まれます。 メモ ：スタンプタブをサポートしていない Fiery servers もあります。
概要	ジョブの既存のプリントプロパティを概要で表示します。

すべてのジョブのプロパティにデフォルトを設定する

デフォルト設定機能では、デフォルトのジョブのプロパティ設定を変更することにより、Fiery server をカスタマイズできます。デフォルト設定を使用して Fiery server を設定すると、Fiery Hot Folders、仮想プリンター、サーバープリセットを作成するときいつでも、初期設定を指定します。双方向通信が有効になっている場合は、Fiery Driver から送信されたジョブにはデフォルト設定が適用されます。

ファイルのインポートダイアログボックスでデフォルト設定を適用を選択して、またはジョブセンターにドラッグして Fiery server にインポートしたジョブにも、デフォルト設定機能で設定された現在のデフォルト設定が継承されます。ジョブが Fiery server キューに配置されると、ジョブのプロパティを上書きできます。

メモ：双方向通信がオフにされると、ユーザーが選択し、Fiery Driver から Fiery server に送信された設定のあるジョブが適用されます。それ以外の設定（ユーザーが編集していないもの）は、出荷時のデフォルト設定（プリンターの初期設定）を継承します。

すべてのジョブのプロパティのデフォルト設定を表示または編集できます。カラー設定などのジョブのデフォルト設定を変更するには、デフォルト設定を選択します。デフォルト設定機能には、次のエリアからもアクセスできます。

- デバイスセンター > 仮想プリンター
- デバイスセンター > ジョブプリセット
- デバイスセンター > カラー管理
- サーバー > デフォルト設定

デフォルト設定により、Fiery server の任意のデフォルト設定を選択できるデフォルト設定ウィンドウが表示されます。これらの設定は印刷キューおよび待機キューに適用され、サーバープリセットまたは仮想プリンターのデフォルトとして作用します。

- 1 Fiery server 名の隣にある詳細アイコン（3つのドット）をクリックしてから、デフォルト設定を選択するか、サーバー > デフォルト設定を選択します。

- 2 デフォルト設定ウィンドウで、オプションを個別に設定し、オプションをロックするか、ロック解除されたままにするかを指定します。

すべてロックまたはすべてアンロックを選択することもできます。

Fiery server はデフォルトで常にジョブ定義設定を使用に設定されるため、出力プロファイルはロックできません。

ロックされた項目は双方向通信がオンになっている場合のみ、Windows 用の Fiery Driver でグレー表示（利用不可）となります。これらの設定は、印刷時に上書きできません。双方向通信がオフの状態では Fiery Driver から印刷する場合や、macOS の Fiery Driver から印刷する場合は、ロックされた設定はグレー表示されません。ただしこの場合、ロックされた設定は適用され、Fiery server のデフォルト設定は上書きされません。

メモ：ジョブのプロパティを変更前の設定にリセットするには、リセットをクリックします。

- 3 OK をクリックします。

メモ：カラーのデフォルト設定を含め、デフォルト設定リストにあるデフォルト設定をバックアップするには、Fiery システム復元で仮想プリンターを選択する必要があります。詳細については、[Command WorkStation \(FS350/350 Pro 以前\) から Fiery server 設定をバックアップする \(46 ページ\)](#) を参照してください。

ジョブのプロパティの Fiery Impose テンプレート

Fiery Impose には、事前に定義された面付けテンプレートが用意されています。ジョブのプロパティウィンドウのレイアウトタブからアクセスします。Fiery Impose のライセンスを所有している場合は、テンプレートを編集したり、カスタムテンプレートとして保存したりできます。

テンプレートを選択すると、関連するジョブのプロパティがすべて設定されます。それによって、印刷設定が互いに競合しないようになり、正常な出力が保証されます。面付けテンプレートは Fiery Hot Folders から利用できます。また、サーバプリセットや仮想プリンターに追加することができます。デフォルトの面付けテンプレートは、クロップボックスに合わせる仕上げ設定を使用します。カスタム面付けテンプレートは、ユーザー定義およびトリムボックスに合わせる仕上げサイズワークフローをサポートしており、Acrobat PDF トリムボックスサイズを自動的に使用します。トリムボックスに合わせるは、ギャングアップジョブでのみ使用できます。詳細は、『Fiery JobMaster/Fiery Impose/Fiery Compose のヘルプ』を参照してください。

メモ：ユーザー定義およびトリムボックスに合わせるカスタムテンプレートでは PDF ソースファイルが必要です。PostScript ファイルはサポートされていません。

「ジョブのプロパティ」から Fiery Impose にアクセスするには

Fiery Impose ウィンドウのジョブをジョブのプロパティから開くと、そのジョブはシート表示ペインのワイヤフレーム表示に表示されます。Fiery Compose 設定および設定ペインの製品インテントコントロールは利用できません。

- 1 次のいずれかを行います。

- 待機リストにあるスプール済み/待機ジョブをクリックします。
- ホットフォルダーの場合、Fiery Hot Folders コンソールでホットフォルダーをクリックします。

- 2 アクション > プロパティをクリックします。

3 レイアウトタブをクリックし、Impose をクリックします。

4 Impose テンプレート編集をクリックします。

Fiery Impose テンプレートを編集してカスタムテンプレートを作成する場合は、Fiery server が Fiery Impose をサポートしていることと、適切なライセンスが必要です。

面付けテンプレート

Fiery Impose では、定義済みテンプレートが提供されています。カスタムテンプレートを作成することもできます。

定義済みテンプレートには、普通、ブックレット、ギャングアップがあります。

- 普通には、デフォルトテンプレートと 1-up フルブリードがあります。
- ブックレットには、2-up 無線とじ、2-up 中とじ、4-up 四つ折りがあります。
- ギャングアップには、3-up 巻き三つ折りパンフレット、4-up 内巻き四つ折り、4-up Z 折りがあります。

メモ: デフォルトの事前定義された面付けテンプレートでは、クロップボックスに合わせる仕上がりサイズ設定を使用します。

メモ: 普通、製本、およびギャングアップテンプレートでは、上部に工場出荷時のテンプレートが表示され、それに続いてカスタムテンプレートが表示されます。工場出荷時のテンプレートとカスタムテンプレートの両方が、英数字で昇順にソートされます。

事前定義されたテンプレートの設定を変更することで、カスタムテンプレートを作成できます。テンプレートを選択して変更を加えたら、新しい名前を付けてテンプレートを保存します。（一部の設定では、カスタムテンプレートを使用できない場合があります。）新しい設定はすぐに適用されます。Fiery server は、Fiery Impose をサポートする必要があり、ユーザーは適切なライセンスを持っている必要があります。

メモ: 日本式のマークを使用して作成されたカスタムテンプレートは、Fiery Impose 内でのみ使用できます。

環境設定ダイアログボックスで、カスタムテンプレートの保存先にするフォルダーまたはディレクトリのパスを設定できます。

Fiery Impose のライセンスをお持ちの場合、Fiery Hot Folders から面付けテンプレートを編集できます。カスタム面付けテンプレートは、ユーザー定義およびトリムボックスに合わせる仕上がりサイズワークフローをサポートするようになりました。ユーザー定義では、ソース書類内で定義された PDF トリムボックスを仕上がりサイズとして使用します。ユーザーは、デフォルト値を上書きしてトリムサイズを設定することができます。トリムボックスに合わせるは、ギャングアップ面付けでのみ使用できます。トリムボックスに合わせるワークフローは、サイズの小さな印刷物（名刺、はがき、コンサートチケットなど）のレイアウトをサイズの大きなシート（11 x 17 など）に動的に作成する自動ワークフローです。

メモ: ユーザー定義およびトリムボックスに合わせる仕上がりサイズワークフローでは、PDF ソースファイルが必要です。PostScript ファイルはサポートされていません。

面付けテンプレートに関する詳細については、『Fiery JobMaster-Fiery Impose-Fiery Compose のヘルプ』を参照してください。

プリセットのプリント設定

プリセットは、以降にアクセス可能な、ジョブのプロパティウィンドウ内のプリント設定のコレクションです。

サーバープリセットは、ジョブのプロパティおよびプリンタードライバからアクセスでき、Fiery Hot Folders や仮想プリンターなどのワークフローに適用できます。

ジョブプリセットは、ジョブのプロパティウィンドウのプリセットドロップダウンメニューにリストが表示されます。このリストからジョブのプリセットの1つを選択するか、ジョブのプロパティウィンドウで選択した現在のオプションに基づいて新しいプリセットを作成できます。現在ジョブがプリセットを使用していない場合、プリセットフィールドは空白になります。プリセットフィールドにテキストは表示されません。すべてのプロパティは初期のデフォルト設定を表示します。ジョブプリセットを選択すると、保存済みプリセットを反映するよう、すべての設定が更新されます。いずれかの印刷設定を変更すると、プリセットリストは空白に戻ります。

ジョブのプリセットには、次の3種類があります。

- **ローカルプリセット** - ユーザーのローカルコンピューターに保存されています。
ローカルプリセットは、Fiery server にアクセスすると常にプリセットリストに表示されます。ローカルプリセットは削除しない限り、ローカルハードディスクに残ります。
- **サーバープリセット** - Fiery server に保存され、Fiery server の他のユーザーと共有されます。
サーバープリセットをジョブに適用すると、プリセットの設定がジョブの一部となり、変更が加えられるまでジョブと一緒に保持されます。
サーバープリセットによって印刷設定がロックされている場合、ジョブ用にサーバープリセットを選択した後で、ジョブのプロパティウィンドウで印刷設定上書きすることができます。上書きされると、プリセットフィールドは空白になります。
- **デフォルトサーバープリセット** - (FS200/200 Pro 以降でのみ使用可能) Fiery server にインストール済みで、Fiery server の他のユーザーと共有される工場出荷時のプリセットです。

プリセットの適用

以下のいずれかの方法で、ジョブプリセットを適用できます。

- ファイル > ジョブのインポートまたはジョブセンターのインポートツールバーアイコンを使用してジョブを Command WorkStation にインポートします。サーバープリセットを使用を選択してから、ファイルのインポートウィンドウのリストからプリセットを選択できます。
- ジョブセンターの待機キュー、印刷済みキューまたはアーカイブ済みキューからジョブを選択し、ツールバーのプロパティアイコンをクリックします。プリセットリストからローカルプリセットまたはサーバープリセットを選択します。
- ジョブセンターの待機キュー、印刷済みキューまたはアーカイブ済みキューでジョブを右クリックし、ワークフローを適用を選択した後、リストからプリセットを選択します。
- ジョブセンターの待機キュー、印刷済みキューまたはアーカイブ済みキューでジョブを選択するか、右クリックします。ジョブ概要ウィンドウで、ワークフローリストからサーバープリセットを選択します。

プリセットの編集

ジョブ概要ウィンドウでは、プリセットをインラインで編集することもできます。

ローカルプリセットまたはサーバープリセットの作成

システム管理者は、サーバー > デバイスセンター > ワークフロー > ジョブプリセットで、サーバープリセットの作成、編集、名前の変更、非公開、公開、および削除を行うことができます。ローカルプリセットはジョブのプロパティウィンドウでのみ保存ができます。

ローカルプリセットまたはサーバープリセットを作成するには、ジョブのプロパティウィンドウで設定を選択し、プリセットリストに保存します。

システム管理者は、プリセットをローカルプリセットまたはサーバープリセットとして保存できます。オペレーターは、ローカルプリセットのみ保存できます。

ローカルプリセットを作成する

システム管理者およびオペレーターは、ジョブのプロパティウィンドウ内の設定をローカルプリセットとして保存できます。

- 1 待機/印刷済みキューのジョブをダブルクリックします。または、ジョブを選択して次のいずれかを行います。
 - 右クリックしてプロパティを選択します。
 - ジョブセンターのプロパティツールバーアイコンをクリックします。
 - アクション > プロパティをクリックします。
- 2 必要に応じて各タブの印刷設定を調整します。
- 3 プリセットで、プリセット保存を選択します。
- 4 プリセットのわかりやすい名前を入力し、ローカルプリセットを選択します。
- 5 保存をクリックします。

ローカルプリセットは、ジョブのプロパティウィンドウからいつでも利用できます。ローカルプリセットは削除しない限り、ローカルハードディスクに残ります。

サーバープリセットを作成する

システム管理者は、ジョブのプロパティウィンドウ内の設定をサーバープリセットとして保存できます。このプリセットは、Fiery server 上に保存され、サーバーのユーザーと共有されます。

- 1 サーバー > デバイスセンター > ワークフロー > ジョブプリセットをクリックします。
- 2 新規をクリックします。
- 3 わかりやすいプリセットの名前を入力します。
プリセット名にスペースは使用できません。
- 4 プリセットの説明を入力します（オプション）。

5 次のいずれかを選択して、サーバープリセットタイプを選択します。

- **完全**：このプリセットには、ジョブのプロパティ内のすべての設定が含まれます。このプリセットタイプを適用する場合は、現在のジョブ設定をすべて上書きします。
- **カスタム**：このプリセットには、選択したジョブのプロパティ設定のみが含まれます。このプリセットタイプを適用する場合は、定義した設定のみを変更します。その他のジョブ設定はすべて維持されます。

カスタムを選択した場合は、このプリセットから仮想プリンターを作成できません。

6 定義をクリックしてジョブのプロパティを指定し、OK をクリックします。

7 OK をクリックして、ジョブプリセット設定ウィンドウを閉じます。

サーバープリセットは、サーバー > デバイスセンター > ワークフロー > ジョブプリセットから、またはジョブのプロパティウィンドウからいつでも利用できます。システム管理者が削除しない限り、サーバープリセットは Fiery server 上に残ります。

サーバープリセットの作成後、設定ウィンドウ（右側）はデフォルトから変更された設定およびロックされている設定を表示します。サーバープリセットは、Fiery server に接続している他のユーザーと共有できるよう、自動的に公開されます。

カスタムプリセットは、デバイスセンターでのみ作成できます。ジョブセンターからは作成できません。

印刷ジョブのプリセットを変更する

すべてのジョブに対して異なるプリセットを選択して適用することができます。プリセットの編集や名前変更、ローカルプリセットの削除を行ったり、デフォルトプリセットに戻したりすることもできます。

プリセットの操作は、ジョブのプロパティウィンドウで行います。プリセットを表示するには、待機または印刷済みキューでジョブをダブルクリックするか、ジョブセンターでジョブを選択してプロパティツールバーアイコンをクリックします。

別のプリセットを選択する

印刷オプションの現在のセットを別のジョブのプリセットに変更できます。

- 待機または印刷済みキューからジョブを選択し、次のいずれかを行います。
 - 右クリックしてワークフローを適用を選択し、次にプリセットを選択します。
 - 右クリックしてプロパティを選択します。ジョブのプロパティウィンドウのプリセットで、異なるプリセットを選択します。
 - アクション > ワークフローを適用をクリックし、次にプリセットを選択します。

別のプリセットを選択するまで、またはジョブのプロパティにさらなる変更を加えるまで、現在選択されたプリセットが印刷時に使用されます。

プリセットの編集

プリセットには、ジョブのプロパティウィンドウで設定するほとんどの印刷オプションが含まれます。プリセットを選択した後、ジョブのプロパティウィンドウで設定を上書きできます。

- 次のいずれかの方法でプリセットを編集します。
 - プリセットをジョブに適用し、設定を必要に応じて編集し、プリセットとして保存をクリックします。前と同じプリセット名を入力し、ローカルプリセットまたはサーバープリセットを選択します。
 - サーバー > デバイスセンター > ワークフロー > ジョブプリセットで、リストからプリセットを選択し、編集をクリックします。ジョブのプロパティウィンドウで必要な変更を行い、ウィンドウを閉じて変更を保存します。

デバイスセンター > サーバープリセットでプリセットを編集する場合、プリセットの種類を変更することはできません（完了またはカスタム）。

ローカルプリセットを削除する

ジョブのプロパティウィンドウにあるローカルプリセット管理機能を使用して、ローカルプリセットを削除できます。

- 1 ジョブのプロパティウィンドウのプリセットで、ローカルプリセット管理を選択します。
- 2 プリセットを選択し、削除をクリックします。

プリセットの名前を変更する

ジョブのプロパティウィンドウで、ローカルプリセット管理機能を使用してローカルプリセットの名前を変更できます。

- 1 ジョブのプロパティウィンドウのプリセットで、ローカルプリセット管理を選択します。
- 2 プリセットを選択し、名前の変更をクリックします。
- 3 わかりやすいプリセット名を入力して保存をクリックします。

デフォルトプリセットを復元

ジョブにデフォルトプリセットを適用して、印刷オプションを Fiery server のデフォルト設定に戻すことができます。システム管理者がデフォルト設定または出荷時のデフォルト（以前はプリンターの初期設定と呼ばれたもの）を使用して設定した現在のデフォルトを適用できます。

- デフォルト設定を適用するには、次のいずれかを行います。
 - 現在のサーバーデフォルト設定を適用するには、ジョブのプロパティウィンドウのプリセットでデフォルトを選択します。
 - 出荷時のデフォルト設定を適用するには、ジョブのプロパティウィンドウのプリセットで出荷時のデフォルトを選択します。

デフォルトのジョブのプロパティ設定についての詳細は、[すべてのジョブのプロパティにデフォルトを設定する](#) (62 ページ) を参照してください。

サーバープリセット

サーバープリセットは、すべてのユーザーが使用できる一貫した印刷オプションのセットを提供します。ユーザーはローカルプリセットを自身のコンピュータに保存できますが、サーバープリセットの保存、編集、公開、削除ができるのはシステム管理者のみです。

サーバープリセットには次の場所からアクセスできます。

- Command WorkStation (サーバー > デバイスセンター > ワークフロー > ジョブプリセットを選択し、ジョブセンターのプロパティツールバーアイコンをクリック)
- Command WorkStation ジョブのプロパティ (ジョブセンターのプロパティツールバーアイコンをクリック)
- Fiery Hot Folders (『Fiery Hot Folders ヘルプ』を参照)
- 仮想プリンター ([仮想プリンター](#) (246 ページ) を参照)
- プリンタードライバ (Windows および macOS 用)

システム管理者は、サーバープリセットに基づいて Fiery Hot Folders および仮想プリンターを作成できます。また、サーバープリセットを編集すると、Fiery Hot Folders および仮想プリンターの設定も変更されます。

アーカイブ済みジョブとサーバープリセット

アーカイブ済みジョブは、ジョブ情報とプリセット名を保持します。アーカイブ済みジョブを作成したときと同じ Fiery server に復元した場合、サーバープリセットはジョブセンターの処理中や印刷中キューのプリセット列見出しに表示されます。

編集されたプリセットの追跡

サーバープリセットが、待機ジョブ、印刷済みジョブ、またはアーカイブ済みジョブに適用された後で変更された場合、プリセット名にアスタリスク (*) が付きます。つまり、そのプリセットは、ジョブが送信された後でシステム管理者によって編集されています。最新の設定を使用するには、プリセットをジョブに再適用します。

ジョブセンターのキューのいずれか (印刷中、処理中、待機、印刷済みまたはアーカイブ済み) にプリセット列見出しが追加された場合、アスタリスクとジョブ名はプリセット列に表示されます。

デフォルトサーバープリセット

簡単に Fiery server ワークフローをお使いいただくために、一般的な設定が行われている 5 つのデフォルトサーバープリセットが含まれています。デフォルトサーバープリセットは、出荷時に設定されています。デフォルトサーバープリセットは、サーバーでサポートされている場合のみ、Fiery システムソフトウェア FS200/200 Pro 以降を搭載している Fiery server で使用できます。

Fiery server の起動時に、Fiery server のデフォルト用紙サイズと言語設定に基づいて関連するデフォルトプリセットが表示されます。

デフォルトサーバープリセットには、以下のものがあります。

- 2-up_横
- グレースケール-両面
- ステープル-両面

- 大判製本
- 小判製本

メモ：ユーザー定義プリセットには、変更されなかった設定を含め、ジョブのプロパティウィンドウにあるすべての設定が含まれます。これとは対照的に、デフォルトサーバープリセットには、前の設定のみが含まれます。それ以外の設定は、ジョブまたはサーバーのデフォルトから継承されます。

デフォルトサーバープリセットは、Command WorkStation で編集できます（サーバー > デバイスセンター > ワークフロー > ジョブプリセットを選択）。デフォルトサーバープリセットを編集すると、そのプリセットはデフォルトプリセットではなくなり、ユーザーのプリセットになります。

制限/制約事項：

以下の制限/制約が、デフォルトサーバープリセットに適用されます。

- 用紙種類の混合設定が行われたジョブにデフォルトサーバープリセットを適用すると、用紙種類の混合設定は保持されません。
- ブックレット用のデフォルトサーバープリセットでは、レイアウトタブに表紙設定が表示されません。別の表紙を追加するには、標準をクリックし、ブックレットを再度クリックします。表紙の設定が表示されます。
- バリアブルデータ印刷ジョブは、ジョブのプロパティの製本メーカー設定とギャングアップ設定をサポートしていないため、デフォルトサーバープリセットの使用時はこれらの設定が無視されます。

メモ：VDP ジョブを使用してブックレットまたはギャングアップジョブを作成するには、Fiery Impose を使用します。

- デフォルトサーバープリセットを Paper Catalog 対応プリンターまたはメディアカタログ対応プリンターで使用する場合は、プリセットを編集して用紙カタログエントリまたはメディアカタログエントリを割り当ててから使用してください。

サーバープリセットの編集、削除、非公開

サーバー > デバイスセンター > ワークフロー > ジョブプリセットで、サーバープリセットの編集、削除、または非公開ができます。

これらの操作を行うには、Fiery server にシステム管理者としてログオンする必要があります。

現在使用中のサーバープリセットを編集または削除する場合、その変更は以降のジョブにのみ適用されます。変更したプリセット設定は、そのサーバープリセットを使用するすべての Fiery Hot Folders または仮想プリンターに直ちに適用されます。

既存のサーバープリセットは、コンピューター上のファイルを上書きするのと同じ方法で上書きできます。サーバープリセットは、ジョブのプロパティから上書きできます。

すでに Fiery server の待機または印刷済みキューにあるジョブには、このプリセットへの編集内容が自動的に反映されません。Fiery server のキュー内のジョブを、新たに編集したプリセットで更新する場合は、ジョブのプロパティを使用してジョブにプリセットを再適用する必要があります。

サーバープリセットの編集

システム管理者はサーバープリセットを編集することができます。サーバープリセットは、Command WorkStation（サーバー>デバイスセンター>ワークフロー）、またはジョブのプロパティから編集できます。

- 1 デバイスセンターからプリセットを編集するには、編集したいプリセットを選択し、デバイスセンター>ワークフロー>ジョブプリセットのツールバーから編集をクリックします。
 - a) 変更内容の説明を入力します（オプション）。
 - b) 定義をクリックして印刷設定を変更します。
 - c) OK をクリックします。
- 2 ジョブのプロパティからプリセットを編集するには、待機または印刷済みキューでジョブを右クリックし、ジョブのプロパティを選択します。
 - a) ジョブに対して、プリセットリストからサーバープリセットを選択します。
 - b) プリセットに適用したい、ジョブのプリセットに変更を加えます。
 - c) プリセットリストで、プリセット保存、続いてサーバープリセットを選択し、プリセットの名前を正確に入力します。
 - d) 保存をクリックし、次に OK をクリックして既存のプリセットを上書きします。

サーバープリセットの削除

システム管理者はサーバープリセットを削除できます。

- 1 リストからプリセット（非公開または公開）を選択し、ツールバーから削除をクリックします。
- 2 はいをクリックします。

削除されたプリセットと関連付けられていた Fiery Hot Folders および仮想プリンターとの接続は切断されます。ただし、削除されたプリセットの設定は保持されます。

サーバープリセットを非公開

非公開のプリセットは、プリンタードライバーまたはジョブのプロパティウィンドウからは使用できません。サーバープリセットを非公開にした後、そのエントリを再度公開することができます。

- 1 公開済みアイコンを持つサーバープリセットをリストから選択します。
- 2 ツールバーで非公開をクリックします。
サーバープリセットに非公開アイコンが表示されます。
- 3 はいをクリックします。

非公開にされたサーバープリセットに関連付けられていた Fiery Hot Folders と仮想プリンターは切断されます。ただし、Hot Folders および仮想プリンターは非公開にされたプリセットのプリセット設定を保持します。

ロック済みサーバープリセットについて

サーバープリセットの印刷設定をサーバー >> デバイスセンター >> ワークフロー >> ジョブプリセットでロックまたはアンロックできます。

これらの操作を行うには、システム管理者として **Fiery server** にログオンする必要があります。

サーバープリセットの設定をロックすることにより以下の操作が可能になります。

- プリセットを使用して **Command WorkStation** にインポートされるすべてのファイルに設定が適用されません。
- 設定の選択後、プリンタードライバのジョブのプロパティで設定の上書きができますが、上書きするとプリセットリストは空白になります。
- **Fiery Hot Folders** ジョブも同じロック済み設定を継承します (**Fiery Hot Folders** がサーバープリセットを使用すると仮定した場合)。
- 仮想プリンターでは設定がロック済みとして表示されます。仮想プリンターに接続しているクライアントプリンタードライバは、設定を変更できません。

Fiery server はデフォルトで常にジョブ定義設定を使用に設定されるため、出力プロファイルはロックできません。

ロックはジョブの送信時にのみ適用されます。ジョブが **Fiery server** にある場合は、**Command WorkStation** のジョブのプロパティウィンドウでロック済み設定を編集できます。

サーバープリセットのロック/アンロック設定

サーバー > デバイスセンター > ワークフロー > ジョブプリセットで印刷設定をロックまたはアンロックするには、**Fiery server** にシステム管理者としてログオンする必要があります。

- 1 編集するプリセットを選択し、ツールバーから**編集**をクリックします。
- 2 変更内容の説明を入力します (オプション)。
- 3 **定義**をクリックして印刷設定を変更します。
- 4 次のいずれかを行います。
 - すべてロックをクリックして、すべての印刷設定をロックします。
 - 特定の印刷設定をロックするには、ロックアイコンをクリックします。
 - すべてアンロックをクリックしてすべての印刷設定をアンロックします。
 - 特定の印刷設定に対して、ロックアイコンをクリックして、アンロックアイコンに変えます。
- 5 **OK** をクリックします。

サーバープリセットのエクスポートとインポート

Fiery server からサーバープリセットをファイル（エクスポート済みプリセット.fjp）にエクスポートし、別の同種の Fiery server のファイルにインポートできます。これを行うには、サーバー> デバイスセンター> ワークフロー> ジョブプリセットを使用します。

また、保管のために、バックアップ/復元ツール（サーバー> デバイスセンター> 一般> ツール）を使用してサーバープリセットをエクスポートすることもできます。プリセットバックアップファイルは、異なるモデルの Fiery server には復元できません。

プリセットファイルをインポートした場合、その新しいプリセットを既存のプリセットとマージしたり、既存のプリセットを置き換えたりすることができます。

サーバープリセットをエクスポート/インポートするには、Fiery server にシステム管理者としてログオンする必要があります。

サーバープリセットをエクスポートする

システム管理者はサーバープリセットをエクスポートして、別の Fiery server で使用できます。

- 1 ツールバーからエクスポートをクリックします。
- 2 エクスポート済みプリセット.fjp ファイルの保存場所を選択します。
- 3 保存をクリックします。

サーバープリセットをインポートする

システム管理者は Fiery server からサーバープリセットをエクスポートした後、インポートして別の同種の Fiery server で使用することができます。

- 1 ツールバーからインポートをクリックします。
- 2 既存とマージまたは既存を置換を選択します。

サーバープリセットをマージする場合、インポートしたファイルのプリセットは Fiery server の既存のプリセットに追加されます。重複した同じ名前が存在する場合、インポートしたプリセットの名前の末尾には数字の接尾辞が付きます（たとえば、FirstTest-1）。

サーバープリセットの既存のプリセットを置き換える場合、現在のすべてのサーバープリセットは削除され、新しくインポートした Fiery ジョブプリセットファイルに含まれるサーバープリセットに置き換えられます。

- 3 エクスポート済みプリセット.fjp ファイルの場所を選択します。
- 4 開くをクリックします。

デフォルト設定

デフォルト設定機能では、ジョブのデフォルトのプロパティを変更することにより、Fiery server をカスタマイズできます。

Fiery JobExpert

Fiery JobExpert を使用すると、ジョブのプロパティの候補を Fiery Command WorkStation のジョブに自動的に適用することができます。JobExpert はジョブごとにジョブのプロパティを最適化し、ジョブに加えられた変更の詳細を表示します。

JobExpert を適用すると、ジョブのプロパティを手動で変更することもできます。

Fiery JobExpert ルール

JobExpert では、事前に定義されたルールリストから選択することができます。

次のオプションから選択します。

全カテゴリ	JobExpert では、ジョブのコンテンツに基づいて最適なジョブのプロパティ設定が選択されます。
カラー管理	JobExpert では、ジョブのコンテンツに基づいて最適なカラー設定が選択されます。
画像品質	JobExpert では、ジョブのコンテンツに基づいて最適な画像品質設定が選択されます。 ジョブを JobExpert で分析した後、ジョブのプロパティでイメージタブを開いて、適用された設定を確認できます。
バリエーションデータ印刷	JobExpert は、バリエーションデータを含む PDF ジョブのジョブのプロパティで最適な設定を選択します。ジョブで PDF/X オブジェクトが検出された場合、JobExpert では PDF Print Engine も有効になります。

JobExpert 列を追加する

Command WorkStation のジョブセンターで JobExpert の列を追加できます。

- 1 ウィンドウタイトルバーの下にある任意の列を右クリックします。
- 2 新規追加 > ジョブ情報をクリックします。
- 3 JobExpert ルールを選択します。

JobExpert 列には、ジョブに現在適用されている JobExpert ルールがすべて表示されます。

JobExpert を使用してジョブをインポートする

ジョブをインポートして、Command WorkStation の JobExpert に適用できます。

- 1 待機リストにファイルをインポートするには、次のいずれかを行います。
 - メニューからファイル > ジョブのインポートをクリックします。
 - ジョブセンターのインポートツールバーアイコンをクリックします。

2 追加するファイルの場所に移動します。

3 開くをクリックします。

複数のジョブをインポートするには、ファイルのインポートダイアログボックスで+（追加）アイコンをクリックします。

4 デフォルト設定を適用を選択します。

メモ：ジョブのインポート時にサーバープリセットまたは仮想プリンターを適用すると、サーバープリセットまたは仮想プリンターの設定が先に適用されます。JobExpert も選択されている場合、カラーやイメージ設定など、一部の設定が JobExpert によって上書きされることがあります。

5 JobExpert（適用先：PDF）を選択します。

6 JobExpert を適用を選択します。

7 次のいずれかのルールを選択します。

- 全カテゴリー
- カラー管理
- 画像品質
- バリアブルデータ印刷

8 ジョブアクションを選択します。

JobExpert は、ジョブに推奨設定を自動的に適用します。

JobExpert を仮想プリンターに追加する

JobExpert を Command WorkStation の新しい仮想プリンターに適用することができます。

システム管理者のみが、新しい仮想プリンターを作成することができます。

1 サーバー デバイスセンター > をクリックします。

2 デバイスセンターのワークフローセクションで仮想プリンターをクリックします。

3 新規をクリックします。

4 新しい仮想プリンターウィンドウで JobExpert を選択します。

5 次のいずれかのルールを選択します。

- 全カテゴリー
- カラー管理
- 画像品質
- バリアブルデータ印刷

6 OK をクリックします。

PDF ジョブを仮想プリンター経由で Command WorkStation にインポートすると、選択したジョブアクションにジョブが送信され、JobExpert が推奨設定を適用します。

JobExpert を Fiery Hot Folders に追加する

Fiery Hot Folders で新しい Hot Folders を JobExpert に適用できます。

Fiery JobExpert をサポートする Fiery server に接続する必要があります。

1 Fiery Hot Folders コンソールを開きます。

2 新規をクリックします。

3 次のいずれかのルールを選択します。

- 全カテゴリー
- カラー管理
- 画像品質
- バリアブルデータ印刷

4 OK をクリックします。

ジョブを Fiery Hot Folders 経由でインポートする場合、JobExpert は推奨設定を適用します。

ジョブセンターで JobExpert を適用する

ジョブセンターの既存ジョブに JobExpert を適用できます。

1 待機リスト内のジョブを右クリックします。

2 適用 JobExpert を選択し、次のいずれかのルールを選択します。

- 全カテゴリー
- カラー管理
- 画像品質
- バリアブルデータ印刷

進行状況バーに、ジョブ状況列の JobExpert の進行状況が表示されます。JobExpert 列がジョブセンターに追加されると、分析中というメッセージが表示されます。

メモ： JobExpert で複数のジョブを同時に処理できます。

3 JobExpert を適用を選択します。

次のいずれかの方法で、進行中の JobExpert をキャンセルできます。

- 進行状況バーの X をクリックします。
- ジョブを右クリックし、JobExpert のキャンセルを選択します。

JobExpert 設定を除去する

Command WorkStation の Fiery JobExpert でジョブに適用された設定を除去できます。

ジョブ概要ウィンドウの JobExpert に移動し、クリアをクリックして JobExpert 設定を除去することもできます。

メモ：適用された JobExpert 設定を除去すると、JobExpert によって修正されたジョブのプロパティはサーバーのデフォルト設定に戻ります。ジョブを複製して JobExpert を適用し、元のジョブのプロパティ設定に戻すこともできます。

Fiery JobExpert レポートを表示

Command WorkStation の JobExpert がジョブに加えた変更の概要を表示できます。

- 1 ジョブセンターで、待機リスト内の JobExpert ジョブを選択します。
- 2 JobExpert レポートを表示するには、以下のいずれかを選択します。
 - ジョブを右クリックし、JobExpert レポートの表示を選択します。
 - Command WorkStation のジョブ概要ウィンドウに移動し、レポートの表示をクリックします。

JobExpert 変更のプレビュー

JobExpert によりジョブに加えられた変更をプレビューすることができます。

- 1 Fiery JobExpert ウィンドウで、表示するジョブプロパティに移動します。
- 2 プレビューを表示をクリックします。

調整済みページプレビューウィンドウでは、次のコントロールを使用できます。

 - 前と次：ジョブのプロパティ間を移動します。
 - 調整済みページ：同じジョブのプロパティの調整済みページの間を移動します。
 - 背景：カラーピッカーツールを開き、背景マスクカラーを調整します。

調整済みページプレビューウィンドウでは、次のアイコンが使用できます。

 - X：現在のジョブプロパティプレビューウィンドウを閉じます。
 - ズームツール（拡大鏡）：ズームイン/ズームアウトを行います。手動で値を入力することもできます。

ジョブからラスターデータを除去する

ラスターデータの除去が必要なアクションを選択した場合（たとえば再処理が必要なジョブプロパティを変更した場合など）、ラスターデータはジョブから自動的に除去されます。

ラスターデータが生成され、処理済みジョブまたは処理済み/待機ジョブにリンクされます。

処理済みジョブを選択した後に、Impose、Compose、JobMaster、処理後待機のいずれかのジョブアクションを選択した場合は、ジョブがスプール済みジョブとして開かれるように、ラスターデータが自動的に除去されます。ディスク容量を節約する必要がない場合は、ラスターデータ除去を選択する必要はありません。



このアイコンは、ラスターデータが関連付けられた処理済みジョブを示しています。



このアイコンは、ラスターデータなしのスプール済みジョブを示しています。

ラスターデータを手動で削除する必要がある場合は、次の手順に従います。

- 1 待機リストから処理済みジョブまたは待機ジョブを選択します。
- 2 次のいずれかを行います。
 - 右クリックしてラスターデータ除去を選択します。
 - アクション > ラスターデータ除去をクリックします。

ラスター曲線エディター

ラスター曲線エディター機能を使用すると、ジョブ内のカラー曲線を、Fiery ImageViewer を開かなくても編集できます。

ラスター曲線エディターを使用すると、ジョブ内のすべてのカラーの組み合わせと各色分解の応答曲線をカスタマイズすることができます。ラスター曲線エディターはジョブのプロパティ機能であり、Fiery ImageViewer がない場合に使用できます。

ラスター曲線エディターは、A10 プラットフォームの Fiery servers ではサポートされていません。

ジョブのプロパティウィンドウで、カラータブを開き、カラー設定でラスター曲線エディターをクリックします。

曲線の編集をクリックすると、曲線表の編集ウィンドウから曲線をインポートできます。インポートする曲線の種類については、[Curve2/Curve3/Curve4 ファイルからカラー曲線を適用する](#)（342 ページ）を参照してください。

ラスター曲線エディターウィンドウでは、新規のプリセットを作成したり、既存のプリセットを編集または削除できます。

プリセットを作成するには、[カラー編集をプリセットとして保存する](#)（341 ページ）を参照してください。

印刷方法

トレイ調整機能を使用して、ページ内容をシフトできます。大量に印刷する場合は、プリンターが正しく実行されることをサンプル印刷機能で確認できます。プルーフ印刷機能を使用すると、出力をチェックできます。

トレイ調整を使用する

用紙トレイの不具合で生じた位置ずれは、トレイ調整機能を使用してページ上の内容を移動および回転させて補正できます。

補正によりマージンが均等になるので、両面印刷での登録に理想的です。

メモ：トレイ調整はシステム管理者のみ使用できます。

- 1 接続している Fiery server を選択します。
- 2 次のいずれかを行います。
 - サーバー > トレイを調整を選択します。
 - デバイスセンターで、一般 > ツール > トレイ調整を選択します。
- 3 トレイ調整ウィンドウのトレイ一覧から調整したいトレイを選択します。
- 4 用紙サイズ一覧からトレイにセットされている用紙のサイズを指定します。

メモ：指定するサイズは、実際の用紙サイズと一致している必要があります。たとえば、レターサイズの用紙を指定してもトレイにセットされている用紙がリーガルサイズの場合、トレイ調整は無効になります。トレイと用紙サイズの組み合わせごとにトレイ調整を行います。

- 5 両面印刷では両面印刷用調整を選択し、片面印刷では、このチェックボックスのチェックを外します。
- 6 続行をクリックして、トレイ調整テストページを印刷します。
- 7 ページが印刷されたら、調整ページの指示に従います。
- 8 1面でも折り目が A、B、C の 3つのスケールそれぞれと交差する値を調整設定領域に入力します。両面印刷の場合、そのページの 2面にある 3つのスケールの値を入力します。適用をクリックします。
- 9 調整値をすべて入力したら、確認ページ印刷をクリックして新しく調整したページを印刷します。
- 10 閉じるをクリックします。

サンプル印刷

大量の印刷を行っている間に、すぐに使用できる出力トレイからサンプルページを印刷します。プリントデバイスから予期したとおりの印刷結果が出力されるか確認できます。

たとえば、大容量給紙トレイ (1000 枚が入る用紙トレイで、ジョブがすべて印刷完了になるまで開かないトレイ) で印刷する際に、サンプル印刷機能を使用して 1 ページ分、別に印刷して印刷結果が予期したものであるか確認できます。または他の空いている出力トレイに 1 部を出力させて確認できます。期待した印刷結果ではなかった場合は、ジョブをキャンセルして修正処置を行うことができます。

サンプル印刷は、出力トレイが複数あるプリンターでのみ使用してください。出力トレイの1つが閉じていて、印刷中に簡単にアクセスできない場合に便利です。

追加のシートまたは出力を以下のように印刷することができます。

- ジョブで印刷を実行中にオンデマンドで印刷する
- 印刷中のジョブの間に、N 枚ごとに印刷する
- 印刷をキャンセルするまで (N) 枚ごとに出力

Configure (サーバー > **Configure**) を使用すると、指定の **Fiery server** に対するサンプル印刷のデフォルト設定を指定できます。(**Fiery server 設定** (35 ページ) を参照してください)。

サンプル印刷を開始または停止

ジョブの印刷中に、サンプル印刷を開始できます。デフォルトの設定値が適用され、実行中のサンプル印刷に関するコマンドは上書きされます。

- 1 サンプル印刷を開始するには、ジョブの印刷中にサーバー > サンプル印刷開始を選択します。

Fiery server は、**Configure** で指定したオプションに基づいてサンプル印刷を実行します。

「サンプル印刷開始」がグレーアウトして選択不可能な場合は、**Fiery server** がすでにサンプル印刷を実行しているか、または指定された **Fiery server** がサンプル印刷を使用できない状態にあります。

- 2 サンプル印刷をキャンセルするには、サーバー > サンプル印刷終了を選択します。

Configure でサンプル印刷のオプションを設定する

複数の印刷ジョブを対象に所定の間隔でサンプル印刷を行うように **Fiery server** を設定できます。

サンプル印刷では、サンプルページを一定の間隔で印刷できます。これは定期的なスポットチェックとして利用できるほか、より方法論的なプロセスとして印刷品質を定期的に記録した印刷シートのアーカイブを作成するために利用できます。

システム管理者は **Configure** で、印刷内容、印刷間隔、サンプル印刷ジョブで使用する出力トレイを指定できます。

- 1 **Configure** で、ジョブ管理 > > サンプル印刷をクリックします。

2 必要に応じて、サンプル印刷オプション設定を指定します。

- **頻度** - シートごとまたはオンデマンドを指定します。シートごとを選択した場合は、Fiery server は指定された枚数のシートごとにサンプル印刷を実行します。サンプル印刷は、Fiery server が再起動されるまで、またはサンプル印刷モードがキャンセルされるまで、すべてのジョブに適用されます。「現在のジョブのみ」の場合は現在のジョブの印刷が終了するか、キャンセルされるまで適用されます。オンデマンドを選択した場合は、1 部のみが印刷されます。

メモ：印刷済みシートには、Fiery server によって印刷されるすべてのページ（システムページを含む）が含まれます。

- **内容** - シート（すべてのジョブ用）またはシート（丁合いされていないジョブ用）/セット（丁合いされたジョブ用）を指定します。シート（すべてのジョブ用）を選択した場合は、サンプルとして1枚のシートが印刷されます。ジョブが丁合されている場合には、出力セット全体がサンプルとして印刷されます。ジョブが丁合いされていない場合は、サンプルとして1枚のシートが印刷されます。サンプル印刷の内容がセットで指定され、印刷の間隔があいたために Fiery server がサンプル印刷を開始した場合、Fiery server は次のセットの1ページ目からサンプル印刷を開始します。
- **出力トレイ** - サンプル印刷のジョブ用の出力トレイを指定します。仕上げのオプションを必要としない装着済みの出力トレイがリストに表示されます。

メモ：ジョブの仕上げオプションは、サンプル印刷ジョブには適用されません（両面のオプションを除く）。

3 変更を保存します。

4 Fiery server を再起動します。

プルーフ印刷

プルーフ印刷を使用すると、ジョブのオリジナルの部数を変更せずに、ジョブの印刷結果を確認するためのプルーフ（コピー）を印刷できます。

プルーフ印刷をジョブに適用すると、選択されたジョブは部数が1に設定されて印刷済みキューに送信されます。オリジナルジョブは指定された部数とジョブのプロパティを保持し、以降のジョブの印刷では、このプルーフ印刷から作成されたラスターデータが使用されます。

プルーフ印刷を処理済みジョブ（ラスター付き）に適用すると、ジョブは印刷中キューに直接移動します。ジョブに変更が加えられていない限り、ジョブの再処理は行われません。

プルーフ印刷ジョブは、部数が1に設定されてジョブログに表示されます。

また、サンプル印刷を使用すると、大量の印刷を行う際にサンプルページを出力トレイに印刷し、プリントデバイスから予定どおりの印刷結果が出力されるか確認できます。

プルーフを印刷する

待機キューまたは印刷済みキューのジョブを右クリックして、プルーフ印刷を使用することができます。このコマンドには、アクションメニューからアクセスすることも、ジョブのプロパティウィンドウおよび Fiery Hot Folders 内のジョブアクションからアクセスすることもできます。

- 次のいずれかを行います。
 - 待機キューまたは印刷済みキューにあるジョブを右クリックし、プルーフ印刷を選択します。
 - アクション > プルーフ印刷をクリックします。

バリエーションデータ印刷ジョブでプルーフ印刷を選択した場合、印刷される校正は最初のレコードのコピーです。面付けされたバリエーションデータ印刷ジョブでプルーフ印刷を選択した場合、印刷される校正は、最初のレコードと関連付けられたセットです。

ジョブを管理する

ジョブを検索する

接続している Fiery server で、ジョブのタイトルやユーザー、日付などの検索パラメーターを使用してジョブを検索することができます。

検索機能を使用すると、現在選択している Fiery server 上でジョブをすばやく見つけることができます。この機能はジョブセンターツールバーにあり、表示中のジョブに適用されます。待機、印刷済み、アーカイブ済み、処理中またはすべてのジョブのキューにあるジョブを検索できます。

以下のいずれかの方法でジョブを検索できます。

- **簡易なジョブ検索** - 表示中のすべての列を対象にコンテンツの基本的な検索を実行するには、**検索フィールド**を使用します。スクロールバーの位置によって画面には表示されていない列も対象となります。たとえば、「レター」と入力すると、タイトルに「レター」という文字が含まれるジョブを検索できます。また、出力用紙サイズ列の用紙名に「レター」という文字が含まれるジョブも検索できます。
- **高度なジョブ検索** - 複数の条件 (列) を同時に検索するには、列見出しの上にあるフィルターの横にある矢印をクリックし、検索条件を指定します。

簡易なジョブ検索

任意の表示で**検索フィールド**を使用してジョブを検索します。表示を切り替えると、前回の検索条件はクリアされます。

- 1 ジョブセンターのツールバーアイコンの上にある**検索フィールド**に検索条件を入力します。
- 2 Enter キーを押すか、虫メガネのアイコン (検索アイコン) をクリックして、指定した検索条件に該当するジョブを検索します。

入力したテキストでは大文字と小文字が区別されません。

指定した値の検索は、現在のビューにあるすべてのカラムを対象に実行されます。スクロールしないと見えない位置にあるカラムも含まれます。

- 3 検索を実行した後で、**クリア**をクリックして現在の検索条件をクリアしたり、別の表示に切り替えたりできます。こうすると、別の条件で検索することができます。

すべての Fiery servers での検索

Command WorkStation に接続されているすべての Fiery servers を通してジョブを検索することができます。

すべての Fiery servers で検索するには、Command WorkStation を複数の Fiery server に接続する必要があります。

Command WorkStation ジョブセンターの簡易検索場所から選択したすべての Fiery servers を検索します。

すべての Fiery servers を検索機能を使用すると、特定のユーザーがすべてのサーバーに送信したすべてのジョブを表示することもできます。

- 1 ジョブセンターのツールバーアイコンの下にある**検索フィールド**に検索条件を入力します。
- 2 **検索フィールド**の下の**すべての Fiery サーバーを検索リンク**をクリックします。
簡易検索機能を使用してジョブを選択すると、ジョブ名、ジョブ状況、日付と時刻、ユーザー名、ジョブサイズ、サーバー名などの条件で検索できます。
- 3 **すべての Fiery サーバーを検索**ウィンドウで、**検索フィールド**に詳細な検索情報を入力して、検索結果をさらに絞り込むこともできます。
- 4 検索結果からジョブをダブルクリックするか、ジョブを選択して**ジョブを検索**をクリックします。
すべての Fiery サーバーを検索ウィンドウが閉じ、選択したジョブが関連 Fiery server で自動的に強調表示されます。
また、リスト内のジョブを選択し、**Fiery サーバー上の検索結果を表示**をクリックすると、Fiery server 上の検索結果が表示されます。簡易検索条件に一致するすべてのジョブが、すべてのジョブビューに表示されます。

検索を実行した後で、**消去**リンクをクリックして現在の検索条件を消去できます。これにより、接続されたすべての Fiery servers を別の条件で検索することができます。

高度なジョブ検索

高度な検索機能を使用すると、現在のビューで複数の基準（列）による検索を同時に行うことができます。

- 1 左側のサーバーの一覧でビューを選択します。
選択した Fiery server のすべてのキューのすべてのジョブを表示するには、**すべてのジョブビュー**を選択します。
- 2 列見出しの上にあるフィルター横の矢印をクリックします（ジョブ状況など）。
- 3 検索条件を選択し、**適用**をクリックします。
1つの列で複数の選択を行うことができます。
範囲は一部の列で選択できます。
選択した Fiery server のすべてのキューのすべてのジョブのビューを復元するには、**すべてのジョブビュー**を選択します。

- 4 日付情報を表示する列では、次のいずれかを選択できます。
 - 今日 - 現在の日付のジョブを検索します。
 - 正確な日付 - 特定の日付のジョブを検索します。
特定の日付の前または後に印刷するジョブを検索する前または後を選択します。
 - 開始日、終了日 - 連続する日付範囲内のジョブを検索します。
- 5 複数の列で検索するには、**その他のフィルター**の横にある矢印をクリックし、追加する列を選択します。フィルターを削除するには、**その他フィルター**の横にある矢印をクリックし、選択をクリアして、**保存**をクリックします。
- 6 検索を実行した後で、**消去**をクリックして現在の検索条件を消去したり、別の表示に切り替えたりできます。これにより、別の条件で検索することができます。

高度な検索を保存する


- 1 左側のサーバーの一覧ですべてのジョブビューを選択します。
- 2 ジョブを検索します。
- 3 検索結果の上にある**保存**をクリックします。
- 4 検索する名前を入力し、**OK** をクリックします。
詳細検索は、キューリストの下の左側に表示されます。

ジョブサムネイルの表示

サムネイルビューには、各処理済みジョブの最初のページのプレビューが表示されるので、ジョブの視覚的な識別に役立ちます。

Fiery server が Fiery システムソフトウェア FS300/300 Pro 以降を搭載している場合は、スプール済みジョブでも、PostScript、PDF、TIFF、EPS ファイル形式のプレビューが表示されます。その他のファイル形式の場合、一般的なサムネイルが表示されます。

その他のあらゆるタイプの Fiery サーバーでは、処理済みジョブのサムネイルプレビューのみ表示されます。

- ジョブセンターツールバーの右上隅にあるアイコン  をクリックします。
- ジョブを並べ替えるには、背景の空白領域（つまりジョブ以外）を右クリックし、並べ替えの条件や順序（昇順または降順）を選択します。
- 複数ジョブの選択やコピーと貼り付けを行うには、一般的なキーボードショートカットを使用できます。
- 追加のジョブ情報を表示するには、ジョブのサムネイルアイコンの上にマウスを移動します。

ジョブにジョブタグを割り当てる

ジョブに1つまたは複数のタグを追加することができます。これは、ジョブのソートや整理に役立ちます。タグを作成し、タグの名前とカラーを選択した後、ジョブに割り当てることができます。タグは特定の Fiery server のジョブと共に保存されます。ジョブにタグを割り当てた後、タグのカラーアイコンがタグ列に表示されます。

Command WorkStation に列を追加する方法の詳細については、[列の表示を変更する](#) (29 ページ) を参照してください。

ジョブごとに最大 5 つのタグを適用できます。Fiery server あたりの上限は 50 タグです。

1 ジョブにタグを割り当てるには、ジョブを選択し、次のいずれかを実行します。

- アクション > タグ
- ジョブを右クリックし、タグを選択

一度に複数のジョブを選択することもできます。

2 既存のタグを選択するか、新しく追加をクリックします。

3 すでにタグが割り当てられているジョブに別のタグまたは追加のタグを割り当てるには、最初にタグを割り当てたときと同じ方法を使用できます。または、ジョブ概要ウィンドウで、タグセクションの横にある鉛筆アイコンをクリックします。既に作成されているタグは、ジョブのプロパティ > ジョブ情報で割り当てることもできます。ジョブのプロパティで選択したタグは、サーバープリセット、仮想プリンターまたはホットフォルダの一部として保存できます。

4 同じタグのあるすべてのジョブを表示するには、サーバーウィンドウのキューリストにあるタグ名をクリックします。

作成された最初の 10 個のタグがそれぞれ Fiery server の下にタグ名、タグカラー、タグを使用するジョブ数で一覧表示されます。タグの順序を変更するには、タグの管理を選択します。

ジョブタグの管理

1 サーバーペインのタグヘッダーの横にある右矢印をクリックします。

2 タグの管理を選択します。

リスト内のタグを上下に移動したり、お気に入りのタグやよく使用するタグを一番上にしたりすることができます。

デフォルトでは、プライオリティという名前のタグが提供されています。このタグを使用するか、独自のタグを作成することができます。すでに他の 1 つ以上のタグを作成していない限り、プライオリティタグは削除できません。

完了ビューの使用

完了ビューは、ジョブの場所に関わらず、Fiery server 内の印刷済みのすべてのジョブを一覧表示します。

たとえば、印刷後待機に送信されるジョブは、待機キューと完了ビューに表示されます。待機キューからジョブが削除されると、完了ビューからも削除されます。その逆も同様です。

印刷中にキャンセルされたジョブまたはエラーが発生したジョブは、完了ビューには表示されません。

直接キューに送信されたジョブも、完了ビューに表示されません。

このビューはデフォルトで追加されますが、完了ビューを選択して、ツールバーの上にある**非表示**ボタンをクリックすると、非表示にできます。完了ビューが非表示にされた後で、**サーバー > 完了ビューを表示**を選択して再度有効にすることができます。

現在のビューをエクスポート

Command WorkStation の任意のビューで、現在のジョブリストをテキストファイルとしてエクスポートできます。このテキストファイルには、通常のキュー（印刷済み、待機など）からそのビューに追加されたコンテンツなどの画面に表示されるすべての情報や、フィルターによって作成したカスタムビューが含まれます。

列の追加、列の削除、ジョブのフィルタリングを行うことで、ビューを作成します。

- 1 ファイル > 現在のビューをエクスポートを選択します。
- 2 テキストファイルの形式を選択します。

ジョブグループ

ジョブグループ機能では、複数のジョブを Command WorkStation の 1 つのジョブにグループ化します。グループ内のジョブの順序は、ジョブが印刷される順序です。

メモ：ジョブグループ機能は、Fiery システムソフトウェア FS600/600 Pro 以降を搭載した Fiery server でサポートされています。

次の 2 種類のジョブグループから選択できます。

- **印刷グループ** - 指定した順序で、異なるジョブのプロパティでジョブを印刷できます。印刷グループの親にジョブのプロパティを適用すると、親からのジョブのプロパティは子ジョブからのジョブのプロパティを上書きします。ただし、印刷する印刷グループの部数が設定されるため、部数印刷オプションは上書きされません。

メモ：印刷グループの親とは、他のプラグインでは面付けや編集ができない仮想ジョブのことです。

- **PDF グループ** - PDF を 1 つの PDF ジョブに結合します。PDF グループの作成後、ジョブのプロパティを選択したり子ジョブに適用したりすることはできません。PDF グループは、Fiery Impose、Fiery Compose、または Fiery JobMaster を使用して印刷したり作成したりできます。

PDF グループの面付けの詳細については、『Fiery JobMaster-Fiery Impose-Fiery Compose のヘルプ』を参照してください。

メモ：PDF グループを作成すると、子ジョブはそれぞれのジョブのプロパティを保持しません。PDF グループの親ジョブは、新しくインポートしたジョブとして表示されます。

ジョブグループを作成

Command WorkStation の待機リストで、スプール済みジョブおよび処理済みジョブを含むジョブグループを作成できます。

- 1 つ以上のジョブを選択し、右クリックしてジョブアクションメニューを開きます。
Shift キーまたは Control キーを押しながらクリックして、複数のジョブを選択します。
- 2 ジョブグループを作成を選択します。
- 3 ジョブグループの名前を入力します。
- 4 次のいずれかのグループタイプを選択します。
 - 印刷グループ
 - PDF グループ
- 5 必要に応じて、次のいずれかを行います。
 - Fiery から追加をクリックし、現在の Fiery server からジョブグループにジョブを追加します。待機リストが開いたら、他のジョブを選択し、追加をクリックして現在のグループに追加できます。
 - インポートをクリックして、ジョブグループに追加のジョブをインポートします。
 - ジョブを選択し、削除をクリックして、グループからジョブを削除します。
 - ジョブを選択し、上へ移動または下へ移動をクリックして、グループ内のジョブの順序を変更します。
- 6 保存をクリックして、ジョブグループを待機リストに追加します。

ジョブグループの編集

ジョブグループを編集して、ジョブの追加または削除、またはグループ内のジョブの順序の変更を行うことができます。

- 1 ジョブグループのタイプに応じて、待機リストで次のいずれかを選択します。
 - 印刷グループを編集
 - PDF グループを編集
 - 2 次のいずれかの操作を行います。
 - ジョブグループの新しい名前を入力します。
 - Fiery から追加をクリックし、現在の Fiery server からジョブグループにジョブを追加します。待機リストが開いたら、他のジョブを選択し、追加をクリックして現在のグループに追加できます。
 - インポートをクリックして、ジョブグループに追加のジョブをインポートします。
 - ジョブを選択し、削除をクリックして、グループからジョブを削除します。
 - ジョブを選択し、上へ移動または下へ移動をクリックして、グループ内のジョブの順序を変更します。
- メモ：**ジョブグループのタイプは変更できません。

- 3 保存をクリックして、ジョブを待機リストに追加します。

ジョブをジョブグループから削除

ジョブグループからそれぞれのジョブを削除できます。

- 次のいずれかを行います。
 - ジョブグループウィンドウで、削除する1つ以上のジョブを選択し、削除をクリックします。保存をクリックします。
 - 待機リストで、ジョブグループを展開し、グループから削除する1つ以上のジョブを選択します。選択した項目を右クリックし、ジョブグループのタイプに応じて、印刷グループから削除またはPDFグループから削除を選択します。

メモ：1つ以上のジョブは、ジョブグループから削除された後、待機リストに送信されます。

ジョブグループを削除

待機リストから親ジョブを削除できます。

- 1 待機リストから親ジョブを選択します。
- 2 親ジョブを右クリックします。
- 3 ジョブグループのタイプに応じて、印刷グループを削除またはPDFグループを削除を選択します。削除されたグループ内のそれぞれのジョブが待機リストに表示されます。

別のキューにジョブを移動する

待機、印刷済み、およびアーカイブ済みキューにあるジョブを処理中または印刷中キューに移動できます。さらに、印刷するジョブを指定して、キューから除去することができます。

- 待機、印刷済み、またはアーカイブ済みキューから任意のジョブを選択します。メニューからアクションをクリックし、以下のいずれかを選択します。
 - 印刷 - ジョブを印刷中キューに送信します。
 - 印刷後待機 - 選択したジョブを待機、印刷済み、またはアーカイブ済みキューからキューに送信します。選択したジョブが処理されていない場合は処理中キューに、処理されている場合は印刷中キューに送信します。印刷の完了後、待機キューに戻っても、ジョブのラスターデータは保持されます。
 - 印刷後削除 - 選択したジョブを待機、印刷済み、またはアーカイブ済みキューからキューに送信します。選択したジョブが処理されていない場合は処理中キューに、処理されている場合は印刷中キューに送信します。印刷の完了後、ジョブは削除されます。ジョブを安全に印刷したい場合、またジョブが Fiery server でアーカイブされないようにしたい場合にはこのオプションを使用します。
 - 待機 - ジョブを待機キューに送信します。

- 次に印刷 - 現在印刷中のジョブを中断せずに、選択したジョブを印刷中キューの最上位に送信します。
- 割り込み印刷 - 現在印刷中のジョブを中断して、選択したジョブを印刷中キューの最上位に送信し、そのジョブを直ちに印刷します。
- プルーフ印刷 - ジョブのコピーを一部印刷して出力を確認できます。このオプションはアーカイブ済みジョブでは使用できません。
- 処理後待機 - ジョブを処理しますが、印刷はしません。
- アーカイブ - ジョブをアーカイブし、アーカイブ済みキューに送信します。

キュー内のジョブを選択し、別のキューにドラッグすることもできます。

ジョブを並べ変える

「印刷中」または「処理中」キューに含まれるジョブの順序を変更できます。

- 次のいずれかの操作を行います。
 - 「ジョブセンター」で「印刷中」または「処理中」キューのジョブを選択し、ジョブリスト内で上下にドラッグします。
 - 「処理中」または「印刷中」キューのジョブを選択し、アクション > 上へ移動またはアクション > 下へ移動を選択します。
 - Fiery server がこの処理に対応している場合、「処理中」または「印刷中」キューのジョブを選択し、次にアクション > 次に印刷を選択すると、Fiery server 現在のジョブの処理が終了した後すぐに、次のジョブを処理します。
 - Fiery server がこの処理に対応している場合、「処理中」または「印刷中」キューのジョブを選択し、次にアクション > 割り込み印刷を選択すると、Fiery server は現在印刷中のジョブを中断して割り込み印刷ジョブを印刷します。Fiery server は、現在仕上げているジョブのセットが完了するまで待機し、それから割り込み印刷ジョブの印刷を行います。割り込み印刷ジョブが終了すると、Fiery server は中断したジョブの印刷を再開します。

ジョブを別の Fiery server に送信する

コピー先コマンドと移動先コマンドを使って、ジョブを接続された別の Fiery server に送信できます。

同じ Fiery server モデルとバージョンの Fiery サーバーにジョブを送信した場合は、ラスターデータが送信されます（使用可能な場合）。ジョブを別の Fiery server モデルに送信した場合、ソースファイルのみが送信され、ラスターデータは送信されません。そのため、印刷前に対象の Fiery server 上でジョブを再処理する必要があります。Fiery servers の動作はそれぞれ異なる場合があるので、ジョブを送信する場合は、ジョブのプロパティをすべて確認し、必要に応じて再指定してください。

1 次のいずれかを行います。

- ジョブセンターで待機ジョブを選択し、サーバーの一覧に表示されている別の Fiery server にドラッグアンドドロップします。
- ジョブセンターで待機ジョブを選択し、アクション > コピーをクリックするか、ジョブを右クリックしてコピーを選択します。
- ジョブセンターで待機ジョブを選択し、アクション > 移動をクリックするか、ジョブを右クリックして移動を選択します (FS350/350 Pro 以降の場合)。

2 Fiery server を選択します。

ジョブが選択したサーバーに送信されます。

ジョブをアーカイブする

ジョブをアーカイブすると、後で使用できるようにジョブの設定も併せて保存されます。これにより、ジョブを再度インポートして設定しなくても、すぐに再印刷できます。ジョブを再処理しなくても再度印刷できるように、ラスターイメージを保存することができます。アーカイブジョブは、ネットワークフォルダーやローカルフォルダーなど、使用しているコンピューターからアクセスできる任意のフォルダーに保存できます。また、他のファイルと一緒にバックアップすることができます。

アーカイブマネージャーを使用してジョブをアーカイブする

アーカイブマネージャーは、アーカイブ済みジョブを Fiery server から任意のフォルダーに移動して、Fiery server がアップグレードまたはリロードされてもジョブが確実に保護されるようにします。

- Fiery server すべてのジョブに対応するシンプルで安全なアーカイブソリューション
- Fiery server の外部にあるジョブをアーカイブ
- アーカイブジョブを複数の Fiery server 間で簡単に共有
- 複数の Command WorkStation ユーザーとアーカイブを共有
- Fiery server がオフラインでもアーカイブ済みジョブをすばやく検索
- 単一ビューですべてのアーカイブ済みジョブを一覧表示

アーカイブマネージャーでジョブをアーカイブしたら、アーカイブ済みキューは Fiery server の名前の下で一覧表示されなくなります。代わりに、アーカイブ済みジョブはすべて、このアーカイブマネージャーウィンドウで使用できるようになります。

アーカイブマネージャーでの初回セットアップ

1 Command WorkStation の左上隅でアーカイブマネージャーをクリックします。

2 開始をクリックします。

3 参照をクリックして、アーカイブマネージャーがアーカイブ済みジョブを保存する場所を選択し、フォルダー選択をクリックします。

4 その場所のわかりやすい名前を表示名フィールドに入力します。

- 5 OK をクリックします。
- 6 移行をクリックします。
- 7 アーカイブジョブを移行ウィンドウで、ソースの場所が有効であることを確認します。

詳細は、[移行中にアクセスできないフォルダー](#) (93 ページ) を参照してください。

ウィンドウの上半分に表示される場所は、ソースの場所と、アーカイブ済みジョブが現在保存されているフォルダーです。ウィンドウの下半分で場所を1つだけ選択すると、それがアーカイブマネージャーでのジョブの移動先になります。ジョブを新しい場所に移動することで、ジョブをアーカイブマネージャーで管理したり、保管のために他のファイルやフォルダーと一緒にバックアップしたり、Fiery server が再ロードやアップグレードされても保護することができます。

- 8 移行をクリックします。
(操作がスキップまたはキャンセルされたために) 移行するジョブが Fiery server に残っている場合は、Command WorkStation にまだアーカイブキューが表示されます。移行処理を再開するには、アーカイブ済みキューの青い移行ボタンをクリックします。

アーカイブマネージャーを使用してジョブをアーカイブする

ジョブの移行は一度だけです。ジョブをアーカイブフォルダーに移動したら、それと同じ場所または別の場所に後続のジョブをアーカイブすることができます。

- 1 次のいずれかを行います。
 - 待機キューまたは印刷済みキューでジョブを選択し、アーカイブマネージャーにドラッグします。
 - ジョブセンターでジョブを選択し、アクション>アーカイブをクリックします。
 - ジョブセンターでジョブを右クリックし、アーカイブをクリックします。
- 2 アーカイブ先を選択します。
サムネイルとプレビューを保存することもできます (存在する場合)。
メモ: そうすると、アーカイブ済みファイルのサイズは大きくなります。
- 3 別の場所を指定するには、場所を編集をクリックし、場所の管理ウィンドウで追加をクリックします。ジョブのアーカイブ先フォルダーを選択してフォルダー選択をクリックします。

アーカイブ済みジョブの概要

アーカイブ済みジョブには、Fiery server で受信した元のソースファイルのほか、ジョブに設定されたジョブプロパティ (ジョブチケット) も含まれています。

ジョブチケットでは、カラープロファイル、キャリブレーション設定などのサーバーベースリソースを参照していることがあります。これらのサーバーリソースはアーカイブ済みファイルと一緒に保存されてはみせんが、ジョブチケットでそれらを参照します。使用できなくなったリソースをジョブチケットで参照している場合、ジョブではそのリソースのデフォルト設定が使用されます。

アーカイブにはサーバー固有の情報や設定が含まれており、それらは、ジョブの作成時に使用したのと同じサーバーにジョブを復元する場合にのみ、すべて適用されます。別のサーバーにアーカイブジョブを復元またはインポートすることができます。サーバーのモデルが異なる場合、両方のサーバーに共通するジョブチケット設定が保持され、それ以外の設定はサーバーのデフォルト設定で置き換えられます。


ジョブをアーカイブする際は、処理済みジョブのサムネイルやプレビューを保存できます。その場合、ジョブのラスターイメージも保存されるので、ジョブを後で処理する必要がなくなります。サムネイルやプレビューを保存すると、アーカイブ済みファイルのサイズが大きくなります。

移行中にアクセスできないフォルダー

場所が使用できない場合、ジョブはアーカイブマネージャーで移行できません。

- 使用しているコンピューターまたはネットワークで、そのフォルダーが使用可能であることを確認します。フォルダーが名前変更、移動、または削除されたために場所が使用できない場合があります。
- 読み取り/書き込みアクセスができることを確認します。アーカイブマネージャーでは、使用しているコンピューターのオペレーティングシステムを利用して、認証を処理します。Windows エクスプローラーまたは macOS Finder でフォルダーを開いてみます。
- 他のコンピューター上の場所が C:\users¥admin¥desktop などのよく知られたパスとして一覧表示されることがありますが、それは別のユーザーのコンピューターのパスである可能性があります。これらのジョブにアクセスするには、その他のコンピューターで Command WorkStation を使用します。

アーカイブ先を管理する

1 Command WorkStation の左上隅で、ジョブペインのアーカイブマネージャーの上にある設定アイコン  をクリックします。

2 実行するアクションのアイコンをクリックします。

追加	既存のアーカイブ済みジョブのフォルダーをアーカイブマネージャーに追加するか、今後のアーカイブジョブを保存します。
除去	場所を除去します。
編集	場所ではなくフォルダーの表示名のみ変更できます。フォルダーが移動された場合は、新しいフォルダーとして再度追加します。
デフォルトとして設定	その場所を、ジョブがアーカイブされるデフォルトの場所に設定します。

アーカイブを共有する

アーカイブマネージャーのフォルダーはネットワーク、クラウドレプリケーションサービス、使用しているローカルコンピューターのいずれかに存在していてもかまいません。その他のあらゆるファイルやフォルダーに使用方法と同じように、アーカイブフォルダーをバックアップします。

ネットワークを介してアーカイブを共有する場合は、すべてのユーザーがアクセスできるネットワークフォルダーを使用します。まず、使用しているコンピューターでこのフォルダーを開いて、フォルダーが使用可能であることを確認します。Command WorkStation を使用するコンピューターごとに、このネットワークフォルダーをアーカイブマネージャーのアーカイブ先として追加します。ネットワーク管理者にアーカイブマネージャーのネットワークフォルダーをバックアップしてもらいます。

アーカイブジョブは、複数の Fiery server で共有できます。たとえば、Fiery server#1 でアーカイブしたジョブを Fiery server#2 で使用することができます。両方のサーバーがモデルもバージョンも同じである場合は、ジ

ジョブのすべてのプロパティが保持されます。アーカイブ先の Fiery server のモデルやバージョンが異なる場合は、ラスター画像は破棄され（存在する場合）、印刷前にジョブを再度処理する必要があります。アーカイブ先の Fiery server で使用できないジョブプロパティはすべて使用できなくなります。印刷前にジョブのプロパティを確認してください。

アーカイブ済みジョブの検索

タイトル、ユーザー名、用紙サイズなど、列に表示されるあらゆる情報で、すべてのアーカイブ済みジョブを検索できます。

1 Command WorkStation の左上隅でアーカイブマネージャーをクリックします。

2 検索ボックスに検索条件を入力します。

最初の 50 件のジョブがアーカイブマネージャーに表示されます。さらにジョブを表示するには、>ボタンおよび>>ボタンをクリックします。

ジョブの属性をさらに表示するには、列見出しを右クリックし、列を追加します。

アーカイブ済みジョブを使用する

ジョブをアーカイブしたら、まだ Fiery server 上に存在するかのように使用できます。

1 Command WorkStation の左上隅でアーカイブマネージャーをクリックします。

2 ウィンドウの左上隅のすべての場所メニューで、すべての場所または特定の場所を選択します。

最大 50 件のジョブが表示されます。さらにジョブを表示するには、ジョブ一覧の右上隅にある矢印を使用します。

3 ジョブを右クリックし、アーカイブ済みジョブに対して実行するアクションを選択します。

複数の Fiery server に接続している場合は、ジョブの送信先となる Fiery server を選択することもできます。ジョブのプロパティをすべてを保持するには、ジョブをアーカイブしたときに使用したのと同じ Fiery server をソースサーバー列の一覧から選択します。

アーカイブマネージャーを無効にする

• 次のいずれかを行います。

a) 編集 > 環境設定 > アーカイブマネージャーを選択し、アーカイブマネージャーを使用の選択を解除します。

b) 紹介画面で、けっこうですをクリックします。

移行後にアーカイブマネージャーを無効にした場合、移行済みのジョブはアーカイブマネージャーで使用された場所またはフォルダーに残ります。これらのアーカイブ済みジョブを使用するには、ファイル > アーカイブ済みジョブのインポート選択し、フォルダーの場所を参照します。

アーカイブマネージャーを使用せずにジョブをアーカイブする

ジョブは、Fiery server のハードディスク内、または外部のリムーバブルメディアやネットワークドライブにアーカイブできます。

アーカイブされたジョブは、ジョブセンターのアーカイブ済みキューに表示されます。

1 次のいずれかを行います。

- 待機キューまたは印刷済みキューでジョブを選択し、アーカイブ済みキューにドラッグします。

メモ：ジョブをコンピューターからアーカイブ済みキューにドラッグすることはできません。Fiery server 上にすでにあるジョブに限り、アーカイブ済みキューにドラッグできます。

- ジョブセンターでジョブを選択し、アクション > アーカイブをクリックします。
- ジョブセンターでジョブを右クリックし、アーカイブをクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- ディレクトリリストでデフォルト設定を選択します。
- サムネイルとプレビューを保存することもできます（存在する場合）。
メモ：そうすると、アーカイブ済みファイルのサイズは大きくなります。
- アーカイブ先とオプション選択画面を常に表示するように指定できます。
- 別の場所を指定するには、追加をクリックします。ジョブのアーカイブ先フォルダーを選択してフォルダー選択をクリックします。

3 OK をクリックして、ジョブをアーカイブします。

4 いつでもサーバーメニューからアーカイブ設定にアクセスしたり、サーバーリスト内のサーバー名の横にある詳細アイコンをクリックしたりできます。

アーカイブ先とオプション選択画面を常に表示チェックボックスが解除されている場合であっても、アーカイブ設定を編集できます。

サーバーの初期化

サーバーの初期化を使用すると、Fiery server でさまざまな種類のジョブ、ログ、およびバリアブルデータ印刷リソースを消去して、空き容量を確保できます。サーバーの初期化は、Command WorkStation のサーバーメニューから使用できます。

メモ：この操作は取り消すことができません。

ドラッグアンドドロップによるファイル管理

ドラッグアンドドロップ機能でファイルを移動します。

異なる複数の領域にファイルをドラッグアンドドロップできます。この機能を利用すると、ファイルをコンピューターから Command WorkStation に移動できます。これはファイルの管理やジョブのワークフローで簡単に使用できる機能です。

コンピューターから Command WorkStation へのドラッグアンドドロップがサポートされている領域は次のとおりです。

- 待機キュー（メインウィンドウにフォーカスがあるとき）
- 印刷中キュー（メインウィンドウにフォーカスがあるとき）
- 処理中キュー（メインウィンドウにフォーカスがあるとき）
- サーバーリスト内の、接続している Fiery servers の待機キュー
- ジョブセンター上部の処理中ペインと印刷中ペイン

次の領域では Command WorkStation 内でのドラッグアンドドロップがサポートされます。

- 待機キュー
- 処理中キュー
- 印刷中キュー
- アーカイブマネージャー
- アーカイブ済みキュー
- サーバーリスト内のサーバーの間で送信先コマンドを使用している場合（アクション > 送信先）

メモ：両方の Fiery servers にログオンしている必要があります。

- ジョブセンター上部の処理中ペインと印刷中ペイン

インク使用量の推定

Command WorkStation では、ジョブに使用されるトナーのコストを見積ることができます。見積りは、関連付けられたラスタデータを持つ処理済みのジョブに対してのみ提供されます。

メモ：「トナー」という用語は、ドライインクも指します。

コストやジョブに関連する列を設定する

- 1 システム管理者またはオペレーターとしてログインします。
- 2 サーバーメニューからコスト見積り設定を選択します。

ウィンドウには、接続されているプリンターに現在インストールまたは設定されているインクだけではなく、Fiery server でサポートされているすべてのインクが表示されます。

- 3 通貨記号を選択します。
- 4 名前の横にある編集アイコン（鉛筆）をクリックし、コストを入力します。
コストの見積りを受けるには、値を入力する必要があります。最新のコストについては、ベンダーまでお問い合わせください。特殊インクの見積りを受け取るには、個別に支払うインクのコストのみを入力します。メンテナンス契約によるものなど、すでに含まれているインクにはゼロを入力できます。
- 5 OK をクリックします。
- 6 推定コスト列をジョブセンターに追加するには、ジョブ一覧で任意の列見出しを右クリックし、推定コストを選択します。

コストを見積もる

この機能は、Fiery server によってはサポートされていない場合があります。

- 1 ジョブ一覧の処理済みジョブを選択します。
ジョブが処理されていない場合は、ジョブを右クリックし **処理後待機** を選択します。
正確な見積りを得るには、ジョブの印刷時に使用するジョブプロパティ設定と同じ設定を使用する必要があります。
- 2 ジョブを右クリックしてコストの見積りを選択するか、ジョブを選択して **アクション > コストの見積り** を選択します。
ジョブの見積りが行われている間、待機リストのジョブタイトルの横に見積りの進行状況が表示されます。
- 3 進行中を見積りをキャンセルするには、ジョブを右クリックして **コスト見積りのキャンセル** を選択するか、進行状況バーの「X」をクリックします。
- 4 完了した見積りを表示するには、次のいずれかを行います。
 - ジョブ一覧の **推定コスト列** を表示します。
 - ジョブ概要ウィンドウの下部にある **詳細リンク** をクリックします。
 - ジョブを右クリックして **コスト見積りの詳細** を選択します。
 - **アクション > コスト見積りの詳細** を選択します。
 - 完了した印刷済みジョブの場合は、ジョブログに **推定コスト列** を追加します。
- 5 ジョブリスト内のすべてのジョブに対して完了した見積りを表示するには、**ファイル > 現在のビューをエクスポート** を選択し、コンピューターにファイルを保存します。

見積り後に部数を変更する

コスト見積りが完了した後でジョブの部数を変更すると、推定コストは自動的に更新されます。

見積り後にコストまたはジョブのプロパティを変更する

見積り後にコストを変更した場合は、ジョブの再処理と再見積りが必要です。見積り後に、ジョブの再処理が必要になるような変更をジョブのプロパティ（部数を除く）に加えた場合、現在の見積りは消去されるので、新しい見積りを要求する必要があります。

推定印刷時間を表示する

ジョブを Command WorkStation にインポートした後、ジョブを印刷するために必要な時間の見積りを確認できます。見積りは概算です。

ジョブセンターで推定印刷時間列を追加すると、ジョブの印刷にかかる推定時間を確認できます。

- 1 ジョブ一覧で任意の列見出しを右クリックします。
- 2 新規追加 > その他をクリックします。
- 3 推定印刷時間を選択します。

見積りは未処理ジョブと処理済みジョブに対して提供されますが、処理済みジョブの見積りがより正確に分析されます。

ジョブの印刷中は、印刷にかかる推定時間（HH:MM:SS（時.分.秒））が Command WorkStation ジョブセンターの印刷進行状況バーの上に表示されます。

Fiery プリントスケジューラー

Fiery プリントスケジューラーでは、ジョブを印刷する日付と時刻を Fiery Command WorkStation から設定できます。必要に応じて、ジョブのタイムラインを表示したり、ジョブのスケジュールを変更したりすることができます。

メモ： Fiery プリントスケジューラー機能は、Fiery システムソフトウェア FS600/600 Pro 以降を搭載した Fiery server でサポートされています。

Fiery プリントスケジューラーを開く

Fiery プリントスケジューラーは Command WorkStation で開くことができます。

- Command WorkStation で、次のいずれかを行います。
 - サーバーメニューを開き、スケジュールを選択します。
 - ジョブセンターのツールバーにあるスケジュールをクリックします。

Fiery プリントスケジューラーのメインワークスペース

Fiery プリントスケジューラーのメインウィンドウは、次のように構成されています。

- 検索バー — 現在スケジュールされているジョブを検索できます。
- タイムライン — ジョブの印刷スケジュールが設定されている時間を表示します。ブロックされた時間をスクロールするには、矢印ボタンを使用します。また、ブロックされている時間にマウスを合わせると、詳細情報を確認できます。

- 印刷中 — スケジュールした時刻にてジョブが印刷中のときに表示されます。
- スケジュールされたジョブ — スケジュール済みで印刷待機中のジョブを表示します。

ジョブのスケジュール

処理済みジョブとスプール済みジョブの両方に対し、印刷スケジュールを設定できます。


- 1 ジョブのスケジュールウィンドウを開くには、次のいずれかを行います。
 - ジョブセンターで、Windows の場合はジョブを右クリックまたは macOS の場合は **cmd** キーを押しながらクリックして、アクションメニューから印刷日時指定を選択します。
 - ジョブセンターで、ツールバーのスケジュールをクリックし、Fiery プリントスケジューラーでスケジュールをクリックします。待機リストでジョブを選択し、追加をクリックします。
 - Fiery プリントスケジューラーアプリケーションで、+スケジュールをクリックします。待機リストでジョブを選択し、追加をクリックします。

メモ：ジョブ一覧で複数のジョブを選択して、各ジョブのスケジュールを作成することもできます。一度に最大 100 件のジョブをスケジュールできます。複数のジョブをまとめてスケジュールすると、タイムラインに 1 つのブロック時間として表示されます。

- 2 次のいずれかを選択します。
 - 次に使用可能な枠 — 設定可能な最も早い時間にジョブをスケジュールします。
 - スケジュール時間を設定 — そのジョブの印刷時間を指定できます。
- 3 そのスケジュールにジョブを追加するには、ジョブを追加をクリックします。
- 4 OK をクリックします。


ジョブのスケジュール変更

ジョブのスケジュールを変更することで、既存のスケジュール済みジョブの時間枠を変更します。

- 1 スケジュール済みジョブのリストで、スケジュールを変更するジョブに移動します。
- 2 その他のオプションアイコン () をクリックします。
- 3 スケジュールを変更を選択します。
- 4 スケジュールの変更ウィンドウで、次のいずれかを選択します。
 - 次に使用可能な枠 — 設定可能な最も早い時間にジョブをスケジュールします。
 - 開始時刻の選択 — そのジョブの印刷時間を指定できます。
- 5 スケジュールを変更をクリックします。


スケジュールのキャンセル

Fiery ジョブスケジューラーでジョブのスケジュールをキャンセルできます。

- 1 スケジュール済みジョブのリストで、キャンセルするジョブに移動します。
- 2 その他のオプションアイコン () をクリックします。
- 3 スケジュールをキャンセルを選択します。
- 4 はいをクリックします。

次に印刷するジョブの指定

次に印刷するジョブを送信するよう、指定できます。

- 1 スケジュール済みジョブのリストで、次に印刷するジョブに移動します。
- 2 その他のオプションアイコン () をクリックします。
- 3 次の印刷ジョブを選択します。
- 4 はいをクリックします。

スケジュールされているジョブの検索

スケジュール済みジョブのリスト内で特定のジョブを検索できます。

- 1 Fiery プリントスケジューラーのメインウィンドウで、検索バーに移動します。
- 2 検索するジョブの名前または名前の一部を入力します。
- 3 次のいずれかを行います。
 - リストに表示されたジョブの名前を選択します。
 - 虫メガネのアイコンをクリックします。
 - Enter キーを押します。

Command WorkStation で Fiery JobFlow を適用する

Fiery server で使用可能なジョブに Fiery JobFlow ワークフローを適用できます。

メモ：Fiery JobFlow は、Fiery システムソフトウェア FS600 Pro 以降を搭載した Fiery server でサポートされています。

Command WorkStation から Fiery JobFlow ワークフローを適用する場合は、Fiery server に Fiery JobFlow v2.9 以降をインストールする必要があります。

- 1 インポート済みジョブを右クリックし、JobFlow に送信を選択します。
デフォルトブラウザのウィンドウに、Fiery JobFlow ワークフローの Web ページが表示されます。作成されたすべてのワークフローが表示されます。

メモ：プリフィックス PS を持つ、プリンター固有の 6 つのインストール済みサンプルワークフローは、デフォルトで使用できます。

- 2 任意のワークフローを選択し、選択をクリックします。

JobFlow アイコンは、ワークフローが適用されていることを示します。

ワークフローをキャンセルするには、ジョブを右クリックし、JobFlow をキャンセルを選択します。

JobFlow レポートを表示するには、ジョブを右クリックし、JobFlow レポートを表示を選択します。正常に適用されたワークフローモジュールは、緑色のチェックマークで表示されます。

メモ：ジョブ概要には、ジョブの詳細と適用された Fiery JobFlow ワークフローが表示されます。詳細については、レポートを表示をクリックしてください。

Command WorkStation からワークフローを作成

Fiery server で使用可能なジョブに Fiery JobFlow ワークフローを適用できます。

Command WorkStation から Fiery JobFlow ワークフローを適用する場合は、Fiery server に Fiery JobFlow v2.9 以降をインストールする必要があります。

- 1 スプール済み状態のインポート済みジョブを右クリックし、JobFlow に送信を選択します。
Fiery JobFlow ワークフローウィンドウが表示されます。作成されたすべてのワークフローがロードされます。

メモ：プリフィックス PS を持つ、プリンター固有の 6 つのインストール済みサンプルワークフローは、デフォルトで使用できます。

- 2 ワークフロー管理をクリックします。
デフォルトブラウザのウィンドウに、Fiery JobFlow の Web ページが表示されます。
- 3 ログイン情報を使用して、Fiery JobFlow アプリケーションにログオンします。
- 4 ワークフロータブのワークフローヘッダーの隣にあるプラス記号 (+) をクリックします。
ワークフローを新規作成ウィンドウが開きます。
- 5 ワークフローの名前を入力します。
- 6 作成をクリックします。
- 7 編集ボタンをクリックし、入力ソースモジュールを開いて場所の一覧から場所を選択します。
保存したワークフローの場所が表示されます。

次の点に注意してください。

- 最大 5 つの入力ソースを追加できます。
 - Input Sources モジュールの後に、ジョブの要件に応じて、Connect モジュール、AI Image Scale モジュール、Convert モジュールまたはその 3 つすべてを追加できます。
 - Input Sources モジュールの後、ジョブの要件に応じて、Connect モジュールの複数のインスタンスに、異なる設定とパラメーターを追加できます。
- 8** Fiery JobFlow がサードパーティ製ソリューションを使用してサポートする形式にネイティブジョブを変換するには、Connect モジュールを追加します。スクリプトまたはホットフォルダーのパラメーターを指定します。
- 9** AI Image Scale モジュールを追加して、サードパーティ製ソリューションを使用して画像を拡大します。スケーリング方法、解像度、出力サイズのパラメーターを指定します。
- 10** ジョブを PDF に変換する必要がある場合は、Convert モジュールを追加します。Convert モジュールを追加する場合は、ほかのモジュールすべてが PDF に依存し、追加できるようになります。ジョブが PDF に依存しない場合は、Convert モジュールを削除し、ほかの PDF 依存のモジュールをバイパスして、ジョブを指定した出力場所に直接出力するオプションがあります。
- 11** Convert モジュールの下のプラス記号 (+) をクリックし、Collect、Fiery Preflight、Image Enhance、Impose、Pages、Approve、Correct、Connect、Preflight のモジュールを追加します。個々のモジュールと設定については、『Fiery JobFlow のヘルプ』を参照してください。
- 12** 各モジュールの設定を指定し追加をクリックすると、ワークフローにモジュールが追加されます。
- 13** 出力ウィンドウで出力の場所を選択します。
 Fiery server を選択した場合は、プリセットを選択し保存をクリックします。代替を追加 Fiery server をクリックして、Fiery servers 代替を追加することもできます。
- 14** ワークフローの作成およびアップデートには、次のオプションがあります。
- 各モジュールにルールを追加して、ジョブの状況（合格または不合格）に応じて特定のアクションをトリガーできます。使用可能なルールは、ジョブをアーカイブ、Eメールを送信、ジョブを移動、ジョブをコピー、スクリプトを実行です。ルールを設定するには、追加をクリックし、トリガー (If) とアクション (Then) を定義し、保存をクリックします。
 - 特定の機能、モジュール、設定を検索します。検索ボックスに検索条件またはキーワードを入力します。検索を保存するには、保存をクリックします。
 検索結果には検索条件に一致する設定を使用しているすべてのモジュールが表示されます。たとえば、検索ボックスに「ブリード」と入力すると、検索結果として「ブリード」に関連した設定を使用しているすべてのモジュールが表示されます。
- メモ：** ユーザーが閲覧できるのは自身で保存した検索条件だけです。
- ドラッグアンドドロップ操作により、単一のジョブ、複数のファイル、またはアーカイブ (.zip ファイル) をコンピューターのデスクトップからワークフローへ送信できます。
 - ワークフローに関連するジョブがある場合であっても、ワークフローを削除します。ワークフローを削除すると、関連付けられているすべてのワークフローと完了したジョブが自動的に削除されます。関連付けられているワークフローは、ルールを介して接続されるワークフローです。

仮想プリンターを使用して Fiery JobFlow ワークフローを適用する

仮想プリンターの作成時に、Fiery JobFlow ワークフローを適用できます。

Command WorkStation から Fiery JobFlow ワークフローを適用する場合は、Fiery server に Fiery JobFlow v2.9 以降をインストールする必要があります。

- 1 Command WorkStation で、デバイスセンターを開き、仮想プリンター > > 新規をクリックします。
新規仮想プリンターウィンドウが表示されます。
- 2 必要な情報を指定し、JobFlow チェックボックスを選択して、**選択**をクリックします。
Fiery JobFlow ワークフローウィンドウに、Fiery JobFlow で作成されたすべてのワークフローが表示されます。
- 3 検索ワークフローフィールドにワークフロー名を入力して検索するか、ワークフロー名を選択して**選択**をクリックします。
Fiery JobFlow のワークフロー名が新規仮想プリンターウィンドウに表示されます。
- 4 インポートをクリックして、ジョブをインポートします。
- 5 ファイルのインポートウィンドウで、設定エリアの仮想プリンターを使用を選択します。
新しく作成された仮想プリンターのリストが表示されます。
- 6 待機または処理後待機を選択します。
Fiery JobFlow ワークフローがジョブに適用されます。

Fiery JDF ジョブ

Fiery JDF と JMF について

Fiery JDF では、さまざまな JDF インテント要素や JDF プロセス要素をサポートしています。Command WorkStation を使用して JDF の設定を表示したり、ジョブ処理中に用紙ミスマッチなどのエラーを解消することができます。

JDF (ジョブ定義形式) は、アプリケーション間におけるデータの受け渡しにより印刷プロダクションプロセスを自動化できるオープンスタンダードの XML ベースファイル形式です。JDF によりデータ交換が簡単になり、デジタルプロダクションが迅速化および効率化されると同時に、ジョブ詳細情報の受け渡しもすばやく行われるようになります。電子 JDF チケットは、ジョブがカスタマーの構想から完成までどのように扱われ、生産されるのかを指定します。

JDF ファイルを、個々のジョブのカスタマー仕様書を電子化したものと考えてください。たとえば、「10 ページの書類を 20#レターサイズの白色紙に白黒で 100 部両面印刷する」仕様のジョブをカスタマーが要求した場合のジョブチケットは、JDF 対応の機器で読み取り可能な標準化 XML 形式、つまり JDF チケットで表されます。

JMF (ジョブメッセージングフォーマット) は、JDF ワークフローで使用される通信プロトコルです。JMF メッセージには、イベント (開始、停止、エラー)、状況 (使用可能、オフラインなど)、結果 (数、消耗など) についての情報が含まれています。Fiery JDF は、JMF を使用して、JDF 送信アプリケーションと Fiery server 間における JDF インテントや JDF プロセスのジョブチケットの統合した双方向通信を可能にします。

JMF をサポートすることにより、Fiery server は JDF ジョブの状況とプロダクションデータ (配信または印刷の時刻やジョブの印刷に使用された用紙など) を JDF 送信アプリケーションにフィードバックとして送信することができます。

Fiery JDF の設定

JDF ジョブを Fiery server に送信するには、Configure で JDF を有効に設定しておく必要があります (ジョブ送信 > JDF 設定)。Fiery server を設定するときに、JDF パラメーターを指定できます。

- 仮想プリンターからのジョブ設定を使用 - 必要に応じて、仮想プリンターを選択します。
- ジョブアクション - 待機、印刷、印刷後待機、および処理後待機から選択します。
- JDF ジョブを上記の設定で上書きする - JDF ジョブチケットで指定された設定を上書きします。
- ジョブの終了 - 印刷後、自動終了または手動終了を指定して JDF ジョブを閉じ、送信元に返します。
- 終了の必要項目 - 終了に必要な情報を指定します。
- 共通グローバルパス - 共通リソースに対する SMB 経由のファイル検索パスを追加、編集、または除去します。

JDF の設定の指定方法の詳細については、『Configure のヘルプ』を参照してください。

JDF 送信アプリケーションを使用可能に設定する

Fiery JDF には、JDF 送信アプリケーションをチェックして認証する有効化メカニズムが含まれています。Fiery JDF で特定の JDF 送信アプリケーションを使用可能にするには、Fiery server で設定するか、または JDF 送信アプリケーションから送られた JMF（ジョブメッセージフォーマット）メッセージによって設定します。

JDF 送信アプリケーションが使用可能に設定されていない場合は、以下の表示が出て、アプリケーションからのジョブがテストおよびサポートされていないことをユーザーに警告します。

- 警告状況メッセージが Command WorkStation ジョブリスト内のジョブに表示されます。
- JDF 詳細ウィンドウに警告メッセージが表示されます。
- どのようにアプリケーションを認証するかの情報の JMF コメントが、JDF 送信アプリケーションに戻されます。

Fiery JDF ワークフロー

Fiery server は、ジョブが処理されると、JMF（JDF のジョブメッセージフォーマット）を使用して、状況や監査情報を JDF ジョブ送信アプリケーションに返します。

JDF ジョブを Fiery server に送信すると、ジョブにエラーや競合がないかがチェックされます。エラーや競合がない場合、オペレーターは Command WorkStation のアクションメニューから追加の印刷アクションを選択できます。またはジョブを直接印刷することもできます。

エラーが生じた場合、ジョブのジョブ状況列にエラーが表示されます。

ジョブエラーウィンドウで、JDF チケットの競合を解消するか無視するかを選択できます。競合を無視した場合、ジョブは JDF 情報なしで印刷されることがあります。

Fiery server を自動終了に設定していた場合、JDF ジョブの印刷後に、ジョブの終了を知らせるメッセージが送信アプリケーションに自動的に返されます。手動終了の場合、オペレーターはジョブの印刷終了後、Command WorkStation ウィンドウからジョブを閉じる必要があります。

JDF ジョブを送信する

Hot Folder フィルターを介して、または従来の JDF 送信アプリケーションで Fiery server の JMF URL を使用して、JDF チケットを送信できます。

- 1 JDF 送信アプリケーションから Fiery server にジョブを送信します。

メモ：JDF ジョブをインポートしたり、プリンタードライバーから送信することはできません。

- 2 ジョブは JMF（ジョブメッセージフォーマット）を介して送信されます。送信アプリケーションは、Fiery server の JMF URL にジョブを送信します。

- 3 Fiery server の JMF URL を次の形式で入力します。

`http://<host>:<port>`（たとえば、`http://192.168.1.159:8010`）

Command WorkStation の JDF 列見出しを表示する

JDF ジョブが Fiery server に受信され、Command WorkStation の待機または印刷済みキューに表示されると、列見出しの JDF セットを選択して、JDF ジョブに関する有益な情報を表示できます。

- JDF ジョブ用の列見出しを表示するには、列見出しバーを右クリックして、JDF セットを選択します。

デフォルトの JDF 見出しセットが追加されます。列見出しバーを右クリックし、**新規追加 > JDF** をクリックして追加の JDF カテゴリを表示します。

Fiery JDF ジョブと仮想プリンター

仮想プリンターは、Fiery server 上で定義でき、JDF チケット内で NamedFeature として参照できます。

Fiery JDF の設定で、ジョブの送信先として仮想プリンターを選択することができます。Fiery server (Configure の JDF セクション) でそのように設定した場合、このジョブは仮想プリンターでのジョブ設定を使用します。JDF チケットの任意の設定は、仮想プリンターの「ロックされていない」設定を上書きします。

仮想プリンターの詳細については、[仮想プリンター](#) (246 ページ) を参照してください。

ジョブの JDF 設定を指定する

待機キューまたは印刷済みキューから JDF ジョブを選択するときに、JDF 設定ウィンドウで JDF ジョブのオプションを設定できます。

- JDF 設定ウィンドウを開くには、右クリックして JDF 設定を選択するか、アクション > JDF 設定をクリックします。

JDF 設定ウィンドウでは、以下のタブが表示されます。

- **用紙** - 対応する Paper Catalog またはメディアカタログエントリの隣に JDF ジョブの用紙属性が表示されます。JDF ジョブの用紙をこのタブの Paper Catalog またはメディアカタログエントリに手動でマッピングすることができます。[JDF 送信アプリケーションを使用可能に設定する](#) (105 ページ) を参照してください。
- **ジョブ情報** - JDF チケットの情報が表示されます。追加の MIS 詳細を入力したり、コメントを追加したりすることができます。
- **ランリスト** - JDF ジョブのコンテンツ生成に使用したカスタマー支給のファイルを表示します。ウィンドウのファイルを追加、編集、並べ替えることができます。
- **ジョブの終了** - オペレーターが手動でジョブを終了することができます。

以下のアクションはすべてのタブで使用できます。

- **ジョブの終了** - Configure で設定したパラメーターに従って、ジョブを閉じます。
- **用紙チケットの表示** - JDF 送信アプリケーションがオリジナルのジョブチケットの可視コピーを含んでいる場合、このオプションを使用できます。
- **OK** - この設定を保存し、ウィンドウを閉じます。
- **キャンセル** - 設定の変更を保存せずにウィンドウを閉じます。

ジョブ情報タブ

ジョブ情報タブは、送信されるジョブの JDF 情報を表示します。

ジョブ名、ジョブ ID、用紙フィールドは自動的に入力されます。

以下の領域は自動的に入力されますが、読み取り専用で編集はできません。

- ジョブヘッダー
- スケジュール
- カスタマー情報

MIS 詳細

MIS 詳細領域で、メニューから以下の各カテゴリの設定を選択できます。

- 課金可 - 課金するジョブを指定します。
- 作業タイプ - ジョブを変更すべきか、また変更の方法を指定します。
- 作業タイプ詳細 - 変更の理由を指定します。作業タイプ詳細の値の中には、作業タイプが特定の値の場合にのみ有効となるものがあります。たとえば、作業タイプが原本の場合、作業タイプ詳細は無視されます。
- 動作モード - 動作モードのタイプを指定します。

コメント

コメント領域には、読み取り専用の JDF コメントが入力されていますが、追加ボタンをクリックし、ブランクフィールドにコメントを入力することにより、コメントを追加できます。

コメントは、ジョブのプロパティウィンドウのジョブ情報タブのジョブ注釈メモ領域に表示されます。

ランリストタブ

ランリストタブには、JDF ジョブ入力用のコンテンツページ（アートワーク）作成に使用する PDL ファイルの場所が表示されます。ファイルパスは、ジョブの印刷に受信した順番に表示されます。各パスは、1つのジョブに対して1つのファイルタイプをサポートします。さまざまな種類のプロトコルをサポートしています。

- サポートされているプロトコル：HTTP、FTP、SMB、MIME、ローカルファイル
- サポートされているファイルタイプ：PDF、PostScript、PPML、VDP、ZIP

メモ：同一のジョブで複数のファイルタイプをサポートすることはできません。最初の項目が PDF ファイルに関連付けられている場合、そのジョブで使用するファイルはすべて PDF にしてください。

パスの追加、パス名の編集、パスの削除を行うことができます。

メモ：ランリストのジョブに必要な認証済みパスを除去することはできません。少なくとも1件の有効な項目がジョブに必要です。

JDF ジョブにファイル名が付いていても、Configure で定義したパスでファイルが見つからない場合、アラートアイコンが表示されます。この場合は、編集を選択して、正しいパスを挿入します。

ジョブの終了タブ

Configure で手動終了をオンにした場合、オペレーターはキャンセルされたジョブについてもジョブを終了して送信側のアプリケーションがジョブのプロダクション情報を受信できるようにする必要があります。

他のユーザーはジョブを終了することで、ジョブの実際の完了状況を記録し送信元に返すことができます。Print MIS ソリューションユーザーは、実行中のプロダクション状況を受信し、Fiery server でのジョブ終了時に原価計算の監査詳細情報を受信します。

必要な情報がすべて提供されていれば、Fiery JDF ワークフローの実行途中でいつでもジョブを手動で終了することができます。

Fiery JDF 設定では、ジョブの終了方法（自動または手動）と、ジョブを終了するのに必要な情報（ある場合）を指定できます。

ジョブの終了タブには、以下のフィールドが表示されます。これらのフィールドは自動的に設定されます。

- 用紙カタログまたはメディアカタログ - JDF チケットで指定された用紙のリスト。使用する用紙が異なる場合は、このエントリを変更できます。
- 従業員 ID - ユーザーが Command WorkStation へのログインに使用したログイン情報から取得されます。
- 用紙製品 ID - Paper Catalog またはメディアカタログの製品 ID を指します。
- 印刷予定シート - JDF チケットに基づいています。
- 実際のシート数 - Fiery server のジョブログから取得されます。

用紙製品 ID、印刷予定シート以外のフィールドは、必要に応じて上書きできます。

に追加する JDF ジョブメディアを Paper Catalog またはメディアカタログに追加する

JDF チケットが Fiery server に送信されると、サーバーは JDF ジョブで指定された用紙を Fiery server の Paper Catalog またはメディアカタログに対応するエントリに自動的にマッピングしようとします。

自動用紙マッピングが失敗した場合、JDF チケットの JDF ジョブ用紙が表示され、手動でこのジョブの用紙カタログまたはメディアカタログエントリを選択できます。

- 1 JDF ジョブで使用した用紙を追加する場合は、JDF チケットからその用紙を選択し、ジョブのプロパティウィンドウの用紙タブの Paper Catalog またはメディアカタログに追加します。
- 2 Fiery server でサポートされている内容に応じて、次のいずれかを選択します。
 - Paper Catalog の場合は、用紙カタログへマッピングメニューから用紙カタログへ追加/マッピングを選択します。
 - メディアカタログの場合は、メディアカタログへマッピングメニューからメディアカタログへ追加/マッピングを選択します。

新しい用紙を追加する方法の概要について：

- Paper Catalog は [Paper Catalog エントリを作成する](#)（255 ページ）を参照
- メディアカタログは [メディアカタログエントリを作成する](#)（281 ページ）を参照

JDF ジョブの用紙の競合を解決する

JDF チケットが Paper Catalog またはメディアカタログへ自動的にマッピングできない用紙を使用している場合、Command WorkStation にはジョブのエラーが表示されます。問題を解決するには、JDF ジョブ用の用紙を既存のメディアエントリにマッピングするか新しいエントリとして追加して、JDF ジョブ用の用紙を Paper Catalog またはメディアカタログに追加します。

- 1 選択した JDF ジョブを右クリックし、JDF 設定を選択するか、アクション > JDF 設定をクリックします。
- 2 JDF チケットの競合を解消するを選択します。
- 3 JDF 設定ウィンドウのメディアタブで、以下の手順を実行します。
 - a) Paper Catalog では、用紙カタログへマッピングメニューから対応するメディアエントリを選択するか、用紙カタログへ追加/マッピングを選択し、OK をクリックします。
 - b) メディアカタログでは、メディアカタログへマッピングメニューから対応するメディアエントリを選択するか、メディアカタログへ追加/マッピングを選択し、OK をクリックします。

JDF ジョブ用に指定したメディアのパラメーターは、Paper Catalog または選択したメディアカタログエントリの隣に表示されます。これで、ジョブの印刷準備が完了しました。

Fiery Central ワークフローの管理

Fiery Central ソフトウェアには、既存または新規のスケラビリティと生産性を向上するためのプロダクションシステムが統合されています。また、複数の Fiery 搭載プリンターやその他の選択されたプリンターとの組み合わせにより、Fiery Command WorkStation から利用できる集中管理型の印刷プロダクションシステムを構築できます。

Fiery Central について

Fiery Central はモジュール形式で、Paper Catalog および PDF ベースのプロダクションワークフローツールです。大量印刷環境に対して効果的な負荷分散のネットワーク印刷を提供します。

Fiery Central は次の方法で自動ワークフローを実現します。

- ジョブ送信、印刷キュー、スプーリングの管理
- 大量印刷環境およびプロダクション印刷環境に対して、効果的な負荷分散および印刷を提供
- ワークフロー自動フレームワークを提供

Fiery Central ソフトウェア

Fiery Central は以下の標準機能を備えています。

- 高度なジョブ管理を行う Command WorkStation
- ジョブ送信を行う Fiery Central ドライバー
- Fiery Hot Folders
- Fiery Printer Delete Utility
- アーカイブ
- Fiery Impose
- Fiery JobMaster
- ライセンス取得済みのプリンター数に対し 1 つのプリンターグループをサポート

メモ： Fiery Central server が複数のプリンターグループを持つ場合は、最初のグループのみを使用できません。

- 3 台の Fiery 搭載プリンターをサポートし、さらにプリンターを追加することも可能

Fiery Color Profiler Suite はオプション機能です。

Fiery CentralBalance のオプションには次の機能が含まれます。

- ジョブルーティングの自動化、ジョブ分割、負荷分散およびプリンターグループ間のエラー復元
- Fiery Central の全標準機能

Fiery Central server に接続するか、接続を切断する

Command WorkStation の Fiery Central server に接続すると、Fiery Central サーバー名のみがサーバーウィンドウに表示されます。プリンターグループ名は表示されません。

Command WorkStation 6.7 以降は、バージョン 2.9 以降のソフトウェアを実行中の Fiery Central servers に接続できます。

メモ：Command WorkStation は、単一のプリンターグループで Fiery Central servers をサポートします。Fiery Central server が複数のプリンターグループを持つ場合は、最初のグループのみが使用できます。

Fiery Central server を初めて Command WorkStation に追加すると、単一のグループサポートに関する警告メッセージが表示されます。この警告は以降のログインでは発生しません。

監視したい Fiery Central server を追加する前に、サーバーの DNS 名または IP アドレスを用意しておいてください。

IP アドレスを入力すると、入力したアドレスがサーバーウィンドウに表示されます。サーバー接続が確立されて認証されると、IP アドレス名はサーバーウィンドウ内の Fiery Central server 名に切り替わります。

ネットワークから Fiery Central server に接続する

ネットワークから Fiery Central server に接続するには、IP アドレスと DNS 名を入力してログインします。

- 1 サーバー > 新規接続をクリックし、サーバーに接続ウィンドウを表示します。
- 2 Fiery Central server の IP アドレスまたは DNS 名をサーバーに接続フィールドに入力し、プラス記号アイコンをクリックしてサーバーウィンドウに追加するか、接続をクリックしてログインウィンドウを開きます。
名前または IP アドレスで Fiery Central server を検索するには、サーバーに接続ウィンドウの未接続サーバーの一覧を調べます。見つからない場合は、検索アイコンをクリックします。
- 3 リストからシステム 管理者、オペレーター、ゲストのいずれかを選択し、該当するパスワードを入力します。
ゲストとしてログインする場合、パスワードを入力する必要はありません。
- 4 ログインをクリックします。

サーバーウィンドウで Fiery Central server に再接続する

切断した後、Fiery Central server に再度ログインできます。

- 1 次のいずれかを行います。
 - Fiery Central server を選択し、サーバー > 接続をクリックします。
 - Fiery Central server を選択し、接続アイコンをクリックします。
 - Fiery Central server をダブルクリックします。
- 2 リストからシステム 管理者、オペレーターまたはゲストを選択し、該当するパスワードを入力します。
ゲストとしてログインする場合、パスワードを入力する必要はありません。

3 ログインをクリックします。

Fiery Central server からログオフする

サーバーウィンドウで、Fiery Central server を接続解除できます。

- 1 サーバーウィンドウから Fiery Central server を選択します。
- 2 Fiery Central server の名前付近のその他アイコン（3つのドット）をクリックし、次のいずれかの操作を行います。
 - システム 管理者"をログアウトを選択し、Fiery Central server からログアウトします。
 - Fiery サーバーの削除を選択して、サーバーウィンドウから Fiery Central server を削除します。

Command WorkStation の Fiery Central server

Fiery Central server 接続、エラー、警告は Command WorkStation に表示されます。Fiery Central デバイスセンターと Paper Catalog マップを表示することもできます。

Fiery Central のサーバーウィンドウ

サーバーウィンドウには、認証済みの Fiery Central server 接続が表示されます。

サーバーウィンドウに、Fiery Central server と次のインジケーターが表示されます。

サーバー情報の表示

サーバー情報の詳細なリストを表示するには、Fiery Central サーバー名の横にあるその他アイコンをクリックし、デバイスセンター > 一般 > 一般情報を選択します。

状況とエラーメッセージの表示

Fiery Central server のステータス情報とプリンターに関するエラーメッセージをステータス バーに表示します。

Fiery Central ジョブセンターをカスタマイズする

Fiery Central の Command WorkStation ジョブセンターのツールバーアイコンと列見出しをカスタマイズできます。

これらの項目をカスタマイズするには、Fiery Central server またはプリンターグループがサーバーウィンドウで選択されている必要があります。

Fiery Central ツールバーアイコンをカスタマイズする

デフォルト設定の Fiery Central ツールバーアイコンを使用したり、アイコンをツールバーの内外に移動したり、ツールバーアイコンに対するテキスト表示の有無を決定したりできます。

- 1 ツールバー上で右クリックし、表示されるメニューから**カスタマイズ**を選択します。
- 2 ツールバーアイコンの表示方法を指定するには、ツールバーを右クリックして**オプション**を選択します。
- 3 設定が終わったら**完了**をクリックします。

Fiery Central 出力先列見出しを表示する

Fiery server が Fiery Central ジョブを受信して Command WorkStation ジョブリストに表示すると、Fiery Central 出力先列見出しを表示できます。

- Fiery Central プリンターグループの列見出しを表示するには、列見出しバーを右クリックし、**新規追加 > その他 > Fiery Central 出力先**を選択します。

Fiery Central ライセンスの表示または編集

Fiery Central ライセンスマネージャーは、Fiery Central ライセンスの条件を表示します。この機能には、Fiery Central server にインストールされた Command WorkStation からのみアクセスできます。


他にもライセンスが付与された Fiery Central アプリケーションまたは機能がある場合は、アップデートされたライセンス情報を入力することができ、インストールプログラムを実行する必要はありません。アップデートされたライセンス情報は Fiery Central ライセンスマネージャーに入力する必要があります。この情報を入力すれば、新しい機能を使用できるようになります。また、ライセンスは、Fiery Central ソフトウェアのインストール中にアップデートすることもできます。

メモ：各 Fiery Central server で最大 10 個のプリンターグループを作成できます。

メモ：Command WorkStation 6.7 以降では、1 つのプリンターグループを持つ Fiery Central server をサポートしています。Fiery Central server が複数のプリンターグループを持つ場合は、最初のグループのみが使用できます。


- 1 次のいずれかを行います。
 - デバイスセンター > 一般 > ツールをクリックし、**FC ライセンスマネージャー起動**をクリックします。
 - サーバー > Central ツール > **Fiery Central ライセンス管理**をクリックします。
 - **Click 開始 > プログラム > EFI > Fiery Central > Fiery Central ライセンスマネージャー**をクリックします。
- 2 ライセンス情報を入力するには、アクティベートキーコードを、Fiery Central ソフトウェアパッケージに含まれる **Fiery Central ライセンスフォーム**に表示されているとおりに正確に入力します。

Fiery Central を設定する

Fiery Central の設定は、Fiery Central ソフトウェアのインストールを完了し、サーバーを再起動した後、Fiery Central トレイアイコン () から行います。

Fiery Central server を設定する

Fiery Central server の設定は、WebTools、Configure、デバイスセンターから行うことができます。

- 次のいずれかを行います。
 - Fiery Central トレイアイコン () を右クリックし、WebTools を選択して Configure タブを選択します。(WebTools Configure の使用方法を参照するには、WebTools Configure ウィンドウのオンラインヘルプアイコンをクリックします)。
 - Command WorkStation で、サーバーをクリックし Configure を選択します。
 - Command WorkStation で、デバイスセンター > 一般 > ツールをクリックし、右下角にある Configure をクリックします。

メモ：この機能は Fiery Central server 上にインストールされている Command WorkStation からのみ利用できます。

WebTools は、サーバー設定を更新して Fiery Central の印刷環境の変更を反映するために、Fiery Central トレイアイコンからいつでも起動できます。

JDF を Configure で使用可能にする

JDF (Job Definition Format) 技術は、XML ベースのオープンなジョブチケット業界標準です。異なるグラフィックアートアプリケーションとシステムの間で、情報交換を簡単に行うためのフォーマットです。

Fiery JDF を使用すると、JDF チケットを作成できるアプリケーションから JDF ジョブを Fiery Central server に送信できます。Configure を使用して、JDF 設定を指定し、Fiery JDF のバージョン、JDF デバイス ID、JMF の URL を表示します。

- 1 Configure からサーバー > JDF を選択します。
- 2 JDF を使用可能にするを選択し、JDF 機能を使用可能にします。
- 3 ジョブアクションからデフォルトの印刷キューアクションを指定します。
- 4 JDF チケットに指定されている設定を上書きする場合は、JDF ジョブを上記の設定で上書きするを選択します。
- 5 適用をクリックします。

Fiery Central マネージャー

Fiery Central マネージャーを使用すると、プリンターグループの作成、新規プリンターの追加、プリンターグループ設定の変更、VDP 設定と DSF 接続設定の構成ができます。

Fiery Central マネージャーにアクセスする

Fiery Central をインストールすると Fiery Central マネージャーウィンドウが表示され、プリンターグループの作成や編集などの作業ができます。

- 次のいずれかを行います。
 - Fiery Central アイコン () を右クリックし、Fiery Central マネージャーを選択します。
 - スタート > すべてのプログラム > EFI > Fiery Central > Fiery Central Manager を選択します。
 - また Command WorkStation では、デバイスセンター > 一般 > ツールをクリックし、グループ管理起動をクリックするか、サーバー > Central ツールからグループ管理を選択します。

メモ：この機能は Fiery Central server 上にインストールされている Command WorkStation からのみ利用できます。

Fiery Central プリンターグループ

プリンターグループは、プリンターおよびデフォルトの印刷オプションのセットです。プリンターグループにより、Fiery Central server はプリンターにジョブをルーティングし、複数のプリンター間でバランスをとることができます。

Fiery Central には複数のプリンターグループが存在する場合があります。オプションのバランスモジュールがインストールされている場合、複数のプリンターグループのそれぞれに複数のプリンターを含め、各プリンターを 1 つまたは複数のグループに所属させることができます。

メモ：Fiery Command WorkStation 6.7 は、単一のプリンターグループで Fiery Central をサポートします。複数のプリンターグループがある場合は、最初のグループのみが使用できます。

プリンターグループは仮想プリンターとしてネットワークに表示され、印刷キューと待機キューがあります。Fiery Central プリンタードライバー、Fiery Hot Folders など、そのプリンターグループに関連付けられた印刷ユーティリティを使用して印刷されるジョブは、グループ内のプリンターで使用できる任意の印刷オプションでタグ付けすることができます。

メモ：Fiery Command WorkStation 6.7 では、プリンターグループ用の署名付きプリンタードライバーの作成はサポートされていません。

プリンターグループを作成または編集する

Fiery Central でプリンターに対するジョブの印刷を実行できるようにするには、プリンターグループを作成する必要があります。

メモ：プリンターグループを設定する前に、Fiery Central で使用する各プリンターの IP アドレスまたはサーバー DNS 名を確認しておく必要があります。各プリンターに用意されている追加オプションを控えておいてください。

プリンターグループを作成する際には、プリンターの能力、実行する印刷の種類、速度やカスタム印刷の重要性を留意してください。

- 1 Fiery Central マネージャーウィンドウで、**プリンターグループ**タブを選択します。
- 2 プリンターグループを追加するには、**追加**をクリックします。既存のプリンターグループを編集するには、グループを選択し**編集**をクリックします。
- 3 プリンターグループを識別するためのグループ名を入力し、必要に応じて説明を追加して、**次へ**をクリックします。
グループ名は最大 16 文字です。名前には特殊文字、ハイフン、スペースまたはアンダースコアは使用できません。
- 4 IP アドレスまたはプリンター名を **IP/サーバーの名前**フィールドに入力します。
複数のキューを維持し、それぞれを個別のプリンターとして扱うプリンターでは、キュー名を入力し、選択するプリンターを検索します。
- 5 サーバーファミリーとプリンターモデルを機種名リストから選択します。
ポート番号フィールドにはデフォルトの 631 と入力されています。
- 6 次のいずれかを行います。
 - **検索**をクリックします。
 - **自動発見**をクリックして、ネットワーク上で使用できる Fiery servers を検索します。自動発見は、Fiery Central server のローカル TCP/IP サブネットのみを検索します。
メモ：自動発見は、ネットワーク上の Fiery 以外のプリンターや一般の PostScript プリンターは検索しません。それらのプリンターは、IP アドレスやプリンター名を使用して手動でプリンターグループに追加する必要があります。
- 7 使用可能なプリンターリストでプリンターを選択し、矢印ボタンをクリックしてそのプリンターを選択されたプリンターリストに移動します。
- 8 プリンターの**編集/設定**ウィンドウで、プリンター名が正しく、一意であることを確認します。
- 9 用紙カタログマップをクリックして編集および設定するプリンターの **Paper Catalog** または **トレイ** 選択を設定します。
Paper Catalog マッピング機能は、Fiery server や Fiery 以外のプリンターで、サポートされている場合のみ使用できます。

10 インストール可能なオプションウィンドウに、プリンターにインストールされているオプションが表示されていることを確認し、OK をクリックします。

ステーブル、スタッカー、中綴じフィニッシャーなど、必須ではないオプションやプリンター特有のオプションを、プリンターグループ内の個々のプリンターに対して指定できます。Fiery Central マネージャーでは、これらの追加機能が印刷用のプリンターグループ PPD ファイル内に組み込まれています。

メモ： Fiery server をプリンターグループに追加する際には、設定可能なオプションがデフォルトで選択されます。Fiery 以外のプリンターの、プリンター固有のオプションは、手動でインストールします。

11 ほかのプリンターを追加して設定します。

そのグループに入れるほかのプリンターを 1 つずつ選択したプリンターリストに移動したうえで、各プリンターを設定します。グループからプリンターを削除することもできます。

12 プリンターグループ用に選択したすべてのプリンターを追加および設定したら、次へをクリックします。

13 プリンターグループのデフォルトオプションを設定します。

- グループ内のプリンターで個々の印刷ジョブのバランスをとるオプションとして負荷分散を選択します。負荷分散を優先プリンターに設定している場合は、優先プリンターフィールドでプリンターグループからプリンターを 1 台選択します。
- 使用するプリンターの種類をデフォルトに設定し、白黒プリンターまたはカラープリンターのどちらかがこのグループに送信されたジョブのみに使用されるよう指定します。
- 表紙/マージオプションの 1 つを設定します。
- プリンター最大数を設定します。
- エラーのため経路を変更は、出力先プリンターでエラーが生じたとき、最高速シングルエンジンにジョブの残りを送信します。このオプションを選択しない場合、エラーが解消するまで、ジョブは出力先プリンターの印刷キューで待機します。

14 次へをクリックし、プリンターグループの概要情報を確認してから保存をクリックします。

変更が必要な場合は、キャンセルをクリックして、現在のプリンターグループを破棄したうえで新しいグループを作成します。

15 ユーザーがインターネットブラウザで Fiery Central プリンタードライバーをダウンロードできるようにする場合は、Fiery Central マネージャープリンターグループウィンドウでプリンターグループを選択した状態で WebTools を通してプリンターグループドライバーを使用可能にするを選択します。

メモ： Windows または Mac コンピューターを使用している場合は、このオプションを選択する必要があります。

16 公開したい印刷キューを選択します。

17 変更を保存してプリンターグループを作成するには、Fiery Central マネージャーウィンドウで OK をクリックします。

プリンターグループオプション

プリンターグループを設定するときに、次の「Load Balance（負荷分散）」、「Cover Sheet/Merge Options（表紙/マージオプション）」、および「エラーのため経路を変更」オプションを指定できます。

Load Balance（負荷分散）オプション

Fastest Single Engine（最高速シングルエンジン）	ジョブの印刷仕様を満たす最高速プリンターでジョブ全体を印刷します。
Preferred Printer（優先プリンター）	指定したプリンターでジョブ全体を印刷します。
Copy Split（コピー分割）	印刷仕様および各プリンター上の現在の印刷負荷により、1つの書類の複数コピーを異なるプリンターに送信します。Copy Split（コピー分割）を使用するには、最低2台のカラープリンターまたは白黒プリンターが必要です。
Long Job Split（長いジョブ分割）	書類のコピー一部を異なるプリンター間で分割します。Long Job Split（長いジョブ分割）を使用するには、最低2台のカラープリンターまたは白黒プリンターが必要です。
Color Split（カラー分割）	すべてのコピーを2台のプリンターに分割します。カラーコンテンツはグループの最高速カラープリンターに送信され、白黒コンテンツはグループの最高速白黒プリンターに送信されます。Color Split（カラー分割）を使用するには、最低2台のカラープリンターまたは白黒プリンターが必要です。

Cover Sheet/Merge Options（表紙/マージオプション）

None（なし）	表紙の作成またはインラインページの挿入を行いません。
Cover Sheet-Manual Merge（表紙-手動マージ）	手動マージを容易にするためにジョブの各部分に関する情報を含む表紙を自動的に作成します。
Bar Code-Offline Merge（バーコード-オフラインマージ）	オフラインマージフィニッシャーによる照合に必要なバーコードを含む表紙を自動的に作成します。このオプションは Load Balance（負荷分散）が Color Split（カラー分割）に設定されているときにのみ使用できます。
No Cover Sheet-Inline Merge（表紙-インラインマージなし）	印刷済みページをインライン挿入トレイから挿入します。このオプションは、グループの白黒プリンターに挿入トレイがあり、「Load Balance（負荷分散）」が「Color Split（カラー分割）」に設定されている場合にのみ使用できます。

エラーのため経路を変更パラメータ

Job Time Out（ジョブタイムアウト）	エラーが発生した場合、経路を変更するまでに、ジョブが出力先の印刷キューで待つ時間を指定します。
--------------------------------	---

Total Reroutes (経路変更合計) 1つのジョブに対して、何回経路を変更できるか指定します。最大数に達すると、エラーがなくなるまで、最後のプリンターの印刷キューにジョブが待機します。

プリンターグループを管理する

プリンターグループを設定した後、グループからプリンターを追加または削除してグループを管理したり、プリンターグループについての情報を表示したりすることができます。

- 1 Fiery Central マネージャーウィンドウで、**プリンターグループ**タブを選択し、プリンターグループを表示します。
- 2 既存のプリンターグループを選択し、次のいずれかの操作を実行します。
 - **編集**をクリックしてグループを更新するか、または**表示**をクリックしてグループの情報概要を表示します。
 - **削除**をクリックして選択したプリンターグループを削除します。
 - **追加**をクリックして新しいグループを追加します。
 - Fiery Central マネージャーのプリンタードライバをインターネットブラウザを通してユーザーがダウンロードできるようにしたい場合は、**WebTools**を通してプリンターグループドライバを使用可能にするを選択します。
メモ：Windows または Mac コンピューターを使用している場合は、このオプションを選択する必要があります。
 - 公開したい印刷キューを選択します（デフォルトで選択）。
- 3 **OK**をクリックして変更を保存し、プリンターグループを作成します。

Fiery Central のバックアップまたは復元を実行する

Fiery Central マネージャーでは、システムのクラッシュまたはアップグレード後にプリンターグループを復元できるように、プリンターグループの情報をバックアップできます。

メモ：バックアップからの復元を行う前に、既存のプリンターグループをすべて削除する必要があります。バックアップされたプリンターグループを既存のプリンターグループと結合することはできません。

次の情報がバックアップされます。

- プリンターグループの情報
- Paper Catalog
- Paper Catalog マッピング

メモ：バックアップ/復元機能は、Fiery Central server 上にインストールされている Command WorkStation からのみ利用できます。

Fiery Central をバックアップする

プリンターグループの情報、Paper Catalog および Paper Catalog のマッピングは、ウィザードを使用してバックアップできます。

- 1 以下のいずれかの方法で、バックアップツールを起動します。
 - Fiery Central マネージャーのプリンターグループタブにあるバックアップをクリックします。
 - Command WorkStation で、デバイスセンター > 一般 > ツールをクリックし、バックアップ/復帰の起動をクリックして、Fiery Central マネージャーのバックアップをクリックします。
 - サーバー > Central ツールから バックアップ/復帰の管理を選択し、Fiery Central マネージャーのバックアップをクリックします。
- 2 バックアップ/復帰ウィザードの指示に従います。

Fiery Central を復元する

ウィザードを使用して、プリンターグループ情報、Paper Catalog および Paper Catalog のマッピングを復元できます。

- 1 以下のいずれかの方法で、復元ツールを起動します。
 - Fiery Central マネージャーのプリンターグループタブで、復元をクリックします。
 - Command WorkStation で、デバイスセンター > 一般 > ツールをクリックし、バックアップ/復帰の起動、Fiery Central マネージャーの復元をクリックします。
 - サーバー > Central ツールで、バックアップ/復帰の管理を選択し、Fiery Central マネージャーの復元をクリックします。
- 2 バックアップ/復帰ウィザードの指示に従います。

復元処理の間、Paper Catalog マップが Paper Catalog マッピング復元のために開きます。復元されたマッピングを確認できます。

メモ： 任意のプリンターデバイスにネットワーク上でアクセスできない場合、プリンターグループは復元できません。

Fiery Central Paper Catalog を使用する

Fiery Central Paper Catalog は、均一な用紙の一覧表を提供し、ユーザーはジョブに対して使用する用紙そのものを指定できます。

Fiery Central Paper Catalog の用紙が Fiery server 上の対応する Paper Catalog の用紙にマッピングされると、Paper Catalog の用紙に印刷されるジョブは、その用紙がストックされるプリンターで直接印刷されます。

メモ： Paper Catalog マッピング機能は、Fiery server や Fiery 以外のプリンターで、サポートされている場合のみ使用できます。

Fiery Central の Paper Catalog エントリを作成する

Fiery Central server 上の Fiery server にシステム管理者としてログオンしている場合は、Fiery Central Paper Catalog エントリを作成できます。

- Command WorkStation > デバイスセンター > リソース > 用紙カタログを選択して Paper Catalog にアクセスします。

Paper Catalog をマッピングする

適切に作動させるためには、印刷前にプリンターの用紙カタログを設定して、プリンタートレイを用紙カタログの用紙と関連付ける必要があります。プリンターは常に用紙カタログの用紙を備えていることを前提としています。

- 1 プリンターの追加/削除ウィンドウで、選択されたプリンターリストの中からプリンターを選択し、編集/設定をクリックします。

プリンターの追加/削除ウィンドウにアクセスするには、プリンターグループを追加または編集する必要があります。

- 2 次のいずれかを行います。

- プリンターの編集/設定ウィンドウで、用紙カタログマップをクリックします。
- Command WorkStation で、Fiery Central server のデバイスセンター > リソース > Paper Catalog をクリックし、マッピングをクリックします。これはクライアントコンピューターでは使用できません。

用紙カタログマップユーティリティが表示されます。プリンターに用紙カタログがある場合は、プリンターの用紙カタログのエントリを適切な Fiery Central Paper Catalog にマップする必要があります。

Fiery Central の Paper Catalog 列で新規として追加を選択すると、プリンターの用紙カタログエントリを Fiery Central Paper Catalog にインポートできます。

プリンターに用紙カタログがない場合は、Fiery Central の Paper Catalog エントリをそのプリンターに適切な用紙属性にマッピングする必要があります。

VDP ファイル検索パスを設定する

Fiery Central マネージャーでは、VDP リソースの共有場所を指定できます。

共通リソース、PPML オブジェクトまたは VPS オブジェクトのバリエーションデータ印刷要素に対し、すべてのジョブでグローバルに使用できるファイル検索パスを設定できます。

メモ: ジョブ固有の検索パスを定義するには、特定ジョブで Command WorkStation ジョブのプロパティの VDP タブを使用します。

- 1 Fiery Central マネージャーウィンドウで、VDP タブをクリックします。

2 追加をクリックして、場所を追加したいリソースの種類を共通、PPML、VPS から選びます。

- PPML オブジェクトは PPML (Personalized Print Markup Language) を使用します。PPML は、PODi によって開発された XML ベースの言語で、業界標準とされています。PPML 形式の書類を印刷するには、PPML 形式と互換性のあるサードパーティーソフトウェアアプリケーションを使用します。
- VPS オブジェクトは Creo VPS を使用します。Creo VPS は、Creo によって開発された PostScript 言語の拡張機能です。ページ要素はすべて、Creo VPS ファイルにパッケージされる必要があります。印刷するには、Creo VPS データストリームを出すアプリケーションが必要です。

メモ:いくつかの PPML および Creo VPS ジョブは 1 つのファイルにすべてのバリアブルデータジョブリソースを含んでいません。この場合、バリアブルデータジョブ外部リソースの場所を指定して、Fiery Central がアクセスできるようにします。これらの共有場所には、Fiery Central と Fiery servers からの読み取り権限が設定されている必要があります。

3 保存されているオブジェクトの場所を参照し、OK をクリックします。

カラーを管理する

カラー印刷オプション

カラー印刷オプションは、印刷ジョブに適用されるカラー管理の制御を行います。

Command WorkStation のデバイスセンター > カラー設定 > カラー管理からアクセスするカラー印刷オプションは、Fiery server のデフォルトのカラー印刷設定を示します。デフォルトのカラー印刷設定は、ジョブに対してほかのカラー印刷設定が指定されていない場合に適用されます。ユーザーは、設定がロックされていなければ、プリンタードライバーまたはジョブのプロパティでジョブの設定を変更することでデフォルトの設定を上書きできます。

デフォルトのカラー印刷設定は、カラー印刷オプションの一覧が表示されるその他の場所で参照されます。たとえば、プリンタードライバーのプリンターの初期設定はこのデフォルト設定を参照しています。

デフォルトジョブ設定の詳細は、[すべてのジョブのプロパティにデフォルトを設定する](#) (62 ページ) を参照してください。

キャリブレーション内容は印刷オプションではなく、出力プロファイルによって決定されます。表示されているキャリブレーション設定は、選択した出力プロファイルに関連付けられているキャリブレーション設定です。

カラー印刷オプションを使用した印刷の詳細については、取扱説明書の『カラー印刷』を参照してください。

Command WorkStation にはカラーワークフローの管理をサポートする各種リソースがあります。これらのカラーツールを活用するためのトレーニングビデオや資料のリンクが提供されています。これらについては、次を参照してください。

- 学習ソリューション ([Learning@Fiery](#))
- カラー設定のベストプラクティスに関する [フローチャート](#) および [動画](#)

デフォルトのカラー印刷オプションを表示または編集する

ほとんどのカラー印刷オプションのデフォルト設定を表示または編集できます。すべてのカラー印刷オプションは、1つのウィンドウに表示されます。一番上に一般設定が配置され、その下にカラー入力とカラー設定が表示されます。カラー設定は、上級ユーザーのために提供されています。

1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。

- サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
- サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。

- サーバー> デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 カラー設定で、カラー管理をクリックし、デフォルト設定をクリックします。
 - 3 デフォルト設定ウィンドウのカラー タブで、オプションを個別に設定し、オプションをロックするか、ロック解除されたままにするかを指定します。
 すべてロックまたはすべてアンロックを選択することもできます。
 - 4 OK をクリックします。

Command WorkStation にはカラーワークフローの管理をサポートする各種のリソースがあります。これらのカラーツールを活用するためのトレーニングビデオや資料のリンクが提供されています。これらについては、次を参照してください。

- 学習ソリューション ([Learning@Fiery](#))
- カラー設定のベストプラクティスに関する [フローチャート](#) および [動画](#)

カラーモード設定

カラーモード設定は、出力の色空間（CMYK など）を指定します。カラーモード設定を変更すると、カラー管理オプションはサーバーのデフォルト設定にリセットされます。

ジョブ全体はグレースケール、CMYK、または CMYK+ で印刷されます（使用可能な場合）。

メモ： CMYK の出力では、少なくとも 4 つのプロセスマーカーのプレス出力を参照します。プレスまたはプリンターが RGB 出力をサポートし、CMYK 出力をサポートしていない場合、『Fiery Command WorkStation のヘルプ』の CMYK へのすべての参照は適用されません。RGB 出力だけをサポートするプレスまたはプリンターの詳細については、製品ごとの取扱説明書を参照してください。

カラーモードで可能な設定は次のとおりです。

- グレースケール - グレースケールまたは白黒の書類で選択します。
- CMYK - カラー書類で選択します。
- CMYK+ - CMYK にプラスして 5 色目のインク/トナーを使用し、すべてのインク/トナーをプロセスカラーとして使用してカラー出力を行います。サポートされている場合は、Fiery server に 1~3 個の追加インク/トナーを使用できます。

CMYK+ をスポットカラーのみに使用するには、CMYK+ をスポットカラーのみに使用オプションを選択します。このオプションが選択されている場合は、CMYK+ スポットカラーのコンテンツとスポットカラー以外の両方に出力プロファイルを指定できます。

メモ： CMYK+ は、すべての Fiery servers に対して使用できるわけではありません。

出力プロファイル

出力プロファイル印刷オプションでは、ジョブの処理に使用する出力プロファイルを指定します。印刷ジョブ内のカラーデータは、プリンターやの色空間に変換されます。この色空間は、出力プロファイルに記述されています。

さらに、出力プロファイルに関連付けられたキャリブレーションが、印刷前にジョブに適用されます。

Fiery server にはデフォルトの出力プロファイルが 1 つまたは複数あります。各出力プロファイルは特定の用紙の種類のために作成されたものです。Fiery server に独自の出力プロファイルをインポートすることもできます。

ジョブ定義設定を使用

ジョブに特定の出力プロファイルを選択するのではなく、Fiery server で出力プロファイルを自動的に選択することもできます。プロファイルは、印刷ジョブで使用されるカラーモードと用紙の種類によって決まります。またジョブが用紙カタログの用紙を使用する場合は、用紙カタログに指定された出力プロファイルが使用されます。

ジョブに特定の出力プロファイルを選択するのではなく、Fiery server で出力プロファイルを自動的に選択することもできます。プロファイルは、印刷ジョブで使用されるカラーモードと用紙タイプによって決まります。またジョブが Paper Catalog の用紙または用紙カタログを使用する場合は、Paper Catalog または用紙カタログに指定された出力プロファイルが使用されます。

デフォルトの出力プロファイル詳細については、[デフォルトのカラー出力プロファイルを設定する](#) (125 ページ) と [使用する出力プロファイルを Fiery server で決定する方法](#) (126 ページ) を参照してください。

デバイスリンクプロファイル

指定した出力プロファイルとソースプロファイルに、CMYK から CMYK へまたは RGB から CMYK へのデバイスリンクプロファイルを使用できる場合、[選択されたデバイスリンクプロファイル](#)が出力プロファイルリストの下に表示されます。デバイスリンクプロファイルが選択されている場合は、特定のデバイスリンクプロファイル名がソースプロファイルリストの下に表示されます。他のソース設定は、デバイスリンクプロファイルのワークフローとは無関係のため、使用不可になっています。

この場合、デバイスリンクプロファイルが使用されるため、選択した出力プロファイルはカラー管理に使用されません。

デバイスリンクプロファイルに関する詳細については、[デバイスリンクプロファイル](#) (127 ページ) を参照してください。

デフォルトのカラー出力プロファイルを設定する

ジョブごとに出力プロファイルを手動で選択しない場合は、出力プロファイルをデフォルトとして指定することができます。特定のジョブのデフォルト設定を上書きすることもできます。

使用する出力プロファイルは、[ジョブ定義設定を使用](#)に従って指定する必要があります。

Paper Catalog またはメディアカタログを使用するジョブの場合：

- 用紙/サブストレートのおもてと裏のカラープロファイル設定を変更しないでください。
 設定がサーバーの初期設定でない限り、指定されたプロファイルが使用されます。

Paper Catalog またはメディアカタログを使用しないジョブの場合、Paper Catalog またはメディアカタログでサーバーの初期設定が指定されている場合：

- デバイスセンター > リソース > プロファイルを選択します。出力プロファイルで、使用する出力プロファイルを選択し、使用可能なすべての用紙種類にその出力プロファイルを関連付けます。

メモ：出力プロファイルと用紙の関連付けは、Fiery server のワークフローがサポートする場合にのみ可能です。

ジョブのプロパティ > > > カラー > > > 出力プロファイルを選択して、特定のジョブのデフォルト設定を上書きすることができます。ジョブ定義設定を使用ではなく、一覧からプロファイルを選択します。Command WorkStation でサーバーメニューからデフォルト設定を選択して、特定の出力プロファイルをデフォルトとして設定することもできます。

メモ：デフォルト設定ウィンドウのカラータブに表示されるデフォルトの出力プロファイルは、Fiery server で設定されたものです。そこに表示される注釈メモ（注意：「ジョブ定義設定を使用」はプロファイルの設定で常にデフォルトで選択されています。）は、ジョブのプロパティの出力プロファイルメニューを指しています。

ジョブが Paper Catalog またはメディアカタログを使用している場合は、Paper Catalog エントリまたはメディアカタログエントリでおもてカラープロファイルと裏カラープロファイルに指定されているものがデフォルトの出力プロファイルになります。サーバーのデフォルトは、Fiery server で決定されたプロファイルです。詳細は、[使用する出力プロファイルを Fiery server で決定する方法](#)（126 ページ）を参照してください。

使用する出力プロファイルを Fiery server で決定する方法

Fiery server は、ジョブに使用する出力プロファイルを決定するときに、さまざまな事項を考慮します。

これらの要因は、Fiery server 上の Paper Catalog またはメディアカタログの実装によって異なります。これにより、ユーザーがジョブの用紙を選択する方法が決まります。

Paper Catalog またはメディアカタログは、次の 3 つの方法のいずれかで実装することができます。

- Paper Catalog またはメディアカタログは用紙選択で使用する必要があります。
- Paper Catalog またはメディアカタログは用紙選択用のオプションです。
- Paper Catalog またはメディアカタログは用紙選択に使用できません。

メモ：Paper Catalog またはメディアカタログの実装は、Fiery server でサポートされている方法によって異なります。

Fiery server は、次のテストを実行して、使用する出力プロファイルを決定します。

- 1 ジョブのプロパティで出力プロファイルは出力プロファイルの自動選択に設定されているか
- 2 Paper Catalog またはメディアカタログは使用されているか
- 3 どの出力プロファイルがジョブの設定に最も近いのか

ジョブのプロパティで出力プロファイルは出力プロファイルの自動選択に設定されているか

自動プロファイル選択の場合は、ジョブのプロパティウィンドウのカラータブで出力プロファイルプリントオプションをジョブ定義設定を使用に設定する必要があります。用紙以外の設定も考慮されているため、このオプションは、ジョブ定義設定を使用として表示されます。たとえば、カラーモードが CMYK+に設定されている場合、プロファイルを決断するときに用紙だけではなく、カラーモード考慮する場合もあります。

特定の出力プロファイルが選択された場合は、それが使用されます。自動選択では十分でない場合、または他のプロファイルを試す場合は、特定のプロファイルを選択します。

Paper Catalog またはメディアカタログは使用されているか

ジョブのプロパティで Paper Catalog またはメディアカタログが指定されている場合は、Paper Catalog またはメディアカタログ出力プロファイルの関連付けを確認します。おもてと裏のカラープロファイルの関連付けを表示するには、Paper Catalog またはメディアカタログで選択した用紙を右クリックして編集を選択します。用紙/サブストレートに特定の出力プロファイルが関連付けられている場合は、そのプロファイルが使用されます。

出力プロファイルの関連付けがサーバーの初期設定に設定されている場合、3番目のテストが使用されません。

どの出力プロファイルがジョブの設定に最も近いか

次の手順で使用可能な出力プロファイルとジョブの設定との関連付けを確認します。デバイスセンター >>> リソース >>> プロファイルを選択し、出力プロファイルセクションを展開します。

プリントオプションは、接続されているサーバーに依存します。たとえば、用紙の種類プリントオプションを使用するときと使用できないときもあります。

Profile Manager の詳細列でのオプション（デバイスセンター >>> リソース >>> プロファイル）は、通常、同等のジョブ設定の多くと一致しません。

たとえば、コート紙に関するオプションがジョブのプロパティに複数あっても、コート紙タイプに関連付けられている出力プロファイル設定が1つしかない可能性もあります。この場合、コート紙に関連付けられている出力プロファイルが、すべてのコート紙に使用されます。

用紙の種類でデフォルトで使用される出力プロファイルを変更する場合は、選択した出力プロファイルをダブルクリックし、そのプロファイルと互換性のある用紙の種類を確認します。使用可能な用紙設定の多くまたはすべてに指定できる出力プロファイルは1つだけです。

デバイスリンクプロファイル

デバイスリンクプロファイルを印刷ジョブで選択するには、そのプロファイルが Fiery server に存在することと、特定のソースプロファイルおよび出力プロファイルに関連付けられていることが必要です。

デバイスリンクプロファイルと関連付けられているソースプロファイルおよび出力プロファイルの設定を選択すると、Fiery server では通常の色管理が無視され、ジョブのカラーデータへのデバイスリンク変換が適用されます。ソースプロファイルおよび出力プロファイルは使用されません。

Fiery server 上に存在していないプロファイルは、設定として表示されません。ソースプロファイルの設定や出力プロファイルの設定と関連付けられていないデバイスリンクプロファイルは、ジョブに対して選択できません。そのため、デバイスリンクプロファイルと関連付けられているソースプロファイルや出力プロファイルは、たとえカラー変換の計算には使用されなくても、Fiery server 上に存在する必要があります。

次の表に示されているカラー入力設定のいずれかが有効になっている場合、または指定されている場合、デバイスリンクプロファイルは無効になります。

RGB-CMYK デバイスリンク	CMYK-CMYK デバイスリンク
RGB 埋め込みプロファイルを使用	CMYK 埋め込みプロファイルを使用
RGB レンダリングインテント	CMYK レンダリングインテント
RGB グレーをブラックのみで印刷	CMYK グレーをブラックのみで印刷
	黒点の補正

RGB ソース、CMYK ソース、グレースケールソース

RGB ソース、CMYK ソースおよびグレースケールソース印刷オプションを使用すると、書類の RGB データ、CMYK データ、およびグレースケールデータの色空間を定義して、Fiery server で適切な色交換を行えます。

Fiery server には、よく使用される色空間が用意されています。その他の色空間では、CMYK および RGB カスタムプロファイルを Fiery server にインポートできます。カスタムのグレースケールプロファイルはインポートできません。

RGB ソース

RGB ソースのプロファイルを指定した場合、Fiery server は、その他のカラー管理システムで指定されている可能性があるソース色空間の定義またはプロファイルを上書きします。たとえば、書類に RGB プロファイルが埋め込まれていても、RGB ソース設定で上書きされます。

RGB ソースプロファイルを指定すると、Fiery server からの出力はプラットフォーム間で一貫性が保たれます。RGB ソースには次のオプションがあります。

- EFIRGB – Fiery 指定のソース色空間を定義します。RGB データの詳細情報がない場合に最適です。
- sRGB (PC) – Microsoft 社および Hewlett-Packard 社推奨の色空間であり、一般的なホームおよびオフィスアプリケーション向けに定義されています。
- Apple Standard – 従来 Mac 対応モニター用の色空間を定義します。
- Adobe RGB (1998) – Adobe 社が定義した色空間であり、一部のプリプレスワークフローで Adobe Photoshop 用のデフォルト作業用色空間として使用されます。
- eciRGB v2 – ECI (ヨーロッパカラーイニシアティブ) 推奨の色空間であり、広告代理店、出版社、複製業、印刷所で RGB 作業用色空間およびカラーデータ交換形式として使用されます。
- Fiery RGB v5 – Office アプリケーションの使用時に適した Fiery 定義の色空間です。この色空間は EFIRGB に類似していますが、より大きく、より適切な青色出力が得られます。

指定されている別のソース色空間を RGB ソースによって上書きしない場合は、RGB 埋め込みプロファイルを使用オプションを選択します。

RGB 埋め込みプロファイルを使用オプションが有効になっている場合、Fiery server で RGB プロファイルがある書類のオブジェクトが尊重され、プロファイルがないオブジェクトはジョブのプロパティで指定された RGB ソースプロファイルを使用してカラー管理されます。

CMYK ソース

CMYK ソースオプションには、Fiery server 上にある CMYK ソースプロファイルを設定できます。

ICC プロファイルを使用して色分解された印刷イメージ内のカラーを適切に管理するには、同じプロファイルをイメージの印刷時に指定する必要があります。

CMYK ソースプロファイル設定に指定するプロファイルは、CMYK データが色分解されたときの CMYK プロファイルまたは印刷標準によって変わります。このオプションは、CMYK データのみに適用されます。

- カスタム色分解(たとえば、ICC プロファイル指定の色分解)を使用して色分解されている画像には、CMYK ソースが設定されている Fiery server で、プリプレスワークフローの RGB から CMYK への変換で使用されているプロファイルを選択します。
- 印刷標準用に色分解されたイメージには、印刷標準を CMYK ソース設定として選択してください。

ジョブに埋め込み CMYK プロファイルが含まれている場合は、CMYK 埋め込みプロファイルを使用オプションを選択します。埋め込みプロファイルは CMYK データに適用されます。

CMYK ソースオプションには、Fiery server 上に存在する任意の CMYK ソースプロファイルを設定できます。

ジョブの CMYK データを出力カラー色空間に変換しない場合は、次の設定のいずれかを選択できます。

- 変換を省略—これらの設定では、ジョブのオリジナルの CMYK データが変換なしにプリンターに送信されますが、キャリブレーションは適用されます。
- ColorWise オフ—この設定では、キャリブレーションの適用も CMYK データへの変換も行われることなく、ジョブのオリジナル CMYK データがプリンターに送信されます。ただし、CMYK データはインク/トナー総量の制限の影響を受けます。

ColorWise オフ設定は特定のジョブで使用できますが、Fiery server でのデフォルト設定にはできません。この設定は特定のジョブでのみ選択してください。

メモ：ColorWise オフ設定で印刷する場合は、アプリケーションで選択するオプションによって CMYK データが変更されないようにしてください。ColorWise オフ設定で印刷する場合は、アプリケーションでカラー管理を使用しないように設定する必要があります。

グレースケールソース

Fiery server では、デバイスグレーのジョブと ICC ベースグレースケールのジョブをそれぞれの色変換によって個別に処理できます。

FS200/FS200 Pro 以前は、グレースケールの色空間は CMYK カラーパスを通じて処理されていました。

グレースケールソースプロファイル設定は、ソースプロファイルから出力プロファイルへのカラー変換に使用するため、出荷時にインストールされたグレースケールプロファイルを提供します。ユーザーが任意のグレースケール ICC プロファイルをインポートすることはできません。

書類のグレースケールオブジェクトに関連付けられた埋め込みプロファイルがジョブに含まれている場合は、グレー埋め込みプロファイルを使用オプションを選択します。

グレースケールソースオプションには、Fiery server 上に存在する出荷時にインストール済みの任意のグレースケールソースプロファイルを設定できます。

RGB/CMYK/グレー埋め込みプロファイルを使用

Fiery server で、プリント設定で指定されているソースプロファイルではなく、印刷ジョブに埋め込まれているソースプロファイル（RGB、CMYK またはグレースケール）を使用するかどうかを指定できます。

RGB

RGB 埋め込みプロファイルを使用をオンにした場合、Fiery server は RGB プロファイルがあるオブジェクトの埋め込み RGB プロファイルを使用し、RGB プロファイルがない RGB オブジェクトの RGB ソースプロファイルを使用します。このオプションをオンにした場合、Fiery server は RGB ソースオプションで指定されたプロファイルを使用します。

CMYK

CMYK 埋め込みプロファイルを使用をオンにした場合、Fiery server は CMYK プロファイルがあるオブジェクトの埋め込み CMYK プロファイルを使用し、CMYK プロファイルがない CMYK オブジェクトの CMYK ソースプロファイルを使用します。このオプションをオフにした場合、Fiery server は CMYK ソースオプションで指定されたプロファイルを使用します。

グレー

グレー埋め込みプロファイルを使用をオンにした場合、Fiery server はグレープロファイルがあるオブジェクトの埋め込みグレープロファイルを使用し、グレープロファイルがないグレーオブジェクトのソースグレープロファイルを使用します。

黒点の補正

黒点の補正オプションを使用して、CMYK ソースカラーのシャドウ部分の出力濃度を調整できます。

黒点の補正は、ソースプロファイルの最も暗い部分が出力プロファイルの最も暗い部分にマッピングされるように、ソースカラーをスケールリングすることによって機能します。CMYK ソース色空間がプリンターの色の範囲よりも広い場合にシャドウの細部を強調するには、黒点の補正を使用します。校正のアプリケーションでは、CMYK ソース色空間がプリンターの色の範囲よりも狭い場合にこのオプションを使用しないでください。

メモ：RGB ソースカラーの場合は、相対カラーメトリックに黒点の補正が常に適用されます。黒点の補正は、絶対カラーメトリックには適用されません。連続調では純色とシャドウ詳細が出力デバイスのカラー表現能力に合わせて調整されているので、黒点の補正は不要です。

CMYK レンダリングインテント

CMYK レンダリングインテントオプションでは、CMYK 入力データを出力色空間の使用可能な色域に変換する方法を指定します。印刷するカラーイメージの種類に応じて、この変換を最適化することができます。

Fiery server は、第 5 のレンダリングインテントである純原色もサポートしています。

メモ：色調の再現性の問題が生じた場合は、連続調設定を使用してください。

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
<p>連続調 - 色域外のカラーを印刷する場合は、通常、ビジネスグラフィックレンダリングよりも彩度の低い出力となります。この方法では、イメージの色調関係が保持され、ソースのグレースケール色調範囲が、出力デバイスで使用可能な色調範囲に拡大/縮小されます。</p>	<p>写真画像 (ストック写真やデジタルカメラからのスキャン画像やイメージを含む)</p>	<p>イメージ、コントラスト、知覚</p>
<p>ビジネスグラフィック - 鮮やかな彩度の高いカラーを作成しますが、出力カラーとモニター表示カラーを正しくマッチさせるものではありません。肌の色合いなどの色域内の色は適切にレンダリングされます。この方法は、連続調レンダリングインテントと類似して、グレースケールコンテンツのコントラストを大きくするために使用できます。</p>	<p>プレゼンテーション用のアートワークやグラフ。この方法は、プレゼンテーションで使用するグラフィックや写真等が混在しているページに使用されます。</p>	<p>彩度、グラフィック</p>
<p>相対カラーメトリック - ソース白色点とターゲット白色点間の色変換を定義します。たとえば、モニター上で青みがかった色に見える白色 (灰色) は、紙地の白色に置き換えられて出力されます。この方法では、空白の部分と白いオブジェクト間に目に見える境界が発生しません。相対カラーメトリックは、グレースケールのデフォルトのレンダリングインテントで、グレーの外観を維持するのに最適です。</p>	<p>カラーのマッチングが重要であるが、書類の白色を紙地の白色として出力する場合の高度な方法です。この方法は、シミュレーションの目的で CMYK データに影響を及ぼすために PostScript カラー管理でも使用されることがあります。</p>	<p>相対カラーメトリック</p>

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
絶対カラーメトリック - ソース白色点とターゲット白色点間の色変換は定義されません。たとえば、青みがかかった色に見える白色（灰色）は、紙地の白色に置き換えられません。この方法では、ハイライトやシャドウの細部で色域は一部切れて表示されることがあります。	<p>正確なカラーが要求され、境界がはっきりしても問題ない場合に使用します。この方法は、シミュレーションの目的で CMYK データに影響を及ぼすために PostScript カラー管理でも使用されることがあります。</p> <p>CMYK レンダリングインテントを絶対カラーメトリックに設定すると、用紙の白色の領域が印刷されないのではなく、CMYK 値を使用して用紙の白色がシミュレートされます。</p>	絶対カラーメトリック
純原色 - インク/トナーを混ぜ合わせない。カラー機能の異なる画像システムの間で特定の色の見え方を一致させるためにカラー管理で行われるインク/トナーの混合を行わないようにします。	<p>ソースコンテンツが 1 つまたは 2 つのプロセスインク/トナーで構成されるとき、それらは最終印刷で 1 つまたは 2 つのプロセスインク/トナーとして残されます。このレンダリングインテントでは色の精度を達成できないので、他の印刷システムと色の精度が一致することは想定されていません。</p>	純原色

グレースケールレンダリングインテント

グレースケールレンダリングインテント オプションでは、グレースケール入力データを出力色空間で使用可能な色域に変換する方法を指定できます。印刷するグレイオブジェクトの種類に応じて、この変換を最適化することができます。

グレースケールのテキスト、グラフィック、および画像の見え方を制御するには、適切なレンダリングインテントを選択します。Fiery server では、業界標準の ICC プロファイルに現在含まれている 4 つのレンダリングインテントから選択することができます。

メモ：色調の再現性の問題が生じた場合は、連続調設定を使用してください。

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
連続調 - 色域圧縮を実行する際に、画像のさまざまなカラー間の関係を保持します。	特に小さな色域プリンター空間への変換時の高色域連続調画像に最適。通常、グレースケールの画像には必要ありません。	知覚
プレゼンテーション - 色域圧縮を実行するときに、色の彩度が向上します。	プレゼンテーション用のベクトルアートワークとグラフィックに最適。通常、グレースケールのソースレンダリングには使用されません。	彩度

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
相対カラーメトリック - 色域外圧縮を実行するときのみ、色域内カラーを保持し、色域外カラーを再マッピングします。ソースの白色点を対象の白色点にマッピング（「用紙シミュレーション」なし）	正確なベクトルアートとロゴのカラーマッピングを実現します。グレースケールのソースレンダリングに最適です。	相対カラーメトリック
絶対カラーメトリック - 色域外圧縮を実行するときのみ、色域内カラーを保持し、色域外カラーを再マッピングします。ソースの白色点を対象白色点にマッピングされません（「用紙シミュレーション」）。	校正ジョブに最適。通常、グレースケールのソースレンダリングには使用されません。	絶対カラーメトリック

RGB レンダリングインテント

RGB レンダリングインテントオプションは、RGB 入力データを出力の色空間で利用可能な色域に変換する方法を指定します。印刷するカラー画像の種類に応じて、この変換を最適化することができます。

アートワークの画像や Adobe Photoshop からの RGB 写真画像などの見せ方を制御するには、各画像に適したレンダリングインテントを選択する必要があります。Fiery server では、現在業界標準の ICC プロファイルに現在含まれている 4 つのレンダリングインテントから選択することができます。

メモ：色調の再現性の問題が生じた場合は、連続調設定を使用してください。

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
連続調 - 色域外のカラーを印刷する場合は、通常、ビジネスグラフィックレンダリングよりも彩度の低い出力となります。画像の正しい色よりも色調関係の保持を優先させます。	写真画像（写真やデジタルカメラからのスキャン画像を含む）	画像、コントラスト、および知覚
ビジネスグラフィック - 鮮やかな彩度の高いカラーを作成しますが、出力カラーとモニター表示カラーを正しくマッチさせるものではありません。肌の色合いなどの色域内の色は適切にレンダリングされます。この方法は、連続調レンダリングインテントと類似しています。	プレゼンテーション用のアートワークやグラフィック。この方法は、プレゼンテーションで使用するグラフィックや写真等が混在しているページに使用されます。	彩度、グラフィック

レンダリングインテント	用途	対応する ICC レンダリングインテント
<p>相対カラーメトリック - ソース 白色点とターゲット白色点の間の色変換を定義します。たとえば、モニター上で青みがかった色に見える白色（灰色）は、紙地の白色に置き換えられて出力されます。この方法では、空白の部分と白いオブジェクト間に目に見える境界が発生しません。</p>	<p>カラーのマッチングが重要であるときに、書類の白色を紙地の白色として出力する場合の高度な方法です。この方法は、シミュレーションの目的で CMYK データまたは RGB データに影響を及ぼすために PostScript カラー管理でも使用されることがあります。</p>	相対カラーメトリック
<p>絶対カラーメトリック - ソース 白色点とターゲット白色点の間の色変換は定義されません。たとえば、青みがかった色に見える白色（灰色）は、紙地の白色に置き換えられません。</p>	<p>正確なカラーが要求され、境界がはっきりしても問題ない場合に使用します。この方法は、シミュレーションの目的で CMYK データまたは RGB データに影響を及ぼすために PostScript カラー管理でも使用されることがあります。</p>	絶対カラーメトリック

RGB/CMYK グレーをブラックのみで印刷

RGB グレーをブラックのみでプリントオプションをオンに設定すると、R、G、B の値の等しい RGB カラーはすべて、CMYK ブラックではなく、K のみのブラックで印刷されます。同様に、CMYK グレーをブラックのみで印刷をオンに設定すると、C、M、Y が 0 で、K が任意の値の CMYK カラーは、CMYK ブラックではなく、K のみのブラックで印刷されます。

RGB グレーをブラックのみで印刷または CMYK グレーをブラックのみで印刷は、テキスト/グラフィックかテキスト/グラフィック/画像のどちらかについてオンに設定できます。「グラフィック」とはベクトルグラフィックを指します。「画像」とはビットマップ画像を指します。

メモ：また、テキスト/グラフィックとテキスト/グラフィック/画像には同じオプションを使用し、グレースケールソースプロファイルについてグレーをブラックのみで印刷するをオンに設定することもできます。

次の制限が適用されます。

- RGB グレーをブラックのみでプリントオプションと CMYK グレーをブラックのみでプリントオプションは、事前に色分解されたジョブには適用されません。
- CMYK レンダリングインテントが純原色に設定されている場合、CMYK グレーをブラックのみで印刷は出力に影響を及ぼしません。
- RGB/Lab を CMYK ソースに分解をオンにすると、RGB グレーをブラックのみで印刷はオフになります。同様に、RGB グレーをブラックのみで印刷をオンにすると、RGB/Lab を CMYK ソースに分解をオンにすることはできません。
- ブラックテキスト/グラフィックを純ブラック-オンまたはリッチブラック-オンに設定している場合、100% ブラックのテキスト/グラフィックには、RGB グレーをブラックのみで印刷および CMYK グレーをブラックのみで印刷の設定よりブラックテキスト/グラフィックでの設定が優先されます。
- スポットカラーとしてグレーが指定されている場合、そのグレーには RGB グレーをブラックのみで印刷および CMYK グレーをブラックのみで印刷は適用されません。

RGB/Lab を CMYK ソースに分解

RGB/Lab を CMYK ソースに分解オプションは、RGB カラー（および L*a*b*などのデバイスに依存しないカラー空間）を CMYK ソースに変換します。

- RGB/Lab を CMYK ソースに分解をオンにすると、ドキュメント内の元の RGB カラーが、ジョブのプロパティで選択されているソース CMYK プロファイルに変換され、その後、出力プロファイルのプリントオプションでの定義に従って、プリンターの出力プロファイルに変換されます。RGB カラーを CMYK ソースと出力色空間に変換する色再現は、RGB コンテンツをその CMYK ソースプロファイルに変換するのと類似しています。

たとえば、Fiery server で RGB カラーを CMYK ソースに変換して色再現を行うのは、Photoshop で RGB イメージを CMYK プロファイルに変換するのと類似しています。RGB/Lab を CMYK ソースに分解のもう一つの便利なテクニックは、別のプリンター用の高品質の ICC プロファイルを取り使用して、それを Fiery server のソースの CMYK プロファイルとして定義し、他のプリンターで RGB カラーの色の出方をシミュレーションすることです。

この機能は、すべての色空間が出力色空間に変換される前に CMYK ソースに変換される PDF/X ワークフローでも使用されます。これらのワークフローでは、ドキュメント内の CMYK コンテンツとの色の一貫性を実現するために、デバイスに依存する色（RGB、グレースケール）とデバイスに依存しない色（ICC カラー、L*a*b*）が必要になります。PDF/X-4 の登場により、PDF/X 文書内で透明機能が利用可能となり、透過効果のあるデザインに含まれる CMYK のオーバープリントにも対応できるようになりました。透明シートをレンダリングするには、希望する外観を実現するために複雑な処理ポリシーが必要になるため、RGB/Lab を CMYK ソースに分解プリントオプションをオンにすることが、透明シートをレンダリングするための最良の方法です。

- RGB/Lab を CMYK ソースに分解プリントオプションにオフにすると、すべての RGB カラーが出力カラープロファイルで管理されます。このワークフローは、出力デバイスの全色域で RGB カラーをレンダリングするので、印刷システムで達成可能な最も鮮やかな色を必要とする場合にお勧めします。

スポットカラーマッチング

スポットカラーマッチングオプションを使用すると、自動的なマッチングによってジョブ内のスポットカラーを最良の CMYK 値に変換できます。

- スポットカラーマッチングをオンにすると、Fiery server は内蔵の変換テーブルを使用して、プリンターが生成できるスポットカラーに最も近似する CMYK 値を生成します。(Fiery server に出力プロファイルを追加した場合は、その出力プロファイル用の新しい変換テーブルが自動的に作成されます。)

Fiery Spot-On を使用すると、Fiery server は Command WorkStation スポットカラーで決定された CMYK 値を使用します。

Spot Pro を使用すると、Fiery server はスポットカラーを一番近い CMYK 値に変換します。

- スポットカラーグループを使用メニューを使用すると、Fiery server がファイルの処理中に最初にスポットカラー定義を検索するスポットカラーグループを選択できます。デバイスセンター > リソース > スポットカラー、またはデバイスセンター > リソース > Spot Pro で新しいスポットカラーグループを作成した場合、新しいグループがスポットグループを使用メニューのリストに追加されます。スポットカラーが選択したリストにない場合、Fiery server は一致するスポットカラー名を他のすべてのスポットカラーグループで探します。名前が存在しなければ、そのスポットカラーは書類内で代替カラーを使用して表示されます。
- スポットカラーマッチングがオフの場合は、Fiery server はスポットカラーを CMYK データとして処理し、書類の代替色空間を使用します。デフォルトでは、ほとんどのアプリケーションで、PANTONE などのスポットカラーメーカーが定義した CMYK に相当する値が使われます。これらの CMYK 値は、スポットカラーライブラリを提供しているアプリケーションで使用されている CMYK 値と同じものです。

メモ：内蔵の色分解表で定義されていないスポットカラーは、書類の代替色空間を使用して処理されます。

スポットカラーを含むジョブは、オフセット印刷のシミュレーションを行う場合を除き、スポットカラーマッチングをオンに設定して印刷してください。この場合は、スポットカラーマッチングをオフに設定し、適切な CMYK ソース設定を選択します。

内蔵の色分解表で定義されていないスポットカラーを含む PDF ジョブや PostScript ジョブの場合、スポットカラーマッチングをオンにすると、代替色空間が使用されます。Fiery server では、内蔵の色分解表をもとにオリジナルのスポットカラーに最も近い CMYK 値が生成されます。

メモ：スポットカラーマッチングは、コンポジット印刷でのみ使用し、分版の印刷には使用しません。

スポットカラーオーバープリント

スポットカラーオーバープリントプリントオプションは、2 つ以上のカラーを重ねて印刷する際に、スポットカラーがどのように処理されるかを定義します。

通常、2 つの異なる色のオブジェクトが重なる場合は、ロックアウト効果が作成されています。これらは互いの上に印刷されません。あるインク層を別のインク層の上に意図的に印刷することをオーバープリントといいます。オーバープリント設定は、2 つ以上のカラーを重ねて印刷する際に、スポットカラーがどのように処理されるかを定義します。

設定値を高くすると、出力結果は濃くなります。たとえば、オーバープリント値が 100% の場合は、カラーが相互に完全に重なり合うことを意味しますが、これは通常のプリンターやでは実現できません。設定値を低くすると、出力結果が明るくなります。これはカラーの不透明度が高くなり、他のカラーの一部を隠すためです。

スポットカラーのオーバープリントプリントオプション設定では、特定の背景色または他のスポットカラーの上にスポットカラーを重ねるために使用できるさまざまな方法を指定します。スポットカラーのオーバープリントに使用される方法は、オーバープリント動作を定義します。

以下の方法を使用できます。

- **標準** - 標準設定では、2つのスポットカラーまたはプロセスカラーを使用したスポットカラーのオーバープリントの結果として得られる色を計算する、最も一般的な方法である **CMYK** 追加機能が使用されます。最終的なチャンネル値は、チャンネルごとの背景色とスポットカラーの値の加算の結果です。
- **ビビッド** - ビビッド設定では、**L*a*b***または **XYZ** 色空間のオーバープリント計算を使用し、出力デバイスの実際のカラープロファイルに基づいてカラー数値を使用します。より正確で、標準設定で見られる典型的なクランプエラーを回避します。
- **ナチュラル** - ナチュラル設定では、書類の作成時にユーザーがスポットカラーチャンネルをプロセスカラーに結合できます。この方法では、すべてのチャンネルが **RGB** に変換され、**R**、**G**、**B** の各コンポーネントが **RGB** 値に乘算されます。

ブラックテキスト/グラフィック

ブラックテキスト/グラフィックオプションでの設定は、ブラックのテキストおよびベクトルグラフィックに適用されます。このオプションを純ブラック-オンに設定すると、アプリケーションによって生成されるブラック（たとえば、**RGB=0, 0, 0** または **CMYK=0%, 0%, 0%, 100%**）はブラックのみを使用して印刷されます。

ブラックテキスト/グラフィックを純ブラック-オンに設定している場合は、1つのインク/トナーのみを使用するため、ブラックのテキストおよびラインアートで印刷ずれが生じることはありません。また、この設定では好ましくないブラスティング効果も回避できます。これは、特定の用紙へのインク/トナーの量が多すぎるために印刷オブジェクトの境界線をはみ出してしまう問題です。

ジョブによっては、ブラックテキスト/グラフィックを普通設定することをお勧めします。たとえば、ブラックを使用したグラデーション塗りつぶしがジョブに含まれている場合は、普通設定によって最適な結果が得られます。

オーバープリント（純ブラック）をテキストまたはテキスト/グラフィックに設定している場合は、ブラックテキスト/グラフィックを純ブラック-オンに設定する必要があります。

メモ：ブラックテキスト/グラフィックオプションは、コンポジット印刷でのみ使用し、分版の出力には使用しません。

次の表に、異なる色空間で定義されたブラックデータによるブラックテキスト/グラフィックオプションの動作を示します。

カラー	ブラックテキスト/グラフィック：普通	ブラックテキスト/グラフィック：純ブラック-オンまたはリッチブラック-オン
RGB=0,0,0（その他すべてのRGB値はブラックテキスト/グラフィック設定の影響を受けません）	出力プロファイル内のRGB=0,0,0の定義に従って印刷されます。出力プロファイルでリッチブラックが指定されている場合はリッチブラック（複数のインク/トナーを使用したブラック）になり、出力プロファイルでRGB=0,0,0に対してブラックのみが指定されている場合はブラックのみになります。出力はキャリブレーションの影響を受けません。	純ブラック-オンの場合はブラックのみで、リッチブラック-オンの場合はブラックおよびシアンを使用して、ブラック 100%、シアン 50%で印刷されます。

カラー	ブラックテキスト/グラフィック：普通	ブラックテキスト/グラフィック：純ブラック-オンまたはリッチブラック-オン
<p>CMYK=0%, 0%, 0%, 100% (その他すべての CMYK 値はブラックテキスト/グラフィック設定の影響を受けません)</p>	<p>CMYK ソースと CMYK レンダリングインテントの設定に応じて、ブラックのみまたは、すべてのインク/トナーを使用したリッチブラックとして印刷されます。</p> <p>CMYK レンダリングインテントを純原色に設定している場合は、 CMYK=0%,0%,0%,100%で定義されたブラックがブラックのインク/トナーのみで印刷され、ブラックの量は CMYK ソースプロファイルとキャリブレーションにより制限されます。</p> <p>CMYK ソースを変換を省略に設定している場合、CMYK=0%,0%,0%,100%で定義されたブラックがブラックのインク/トナーのみで印刷され、ブラックの量は CMYK ソースプロファイルとキャリブレーションにより制限されます。</p> <p>CMYK レンダリングインテントが相対カラーメトリックに設定されている場合、CMYK=0%,0%,0%,100%は、出力プロファイルに従ってすべてのインク/トナーを使用したリッチブラックとして印刷されます。出力はキャリブレーションの影響を受けます。</p> <p>メモ：CMYK ソースを ColorWise オフに設定すると、CMYK ソースプロファイルおよびキャリブレーションは適用されなくなります。この場合、ブラックはキャリブレーションによる制限を受けません。</p>	<p>CMYK ソースと CMYK レンダリングインテントの設定にかかわらず、純ブラック-オンの場合はブラックのみで、リッチブラック-オンの場合は、ブラックおよびシアンを使用して、ブラック 100%、シアン 50%で印刷されます。</p>
<p>スポットカラー（ブラックテキスト/グラフィック設定の影響を受けません）</p>	<p>標準のスポットカラー処理</p>	<p>標準のスポットカラー処理</p>

メモ：PostScript アプリケーションの中には、印刷ジョブを Fiery server に送る前に、RGB=0, 0, 0 で定義されたブラックを 4 色の CMYK ブラックに変換するものがあります。これらのブラックは、ブラックテキスト/グラフィックオプションの影響を受けません。

オーバープリント（純ブラック用）

オーバープリント（純ブラック）オプションでは、RGB=0, 0, 0 または CMYK=0%, 0%, 0%, 100%で定義されたブラックのテキストのみまたはブラックテキストとベクトルグラフィックを、カラーの背景上にオーバープリント（重ね出力）するかどうかを指定します。このオプションをオフにすると、ブラックのテキストまたはブラックテキストとグラフィックのカラーの背景はノックアウト（くり抜き）されて出力されます。ノックアウトの場合は、カラーの版ずれによってオブジェクトの周りに白い境界線が表示されることがあります。

メモ：オーバープリント（純ブラック）は、ブラックテキスト/グラフィックが純ブラック-オンに設定されている場合のみ選択できます。

オーバープリント（純ブラック）オプションには、次の設定があります。

- テキスト - ブラックのテキストはカラーの背景上に重ねて出力されます。これにより、ブラックテキストと背景の間の隙間や版ずれの問題を回避できます。
- テキスト/グラフィック - ブラックのテキストとグラフィックはカラーの背景上に重ねて出力されます。これにより、ブラックテキストと背景の間の隙間や版ずれの問題を回避できます。
- オフ - ブラックのテキストとグラフィックのカラーの背景部分はロックアウト（くり抜き）されて出力されます。

メモ：PostScript アプリケーションによっては、印刷前に独自のオーバープリント変換が実行されることがあります。

この設定の使用法の例として、ブラックのテキストを淡いブルーの背景に表示するページを取り上げます。ブルーの背景は CMYK=40%, 30%, 0%, 0% です。ブラックのテキストは CMYK=0%, 0%, 0%, 100% です。

- オーバープリント（純ブラック）をテキストまたはテキスト/グラフィックに設定すると、ページの最終的なテキストまたはグラフィックの部分がオーバープリントされます（または背景色と組み合わせられます）。
- オーバープリント（純ブラック）をオフに設定すると、ブラックのテキストやグラフィックの境界線は、一方の側（テキストまたはグラフィックの外側）にシアンおよびマゼンタ、もう一方の側（テキストまたはグラフィックの内側）にブラックが使用されます。このため、プリンターの限界により、版ずれが起きることがあります。

メモ：CMYK が 0%, 0%, 0%, 100% でない場合、CMYK 各要素の再現は CMYK ソースの設定とキャリブレーションの影響を受けます。

プロファイル

Command WorkStation の Profile Manager では、Fiery server 上の ICC プロファイルを管理できます。Profile Manager の Color Editor では、既存の CMYK プロファイルからカスタムプロファイルを作成したり、AutoGray 機能を使用して出力プロファイルのグレースケールを調整したりできます。

Fiery server では、カラー管理に次の種類のプロファイルを使用します。

- RGB ソースプロファイルは、印刷ジョブの RGB（および Lab）カラーのソース色空間を定義します。通常、RGB プロファイルを使用しているデバイスは、モニター、スキャナー、デジタルカメラなどです。Fiery server では、RGB ソースプロファイルを使用して印刷ジョブの RGB カラーをプリンターの CMYK 色空間に正確に変換します。
- CMYK ソースプロファイルは、印刷ジョブの CMYK カラーのソース色空間を定義します。通常、CMYK プロファイルを使用しているデバイスは、印刷機、デジタルプリンターなどです。Fiery server では、CMYK ソースプロファイルを使用して印刷ジョブの CMYK カラーをプリンターの CMYK 色空間に正確に変換できます。
- グレースケールソースプロファイルは、印刷ジョブのグレースケール色のソース色空間を定義します。通常、グレースケールプロファイルを使用しているデバイスは、印刷機およびデジタルプリンターです。Fiery server では、グレースケールソースプロファイルを使用して印刷ジョブのグレースケールカラーをプリンターのグレースケール色空間に正確に変換できます。

- 出力プロファイルは、特定の種類の用紙に印刷する場合のプリンターの色特性を記述します。出力プロファイルには、プリンターの期待されるカラー出力濃度を記述するキャリブレーションが関連付けられます。出力プロファイルとその関連するキャリブレーションは、印刷ジョブのすべてのカラーデータに適用されます。
- デバイスリンクプロファイルは、特定のソース色空間から出力色空間への変換を記述します。デバイスリンクプロファイルには、変換元デバイスから変換先デバイスへの完全な変換が定義されているため、Fiery server は変換の計算を行いません。

Fiery server は 2 種類のデバイスリンクプロファイルをサポートします。RGB ソースから CMYK 出力先と CMYK ソースから CMYK 出力先への変換です。

デバイスリンクプロファイルには、ソースプロファイル設定（CMYK から CMYK へのデバイスリンクプロファイルの CMYK デバイスリンクと RGB から CMYK へのデバイスリンクプロファイルの RGB/Lab デバイスリンク）と出力プロファイル設定を関連付ける必要があります。これらが関連付けられていないと、デバイスリンクプロファイルをジョブで選択できません。

プロファイルプロパティを表示する

Command WorkStation の Profile Manager には、Fiery server 上のプロファイルに関する情報（デバイスや用紙タイプなど）が表示されます。

プロファイル名の左側にあるチェックマークは、このプロファイルが工場出荷時のデフォルトプロファイルであることを示しています。たとえば、RGB ソースプロファイルの sRGB (PC) プロファイルの横にあるチェックマークは、sRGB (PC) が RGB ソースオプションのデフォルト設定であることを意味しています。デフォルトプロファイルは、カラー管理ウィンドウで変更できます。

プロファイル名の左側にあるロックアイコンは、このプロファイルは工場出荷時にインストールされたもので、編集または削除できないことを示しています。

- 1 デバイスセンターのリソースでプロファイルをクリックします。
- 2 Profile Manager で、プロファイルをクリックして選択します。選択したプロファイルのプロパティが、ウィンドウの右側に表示されます。

プロファイルの色の範囲を比較する

使用するコンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合、Fiery Profile Inspector を使用して 2 つのプロファイルの色の範囲を比較できます。Profile Inspector には、色の範囲が 3 次元モデルで表示され、2 つの色の範囲で重なりのある色とそうでない色を確認できます。たとえば、プロファイル間で青の色相の範囲に違いがあります。

- 1 「デバイスセンター」のリソースタブでプロファイルをクリックし、プロファイルを選択します。
- 2 Ctrl キーを押しながら、もう 1 つのプロファイルを選択します（両方のプロファイルが選択状態になります）。
- 3 いずれかのプロファイルを右クリックしてプロファイルを比較を選択します。

Profile Inspector が別ウィンドウで開きます。Profile Inspector のヘルプアイコンをクリックすると、詳細な情報が表示されます。

プロファイルをインポートまたはエクスポートする

Command WorkStation の Profile Manager を使用すると、プロファイルを Fiery server にインポートして、Fiery server 上のジョブの印刷に使用することができます。Fiery server のソフトウェアの更新時などに、誤ってカスタムプロファイルを削除しないように、エクスポート機能を使用してプロファイルをバックアップしておいてください。

プロファイルをコンピューターにエクスポートして、Adobe Photoshop など ICC 対応のアプリケーションで使用することもできます。

プロファイルをインポートする

ソースプロファイル (RGB または CMYK)、出力プロファイル、またはデバイスリンクプロファイルを Fiery server にインポートすることができます。グレースケールのプロファイルは、インポートできません。

メモ：Windows の場合は、プロファイルのファイル名に拡張子.icc または.icm が付いていないと、インポート用には選択できません。macOS の場合は、プロファイルのファイルの種類が「profile」である必要があります。

- 1 デバイスセンターのリソースタブで、プロファイルをクリックし、インポートをクリックします。
- 2 場所リストでフォルダーを選択します。
- 3 インポートするプロファイルの場所を参照します。
- 4 プロファイルを選択し、開くをクリックします。
- 5 プロファイル設定ダイアログボックスが表示されたら、このプロファイル用の設定を選択し、OK をクリックします。

インポートしたプロファイルが、Fiery server にすでにあるプロファイルの置き換えではなく、新規のプロファイルである場合、プロファイル設定を設定します。

プロファイルをエクスポートする

プロファイルを Fiery server からエクスポートして、バックアップ手段としたり、Adobe Photoshop などの ICC 対応アプリケーションで使用したりすることができます。

- 1 「デバイスセンター」のリソースタブで、プロファイルをクリックします。
- 2 プロファイルを選択し、エクスポートをクリックします。
- 3 コンピューター上の保存先を指定し、フォルダ選択をクリックします。

プロファイルを作成または削除する

Command WorkStation の Profile Manager では、新しい出力プロファイルやデバイスリンクプロファイルを作成したり、不要になったプロファイルを削除したりできます。

新しいプロファイルを作成するには、コンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている必要があります。

出力プロファイルを作成する

使用するコンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合、Fiery Printer Profiler を使用して出力プロファイルを作成できます。

メモ：既存の出力プロファイルを Color Editor で編集して別名で保存することによって、出力プロファイルを作成することもできます。

Fiery Printer Profiler は、Command WorkStation の Profile Manager から起動できます。

- 1 「デバイスセンター」のリソースタブで、プロファイルをクリックします。
- 2 新規をクリックし、出力プロファイルを選択します。

Printer Profiler が別のウィンドウで開きます。Printer Profiler を使用した出力プロファイル作成の詳細については、Printer Profiler のオンラインヘルプを参照してください。

メモ：新しいキャリブレーション設定を作成した後、Command WorkStation の Calibrator から Fiery Printer Profiler を起動できます。

デバイスリンクプロファイルを作成する

使用しているコンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合、Fiery Device Linker を使用してデバイスリンクプロファイルを作成できます。

Fiery Device Linker は、Command WorkStation の Profile Manager から起動できます。

- 1 デバイスセンターのリソースでプロファイルをクリックします。
- 2 新規をクリックし、デバイスリンクを選択します。

Device Linker が別のウィンドウで開きます。Device Linker を使用したデバイスリンクプロファイル作成の詳細については、Device Linker のオンラインヘルプを参照してください。

プロファイルを削除する

不要になったプロファイルを削除できます。プロファイルを削除すると、Fiery server 上のディスク領域を解放できます。ロックアイコンの付いたプロファイルを削除することはできません。

- 1 デバイスセンターのリソースタブでプロファイルをクリックし、削除するプロファイルを選択します。
- 2 設定をクリックし、ドライバーのラベルを指定なしに設定して OK をクリックします。

メモ：ドライバーのラベルは Fiery server のモデルでは使用できません。このオプションが表示されない場合は、次の手順に進みます。

- 3 削除をクリックし、確認のためにはいをクリックします。

プロファイル設定を編集する

プロファイル設定は、Fiery server のプロファイル使用方法を決定する属性です。たとえば、説明や用紙の種類をプロファイルに割り当てることができます。プロファイル設定が、プロファイルの内容に影響を与えることはありません。

- 1 デバイスセンターで、リソースタブをクリックし、プロファイルをクリックします。
- 2 プロファイルを選択し、設定をクリックします。
- 3 プロファイル設定ウィンドウで、必要なオプションを設定し、OK をクリックします。選択できるオプションは、プロファイルの種類と Fiery server のモデルによって変わります。

すべてのプロファイルに共通の設定：

- プロファイルの説明 - プロファイルを識別する説明です。プロファイルがロックされている場合、説明は変更できません。

出力プロファイルにのみ適用可能な設定：

- 用紙の種類 - 出力プロファイルが関連付けられている 1 つまたは複数の用紙設定です。これらの設定は、特定の出力プロファイルが設定されたタイミングではなく、用紙設定によってジョブの出力プロファイルが決まったタイミングで使用されます。

用紙の種類が Fiery server で使用できない場合は、Paper Catalog またはメディアカタログを使用して、メディア定義プロファイルを設定します。

- キャリブレーション - 出力プロファイルに関連付けるキャリブレーションです。

デバイスリンクプロファイルにのみ適用可能な設定：

- CMYK ソースプロファイルまたは RGB ソースプロファイル - デバイスリンクプロファイルに関連付けられているソースプロファイル設定です。特定のソースプロファイル設定と出力プロファイル設定の組み合わせによって、ジョブのデバイスリンクプロファイルが選択されます。CMYK から CMYK へのデバイスリンクプロファイルには、CMYK ソースプロファイル設定があります。RGB から CMYK へのデバイスリンクプロファイルには、RGB ソースプロファイル設定があります。

メモ：CMYK ソースプロファイルを編集しても、CMYK ソースプロファイルに関連付けられているデバイスリンクプロファイルを使用する場合は、変更が適用されません。

- 出力プロファイル - デバイスリンクプロファイルに関連付けられている出力プロファイル設定です。

プロファイル内容を編集する

Command WorkStation には CMYK プロファイルを編集する Color Editor が用意されています。

Color Editor では、CMYK プロファイル (CMYK ソースプロファイルまたは出力プロファイル) を編集できます。プロファイルの濃度曲線を微調整するには、Color Editor を使用します。

使用しているコンピューターに Fiery Color Profiler Suite オプションがインストールされている場合は、Command WorkStation から Fiery Profile Editor にアクセスしてプロファイルを編集できます。出力プロファイルの色域を定義するカラーデータを編集できます。

Color Editor でプロファイルを編集する

Color Editor では、CMYK 濃度曲線やターゲット濃度などの機能を調整できます。

Color Editor で編集できるのは、Fiery server を使用する印刷だけです。それ以外のケースでプロファイルを使用する場合、プロファイルに影響はありません。

- 1 デバイスセンターで、リソースタブをクリックし、プロファイルをクリックします。
- 2 プロファイルを選択し、編集をクリックします。
- 3 Color Editor を選択します。

メモ： Fiery Color Profiler Suite がコンピューターにインストールされている場合は、次の手順に進みます。Color Editor が自動的に開きます。

- 4 Color Editor で、濃度曲線を調整します。微調整するには、一度に1つまたは2つのカラーのみを操作します。

Color Editor のグラフの曲線は、各カラーチャンネル（C、M、Y、K）の入力%と出力%を表しています。これらの%は、CMYK ハーフトーンドットのサイズを表しています。

- C、M、Y、K 曲線の表示/非表示を切り替えるには、各カラーの眼のアイコンをクリックします。
- 曲線を手前に表示するには、眼アイコンの横にあるカラーバーをクリックします。
- 表示している曲線の明るさを調整するには、プラスとマイナスのボタンを使用します。
- 曲線を調整するには、曲線上の点をドラッグするか、点をクリックして入力フィールドと出力フィールドに新しい値を入力するか、または、点をクリックして矢印キーで移動します。

メモ： 明るさを調整してから、曲線を調整してください。

- 5 出力プロファイルの場合：Fiery server によってキャリブレーションターゲットが出力プロファイル内に保存されている場合は、各カラー（C、M、Y、K）のキャリブレーションターゲットの最高濃度（D-Max 値）を変更することができます。

D-Max 値が表示されていない場合、使用している Fiery server ではキャリブレーションターゲットが出力プロファイルとは別に保存されることを示しています。この場合は、D-Max 値をキャリブレーターで表示して調整することができます。

警告 最高濃度値（D-Max 値）を変更することはできますが、D-Max 値は表示し確認するだけにしておくことをお勧めします。キャリブレーションターゲットは、キャリブレーションの理想的な値を表し、出力プロファイルはその値を含んでいます。キャリブレーションターゲットの値は、特に理由がない限りは変更しないでください。

- 6 出力プロファイルの場合：必要に応じて、AutoGray をクリックして出力プロファイルのグレーバランスを調整します。
- 7 CMYK ソースプロファイルの場合：Fiery server で用紙シミュレーションがサポートされている場合は、必要に応じて、用紙シミュレーションをクリックして白色点シミュレーションを設定します。
- 8 テストページを印刷します（オプション）。

9 操作が終了したら、**保存**をクリックし、新しいプロファイル用の名前を入力します。

注意 新しいプロファイル用の名前を入力しない場合は、編集済みのプロファイルがオリジナルを上書きしてしまいます。ロックアイコンの付いたプロファイルを編集して保存する場合は、それをコピーとして保存することしかできません。ロックアイコンの付いたプロファイルを上書きすることはできません。

Fiery Profile Editor でプロファイルを編集する

使用しているコンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合、Fiery Profile Editor を使用して出力プロファイルを編集することができます。Profile Editor を使用すると、レンダリングインテント、CMYK 濃度曲線などの全体的なカラー機能を調整できるだけでなく、特定の色相、カラー、またはプロファイル全域の中の特定のデータ点を調整することもできます。

- 1 「デバイスセンター」のリソースタブをクリックし、プロファイルをクリックします。
- 2 出力プロファイルを選択して、**編集**をクリックし、Fiery Profile Editor を選択します。

「Fiery Profile Editor」を使用したプロファイルの編集の詳細については、Profile Editor 画面上のヘルプアイコンをクリックしてください。

テストページを印刷する

Color Editor でプロファイルを編集した後、編集前後の画像を示すテストページを印刷できます。テストページは、独自のサンプル画像、または Fiery server で提供される比較ページのどちらかです。

比較ページを印刷する

Fiery server が提供する比較ページを印刷することができます。比較ページには、プロファイル編集を行った場合と行わなかった場合で、印刷される画像やカラーパッチの違いが表示されます。

- 1 デバイスセンターで、リソースタブをクリックし、プロファイルをクリックします。
- 2 プロファイルを選択し、**編集**をクリックします。Fiery Color Profiler Suite がコンピューターにインストールされている場合は、Color Editor を選択します。
- 3 Color Editor で、印刷テストをクリックします。
- 4 比較ページを選択し、用紙サイズと給紙トレイについて必要な設定を選択して、印刷をクリックします。

サンプル画像を印刷する

サンプル画像を作成してテストページを印刷することができます。サンプル画像ページは、待機キューにあるユーザー定義の CALIB.PS ファイルです。

- 1 グラフィックアプリケーションで、サンプル画像として使用するファイルを作成します。
- 2 サンプル画像を「CALIB.PS」の名前で、PostScript または EPS ファイル形式で保存します。

- 3 Command WorkStation で、ファイルを Fiery server の待機キューにインポートします。
- 4 ジョブセンターで、CALIB.PS ジョブをダブルクリックし、ページの印刷に使用するジョブのプロパティを設定します。
- 5 デバイスセンターで、リソースタブをクリックし、プロファイルをクリックします。
- 6 プロファイルを選択し、編集をクリックします。Fiery Color Profiler Suite がコンピューターにインストールされている場合は、Color Editor を選択します。
- 7 Color Editor で、印刷テストをクリックします。
- 8 サンプル画像ページを選択し、印刷をクリックします。

プロファイルのグレーバランスを調整する

AutoGray 機能では、出力プロファイルのグレーバランスを調整できます。グレーバランスは、プロファイル内のニュートラルグレーの色調の質を表します。多くの場合、グレーの色調には青みまたは赤みがかかったカラーキャストが含まれます。AutoGray では、こうした色調を調整してニュートラルグレーに近づけることができます。

プリンターのグレーバランスに問題がない場合は、AutoGray 機能を使用する必要はありません。

AutoGray 機能を使用するには、グレースケールストリップが必要です。グレースケールストリップがない場合は、プリンターのメーカーまたは Tiffen 社 (www.tiffen.com) から入手してください。

メモ：プリンターにスキャナーが内蔵されていない場合、AutoGray 機能は使用できません。

- 1 デバイスセンターで、リソースタブをクリックし、プロファイルをクリックします。
- 2 出力プロファイルを選択し、編集をクリックします。Fiery Color Profiler Suite がコンピューターにインストールされている場合は、Color Editor を選択します。
- 3 Color Editor で AutoGray をクリックします。
- 4 測定ページ印刷用の用紙をセットしているトレイを選択し、印刷をクリックします。用紙サイズは、自動的に LTR/A4 に設定されています。
- 5 プリンターから測定ページを回収します。
- 6 画面の指示に従ってグレースケールストリップと AutoGray 測定ページを複写機ガラス（原稿台ガラス）に配置し、続行をクリックします。
- 7 調整が完了したら OK をクリックします。

Color Editor に調整済み出力プロファイルの曲線が表示されます。AutoGray 機能により、上級ユーザーが手動で行うのと同等の方法で、グレーバランスを調整するための新しい編集ポイントが挿入されます。

- 8 AutoGray 調整を承認して結果を保存するには、保存をクリックします。
- 9 完了 (Windows) または閉じる (macOS) をクリックして、Color Editor を閉じます。

キャリブレーターの概要

Fiery 搭載プレスおよびプリンターには異なるタイプがあります。レーザーまたはインクジェット、モノクロまたは CMYK または拡張色域、特殊インクの有無などです。キャリブレーターは、各テクノロジーのさまざまなキャリブレーションニーズに対応できるように設計されています。

接続されている Fiery server 向けのキャリブレーター 2 は、従来の CMYK および白黒プレスのキャリブレーションに使用できます。

接続されている Fiery server 向けのキャリブレーター 3 は、濃度ベースのキャリブレーションおよび L*a*b* ベースのキャリブレーションワークフローで使用できます。キャリブレーター 3 では、従来の CMYK 製品とキャリブレーションセットを使用して、濃度ベースのキャリブレーションワークフローを自動的に選択します。キャリブレーター 3 は、展開されたインクセットで面付けされる時にはいつも、L*a*b* ベースのキャリブレーションワークフローに従います。

Command WorkStation に接続されている Fiery server 特有のキャリブレーターのヘルプは、キャリブレーターアプリケーションのヘルプアイコンから使用できます。

従来の CMYK および白黒印刷用のキャリブレーション

プリンターの出力は時間の経過および印刷条件によって変化します。キャリブレーションを行うことで、一貫性のある確実な出力を得ることができます。

キャリブレーションは現在の出力の濃度を測定し、印刷ジョブを望ましい出力の濃度（キャリブレーションターゲットまたはキャリブレーション目標）に調整します。ジョブに適用されるキャリブレーションは、ジョブ用の特定の出力プロファイルに関連付けられています。

キャリブレーションを変更すると、全ユーザーのすべてのジョブに影響を与える可能性があります。そのため、キャリブレーションを実行するユーザーを制限することをお勧めします。

一度に 1 人のユーザーのみがキャリブレーターを使用できます。別のユーザーがキャリブレーターを使用中にキャリブレーションをおこなおうとすると、エラーメッセージが表示されます。

キャリブレーターウィンドウの「ヘルプ」ボタンをクリックして『キャリブレーターのヘルプ』にアクセスします。

モノクロ印刷のキャリブレーション

カラーに関連する一部のキャリブレーション機能は、モノクロ印刷では使用できません。使用するインク/トナーを 1 つだけにすると、キャリブレーションが簡単になることがあります。

モノクロ印刷の場合：

- 出力プロファイルとキャリブレーション設定は選択できません。
- キャリブレーション測定値（曲線）を表示したり、テストページを印刷することはできません。
- 測定データをエクスポートまたはインポートすることはできません。キャリブレーションターゲットをインポートすることはできません。
- シングルパッチレイアウトでは、EFI 分光測色計のみ測定方法としてサポートされ、より正確なキャリブレーションが可能です。

キャリブレーションのワークフロー

Fiery server のキャリブレーションをおこなう際には、次のタスクを実行します。

- キャリブレーションページの印刷。特定のレイアウトで様々なカラー（または白黒プリンター用グレースケール）のパッチを含みます。このページを使用して、プリンターの現在の出力を測定します。

プリンターからの出力は、時間の経過と使用状況により変化します。現在のプリントデバイスのデータを
得るには、必ず新しく印刷したキャリブレーションページを測定してください。

- 分光測色計を使用して、キャリブレーションページのパッチのカラー値を測定します。
- 測定を適用する

測定データは特定のキャリブレーション設定と共に保存されます。特定のキャリブレーション設定を適用してジョブを印刷すると、この測定データを使用して、望ましいカラー（キャリブレーションターゲット）で出力するのに必要なキャリブレーションを算出します。

キャリブレーターを起動する

目的によりキャリブレーターの起動方法が異なります。

- 1 Fiery server で任意のキャリブレーション設定のキャリブレーションを行うには、次のいずれかを実行します。

- ジョブセンターのツールバーでキャリブレートアイコンをクリックします。
- デバイスセンターで、一般タブ、ツールタブ、キャリブレートの順にクリックします。

- 2 特定のジョブで使用されているキャリブレーション設定のキャリブレーションを行うには、ジョブセンターでジョブを選択し、サーバー>キャリブレートを選択します。

この方法を使用すると、キャリブレーションはこのジョブの印刷で使用されるキャリブレーション設定のみをアップデートします。

キャリブレーションページの印刷

キャリブレーションページを印刷する場合は、最初にキャリブレーション設定（カラープリンターの場合）、給紙方法、および測定方法を指定します。

- カラープリンターで希望のキャリブレーション設定を選択できない場合は、特定のジョブを選択してキャリブレーションを開始している可能性があります。特定のジョブに対してキャリブレーションを開始すると、該当ジョブの印刷に使用されるキャリブレーション設定のみが表示されます。

選択したキャリブレーション設定に関連付けられている最新のキャリブレーションの推奨用紙および日時が表示されます。キャリブレーション日時が表示されない場合は、このキャリブレーション設定を使用したキャリブレーションが Fiery server で実行されていません。

- 給紙方法には、キャリブレーション設定に合った適切な用紙が選択されていることを確認してください。給紙方法設定で警告メッセージが表示された場合は、給紙方法がキャリブレーション設定に適合していない可能性があります。他のキャリブレーション設定を選択するか、他の給紙方法を選択してください。

- 1 次のオプションを設定します。
 - カラープリンターの場合は、キャリブレードの一覧でキャリブレーション設定を選択します。
 - 給紙方法の一覧で、目的の給紙方法を選択します。
 - 測定方法の一覧で、方法を選択します。
- 2 続行をクリックしてキャリブレーションページを印刷し、測定に進みます。

分光測色計を使用してパッチを測定する

分光測色計を使用して、手動でカラーパッチを測定します。

分光測色計は、以下の手順で使用します。

- 分光測色計をキャリブレーションします。
- 分光測色計を使用して、キャリブレーションページを測定します。
- 測定値を表示および保存します。

キャリブレーターは、いくつかのタイプの分光測色計に対応しています。以下は、その代表的なものです。

- EFI ES-2000
- EFI ES-6000
- X-Rite i1Pro2

他のタイプの測定器の中にも、場合によっては、Fiery server に接続したプリンターでサポートされているものがあります。

EFI ES-2000 または X-Rite i1Pro2 を ES-1000 互換性モードで使用すると、インジケータランプが作動しない場合があります。分光測色計の状態を示すメッセージが、画面に表示されます。

分光測色計のキャリブレーション

分光測色計のキャリブレーションを行ってキャリブレーションページの測定に備える

ドックの白色タイルと測定器のアパーチャが両方とも汚れていないことを確認してください。白色タイルにカバーがかけられている場合は、必ずカバーを開けてください。

白色点キャリブレーションを使用し、分光測色計の時間の経過に伴う測定の変動を調整します。分光測色計をドックに設置し、サンプルアパーチャがキャリブレーションドックの白色タイルに完全に接触するようにしてください。キャリブレーションドックに正しく配置しないと、分光測色計は正確な測定を行うことができません。

正確なキャリブレーションを行うには、分光測色計のシリアル番号とドックのシリアル番号が一致している必要があります。

- 1 キャリブレーションページを印刷後、分光測色計をキャリブレーションドックに配置します。
- 2 続行をクリックするか、分光測色計のボタンを押します。

分光測色計のキャリブレーションが成功したら、キャリブレーションページの測定に進みます。

キャリブレーションページの測定

分光測色計を使用し、パッチの各ストリップを順番にスキャンすることによって、カラーパッチを測定します。

ストリップのスキャンが正しく行われると、ディスプレイインジケーターが緑に変わり、画面の矢印が次のストリップに移動します。ストリップのスキャンが正常に完了しない場合、ディスプレイインジケーターは赤色で表示され、再試行を指示するメッセージが表示されます。

- 1 正確な測定結果を得るには、キャリブレーションページの下に白い紙を数枚敷くか、使用可能な場合は、板を当てます。
- 2 ストリップが水平で、スキャン方向が左から右になるように、キャリブレーションページの方法を調整します(スキャン方向は、画面またはキャリブレーションページのストリップの端に矢印で示されています)。
- 3 分光測色計をスキャン方向に対して垂直に持ち、サンプルアパーチャの先端を、指定したストリップの開始地点にある白いスペースに配置します。
- 4 分光測色計のボタンを押したままにして、信号(画面上のメッセージまたはビープ音)を待ちます。
- 5 信号を確認したら、ゆっくりとした一定の速さで分光測色計をストリップの上でスライドさせます。
- 6 1つのストリップをスキャンするには、約5秒かかります。
- 7 ストリップ内の全パッチをスキャンし、ストリップの端の白い部分まで来たら、ボタンから指を離します。
- 8 画面に表示した順番で、すべてのストリップに同じ手順を繰り返します。
モノクロプリンターの場合、ストリップは1つです。
- 9 全ストリップのスキャンが完了したら、続行をクリックして、測定結果を確認します。

ColorCal を使用してパッチを測定する

ColorCal を使用すると、測定器を使用しなくても Fiery server のキャリブレーションを行うことができます。ColorCal は、プリントデバイスに内蔵されているスキャナーを使用して濃度を測定します。

モノクロプリンターの場合は、測定方法として ColorCal はサポートされていません。

メモ: 測定器を使用すると、ColorCal を使ったキャリブレーションよりも正確にキャリブレートできます。使用可能な場合は、分光測色計などの測定器を使用してキャリブレーションを行ってください。

ColorCal 測定では、次の作業を実行します。

- ColorCal 用にスキャナーを準備します。
- スキャナーを使用してキャリブレーションページを測定します。
- 測定結果を確認して、保存します。

スキャナーの準備

ColorCal 用にスキャナーを準備する場合は、スキャナーを使用して、カラーコントロールパッチストリップ、グレースケールストリップ、および印刷した ColorCal スキャナーページでパッチを測定します。カラーコン

トロールパッチストリップおよびグレースケールストリップは、Fiery server に付属のお客様用メディアパックに含まれています。

スキャナーを準備するかどうかは任意ですが、プリントデバイスのメンテナンスやサービス後にはスキャナーを準備することをお勧めします。また、プリントデバイスの出力品質の変化に気づいた場合にもスキャナーを準備してください。

- ColorCal 使用のキャリブレーションでは、スキャナーの準備はデフォルトでオンに設定されています。環境設定の ColorCal キャリブレーション用にスキャナーを準備チェックボックスをオフにすることにより、スキャナーの準備を省略することができます。
- ColorCal キャリブレーションを実行する場合、省略をクリックすると、スキャナーの準備をスキップして、直接測定に移行できます。

メモ：一部のタイプの Fiery server では、グレースケールストリップがない場合でもスキャナーの準備がサポートされています。この場合、Fiery server は、前回のスキャナー準備で取得した測定値を使用します。ColorCal キャリブレーションが初めての場合は、デフォルトの測定値が使用されます。最良の印刷結果を得るには、グレースケールストリップを使用してスキャナーを準備してください。

- 1 画面の指示に従って、グレースケールストリップ、カラーコントロールパッチストリップ、および ColorCal スキャナーページをガラス台（プラテン）の正しい位置に配置します。
 - a) グレースケールストリップを下向きにガラス（プラテン）台に置き、ColorCal スキャナーページの上端中央に配置します。
 - b) カラーコントロールパッチストリップを下向きにガラス（プラテン）台に置き、中央揃えになるようにグレースケールストリップの下に配置します。ストリップの間は 0.635～1.27 cm（0.25～0.5 インチ）空けます。
 - c) 最後に ColorCal スキャナーページを下向きにストリップ上に配置します。
- 2 スキャナーの準備を開始するには、続行をクリックします。
- 3 キャリブレーションページの測定に進むには、OK をクリックします。

ColorCal キャリブレーションページの測定

ColorCal のカラーパッチを測定する場合は、印刷した ColorCal キャリブレーションページと共に、グレースケールストリップを使用します。グレースケールストリップは、Fiery server に付属のお客様用メディアパックに含まれています。

スキャナーの準備をスキップしている場合を除き、スキャナーを準備した後で ColorCal キャリブレーションページを測定します。

- 1 必要に応じて、スキャナーの準備に使用した ColorCal スキャナーページおよびカラーコントロールパッチストリップを取り除きます。
- 2 グレースケールストリップを下向きにしてガラス台（プラテン）に置きます。ストリップをガラス台（プラテン）の上端に沿って置き、キャリブレーションページの上端中央と合うよう配置します。
- 3 ColorCal キャリブレーションページをグレースケールストリップの上に重ねて配置します。

ColorCal キャリブレーションページのカラーパッチがグレースケールストリップのパッチに重ならないように注意します。
- 4 グレースケールストリップと ColorCal キャリブレーションページが動かないように注意しながら、プリントデバイスのガラスカバーを閉じます。

- 5 続行をクリックして、ColorCal 測定を開始します。
- 6 測定が完了したら、OK をクリックして、測定結果を確認します。

代替測定器から測定値をインポートする

カラープリンターの場合は、代替測定器で取得した独自の測定データを使用し、測定値をテキストファイルに記録して、そのデータをキャリブレーターにインポートできます。測定データは、単純な ASCII ファイル形式 (SAIFF) であることが必要です。

ファイル名に拡張子「.cm0」または「.cm1」を付けてください。

- 1 キャリブレーターのメインウィンドウの測定方法の一覧から、ファイルから測定値をロードを選択します。
- 2 ファイルの保存場所を指定して、開くをクリックします。

測定データインポートのファイル形式

キャリブレーターに CMYK データをインポートする場合、パッチページの Status T 濃度測定の指定に特定のファイル形式が使用されます。この形式には、数多くの要件があります。

- ファイルは ASCII 形式である必要があります。
- 1 行目は「#!EFI 3」であることが必要です。
- 1 行目とデータとの間には、「type:1DST」の行が必要です。
- データは、1 行に 5 つの数値を含み、各数値が 1 文字以上のスペースで区切られている必要があります。数値の順序は、トナー/インクのパーセンテージ、シアン測定データ、マゼンタ測定データ、イエロー測定データ、ブラック測定データです。
- パーセンテージは、小数で指定します。たとえば、50%の場合は 0.5 や 0,5 と指定します。
- 測定データは、-0.1～3.0（両端を含む）の範囲で指定します。
- データの 1 行目には 0%サンプルの測定データが、最後の行には 100%サンプルの測定データが含まれている必要があります。その中間の行のパーセンテージは、昇順に並んでいることが必要です。
- データは、最大 256 行まで指定できます。
- コメントのある行は「#」で始め、その直後にスペースを入れます。コメントの行には、コメント以外のデータは挿入できません。

測定データは絶対値として扱われ、1 行目の濃度値を残りのパッチから減算することによって、用紙内での相対値に調整されます。

例：

```
#!EFI 3
# EFI ColorWise 2.0 Data
type:1DST
# percent Cyan Magenta Yellow Black
0.000 0.0300 0.0400 0.0200 0.0400
0.003 0.0600 0.0700 0.0800 0.0700
```


0.011 0.1000 0.1000 0.1000 0.1000

(途中省略)


0.980 1.6700 1.3400 0.8900 1.6700

1.000 1.7200 1.4300 0.9300 1.7500

測定結果の表示

キャリブレーションページの測定または測定データのインポートを行うと、測定結果を適用できるようになります。測定データを適用（保存）すると、既存のデータが上書きされます。カラーデータの場合は、グラフで測定データを表示して、適用する前にデータを確認できます。

測定結果は、各 C、M、Y、K の濃度曲線として表示されます。同じグラフ内に比較用にキャリブレーションターゲットデータが太線の曲線で表示され、最大濃度の数値が表示されます。

- 1 キャリブレーションページの測定またはファイルからの測定データのインポートが正常に行われた後、測定値の表示をクリックします。
- 2 曲線を表示/非表示にするには、該当するラベルの横にある  アイコンをクリックします。
 - 測定値 - 測定された濃度曲線を表示/非表示にします。
 - ターゲット - ターゲット濃度曲線を表示/非表示にします。
 - シアン、マゼンタ、イエロー、またはブラック - 特定の着色剤の測定された濃度曲線およびターゲット濃度曲線を表示/非表示にします。

視覚的な差

カラー測定では、視覚的な差のパーセンテージは、キャリブレーションの正確さを評価する上で便利な方法です。

測定データは、用紙の相対濃度単位（Status T）で表示されます。Fiery server は、濃度測定値の指数関数的性質を考慮する Murray-Davies 形式を使用して視覚的な差のパーセンテージを計算します。

測定した最大濃度がターゲット最大濃度より小さい場合は、プリントデバイスの出力が特定のキャリブレーション設定を使用して予想される濃度値に達していないことを意味します。この着色剤の 100%での出力濃度は、このタイプのプリンターで想定される出力の最大濃度には到達していません。多くの場合、シミュレートした CMYK の色空間はプリントデバイスで出力可能な最大濃度での出力を要求しないので、これは許容範囲内です。

測定した最大濃度がターゲット最大濃度より大きい場合、プリントデバイスの出力が特定のキャリブレーション設定を使用して予想される濃度値を上回っていることを意味しています。Fiery server では、キャリブレーションターゲットに合わせるため、着色剤の 100%の出力を指定する必要はありません。ただし、プリントデバイスで出力可能な色の範囲の全範囲は使用されません。

Adobe Photoshop などのアプリケーションは、0%（用紙白）から 100%（最大濃度）までの%単位を使用します。Adobe Photoshop で指定されている出力プロファイルが Fiery server のキャリブレーション済み状態に合ったものであることを（必要条件として）想定すると、たとえばシアンの視覚的相違が「-5%」の場合、Adobe Photoshop で指定したシアンのカラー値の 95%から 100%の値を出力できないことを表します。また、シアンの視覚的相違が「+5%」というのは、プリントデバイスが Adobe Photoshop で指定したすべてのシアン値およびその 5%増しの濃度で出力できることを表しています。

テストページを印刷する

カラープリンターの場合は、最新のキャリブレーション測定値のテストページを印刷できます。またオプションで、キャリブレーション設定の作成時に使用したデフォルト測定値を含む2枚目のページも印刷できます。

キャリブレーターテストページ

テストページを使用すると、現在のキャリブレーションとデフォルトのキャリブレーションで生成された出力を検証できます。デフォルトのキャリブレーションは、キャリブレーション設定の作成時に取得された測定データを使用して印刷されます。

テストページに含まれる一部の画像が満足のいく状態に表示されない場合は、キャリブレーション設定に関連付けられている出力プロファイルが用紙設定および印刷設定に適合していない可能性があります。

測定データをエクスポートする

カラープリンターの場合は、特定のキャリブレーション設定の測定データを.cm0ファイルにエクスポートできます。

- 1 測定データをエクスポートするには、次のいずれかを行います。
 - キャリブレーターで、キャリブレーションマネージャーを開きます。
 - Command WorkStation で、サーバー > デバイスセンターをクリックします。一般で、ツール、キャリブレーターをクリックしてキャリブレーションマネージャーを開きます。
- 2 キャリブレーション設定を選択し、測定値を表示をクリックします。
また、新しいキャリブレーション設定のキャリブレーションページを正常に測定した後で測定値の表示を開くこともできます。
- 3 測定値をエクスポートをクリックします。
- 4 ファイルを保存する場所を指定して、必要に応じてファイル名を変更して保存をクリックします。

測定データのリセット

特定のキャリブレーション設定の測定データを、デフォルトデータ（工場出荷時のデフォルトデータ、またはカスタムキャリブレーション設定の場合は初回測定データ）にリセットできます。このオプションは、現在の測定データがすでにデフォルトデータに設定されている場合は、使用できません。

カラープリンターの測定データをリセットする

カラープリンターの場合は、キャリブレーション設定が1つ以上存在する可能性があります。

- 1 Command WorkStation で、サーバー、 > デバイスセンターを順にクリックします。
- 2 一般で、ツール、続いてキャリブレーターをクリックします。

- 3 キャリブレーターで、キャリブレーションマネージャーを開きます。
- 4 キャリブレーション設定を選択し、測定値の表示をクリックします。
- 5 デフォルト測定値にリセット をクリックします。
- 6 はいをクリックして、操作の確認をします。

モノクロプリンターの測定データをリセットする

モノクロプリンターの場合は、キャリブレーション設定が1つだけあります。

- 1 Command WorkStation で、サーバー、> デバイスセンターを順にクリックします。
- 2 一般で、ツール、続いてキャリブレーターをクリックします。
- 3 キャリブレーターで、キャリブレーションマネージャーを開きます。
- 4 キャリブレーション設定を選択し、測定値の表示をクリックします。
- 5 デフォルト測定値にリセット をクリックします。
- 6 はいをクリックして、操作の確認をします。

デフォルト測定値へのリセットが役に立つ状況

場合によっては、デフォルトのキャリブレーション測定値に戻した方がよいことがあります。

その際には次の点に留意してください。

- アフターサービスが実施された後。
プリンターのカラー品質を向上させるためにサービス担当者が変更を加えた場合は、プリンターのカラーが、サービス実施前の前回のキャリブレーション時より、キャリブレーション設定の作成時の状態に近くなっている可能性があります。
- 現在の測定値の品質が不確かな場合。
新しくキャリブレーションを行った後でも、カラー品質がしだいに低下することがあります。そのような状況では、前回のキャリブレーション測定値が破損している可能性があります。たとえば、キャリブレーション計器に欠陥があったり、オペレーターの測定ミスキャリブレーターが検出しなかったことなどが原因です。

元の測定値に戻すと、プリンターがキャリブレーション設定の作成時と完全に同じ動作をする場合にのみ、その作成時と正確に同じカラーが再現されます。再キャリブレーションの前に測定値をリセットする必要はありません。再キャリブレーション処理が反復的でないからです。前回までのキャリブレーションセッションは完全に無視されて、新しい測定データが取得されます。

Calibrator 設定

Calibrator 設定ウィンドウの設定は、キャリブレーション手順のさまざまな面に影響します。キャリブレーション状況（有効期限）、キャリブレーション時間制限、ジョブの一時停止を設定できます。

メモ：環境設定を変更するには、システム管理者権限が必要です。

Command WorkStation では次のいずれかの方法で Fiery Calibrator を開くことができます。

- ジョブセンターで、ツールバーの**キャリブレート**アイコンをクリックします。
- サーバー > キャリブレートをクリックします。
- サーバー > デバイスセンターをクリックします。一般で、**ツール**、**Calibrator** をクリックします。

Fiery Calibrator ウィンドウで、左下角にある **Calibrator 設定** (歯車) アイコンをクリックします。

キャリブレーション方法およびパッチレイアウト

カラープリンターでは、デフォルトの測定方法とパッチレイアウトを設定できます。キャリブレーションページの印刷に使用できるパッチレイアウトは、パッチの順序とパッチの数によって異なります。

パッチの数が多いほど、生成される測定データが増え、より適切な結果が得られる可能性があります。ただし、パッチ数が多いほど測定時間が長くなります。

メモ: 推奨キャリブレーションパッチレイアウトが大きすぎてキャリブレーション時に選択したページサイズに合わない場合は、21 パッチレイアウトが自動的に選択されます。

- **ソート済み**パッチは、色相および彩度のレベル順にページに印刷されます。
- **ランダム**、**ランダム化**、または**未ソート**パッチは、印刷したページの各領域にある濃度のムラを補正するのに役立つように、ランダムな順序でページに印刷されます。
- Fiery server の ColorCal で**固定パターン**パッチレイアウトが使用可能な場合は、番号で指定できるカラーパッチがランダムなパターンで印刷されます。このレイアウトは、以前印刷したパターンと同じパターンを再度印刷する場合に便利です。

ColorCal 用のスキャナーを準備する

デフォルトのキャリブレーション方法として ColorCal を選択した場合は、Fiery server のキャリブレーションの前にデフォルトでスキャナーの準備を要求することができます。

プリントデバイスのメンテナンスやサービス後にはスキャナーを準備することをお勧めします。また、プリントデバイスの出力品質の変化に気づいた場合にもスキャナーを準備してください。環境設定で ColorCal キャリブレーション用にスキャナーを準備オプションを選択しない場合、スキャナーの準備はスキップされます。

メモ: スキャナーの準備は、ColorCal のみに影響します。プリントデバイスの他のスキャナー機能には影響がありません。

キャリブレーション状況 (有効期限)

キャリブレーションに時間制限を設定した場合、期限切れのキャリブレーションにより Command WorkStation では状況メッセージが表示され、ジョブが一時停止される可能性があります。

Command WorkStation では、ジョブセンターのジョブについて、キャリブレーションが 30 分以内に期限切れになる場合は黄色の警告アイコン/メッセージ、キャリブレーションがすでに期限切れの場合は赤色のエラーアイコン/メッセージが表示されます。

ジョブのキャリブレーションが期限切れの場合にジョブの印刷を試みると、Fiery server はジョブを一時停止させます。ジョブは印刷されず、一時停止の状態です印刷中キューに残ります。

キャリブレーション状況は、ジョブが印刷に送信される前に確認されます。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れになった場合は、ジョブは一時停止されません。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限

切れにならないように、印刷時間の長いジョブを実行する前にキャリブレーションを行うことをお勧めします。

一時停止状態のジョブを再確認してから、以下のいずれかを行うことができます。

- Fiery server をキャリブレートして、ジョブのキャリブレーション設定を開きます。キャリブレーションの測定値を更新した後、一時停止状態のジョブを選択し、印刷します。
- 「期限切れ」のキャリブレーション測定データを使用して、ジョブの印刷を続行します。該当ジョブにとって出力の一貫性が重要でない場合は、このオプションを選択してください。

キャリブレーション制限によって影響を受けるジョブのタイプ

Fiery server は、次のジョブに対して、キャリブレーションが期限内であるかどうかを検出できます。

- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE によってアプリケーションから送信されたジョブ。
- インポートされた PDF または TIFF ジョブ。
- 処理済みのジョブ（処理済みの VPS および VIPP ジョブを含む）。

Fiery server ではキャリブレーションが期限内であるか検出できず、次のジョブについてはジョブを一時停止にすることはできません。

- PCL および PDL ジョブ。
- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE を使用せずにアプリケーションから送信されたジョブ。未処理の VPS および VIPP ジョブが含まれます。
- 直接接続で送信されたジョブ。直接接続で送信されたジョブは一時停止にできません。

また Fiery server は、「強制印刷」コマンドを使用して印刷したジョブのキャリブレーション状況を確認しません。「強制印刷」コマンドは、ジョブのミスマッチ（ジョブに必要な用紙や仕上げが使用できない）のために一時停止されたジョブに使用されます。この種類のジョブは強制的に印刷するように設定されているため、キャリブレーション状況は確認できません。

キャリブレーションの時間制限およびジョブの一時停止を設定する

キャリブレーションの時間制限を設定し、キャリブレーションの制限時間が経過した場合に Command Workstation でジョブを一時停止するかどうかを設定できます。

- キャリブレーションの「環境設定」ダイアログボックスで、次のいずれか操作を実行します。
 - 有効期限を設定するには、時間制限を設定してジョブセンターに状況を表示するを選択して、時間（1～23 時間、または 1～200 日）を指定します。
 - ジョブの一時停止を有効にするには、キャリブレーションが期限切れの場合、印刷を一時停止するを選択します。

Printer Profiler の測定方法およびパッチレイアウト

Fiery server がカラー印刷をサポートしており、Fiery Color Profiler Suite がコンピューターにインストールされている場合は、カスタムキャリブレーション設定の作成後に、カスタム出力プロファイルを作成することができます。Printer Profiler のデフォルトの測定方法およびパッチレイアウトを設定できます。

Fiery Color Profiler Suite には測定方法の一覧および使用できるパッチレイアウトの一覧があります。

ColorCal はプロファイルの測定方法としては利用できません。ColorCal では正確なデータを生成することができません。

出力プロファイルのキャリブレーション設定

Fiery サーバーがカラー印刷をサポートしている場合は、1 つまたは複数のキャリブレーション設定にアクセスできます。通常、キャリブレーション設定および出力プロファイルは特定の用紙および印刷条件に適したもものになっています。キャリブレーション設定は、複数の出力プロファイルに関連付けることができます。

特定の出力プロファイルに関連付けられたキャリブレーションセットを確認するには、Command WorkStation のプロファイル設定を確認します。

キャリブレーション設定のジョブプロパティを表示する

キャリブレーション設定に関連付けられているジョブプロパティを表示できます。キャリブレーション設定は、同じジョブプロパティを持つジョブの印刷に適しています。これらのジョブプロパティは、キャリブレーションページの印刷に使用されます。

ジョブのプロパティウィンドウには、キャリブレーション設定に関連付けられているすべての印刷設定が表示されます。キャリブレーションに関連するものも、関連しないものも含まれます。設定は、キャリブレーション設定の作成時に指定されます。既存のキャリブレーション設定を変更することはできません。

印刷設定の多くは、キャリブレーションには影響を及ぼしません。ただし、(ハーフトーンスクリーンや解像度など) 画像の品質に影響を与える印刷設定は、キャリブレーションに影響します。

キャリブレーションページの印刷時には、ジョブのプロパティウィンドウのカラータブにある設定は無視されます。

- 1 Command WorkStation で、サーバー、> デバイスセンターを順にクリックします。
- 2 一般で、ツール、続いてキャリブレーターをクリックします。
- 3 キャリブレーターで、キャリブレーションマネージャーを開きます。
- 4 キャリブレーション設定をクリックして選択します。
- 5 プロパティ表示 をクリックして、キャリブレーション設定のジョブプロパティを表示します。

キャリブレーション設定の測定データを表示する

特定のキャリブレーション設定でキャリブレーションを行うと、測定データが保存されます。測定データは、キャリブレーションターゲットデータと共にグラフに表示することができます。それによって、測定したプリンター出力とキャリブレーションターゲットの一致の程度を確認できます。

- 1 Command WorkStation で、サーバー、> デバイスセンターを順にクリックします。
- 2 一般で、ツール、続いてキャリブレーターをクリックします。
- 3 キャリブレーターで、キャリブレーションマネージャーを開きます。
- 4 キャリブレーション設定をクリックして選択します。

- 5 測定値の表示 をクリックします。

カスタムキャリブレーション設定の作成

カスタムキャリブレーション設定を作成する際、分光測色計が測定方法として自動的に選択されます。ColorCal はカラリメトリック測定デバイスを使用しないため、測定方法としては使用できません。

カスタムキャリブレーション設定を作成するには、システム管理者の権限が必要です。

新しいキャリブレーション設定を作成した後、出力プロファイルと関連付けます。新しいキャリブレーション設定が既存の出力プロファイルと共に使用されると、用紙の種類によっては満足いく結果を得られない場合があります。印刷結果に不満が残る場合は、使用する用紙に基づいたカスタム出力プロファイルを作成してください。

- 既存の出力プロファイルを選択する場合は、使用する用紙に最も近い用紙用の出力プロファイルを選択してください。キャリブレーション設定と同じ名前を持ったこのプロファイルのコピーが作成されます。プロファイルの既存のキャリブレーションターゲットは、キャリブレーション測定値を使用して計算された新しいターゲットで上書きされます。新しいキャリブレーション設定はこのプロファイルに関連付けられます。
 - 新しいカスタム出力プロファイルを作成すると、プロファイル用測定ページが印刷されます。Fiery Color Profiler Suite の Printer Profiler を使用してページを測定します。できあがったプロファイルは Fiery server にインポートされ、新しいキャリブレーション設定と関連付けられます。
- 1 Command WorkStation の「デバイスセンター」で、一般タブ > ツールをクリックし、キャリブレートの下にある管理をクリックします。
 - 2 新規作成をクリックします。
 - 3 使用する用紙に一番ふさわしいキャリブレーション設定を選択するか、サーバーのデフォルトを選択して OK をクリックします。
 - 4 キャリブレーション設定に付ける名前を入力します。
 - 5 (省略可能) 推奨用紙に用紙の名前を入力します。
 - 6 (省略可能) 用紙再注文番号に用紙の製品 ID 番号を入力します。
この情報は通常、用紙のパッケージ上に記載されています。推奨用紙については、再注文番号を使用してインターネットで検索してください。
 - 7 (省略可能) コメントフィールドに、その他に必要な情報を入力します。
 - 8 キャリブレーションに関連するプロパティ (印刷設定) の一覧を確認します。
 - 9 印刷設定を変更するには、プロパティをクリックして項目内容を変更し、OK をクリックします。
キャリブレーションページの測定を妨げることになる設定 (仕上げオプションなど) は選択しないでください。
 - 10 続行をクリックします。
 - 11 キャリブレーションページ印刷用の給紙方法を選択し、続行をクリックします。
 - 12 画面上の指示に従い、キャリブレーションページを測定します。

13 テストページを印刷するには、測定値を表示、次に印刷テストをクリックします。

テストページを印刷して、キャリブレーション設定を既存の出力プロファイルと関連付けるか、または新しい出力プロファイルを作成するかどうかを判断してください。

14 新しいキャリブレーション設定を出力プロファイルと関連付けるには、次のいずれかの操作を行います。

- Fiery server 上のプロファイル一覧から出力プロファイルを選択します。
- コンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合は、新規プロファイル作成をクリックし、Fiery Color Profiler Suite を使用して新しいカスタム出力プロファイルを作成できます。

キャリブレーションターゲットを編集する

特定のキャリブレーション設定に関連付けられているキャリブレーションターゲットの最大濃度 (D-Max 値) は、キャリブレーション設定の作成時に編集できます。インク/トナー (C、M、Y、K) ごとに新しい値を入力するか、ファイルからキャリブレーションターゲットをインポートできます。

編集されたターゲットデータは、現在の測定データを適用する際に、このキャリブレーション設定に現在関連付けられているターゲットデータを上書きします。

この Fiery サーバーで使用する既存のプロファイルとキャリブレーションターゲットが別の Fiery サーバーにある場合は、ファイルからターゲットデータをインポートします。ただし、最良の結果を得るには、この Fiery サーバーおよびそのプリンター専用で作成したプロファイルとキャリブレーションデータを使用します。

最大濃度値は編集できますが、編集の際は注意が必要です。キャリブレーションターゲットはキャリブレーションの理想的な値を表しており、不必要に変更しないでください。

1 新しいキャリブレーション設定のキャリブレーションページを正常に測定できたら、測定値の表示をクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- ターゲットに D-Max 値の新しい値を入力します。
- ターゲットインポートをクリックし、ファイルの場所を参照してファイルを選択し、開くをクリックします。

単調な測定値を含んだファイルのみ、インポートされたターゲットとして許容されます。

3 キャリブレーション設定の作成を続行します。

キャリブレーション設定の編集

カスタムキャリブレーション設定の基礎的情報を編集することができます。工場出荷時に提供されているキャリブレーション設定は編集できません。

キャリブレーション設定と共に保存されている測定データは無効になるため、ジョブのプロパティ (印刷設定) は編集できません。キャリブレーション設定のジョブのプロパティを編集するには、既存の設定に基づいて新しいキャリブレーション設定を作成します。

カスタムキャリブレーション設定を編集するには、システム管理者権限が必要です。

1 Command WorkStation の「デバイスセンター」で、一般タブ > ツールをクリックし、キャリブレートの下にある管理をクリックします。

- 2 編集するキャリブレーション設定を選択し、**編集**をクリックします。
- 3 以下の情報を指定します。
 - **名前** - 用紙名、坪量、用紙の種類のほか印刷設定の特徴（ハーフトーン、グロス設定など）がわかるような名前を入力してください。70 文字まで入力できます。
 - **推奨用紙** - 使用する用紙名を入力します。
 - **用紙注文番号** - 用紙の製品 ID 番号を入力します。この情報は通常、用紙のパッケージに記載されています。
 - **コメント** - (オプション) 追加情報を入力します。この情報は、Fiery server で使用できるキャリブレーション設定の一覧に表示されます。

カスタムキャリブレーション設定を削除する

デフォルトの出力プロファイルに関連付けられているキャリブレーション設定を削除することはできません。工場出荷時に提供されたキャリブレーション設定は削除できません。

カスタムキャリブレーション設定を削除するには、システム管理者権限が必要です。

- 1 Command WorkStation でキャリブレーターを開くには、**デバイスセンター**を開き、一般で**ツール**をクリックし、**キャリブレート**で**管理**をクリックします。
- 2 削除するキャリブレーション設定を一覧から選択し、**削除**をクリックします。

Calibrator 3

Fiery 搭載プレスおよびプリンターには異なるタイプがあります。レーザーまたはインクジェット、モノクロ、CMYK または拡張色域、特殊インクの有無などです。Calibrator は、各テクノロジーのさまざまなキャリブレーションニーズに対応できるように設計されています。

Command WorkStation および Fiery Color Profiler Suite は、システムに最適なバージョンの Calibrator を自動的に起動します。Calibrator は、接続している Fiery server に合わせて自動的に設定されます。すべてのプレスにすべての機能が必要なわけではありません。たとえば、ほとんどのレーザープリンターでは、個々のインクのトナー量を制限する必要はありませんが、インクの場合は様々なサブストレートによるインク吸収率の変動がトナーの場合よりはるかに大きくなるため、インクプレスではこの設定が必要となります。

ほとんどの Fiery 搭載モノクロプレスおよび CMYK プレスは濃度測定値を使用してキャリブレート CMYK +は通常、L*a*b*測定値を使用してキャリブレートされます。

Calibrator を使用すると、Fiery server で新しいキャリブレーション設定を作成するか、既存のキャリブレーション設定をアップデートできます。

Command WorkStation の Calibrator と同様に、Fiery Color Profiler Suite の Calibrator では、新しいキャリブレーション設定を作成したり、既存の設定の再キャリブレートを行うことができます。ただし Command WorkStation で使用できないさまざまな測定器のサポートが必要です。

Calibrator の 2 つの主な機能は次のとおりです。

- **再キャリブレート** - キャリブレーションを新しい測定値でアップデートします。多くのプレスの出力は時間によって変化します。Fiery server でこのような変動を補正するには、補正テーブルを新しい測定値でアップデートする必要があります。
- **キャリブレーションの作成** - 新しいキャリブレーションを作成します。Fiery Color Profiler Suite がインストールおよびライセンスされている場合は、新しいプロファイルを作成します。このタスクが必要になるのは、特定の印刷条件（インクセット、ハーフトーン、サブストレートなどの組み合わせ）の場合に既存のキャリブレーションで容認できる出力が得られない場合です。たとえば、グラデーションやインクの付着が悪いといった場合です。カラー管理で正確なカラーを実現するため、多くの場合、新しいキャリブレーションでは新しいプロファイルが必要です。

ウィンドウの左下にある 2 つのアイコンから、2 つの管理機能にアクセスできます。これらの設定は、個々の Fiery server に固有のもので、それぞれのサーバーに保存されます。これらはすべてのユーザーに影響するため、次の機能は Command WorkStation から Fiery システム管理者としてログインした場合にのみ使用できます。

- **Calibrator 設定** - 各プレスの環境設定に使用します。ここでは、一部のプレスモデルで使用可能なキャリブレーション前およびキャリブレーション後の設定を指定できます。また、すべてのモデルでは、システム管理者が指定した時間内に適用可能なキャリブレーションが再キャリブレートされていない場合に、警告を表示したり、さらにはジョブの印刷を防止したりすることもできます。
- **キャリブレーションマネージャー**は、Fiery server で使用可能なキャリブレーションを表示するために使用されます。最新のアップデート日や測定値やプロパティが表示されます。ユーザーが追加したキャリブレーションは削除でき、その名前も変更できます。

接続されている Fiery server の Calibrator は、次のワークフローで使用できます。Calibrator 3 では、従来の CMYK 製品とキャリブレーションセットを使用して、濃度ベースのキャリブレーションワークフローを自動的に選択します。Calibrator 3 は、展開されたインクセットで面付けされるときにはいつも、L*a*b* ベースのキャリブレーションワークフローに従います。

- [濃度ベースのキャリブレーションワークフロー](#) (164 ページ)
- [L*a*b*ベースのキャリブレーションワークフロー](#) (176 ページ)
- [インクジェット Delta E ベースのキャリブレーションワークフロー](#) (189 ページ)

分光測色計を使用してパッチを測定する

分光測色計を使用して、手動でカラーパッチを測定します。

分光測色計は、以下の手順で使用します。

- 分光測色計をキャリブレーションします。
- 分光測色計を使用して、キャリブレーションページを測定します。
- 測定値を表示および保存します。

Fiery Calibrator は通常、次のような EFI ブランド測定器を標準サポートしています。

- EFI ES-2000
- EFI ES-3000

その他のタイプの測定器の中には、Fiery server に接続したプリンターでサポートされているものもあります。

分光測色計のキャリブレーション

分光測色計のキャリブレーションを行ってキャリブレーションページの測定に備える

ドックの白色タイルと測定器のアパーチャが両方とも汚れていないことを確認してください。白色タイルにカバーがかけられている場合は、必ずカバーを開けてください。

白色点キャリブレーションを使用し、分光測色計の時間の経過に伴う測定の変動を調整します。分光測色計をドックに設置し、サンプルアパーチャがキャリブレーションドックの白色タイルに完全に接触するようにしてください。キャリブレーションドックに正しく配置しないと、分光測色計は正確な測定を行うことができません。

正確なキャリブレーションを行うには、分光測色計のシリアル番号とドックのシリアル番号が一致している必要があります。

- 1 キャリブレーションページを印刷後、分光測色計をキャリブレーションドックに配置します。
- 2 続行をクリックするか、分光測色計のボタンを押します。

分光測色計のキャリブレーションが成功したら、キャリブレーションページの測定に進みます。

キャリブレーションページの測定

分光測色計を使用し、パッチの各ストリップを順番にスキャンすることによって、カラーパッチを測定します。

ストリップのスキャンが正しく行われると、ディスプレイインジケータが緑に変わり、画面の矢印が次のストリップに移動します。ストリップのスキャンが正常に完了しない場合、ディスプレイインジケータは赤色で表示され、再試行を指示するメッセージが表示されます。

- 1 正確な測定結果を得るには、キャリブレーションページの下に白い紙を数枚敷くか、使用可能な場合は、板を当てます。
- 2 ストリップが水平で、スキャン方向が左から右になるように、キャリブレーションページの方角を調整します(スキャン方向は、画面またはキャリブレーションページのストリップの端に矢印で示されています)。
- 3 分光測色計をスキャン方向に対して垂直に持ち、サンプルアパーチャの先端を、指定したストリップの開始地点にある白いスペースに配置します。
- 4 分光測色計のボタンを押したままにして、信号(画面上のメッセージまたはビーブ音)を待ちます。
- 5 信号を確認したら、ゆっくりとした一定の速さで分光測色計をストリップの上でスライドさせます。
- 6 1つのストリップをスキャンするには、約5秒かかります。
- 7 ストリップ内の全パッチをスキャンし、ストリップの端の白い部分まで来たら、ボタンから指を離します。
- 8 画面に表示した順番で、すべてのストリップに同じ手順を繰り返します。
モノクロプリンターの場合、ストリップは1つです。
- 9 全ストリップのスキャンが完了したら、続行をクリックして、測定結果を確認します。

濃度ベースのキャリブレーションワークフロー

Fiery server のキャリブレーションを行う際には、次のタスクを実行します。

- キャリブレーションページの印刷。特定のレイアウトで様々なカラー（または白黒プリンター用グレースケール）のパッチを含みます。このページを使用して、プリンターの現在の出力を測定します。

プリンターからの出力は、時間の経過と使用状況により変化します。現在のプリントデバイスのデータを
得るには、必ず新しく印刷したキャリブレーションページを測定してください。

- 分光測色計を使用して、キャリブレーションページのパッチのカラー値を測定します。
- 測定を適用する

測定データは特定のキャリブレーション設定と共に保存されます。特定のキャリブレーション設定を適用してジョブを印刷すると、この測定データを使用して、望ましいカラー（キャリブレーションターゲット）で出力するのに必要なキャリブレーションを算出します。

タスクの選択

キャリブレーターを起動すると、Fiery server 用に新しいキャリブレーション設定を作成するか、既存の設定をアップデートできます。

- 1 キャリブレーターを起動します。
- 2 Fiery server からキャリブレーターを開始している場合は、タスクの選択画面で Fiery サーバーの選択をクリックし、一覧から Fiery server を選択します。Fiery server がリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。
- 3 次のいずれかのタスクを選択します。
 - 再キャリブレート：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。
 - キャリブレーションの作成：Fiery server 上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。

- 4 次へをクリックします。

メモ： 選択したタスクを完了するために必要な手順の数は、接続されているプリンターによって異なります。使用しているプリンターのモデルによっては、一部の設定やオプションが使用できない場合があります。

サーバーのキャリブレーションの作成

キャリブレーションを作成するには、名前などの詳細情報を必要に応じて入力します。

必要な情報は、キャリブレーションを行っている Fiery server やプリンターによって異なります。たとえば、カラーモードフィールドや G7 グレーバランスのチェックボックスが表示されない場合があります。

- 1 任意のキャリブレーション名を入力します。

メモ： キャリブレーション名は、各サーバーで一意である必要があります。入力する名前は、サーバー上のキャリブレーション設定やプロファイルでまだ使用されていないものにする必要があります。

- 2 オプション： G7 グレーバランスキャリブレーションターゲットチェックボックスを選択します。
 G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（パッチページ）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。

メモ： G7 グレーバランスを使用するには、Fiery Color Profiler Suite をインストールしライセンスを取得する必要があります。そうしないと、オプションはグレー表示されています。
- 3 オプション： コメントフィールドに、用紙名、用紙の種類、特別な設定、指示などキャリブレーションの詳細を入力します。

メモ： キャリブレーション設定を作成する際、再キャリブレートに必要な用紙の種類、使用プリンター、およびすべての特別な指示をジョブ注釈メモフィールドに記録することをお勧めします。
- 4 オプション： 次へボタンの横にある下矢印を選択し、ファイルから測定値をロードを選択すると、印刷および測定ワークフローを省略できます。このオプションは、プリンターの測定値をすでに持っている上級ユーザー向けのもので、必ず実際のプリンターで印刷して測定することをお勧めします。
- 5 次へをクリックします。

G7 キャリブレーションのワークフロー

G7 キャリブレーションは、Fiery server プロファイリング測定パッチのキャリブレーションと印刷を行います。

G7 キャリブレーションはキャリブレーションの Fiery server 上部に適用されます。G7 キャリブレーション処理が開始されると、ユーザーは、使用する P2P ターゲットのパッチレイアウトを選択し、それを測定して結果を確認してから、必要に応じて設定の調整を行います。

G7 仕様では、異なるプリンターで一般的でニュートラルな見た目の出力を作成するのに使用できる、標準的なグレースケール曲線が定義されています。G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（P2P ターゲット）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。Fiery Color Profiler Suite G7 キャリブレーションに使用されるさまざまな P2P ターゲットの印刷と測定をサポートします。任意の対応測定器で測定することができます。

- 1 パッチレイアウトウィンドウで、使用するパッチセットを次から選択します。

- P2P51（新しいターゲット、オリジナルのリビジョン）
- P2P25Xa（オリジナルのターゲット）
- P2P51 ランダム
- P2P51 ランダム 2-up（カットシートトナープレスに推奨）

メモ： ターゲットで実際に使用される値は同じですが、新しいバージョンは、G7 仕様のより正確なバージョンです。

- 2 印刷をクリックしてパッチページを測定します。

- 3 G7 グレーバランスの測定結果を確認します。

これは G7 キャリブレーションの実行であるため、結果が不合格になることが予想されます。G7 キャリブレーションに必要な NPDC 曲線の計算に使用されるのは、このターゲットの測定結果です。

NPDC（Neutral Print Density Curve）は、CMY（コンポジット）と K（ブラック）に分かれて表示されます。グレーバランスは、 $a*b^*$ としてプロットされます。テーブルでは、加重平均をグリーンで表示するには 1.5 未満にする必要があります。加重最大をグリーンで表示するには 3 未満にする必要があります。

- 4 補正オプションをクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。
デフォルトのまま使用するか、変更します。
- 5 OK をクリックして、NPDC 曲線を適用して P2P パッチページをもう一度印刷します。
- 6 パッチページを測定し、G7 の結果を表示します。
- 7 G7 結果が合格の（すべての結果がグリーンで表示される）場合は、次へをクリックします。結果が失敗の（赤で強調表示されている結果）場合は、反復 をクリックして処理を繰り返します。G7 準拠に合格するために処理を 2〜3 回繰り返す必要があることもまれではありません。

キャリブレーションページを印刷する

キャリブレーションページを印刷する場合は、まずキャリブレーション設定（カラープリンター）、給紙方法、測定方法を指定します。

メモ：分光測色計をキャリブレートしてキャリブレーションページの測定準備をおこないます。

- 特定のジョブに対してキャリブレーションを開始すると、ジョブの印刷に使用されたキャリブレーション設定のみが表示されます。複数のキャリブレーション設定は、通常、用紙種類の混合ジョブで使用されません。

選択したキャリブレーション設定に関連付けられている最新のキャリブレーション測定の推奨用紙および日時が表示されます。日付と時刻が表示されない場合は、Fiery server がキャリブレートされていないことを示します（このキャリブレーション設定の場合）。

- 給紙トレイには、キャリブレーション設定に合った適切な用紙が含まれていることを確認してください。給紙方法設定で警告メッセージが表示された場合は、給紙方法がキャリブレーション設定に適合していない可能性があります。他のキャリブレーション設定を選択するか、他の給紙方法を選択してください。

お使いの用紙と完全に一致するキャリブレーション設定がない場合は、似た用紙で利用可能な設定を試すことができます。満足できる結果が得られない場合は、用紙に合わせて新しいキャリブレーションとプロフィールを作成する必要があります。

- 1 次のオプションを設定します。

- カラープリンターの場合、キャリブレートリストでキャリブレーション設定を選択します。
- 給紙方法リストから、使用する給紙トレイを選択します。
- 測定方法リストで方法を選択します。

キャリブレーターは、複数の種類の分光測色計（EFI ES-3000 や X-Rite i1Pro3 など）をサポートしています。

選択した機器を使用したキャリブレーションで測定オプションを使用できる場合、測定器の近くに設定ボタンが表示されます。

その他のタイプの測定器の中には、Fiery server に接続したプリンターでサポートされているものもあります。

- 2 続行をクリックしてキャリブレーションページを印刷し、測定手順に進みます。

キャリブレーション設定のカラー出力プロファイルを作成する

カラー出力プロファイルを作成できるようにするには、Fiery Color Profiler Suite がキャリブレーターと同じコンピュータにインストールされ、ライセンスされている必要があります。カスタムキャリブレーション設定を作成する際、分光測色計が測定方法として自動的に選択されます。ColorCal はカラリメトリック測定デバイスを使用しないため、測定方法としては使用できません。

カスタムキャリブレーション設定を作成するには、システム管理者権限が必要です。

新しいキャリブレーション設定を作成した後、出力プロファイルと関連付けます。新しいキャリブレーション設定が既存の出力プロファイルと共に使用されると、用紙の種類によっては満足のいく結果を得られない場合があります。印刷結果に不満が残る場合は、使用する用紙に基づいたカスタム出力プロファイルを作成してください。

- 既存の出力プロファイルを選択する場合は、使用する用紙に最も近い用紙用の出力プロファイルを選択してください。キャリブレーション設定と同じ名前を持つ、このプロファイルのコピーが作成されます。プロファイルの既存のキャリブレーションターゲット（目標）は、キャリブレーション測定値を使用して計算された新しいターゲットに変わります。新しいキャリブレーション設定は、このプロファイルに関連付けられます。
- 新しいカスタム出力プロファイルを作成すると、プロファイリング用測定ページが印刷されます。Fiery Color Profiler Suite の Printer Profiler を使用してページを測定します。できあがったプロファイルは Fiery server にインポートされ、新しいキャリブレーション設定と関連付けられます。

1 Fiery server 上のプロファイル一覧から出力プロファイルを選択します。

キャリブレーターが出力プロファイルを複製し、その名前を変更します。

2 テスト ページをクリックします。

テストページを印刷すると、キャリブレーション設定を、現在選択されている出力プロファイルのコピーに関連付けるか、新しい出力プロファイルを作成するかを判断するうえで役に立ちます。

3 Fiery Color Profiler Suite がコンピュータにインストールされている場合は、新規プロファイル作成をクリックして、新しいカスタム出力プロファイルを作成します。

測定結果の表示

キャリブレーションページの測定または測定値のインポートが完了したら、測定結果をいつでも適用することができます。測定データを適用（保存）すると、既存のデータは上書きされます。カラーデータの場合は、測定データをグラフに表示して、適用する前にデータを確認することができます。

測定結果は、C、M、Y、K の濃度曲線のセットとして表示されます。同じグラフに、比較のためにキャリブレーションターゲットデータが太線の濃度曲線のセットとして表示され、最大濃度値が数値的に比較されません。

1 キャリブレーションマネージャーで、キャリブレーションを選択し、測定値の表示をクリックします。

2 曲線の表示/非表示を切り替えるには、次のうちの該当するラベルの隣にある☑アイコンをクリックします。

- 測定値 - 測定濃度曲線を表示または非表示にします。
- ターゲット - ターゲット濃度曲線を表示または非表示にします。
- シアン、マゼンタ、イエロー、またはブラック - 特定のインク/トナーの測定濃度曲線とターゲット濃度曲線を表示または非表示にします。

メモ：Fiery server がインストールされライセンスされている場合は、Calibrator で G7 キャリブレーションを作成することもできます。G7 キャリブレーションでは、G7 グレーバランスに到達するためにトランスファー曲線が Fiery サーバーのキャリブレーションターゲットに適用されます。キャリブレーションマネージャーは、一時的な G7 のトランスファー曲線ではなく、基本となる標準的な Fiery サーバーのキャリブレーションターゲットを表示します。同様に、標準的な Fiery サーバーのターゲットにとってキャリブレーションされた状態に到達するのに使用されるトランスファー曲線は、キャリブレーションマネージャーでは表示されません。これらのトランスファー曲線は、再キャリブレーションのたびに再計算されるので、一時的です。

- 3 オプション：測定値を保存をクリックして、既存のキャリブレーション設定の測定データを保存します。
- 4 オプション：最新の測定結果が満足のいくものではない場合、デフォルト測定値にリセットをクリックしてキャリブレーションデータをリセットします。このアクションを実行すると、キャリブレーター測定値の最後のセットが削除されます。このボタンは、再キャリブレーションを実行した場合にのみ表示されません。

テストページを印刷する

カラープリンターの場合は、最新のキャリブレーション測定値のテストページを印刷できます。またオプションで、キャリブレーション設定の作成時に使用したデフォルト測定値を含む 2 枚目のページも印刷できます。

キャリブレーターテストページ

テストページを使用すると、現在のキャリブレーションとデフォルトのキャリブレーションで生成された出力を検証できます。デフォルトのキャリブレーションは、キャリブレーション設定の作成時に取得された測定データを使用して印刷されます。

テストページに含まれる一部の画像が満足のいく状態に表示されない場合は、キャリブレーション設定に関連付けられている出力プロファイルが用紙設定および印刷設定に適合していない可能性があります。

測定データをエクスポートする

カラープリンターの場合は、特定のキャリブレーション設定の測定データを .cm0 ファイルにエクスポートできます。

- 1 測定データをエクスポートするには、次のいずれかを行います。
- キャリブレーターで、キャリブレーションマネージャーを開きます。
 - Command WorkStation で、サーバー > デバイスセンターをクリックします。一般で、ツール、キャリブレーターをクリックしてキャリブレーションマネージャーを開きます。

- 2 キャリブレーション設定を選択し、測定値を表示をクリックします。
 また、新しいキャリブレーション設定のキャリブレーションページを正常に測定した後で測定値の表示を開くこともできます。
- 3 測定値をエクスポートをクリックします。
- 4 ファイルを保存する場所を指定して、必要に応じてファイル名を変更して保存をクリックします。

測定データのリセット

特定のキャリブレーション設定の測定データを、デフォルトデータ（工場出荷時のデフォルトデータ、またはカスタムキャリブレーション設定の場合は初回測定データ）にリセットできます。このオプションは、現在の測定データがすでにデフォルトデータに設定されている場合は、使用できません。

カラープリンターの測定データをリセットする

カラープリンターの場合は、キャリブレーション設定が1つ以上存在する可能性があります。

- 1 Command WorkStation で、サーバー、> デバイスセンターを順にクリックします。
- 2 一般で、ツール、続いてキャリブレーターをクリックします。
- 3 キャリブレーターで、キャリブレーションマネージャーを開きます。
- 4 キャリブレーション設定を選択し、測定値の表示をクリックします。
- 5 デフォルト測定値にリセットをクリックします。
- 6 はいをクリックして、操作の確認をします。

Calibrator 設定

Calibrator 設定ウィンドウの設定は、キャリブレーション手順のさまざまな面に影響します。キャリブレーション状況（有効期限）、キャリブレーション時間制限、ジョブの一時停止を設定できます。

メモ：環境設定を変更するには、システム管理者権限が必要です。

Command WorkStation では次のいずれかの方法で Fiery Calibrator を開くことができます。

- ジョブセンターで、ツールバーのキャリブレートアイコンをクリックします。
- サーバー>キャリブレートをクリックします。
- サーバー>デバイスセンターをクリックします。一般で、ツール、Calibrator をクリックします。

Fiery Calibrator ウィンドウで、左下角にある Calibrator 設定（歯車）アイコンをクリックします。

キャリブレーション状況（有効期限）

キャリブレーションに時間制限を設定した場合、期限切れのキャリブレーションにより Command WorkStation では状況メッセージが表示され、ジョブが一時停止される可能性があります。

Command WorkStation では、ジョブセンターのジョブについて、キャリブレーションが 30 分以内に期限切れになる場合は黄色の警告アイコン/メッセージ、キャリブレーションがすでに期限切れの場合は赤色のエラーアイコン/メッセージが表示されます。

ジョブのキャリブレーションが期限切れの場合にジョブの印刷を試みると、Fiery server はジョブを一時停止させます。ジョブは印刷されず、一時停止の状態です印刷中キューに残ります。

キャリブレーション状況は、ジョブが印刷に送信される前に確認されます。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れになった場合は、ジョブは一時停止されません。ジョブの印刷中にキャリブレーションが期限切れにならないように、印刷時間の長いジョブを実行する前にキャリブレーションを行うことをお勧めします。

一時停止状態のジョブを再確認してから、以下のいずれかを行うことができます。

- Fiery server をキャリブレートして、ジョブのキャリブレーション設定を開きます。キャリブレーションの測定値を更新した後、一時停止状態のジョブを選択し、印刷します。
- 「期限切れ」のキャリブレーション測定データを使用して、ジョブの印刷を続行します。該当ジョブにとって出力の一貫性が重要でない場合は、このオプションを選択してください。

キャリブレーション制限によって影響を受けるジョブのタイプ

Fiery server は、次のジョブに対して、キャリブレーションが期限内であるかどうかを検出できます。

- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE によってアプリケーションから送信されたジョブ。
- インポートされた PDF または TIFF ジョブ。
- 処理済みのジョブ（処理済みの VPS および VIPP ジョブを含む）。

Fiery server ではキャリブレーションが期限内であるか検出できず、次のジョブについてはジョブを一時停止にすることはできません。

- PCL および PJI ジョブ。
- Fiery PostScript プリンタードライバーまたは Fiery VUE を使用せずにアプリケーションから送信されたジョブ。未処理の VPS および VIPP ジョブが含まれます。
- 直接接続で送信されたジョブ。直接接続で送信されたジョブは一時停止にできません。

また Fiery server は、「強制印刷」コマンドを使用して印刷したジョブのキャリブレーション状況を確認しません。「強制印刷」コマンドは、ジョブのミスマッチ（ジョブに必要な用紙や仕上げが使用できない）のために一時停止されたジョブに使用されます。この種類のジョブは強制的に印刷するように設定されているため、キャリブレーション状況は確認できません。

キャリブレーションの時間制限およびジョブの一時停止を設定する

キャリブレーションの時間制限を設定し、キャリブレーションの制限時間が経過した場合に Command Workstation でジョブを一時停止するかどうかを設定できます。

- キャリブレーションの「環境設定」ダイアログボックスで、次のいずれか操作を実行します。
 - 有効期限を設定するには、時間制限を設定してジョブセンターに状況を表示するを選択して、時間（1～23 時間、または 1～200 日）を指定します。
 - ジョブの一時停止を有効にするには、キャリブレーションが期限切れの場合、印刷を一時停止するを選択します。

出力プロファイルのキャリブレーション設定

Fiery サーバーがカラー印刷をサポートしている場合は、1 つまたは複数のキャリブレーション設定にアクセスできます。通常、キャリブレーション設定および出力プロファイルは特定の用紙および印刷条件に適したものになっています。キャリブレーション設定は、複数の出力プロファイルに関連付けることができます。

特定の出力プロファイルに関連付けられたキャリブレーションセットを確認するには、Command WorkStation のプロファイル設定を確認します。

キャリブレーション設定の測定データを表示する

特定のキャリブレーション設定でキャリブレーションを行うと、測定データが保存されます。測定データは、キャリブレーションターゲットデータと共にグラフに表示することができます。それによって、測定したプリンター出力とキャリブレーションターゲットの一致の程度を確認できます。

- 1 Command WorkStation で、サーバー、> デバイスセンターを順にクリックします。
- 2 一般 で、ツール、続いてキャリブレーターをクリックします。
- 3 キャリブレーターで、キャリブレーションマネージャーを開きます。
- 4 キャリブレーション設定をクリックして選択します。
- 5 測定値の表示 をクリックします。

キャリブレーションターゲットを編集する

特定のキャリブレーション設定に関連付けられているキャリブレーションターゲットの最大濃度（D-Max 値）は、キャリブレーション設定の作成時に編集できます。インク/トナー（C、M、Y、K）ごとに新しい値を入力するか、ファイルからキャリブレーションターゲットをインポートできます。

編集されたターゲットデータは、現在の測定データを適用する際に、このキャリブレーション設定に現在関連付けられているターゲットデータを上書きします。

この Fiery サーバーで使用する既存のプロファイルとキャリブレーションターゲットが別の Fiery サーバーにある場合は、ファイルからターゲットデータをインポートします。ただし、最良の結果を得るには、この Fiery サーバーおよびそのプリンター専用で作成したプロファイルとキャリブレーションデータを使用します。

最大濃度値は編集できますが、編集の際は注意が必要です。キャリブレーションターゲットはキャリブレーションの理想的な値を表しており、不必要に変更しないでください。

- 1 新しいキャリブレーション設定のキャリブレーションページを正常に測定できたら、測定値の表示をクリックします。
- 2 次のいずれかを行います。
 - ターゲットに D-Max 値の新しい値を入力します。
 - ターゲットインポートをクリックし、ファイルの場所を参照してファイルを選択し、開くをクリックします。
単調な測定値を含んだファイルのみ、インポートされたターゲットとして許容されます。
- 3 キャリブレーション設定の作成を続行します。

再キャリブレート

Fiery server のキャリブレーションデータが得られたら、いつでも再キャリブレートを実行できます。既存のキャリブレーションは、このキャリブレーションの作成時に Fiery server 用に生成されたカラーベンチマークに一致するようにアップデートされます。

- 1 開始 キャリブレーター。
- 2 キャリブレーターを Fiery Color Profiler Suite から開始した場合は、タスクの選択ウィンドウで Fiery サーバーの選択をクリックし、リストから Fiery server を選択します。Fiery server が一覧にない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。
- 3 次のいずれかのタスクを選択します。
 - 再キャリブレート：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションを更新します。
 - キャリブレーションを作成：Fiery server 上でのカラー動作または新しい印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。
- 4 次へをクリックします。

サーバーのキャリブレーションのアップデート

再キャリブレートを行うには、以前に保存したキャリブレーションデータを使用して開始します。

- 1 一覧から既存のキャリブレーションセットを選択します。

選択したキャリブレーションに基づいて、カラーモードが表示されます。カラーモードが表示されていない場合、キャリブレーションを行ったプリンターではサポートされていません。

表示されるコメントはキャリブレーションが作成されたときに追加されたものです。
- 2 オプション：次へボタンの横にある下矢印を選択し、ファイルから測定値をロードを選択すると、印刷および測定ワークフローを省略できます。このオプションは、プリンターの測定値をすでに持っている上級ユーザー向けのもので、必ず実際のプリンターで印刷して測定することをお勧めします。
- 3 次へをクリックします。

測定用のキャリブレーションページを印刷する

再キャリブレーション用にキャリブレーションページを印刷する場合は、測定方法、パッチセット、給紙方法を指定します。

メモ：分光測色計をキャリブレートして、キャリブレーションページの測定準備を行います。

1 パッチレイアウトウィンドウで、以下のオプションを設定します。

- 測定方法リストから測定器を選択します。
- パッチセットリストからパッチセットを選択します。
- 給紙方法リストから目的の給紙方法を選択します。

メモ：給紙方法には、キャリブレーション設定に適した用紙が選択されていることを確認してください。給紙方法の設定で警告が表示された場合は、給紙方法がキャリブレーション設定に適合していない可能性があります。別のキャリブレーション設定を選択するか、別の給紙方法を選択することができます。

2 次へをクリックし、測定に進みます。

画面の指示に従って、キャリブレーションページを測定します。

キャリブレーション結果を表示する

新しいキャリブレーションでは、各再キャリブレーションで達成しようとしている基本色の状態である「ターゲット」が生成されます。

ターゲットとは、定義した印刷条件（用紙、解像度、ハーフトーンなど）に正しくキャリブレーションされている場合にプリンターで期待されるカラー出力です。プリンターを正しくカラー管理するために、サーバーではこのキャリブレーションされた状態で作成された色空間を説明する出力プロファイルが必要です。キャリブレーションに満足していない場合は、前の手順を確認します。

再キャリブレートする場合は、指定されたキャリブレーション設定の元のターゲットをプリンターがまだ実行しているかを、再キャリブレーションの結果で確認するようにします。

メモ：ファイルから測定値をロードし使用する場合は、表示されるオプションが少なくなります。

1 印刷テストをクリックします。テストページを印刷すると、現在のキャリブレーション設定を使用するか、新しい設定を作成するかを判断するうえで役に立ちます。

2 オプション：比較対象となるデフォルト測定値を使用したテスト印刷を行う場合は、テスト印刷 ボタンの横にある下向き矢印を選択し、デフォルトのキャリブレーションを使用を選択します。

3 次のいずれかを行います。

- 適用/閉じるをクリックして、キャリブレーション設定を保存します。
- キャンセルをクリックして、再キャリブレーションをキャンセルします。このアクションを実行すると、キャリブレーション設定は更新されません。


テストページを印刷する

カラープリンターの場合は、最新のキャリブレーション測定値のテストページを印刷できます。またオプションで、キャリブレーション設定の作成時に使用したデフォルト測定値を含む2枚目のページも印刷できます。

キャリブレーションマネージャー

キャリブレーションマネージャーでは、キャリブレーション設定の表示および削除を行うことができます。個々のキャリブレーションでコメントの追加または削除ができます。

通常、キャリブレーション設定および出力プロファイルは特定の用紙および印刷条件に適したのになっています。キャリブレーション設定は、複数の出力プロファイルに関連付けることができます。

ウィンドウの左下隅にあるをクリックして、キャリブレーターからキャリブレーションマネージャーを開きます。選択されたサーバーのすべてのキャリブレーションがウィンドウに表示されます。次のカテゴリが表示されます。

- **キャリブレーション**：名前別に一覧表示されたサーバーの完了したキャリブレーション
- **最終キャリブレーション**：最後にキャリブレーションを行った日時
- **カラーモード**：キャリブレーションセットがサポートする出力プロファイルの色空間

一覧で選択したキャリブレーションで、いくつかの操作を実行できます。キャリブレーションによっては、使用できない操作もあります。ある操作が使用できない場合は、グレー表示になります。次のような操作があります。

- **編集**では、カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集するウィンドウを開きます。
- **測定値の表示**では、強調表示されたキャリブレーションの詳細を表示するウィンドウを開きます。
このウィンドウに表示される情報は、測定空間で決まります。
- **削除**では、選択したキャリブレーションセットを削除します。
このキャリブレーションの影響を受けるプロファイルも、オペレーターが確認した後に削除されます。普通紙などの工場出荷時のキャリブレーションセットは削除できません。

キャリブレーション設定を編集する

カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集できます。工場出荷時に提供されたキャリブレーション設定は編集できません。

カスタムキャリブレーション設定を編集するには、システム管理者権限が必要です。

キャリブレーション設定と一緒に保存された測定データは無効になるため、ジョブのプロパティ（印刷設定）は編集できません。キャリブレーション設定のジョブプロパティを編集するには、既存の設定に基づいて新しいキャリブレーション設定を作成します。

- 1 キャリブレーションマネージャーで、一覧からキャリブレーション設定を選択し、**編集**をクリックします。


2 以下の設定を指定します。

- 名前 - 用紙名、坪量、用紙の種類のほか特定の印刷条件（ハーフトーン、グロス設定など）もわかるような名前を入力します。名前は 70 文字まで入力できます。
- コメント - (オプション) 追加の説明情報を入力します。この情報は、Fiery server で使用可能なキャリブレーション設定の一覧に表示されます。

測定結果の表示

キャリブレーションページの測定または測定値のインポートが完了したら、測定結果をいつでも適用することができます。測定データを適用（保存）すると、既存のデータは上書きされます。カラーデータの場合は、測定データをグラフに表示して、適用する前にデータを確認することができます。

測定結果は、C、M、Y、K の濃度曲線のセットとして表示されます。同じグラフに、比較のためにキャリブレーションターゲットデータが太線の濃度曲線のセットとして表示され、最大濃度値が数値的に比較されません。

- 1 キャリブレーションマネージャーで、キャリブレーションを選択し、測定値の表示をクリックします。
- 2 曲線の表示/非表示を切り替えるには、次のうちの該当するラベルの隣にある  アイコンをクリックします。
 - 測定値 - 測定濃度曲線を表示または非表示にします。
 - ターゲット - ターゲット濃度曲線を表示または非表示にします。
 - シアン、マゼンタ、イエロー、またはブラック - 特定のインク/トナーの測定濃度曲線とターゲット濃度曲線を表示または非表示にします。

メモ： Fiery server がインストールされライセンスされている場合は、Calibrator で G7 キャリブレーションを作成することもできます。G7 キャリブレーションでは、G7 グレーバランスに到達するためにトランスファー曲線が Fiery サーバーのキャリブレーションターゲットに適用されます。キャリブレーションマネージャーは、一時的な G7 のトランスファー曲線ではなく、基本となる標準的な Fiery サーバーのキャリブレーションターゲットを表示します。同様に、標準的な Fiery サーバーのターゲットにとってキャリブレーションされた状態に到達するのに使用されるトランスファー曲線は、キャリブレーションマネージャーでは表示されません。これらのトランスファー曲線は、再キャリブレーションのたびに再計算されるので、一時的です。

- 3 オプション：測定値を保存をクリックして、既存のキャリブレーション設定の測定データを保存します。
- 4 オプション：最新の測定結果が満足のいくものではない場合、デフォルト測定値にリセットをクリックしてキャリブレーションデータをリセットします。このアクションを実行すると、キャリブレーター測定値の最後のセットが削除されます。このボタンは、再キャリブレーションを実行した場合にのみ表示されます。

L*a*b*ベースのキャリブレーションワークフロー

Fiery server のキャリブレーションを行う際には、次のタスクを実行します。

- キャリブレーションページの印刷。特定のレイアウトの様々なカラーのパッチを含みます。このページを使用して、プレスの現在の出力を測定します。
プレスからの出力は、時間の経過と使用状況により変化します。現在のプリントデバイスのデータを得るには、必ず新しく印刷したキャリブレーションページを測定してください。
- サポートされている測定器を使用して、キャリブレーションページのパッチのカラー値を測定します。
- 測定を適用する
測定データは特定のキャリブレーション設定と共に保存されます。特定のキャリブレーション設定を適用してジョブを印刷すると、この測定データを使用して、望ましいカラー（キャリブレーションターゲット）で出力するのに必要なキャリブレーションを算出します。

タスクの選択

キャリブレーターを起動すると、Fiery server 用に新しいキャリブレーション設定を作成するか、既存の設定をアップデートできます。

- 1 キャリブレーターを起動します。
- 2 Fiery server からキャリブレーターを開始している場合は、タスクの選択画面で Fiery サーバーの選択をクリックし、一覧から Fiery server を選択します。Fiery server がリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。
- 3 次のいずれかのタスクを選択します。
 - 再キャリブレート：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。
 - キャリブレーションの作成：Fiery server 上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。
- 4 次へをクリックします。

メモ： 選択したタスクを完了するために必要な手順の数は、接続されているプリンターによって異なります。使用しているプリンターのモデルによっては、一部の設定やオプションが使用できない場合もあります。

キャリブレーター環境設定を設定する

Command WorkStation から開くときは、選択した Fiery server の一般的な環境設定をキャリブレーターで設定できます。

- 1 キャリブレーターウィンドウで、画面の左下隅にあるギアアイコンをクリックして、キャリブレーター設定ウィンドウを開きます。
- 2 プリンター機能が表示されている場合は、選択を行います。
プリンター機能に表示されるオプションは、接続している Fiery server によって異なります。

3 キャリブレーション状況には以下を指定します。

- 新しいキャリブレーションが必要になるまでの日数または時間数を指定します。キャリブレーション状況はジョブセンターに表示されます。
指定する数は、印刷するジョブの種類や、プリンターの安定性および環境によって異なります。Fiery server をカラー重視のアプリケーションに使用する場合は、1日1回以上の頻度を選択します。Fiery server をEメールのような基本書類の印刷に使用する場合は、それより低いキャリブレーション頻度でもかまいません。
- 新しいキャリブレーションが完了するまで印刷ジョブを停止するには、キャリブレーションが期限切れの場合、印刷を一時停止するを選択します。

4 環境設定を元のデフォルトにリセットするには、出荷時のデフォルトをクリックします。

5 保存をクリックして、環境設定を保存します。

サーバーのキャリブレーションの作成

キャリブレーションを作成するには、名前などの詳細情報を必要に応じて入力します。必要な情報は、キャリブレーションを行っている Fiery server やプリンターによって異なります。たとえば、カラーモードフィールドや G7 グレーバランスのチェックボックスが表示されない場合があります。

1 任意のキャリブレーション名を入力します。

メモ：キャリブレーション名は、各サーバーで一意である必要があります。入力する名前は、サーバー上のキャリブレーション設定やプロファイルでまだ使用されていないものにする必要があります。

2 オプション：G7 グレーバランスキャリブレーションターゲットチェックボックスを選択します。

G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット（パッチページ）の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。

メモ：G7 グレーバランスを使用するには、Fiery Color Profiler Suite をインストールしライセンスを取得する必要があります。そうしないと、オプションはグレー表示されています。

3 オプション：コメントフィールドに、用紙名、用紙の種類、特別な設定、指示などキャリブレーションの詳細を入力します。

メモ：キャリブレーション設定を作成する際、再キャリブレートに必要な用紙の種類、使用プリンター、およびすべての特別な指示をジョブ注釈メモフィールドに記録することをお勧めします。

4 オプション：次へボタンの横にある下矢印を選択し、ファイルから測定値をロードを選択すると、印刷および測定ワークフローを省略できます。このオプションは、プリンターの測定値をすでに持っている上級ユーザー向けのものです。必ず実際のプリンターで印刷して測定することをお勧めします。

5 次へをクリックします。

G7 キャリブレーションワークフロー

G7 キャリブレーションは、Fiery server キャリブレーションとプロファイリング測定パッチ印刷の間に行われます。

G7 キャリブレーションはキャリブレーションの Fiery server 上部に適用されます。G7 キャリブレーション処理が開始されると、ユーザーは、使用する P2P ターゲットのパッチレイアウトを選択し、それを測定して結果を確認してから、必要に応じて設定の調整を行います。

G7 仕様では、異なるプリンターで一般的でニュートラルな見た目の出力を作成するのに使用できる、標準的なグレースケール曲線が定義されています。G7 キャリブレーションにより、特定の G7 ターゲット (P2P ターゲット) の測定データを使用して、G7 仕様へのプリンターのカラー出力を調整します。Fiery Color Profiler Suite G7 キャリブレーションに使用されるさまざまな P2P ターゲットの印刷と測定をサポートします。任意の対応測定器で測定することができます。

1 パッチレイアウトウィンドウで、使用するパッチセットを次から選択します。

- P2P51 (新しいターゲット、オリジナルのリビジョン)
- P2P25Xa (オリジナルのターゲット)
- P2P51 ランダム
- P2P51 ランダム 2-up (カットシートトナープレスに推奨)

メモ: ターゲットで実際に使用される値は同じですが、新しいバージョンは、G7 仕様のより正確なバージョンです。

2 印刷をクリックしてパッチページを測定します。

3 G7 グレーバランスの測定結果を確認します。

これは G7 キャリブレーションの実行であるため、結果が不合格になることが予想されます。G7 キャリブレーションに必要な NPDC 曲線の計算に使用されるのは、このターゲットの測定結果です。

NPDC (Neutral Print Density Curve) は、CMY (コンポジット) と K (ブラック) に分かれて表示されます。グレーバランスは、 a^*b^* としてプロットされます。テーブルでは、加重平均をグリーンで表示するには 1.5 未満にする必要があります。加重最大をグリーンで表示するには 3 未満にする必要があります。

4 補正オプションをクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。

デフォルトのまま使用するか、変更します。

5 OK をクリックして、NPDC 曲線を適用して P2P パッチページをもう一度印刷します。

6 パッチページを測定し、G7 の結果を表示します。

7 G7 結果が合格の (すべての結果がグリーンで表示される) 場合は、次へをクリックします。結果が失敗の (赤で強調表示されている結果) 場合は、反復をクリックして処理を繰り返します。G7 準拠に合格するために処理を 2~3 回繰り返す必要があることもまれではありません。

チャンネルごとのインクリミット測定値の取得

キャリブレーションのために取得した測定値により、各チャンネルで推奨されるインクリミットが提供されます。

パッチページでチャンネルあたりのインクリミットを測定します。

1 次のいずれかを選択します。

- 測定チャートを印刷

ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- ファイルから測定値をインポート

メモ：テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順に必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

以下の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化することがあります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。

このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 次へをクリックします。

最初の手順で測定チャートを印刷を選択した場合は、FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。パッチレイアウトウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。印刷をクリックして続行します。

チャンネルごとのインクリミットの設定

チャンネルごとのインクリミット用に提供されるパッチページを正常に測定した後、結果が表示され、いくらかの調整を行うことができます。

各チャンネルごとに、インクリミットが表示されます。

スライダーを表示するには、各チャンネル名の隣にある矢印をクリックします。インクリミットを変更するには、スライダーを動かします。

次へをクリックしてリニアリゼーションを測定します。

リニアリゼーション測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

1 次のいずれかを選択します。

- 測定チャートを印刷

ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- ファイルから測定値をインポート

メモ：テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順で必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

以下の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化することがあります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。

このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 次へをクリックします。

最初の手順で測定チャートを印刷を選択した場合は、FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。パッチレイアウトウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。印刷をクリックして続行します。

メモ：再キャリブレートしている場合は、同じ種類の用紙、またはキャリブレーションの作成時に使用された用紙の種類とよく似た種類の用紙が入っている給紙トレイを選択するようにしてください。カラータブとイメージタブの設定はキャリブレーションソフトウェアによって自動的に設定されたため、設定を変更しないでください。

合計インクリミット測定値の取得

合計インクリミット測定値は、プリンターが用紙で対応可能な量以上のインクを使用しないように、または目的のジョブに必要な以上のインクを使用しないようにするのに役立ちます。

1 合計インクリミットを指定するには、次のいずれかを選択してください。

• 測定チャートを印刷

表示されている初期のインクリミットは、プリンターで推奨されているデフォルト値です。新しい値を入力して推奨値を上書きし、チャートを印刷します。印刷しようとしているチャートには、この値より多くのインクを指定するパッチは含まれません。

ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

このオプションを選択する場合、オンライン指示に従ってパッチページの印刷および測定を行い、実際の用紙の種類に合わせて最適化された値がシステムにより推奨されるようにします。パッチページを印刷する前に、選択したパッチ測定器の設定を変更し、チャートのカスタム用紙サイズを指定できます。

• 数値を入力

表示される値はプリンターで推奨されているデフォルト値で、追加測定は必要ありません。この値は特定の用紙に合わせて最適化されません。設定が高すぎる場合、用紙はインクの多さに対応できない可能性があります。設定が低すぎる場合、特定の用紙でプリンターの色域が制限されています。

• ファイルから測定値をインポート

メモ: テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順に必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

以下の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化することがあります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。

このオプションを選択すると、以前に保存された測定データから値が読み込まれます。

このオプションを選択する場合は、カラーベンチマークの測定値の取得に進みます。

2 次へをクリックします。

最初の手順で測定チャートを印刷を選択した場合は、FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。パッチレイアウトウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。印刷をクリックして続行します。

合計インクリミットの設定

合計インクリミット用に提供されるパッチページを正常に測定した後、結果が表示され、いくつかの調整を行うことができます。

1 次のいずれかを選択します。

- 測定結果を使用

表示される値はプリンターで推奨されている値です。この値は最新の測定値から計算されます。

- 数値を入力

表示される値はプリンターで推奨されている値で、追加測定は必要ありません。推奨されている値を使用しない場合は、任意の数値を入力することができます。

- 印刷されたビジュアルチャートから値を選択

このオプションでは、測定チャートを印刷するときにビジュアルチャートを含めるを選択したかどうかのみが表示されます。表示される値は、チャートの特定の列番号に基づいてプリンターで推奨されている値です。推奨されている値を使用しない場合は、任意の列番号を選択することができます。ビジュアルチャートを印刷すると、測定値のみでは検出できない問題が明らかになる場合があります。たとえば、必要以上のインクが出ることが許可されている場合、用紙を浸透する可能性があります。この場合、推奨されている値より低い値を使用します。

2 次へをクリックします。

G7 グレーバランスの測定値を取得する

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

1 次のいずれかを選択します。

- 測定チャートを印刷

このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- ファイルから測定値をインポート

メモ：テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順に必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

以下の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化することがあります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。

このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 次へをクリックします。

最初の手順で測定チャートを印刷を選択した場合は、FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。パッチレイアウトウィンドウで計器、G7 ターゲットのいずれか、およびチャートサイズを選択します。印刷をクリックして続行します。

G7 グレーバランスの測定結果の概要

G7 グレーバランス測定値の概要を表示します。

1 G7 グレーバランスの測定結果の概要を確認します。

NPDC (Neutral Print Density Curve) は、CMY (コンポジット) と K (ブラック) に分かれて表示されます。グレーバランスは、 $a*b^*$ としてプロットされます。テーブルでは、加重平均をグリーンで表示するには 1.5 未満にする必要があります。加重最大をグリーンで表示するには 3 未満にする必要があります。

2 補正オプションをクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。デフォルトのまま使用するか、変更します。

3 戻るをクリックして、初回の測定値を破棄します。

4 反復をクリックし、処理を繰り返します。

修正オプション

出力補正曲線を確認します。

- 1 さまざまな補正オプションを設定できます。
 - グレーバランスのフェード：フェード調整値を上回る G7 NPDC 補正曲線により適用されたグレーバランス補正を低減させます。
 - 色調調整のフェード：フェード調整値を上回る G7 NPDC 補正曲線により適用された色調調整を低減させます。
 - フェード調整値：指定したパーセントドット値を上回る色調調整やグレーバランスを低減させます。
 - スムージング追加：ノイズが発生するまたは不規則なキャリブレーションデータでキャリブレーション曲線を滑らかにします。
- 2 変更を承諾するには OK、デフォルト値に戻すにはデフォルトを選択します。

G7 グレーバランスの測定結果

G7 グレーバランス測定値の結果を表示します。

- 1 G7 グレーバランスの測定結果を確認します。

NPDC (Neutral Print Density Curve) は、CMY (コンポジット) と K (ブラック) に分かれて表示されます。グレーバランスは、 a^*b^* としてプロットされます。テーブルでは、加重平均をグリーンで表示するには 1.5 未満にする必要があります。加重最大をグリーンで表示するには 3 未満にする必要があります。
- 2 補正オプションをクリックして補正曲線を表示し、補正曲線の形成に適用される高度なオプションを表示します。デフォルトのまま使用するか、変更します。
- 3 反復をクリックして、その G7 キャリブレーション曲線のパッチを印刷し、結果が合格であることを確認します。
- 4 戻るをクリックして、反復測定値を破棄します。
- 5 その結果を容認できる場合には、承認をクリックしてキャリブレーション処理を続行します。

カラーベンチマーク測定値の取得

これらの最終測定値により、プリンターのターゲットにする色域が確立されます。

- 1 次のいずれかを選択します。
 - 測定チャートを印刷
ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。
このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。
 - ファイルから測定値をインポート

メモ: テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順に必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

以下の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化することがあります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 次へをクリックします。

カラーベンチマークの設定

新しいキャリブレーションでは、各再キャリブレーションで達成しようとしている基本色の状態である「ベンチマーク」が生成されます。

ベンチマークとは、定義したばかりの印刷条件（用紙、解像度、ハーフトーンなど）に正しくキャリブレーションされている場合にプリンターで期待されるカラー出力です。プリンターを正しくカラー管理するために、サーバーではこのキャリブレーションされた状態で作成された色空間を説明する出力プロファイルが必要です。キャリブレーションに満足していない場合は、前の手順を確認します。

再キャリブレーションする場合は、再キャリブレーションの結果で、プリンターが指定されたキャリブレーションセットの元のベンチマークをまだ実行しているかを確認するようにします。

出力プロファイルの設定

Printer Profiler に進み、出力プロファイルを作成するか、今後のために結果を保存できます。

- プロファイルの作成を選択します。

a) 出力プロファイル作成を選択します。

b) 次へをクリックします。

完了したキャリブレーションとともに使用する出力プロファイルが Fiery Printer Profiler により作成されます。

あるいは、今後のためにキャリブレーション結果を保存します。

a) キャリブレーションを保存して出力プロファイルを後で作成を選択します。

b) 完了をクリックします。

キャリブレーションは Command WorkStation Profile Manager で表示可能な一時出力プロファイルとともに保存されます。カラー管理が正確になるように、キャリブレーションとともに使用するカスタムプロファイルを作成する必要があります。

再キャリブレート

Fiery server のキャリブレーションデータが得られたら、いつでも再キャリブレートを実行できます。既存のキャリブレーションは、このキャリブレーションの作成時に Fiery server 用に生成されたカラーベンチマークに一致するようにアップデートされます。

- 1 開始 キャリブレーター。
- 2 キャリブレーターを Fiery Color Profiler Suite から開始した場合は、タスクの選択ウィンドウで Fiery サーバーの選択をクリックし、リストから Fiery server を選択します。Fiery server が一覧にない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。
- 3 次のいずれかのタスクを選択します。
 - 再キャリブレート：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションを更新します。
 - キャリブレーションを作成：Fiery server 上でのカラー動作または新しい印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。
- 4 次へをクリックします。

サーバーのキャリブレーションのアップデート

再キャリブレートを行うには、以前に保存したキャリブレーションデータを使用して開始します。

- 1 一覧から既存のキャリブレーションセットを選択します。

選択したキャリブレーションに基づいて、カラーモードが表示されます。カラーモードが表示されていない場合、キャリブレーションを行ったプリンターではサポートされていません。

表示されるコメントはキャリブレーションが作成されたときに追加されたものです。
- 2 オプション：次へボタンの横にある下矢印を選択し、ファイルから測定値をロードを選択すると、印刷および測定ワークフローを省略できます。このオプションは、プリンターの測定値をすでに持っている上級ユーザー向けのものです。必ず実際のプリンターで印刷して測定することをお勧めします。
- 3 次へをクリックします。

リニアリゼーション測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

- 1 次のいずれかを選択します。
 - 測定チャートを印刷
ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。
このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。
 - ファイルから測定値をインポート

メモ：テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順に必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

以下の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プリンターの応答が変化することがあります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。

このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 次へをクリックします。

最初の手順で測定チャートを印刷を選択した場合は、FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。パッチレイアウトウィンドウで計器、G7 ターゲットのいずれか、およびチャートサイズを選択します。印刷をクリックして続行します。

メモ：再キャリブレートしている場合は、同じ種類の用紙、またはキャリブレーションの作成時に使用された用紙の種類とよく似た種類の用紙が入っている給紙トレイを選択するようにしてください。カラータブとイメージタブの設定はキャリブレーションソフトウェアによって自動的に設定されたため、設定を変更しないでください。

キャリブレーションの検証測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

1 次のいずれかを選択します。

- 測定チャートを印刷
ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。
このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。
- ファイルから測定値をインポート
このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。
このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 次へをクリックします。

最初の手順で測定チャートを印刷を選択した場合は、FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。パッチレイアウトウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。印刷をクリックして続行します。

キャリブレーションの検証

新しいキャリブレーションでは、各再キャリブレーションで達成しようとしている基本色の状態である「ベンチマーク」が生成されます。

ベンチマークとは、定義したばかりの印刷条件（用紙、解像度、ハーフトーンなど）に正しくキャリブレーションされている場合にプリンターで期待されるカラー出力です。プリンターを正しくカラー管理するために、サーバーではこのキャリブレーションされた状態で作成された色空間を説明する出力プロファイルが必要です。キャリブレーションに満足していない場合は、前の手順を確認します。

再キャリブレーションする場合は、再キャリブレーションの結果で、プリンターが指定されたキャリブレーションセットの元のベンチマークをまだ実行しているかを確認するようにします。

1 結果を表示します。

カラーベンチマークとキャリブレーションされた結果を比較することができます。また、各チャンネルアイコンの隣にある眼のアイコンをクリックして、個々のチャンネルを表示することもできます。

2 適用して閉じるをクリックし、キャリブレーションセットをプリンターに適用してキャリブレーターを閉じます。

キャリブレーションの適用準備ができています

測定値のセットがある場合、キャリブレーションの適用準備ができています。キャリブレーションの検証を行うか、プリンターへのキャリブレーション設定の適用を行うかを選択できます。


- **検証をクリックし、オンライン指示に従います。**

プリンターのキャリブレーションを検証すると、キャリブレーションされた状態が、現在のキャリブレーション設定のカラーベンチマークにどれほど近いかを比較できます。

キャリブレーションマネージャー

キャリブレーションマネージャーでは、キャリブレーション設定の表示および削除を行うことができます。個々のキャリブレーションでコメントの追加または削除ができます。

通常、キャリブレーション設定および出力プロファイルは特定の用紙および印刷条件に適したものになっています。キャリブレーション設定は、複数の出力プロファイルに関連付けることができます。

ウィンドウの左下隅にあるをクリックして、キャリブレーターからキャリブレーションマネージャーを開きます。選択されたサーバーのすべてのキャリブレーションがウィンドウに表示されます。次のカテゴリが表示されます。

- **キャリブレーション**：名前別に一覧表示されたサーバーの完了したキャリブレーション
- **最終キャリブレーション**：最後にキャリブレーションを行った日時
- **カラーモード**：キャリブレーションセットがサポートする出力プロファイルの色空間

一覧で選択したキャリブレーションで、いくつかの操作を実行できます。キャリブレーションによっては、使用できない操作もあります。ある操作が使用できない場合は、グレー表示になります。次のような操作があります。

- **編集**では、カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集するウィンドウを開きます。
- **測定値の表示**では、強調表示されたキャリブレーションの詳細を表示するウィンドウを開きます。
このウィンドウに表示される情報は、測定空間で決まります。
- **削除**では、選択したキャリブレーションセットを削除します。
このキャリブレーションの影響を受けるプロファイルも、オペレーターが確認した後に削除されます。普通紙などの工場出荷時のキャリブレーションセットは削除できません。

キャリブレーション設定を編集する

カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集できます。工場出荷時に提供されたキャリブレーション設定は編集できません。

カスタムキャリブレーション設定を編集するには、システム管理者権限が必要です。

キャリブレーション設定と一緒に保存された測定データは無効になるため、ジョブのプロパティ（印刷設定）は編集できません。キャリブレーション設定のジョブプロパティを編集するには、既存の設定に基づいて新しいキャリブレーション設定を作成します。

- 1 キャリブレーションマネージャーで、一覧からキャリブレーション設定を選択し、**編集**をクリックします。
- 2 以下の設定を指定します。
 - **名前** - 用紙名、坪量、用紙の種類のほかに特定の印刷条件（ハーフトーン、グロス設定など）もわかるような名前を入力します。名前は 70 文字まで入力できます。
 - **コメント** - (オプション) 追加の説明情報を入力します。この情報は、Fiery server で使用可能なキャリブレーション設定の一覧に表示されます。

測定値の表示

L*a*b*測定空間でのキャリブレーションの詳細を表示します。

特定のキャリブレーション設定の測定データをデフォルトデータ（工場出荷時のデフォルトデータ、またはカスタムキャリブレーション設定の場合は初回の測定データ）にリセットすることができます。このオプションは、現在の測定データがすでにデフォルトデータになっている場合には使用できません。

- 1 キャリブレーションマネージャーで、キャリブレーションを選択し、**測定値の表示**をクリックします。
キャリブレーションの詳細が表示されます。
- 2 キャリブレーションデータをリセットするには、**デフォルト測定値にリセット**をクリックします。
このアクションを実行すると、キャリブレーター測定値の最後のセットが削除されます。

インクジェット Delta E ベースのキャリブレーションワークフロー

Fiery server のキャリブレーションをおこなう際には、次のタスクを実行します。

- キャリブレーションページの印刷。特定のレイアウトの様々なカラーのパッチを含みます。このページを使用して、プレスの現在の出力を測定します。

プレスからの出力は、時間の経過と使用状況により変化します。現在のプリントデバイスのデータを得るには、必ず新しく印刷したキャリブレーションページを測定してください。

- サポートされている測定器を使用して、キャリブレーションページのパッチのカラー値を測定します。
- 測定を適用する

測定データは特定のキャリブレーション設定と共に保存されます。特定のキャリブレーション設定を適用してジョブを印刷すると、この測定データを使用して、望ましいカラー（キャリブレーションターゲット）で出力するのに必要なキャリブレーションを算出します。

Fiery サーバーを選択する

Calibrator を起動して、Fiery server 用の新しいキャリブレーション設定を作成するか、既存の設定をアップデートします。

- 1 Calibrator を起動します。
- 2 Fiery server から Calibrator を開始している場合は、タスクの選択画面で Fiery サーバー選択をクリックし、一覧から Fiery server を選択します。Fiery server がリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。
- 3 次のいずれかのタスクを選択します。
 - 再キャリブレート：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。
 - キャリブレーションの作成：Fiery server 上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。

- 4 次へをクリックします。

メモ： 選択したタスクを完了するために必要な手順の数は、接続されているプリンターによって異なります。使用しているプリンターのモデルによっては、一部の設定やオプションが使用できない場合もあります。

サーバーのキャリブレーションの作成

キャリブレーションを作成するには、名前などの詳細情報を必要に応じて入力します。

必要な情報は、キャリブレーションを行っている Fiery サーバーやプリンターによって異なります。

- 1 任意のキャリブレーション名を入力します。

メモ： キャリブレーション名は、各サーバーで一意である必要があります。入力する名前は、サーバー上のキャリブレーション設定やプロファイルでまだ使用されていないものにする必要があります。

2 次へをクリックします。

キャリブレーション設定

キャリブレーションページを印刷する場合は、必要に応じて、使用するインク、プリセット、その他の詳細を指定して、キャリブレーション設定を指定します。

1 プロダクション出力に必要なカラーモードを次から選択します。

- CMYK
- CMYK + N

メモ：N はここではプレスでライセンスされている追加カラーモードです。

2 サーバープリセットを選択します。

カラーモード、サブストレート、解像度など、選択したサーバープリセットに関する情報が表示されます。

3 オプション：新規プリセットを作成するには、**設定** をクリックして、サーバープリセットのジョブのプロパティを指定します。

サブストレートカタログのサブストレートと、ジョブのプロパティウィンドウの用紙タブのサイズ ID からサブストレートサイズを定義することが重要です。

カラー設定は、ジョブのプロパティウィンドウのカラータブで指定できます。カラーモードと出力プロファイルは、キャリブレーション設定によって上書きされます。

解像度は、ジョブのプロパティウィンドウの画像タブで指定できます。

4 オプション：予備インク値を適用 チェックボックスを選択し、**設定** をクリックしてインク限度を定義し、OK をクリックします。

リンクをクリックしてすべてのインク制限をリンクし、1つのインク値のみ変更できます。サブストレーターのインクの100%のみに問題が発生している場合は、このオプションを使用してください。それ以外の場合はこの手順は省略します。オプションを使用して再印刷します。

リセットをクリックするとデフォルト値に戻ります

メモ：Fiery server がライトインクをサポートしている場合、通常のインク制限に応じて、ライトのインク制限が自動的に計算されます。

5 ページの印刷をクリックしてキャリブレーションページを印刷し、測定に進みます。

測定用のキャリブレーションページを印刷する

キャリブレーションページを印刷する場合は、測定器とチャートサイズを指定します。

メモ：分光測色計をキャリブレートしてキャリブレーションページの測定準備をおこないます。

- 1 パッチレイアウトウィンドウで、以下のオプションを設定します。
 - 測定器を計器リストで選択します。
 - チャートサイズリストでパッチページサイズを選択します。
 カスタムをクリックして、カスタムパッチページサイズを指定します。
- 2 印刷をクリックしてパッチページを印刷し、測定に進みます。
 画面の指示に従って、キャリブレーションページを測定します。

インクコントロールの設定

パッチを測定した後、プレスをリニアリゼーションする際に適用されるインク使用量とインク消費量を表示できます。

また、各カラーチャンネルのタブをクリックして、個々のチャンネルを表示することもできます。

- 1 オプション：表示される設定のインク使用値を指定します。
 リセットをクリックして元のインク値に戻します。
- 2 次へをクリックしてキャリブレーション処理を続行します。

プリセットを使用したユーザーが選択できるインク配分

Calibrator は、プリンターに同じインク/トナーの 2 つのコンテナがある場合のインクのダブルヒットをサポートします。この技術は、シングルヒットが生成されるよりもはるかに濃い彩度を可能にします。

Calibrator プリセットでは、要求された量のインクを 2 つのコンテナ間でどのように分散するかを管理できます。

Calibrator では、使用可能なプリセットのいずれかを使用して、キャリブレーションプロセスの開始時に複製されたインクのインク分割方法を定義できます。複製インクのインク配分方法を選択することで表示されるプリセットのリストは次のとおりです。

- 2 番目のインクは 30%から開始 - 2 番目のインクは、要求された量が 30%になるまで使用されません。
- 2 番目のインクは 38%から開始 - 2 番目のインクは、要求された量が 38%になるまで使用されません。
- 2 番目のインクは 46%から開始 (デフォルト) - 2 番目のインクは、要求された量が 46%になるまで使用されません。
- 2 番目のインクは 55%から開始 - 2 番目のインクは、要求された量が 55%になるまで使用されません。
- 2 番目のインクは 2%から開始 - 2 番目のインクは、要求された量が 2%になるまで使用されません。
- 均等インク配分 - 両方のインクは 0%から始まり、均等に配分されます。
- 均等インク配分、-10%のドットゲイン - 両方のインクは 0%から始まり、均等に配分されます。ミッドトーンではインクが約 10%減少します。
- 均等インク配分、-10%のドットゲイン - 両方のインクは 0%から始まり、均等に配分されます。ミッドトーンではインクが約 20%減少します。

リニアリゼーションの合計インク制限を設定する

合計インクリミット用に提供されるパッチページを正常に測定した後、結果が表示され、いくらかの調整を行うことができます。

1 次のいずれかを選択します。

- 合計インク制限の値を選択します。

表示される値はプレスで推奨されている値で、追加測定は必要ありません。推奨されている値を使用しない場合は、任意の数値を入力することができます。

- 印刷されたビジュアルチャートから値を選択します。

表示される値は、チャートの特定の列番号に基づいてプレスで推奨されている値です。推奨されている値を使用しない場合は、任意の列番号を選択することができます。ビジュアルチャートを印刷すると、測定値のみでは検出できない問題が明らかになる場合があります。たとえば、必要以上のインクが出るのが許可されている場合、サブストレートを浸透する可能性があります。この場合、推奨されている値より低い値を使用します。

2 オプション：ビジュアルチャートを印刷します。

FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。印刷をクリックして続行します。

3 ベンチマークを印刷をクリックします。

[ここで](#)、合計インク制限を設定する方法についてのビデオをご覧ください。

キャリブレーションの概要

新しいキャリブレーションでは、各再キャリブレーションで達成しようとしている基本色の状態である「ベンチマーク」が生成されます。

ベンチマークとは、定義したばかりの印刷条件（用紙、解像度、ハーフトーンなど）に正しくキャリブレーションされている場合にプレスで期待されるカラー出力です。プレスを正しくカラー管理するために、サーバーではこのキャリブレーションされた状態で作成された色空間を説明する出力プロファイルが必要です。キャリブレーションに満足していない場合は、前の手順を確認します。

再キャリブレーションする場合は、再キャリブレーションの結果で、プレスが指定されたキャリブレーションセットの元のベンチマークをまだ実行しているかを確認するようにします。

出力プロファイルの設定

Fiery Printer Profiler に進み、出力プロファイルを作成するか、今後のために結果を保存できます。

- プロファイルの作成を選択します。

a) 出力プロファイル作成を選択します。

b) 次へをクリックします。

Fiery Printer Profiler により、完了したばかりのキャリブレーションとともに使用する出力プロファイルが作成されます。

あるいは、今後のためにキャリブレーション結果を保存します。

a) キャリブレーションを保存して出力プロファイルを後で作成を選択します。

b) 完了をクリックします。

キャリブレーションは Command WorkStation で表示可能な一時出力プロファイルとともに保存されます。カラーマネジメントが正確になるように、キャリブレーションとともに使用するカスタムプロファイルを作成する必要があります。

再キャリブレート

Fiery server のキャリブレーションデータを取得した後は、いつでも再キャリブレートを実行できます。既存のキャリブレーションは、このキャリブレーションの作成時に Fiery server 用に生成されたカラーベンチマークに一致するようアップデートされます。

メモ：再キャリブレーションは、ライトインクやインクが重複しないプレスでのみ使用できます。

1 Calibrator を起動します。

2 Fiery server から Calibrator を開始している場合は、タスクの選択画面で Fiery サーバー選択をクリックし、一覧から Fiery server を選択します。Fiery server がリストにない場合は、プラス記号をクリックして、IP アドレスまたは DNS 名を使用するか検索してサーバーを追加します。

3 次のいずれかのタスクを選択します。

- 再キャリブレート：選択したキャリブレーション設定でキャリブレーションをアップデートします。
- キャリブレーションの作成：Fiery server 上での新しいカラー印刷条件を定義する新しいキャリブレーションおよびプロファイルを作成します。

4 次へをクリックします。

メモ：選択したタスクを完了するために必要な手順の数は、接続されているプレスによって異なります。使用しているプレスのモデルによっては、一部の設定やオプションが使用できない場合もあります。

サーバーのキャリブレーションのアップデート

再キャリブレーションを行うには、以前に保存したキャリブレーションデータを使用して開始します。

- 1 一覧から既存のキャリブレーションセットを選択します。

選択したキャリブレーションに基づいて、カラーモードが表示されます。カラーモードが表示されていない場合、キャリブレーションを行ったプレスではサポートされていません。

表示されるコメントはキャリブレーションが作成されたときに追加されたものです。

- 2 オプション：次へのボタンで下矢印を選択し、ファイルから測定値をロードを選択して、印刷と測定のワークフローを省略できます。このオプションは、プレスの測定値をすでに持っている上級ユーザー向けのものです。必ず実際のプレスで印刷して測定することをお勧めします。
- 3 次へをクリックします。

リニアリゼーション測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プレスの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

メモ：この手順は、ライトインクおよびインクの複製がないプレスに適用されます。

- 1 次のいずれかを選択します。

- 測定チャートを印刷

ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- ファイルから測定値をインポート

メモ：テストやデモでは、ファイルから測定値をロードするのが最も便利です。それ以外の場合は、一般的には推奨されません。最良の結果は、すべてのキャリブレーション作成手順で必要な測定ページを単一セッションで印刷して測定する場合に得られます。

以下の点に留意してください。

- 測定ファイルが保存されたため、プレスの応答が変化する場合があります。
- 測定ファイルには、測定ページの印刷方法に関する情報は含まれていません。デフォルトのジョブのプロパティを想定しています。

このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

- 2 次へをクリックします。

最初の手順で測定チャートを印刷を選択した場合は、FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。パッチレイアウトウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。印刷をクリックして続行します。

メモ：再キャリブレーションしている場合は、キャリブレーションの作成時に使用されたサブストレートの種類とよく似た種類のサブストレートを選択するようにしてください。カラータブとイメージタブの設定はキャリブレーションソフトウェアによって自動的に設定されたため、設定を変更しないでください。

キャリブレーションの検証測定値の取得

パッチページを印刷して測定を行うか、最新のキャリブレーションから測定値をインポートできます。これらの測定値は、プリンターの現在のパフォーマンスを正確に表している必要があります。

1 次のいずれかを選択します。

- 測定チャートを印刷

ビジュアルチャートを含めるを選択し、目視確認用の測定パッチを印刷します。

このオプションを選択する場合、オンライン指示に従って、パッチページの印刷と測定を行います。

- ファイルから測定値をインポート

このオプションを選択する場合、測定ファイルが保存されている場所に自動的に移動します。

このオプションを選択する場合、測定値は次のウィンドウに表示されます。

2 次へをクリックします。

最初の手順で測定チャートを印刷を選択した場合は、FieryMeasure のパッチレイアウトウィンドウが表示されます。パッチレイアウトウィンドウで計器およびチャートサイズを選択します。印刷をクリックして続行します。

キャリブレーションの検証

新しいキャリブレーションでは、各再キャリブレーションで達成しようとしている基本色の状態である「ベンチマーク」が生成されます。

ベンチマークとは、定義したばかりの印刷条件（用紙、解像度、ハーフトーンなど）に正しくキャリブレーションされている場合にプレスで期待されるカラー出力です。プレスを正しくカラー管理するために、サーバーではこのキャリブレーションされた状態で作成された色空間を説明する出力プロファイルが必要です。キャリブレーションに満足していない場合は、前の手順を確認します。

再キャリブレーションする場合は、再キャリブレーションの結果で、プレスが指定されたキャリブレーションセットの元のベンチマークをまだ実行しているかを確認するようにします。

1 結果を表示します。

カラーベンチマークとキャリブレーションされた結果を比較することができます。また、各チャンネルアイコンの隣にある眼のアイコンをクリックして、個々のチャンネルを表示することもできます。

2 適用して閉じるをクリックし、キャリブレーションセットをプレスに適用して Calibrator を閉じます。

キャリブレーションの適用準備ができている

測定値のセットがある場合、キャリブレーションの適用準備ができています。キャリブレーションの検証を行うか、プレスへのキャリブレーション設定の適用を行うかを選択できます。


- 検証をクリックし、オンライン指示に従います。

プレスのキャリブレーションを検証すると、キャリブレーションされた状態が、現在のキャリブレーション設定のカラーベンチマークにどれほど近いかを比較できます。

キャリブレーションマネージャー

キャリブレーションマネージャーでは、キャリブレーション設定の表示および削除を行うことができます。個々のキャリブレーションでコメントの追加または削除ができます。

通常、キャリブレーション設定および出力プロファイルは特定の用紙および印刷条件に適したものになっています。キャリブレーション設定は、複数の出力プロファイルに関連付けることができます。

ウィンドウの左下隅にあるをクリックして、キャリブレーターからキャリブレーションマネージャーを開きます。選択されたサーバーのすべてのキャリブレーションがウィンドウに表示されます。次のカテゴリが表示されます。

- **キャリブレーション**：名前別に一覧表示されたサーバーの完了したキャリブレーション
- **最終キャリブレーション**：最後にキャリブレーションを行った日時
- **カラーモード**：キャリブレーションセットがサポートする出力プロファイルの色空間

一覧で選択したキャリブレーションで、いくつかの操作を実行できます。キャリブレーションによっては、使用できない操作もあります。ある操作が使用できない場合は、グレー表示になります。次のような操作があります。

- **編集**では、カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集するウィンドウを開きます。
- **測定値の表示**では、強調表示されたキャリブレーションの詳細を表示するウィンドウを開きます。
このウィンドウに表示される情報は、測定空間で決まります。
- **削除**では、選択したキャリブレーションセットを削除します。
このキャリブレーションの影響を受けるプロファイルも、オペレーターが確認した後に削除されます。普通紙などの工場出荷時のキャリブレーションセットは削除できません。

キャリブレーション設定を編集する

カスタムキャリブレーション設定の基本的な情報を編集できます。工場出荷時に提供されたキャリブレーション設定は編集できません。

カスタムキャリブレーション設定を編集するには、システム管理者権限が必要です。

キャリブレーション設定と一緒に保存された測定データは無効になるため、ジョブのプロパティ（印刷設定）は編集できません。キャリブレーション設定のジョブプロパティを編集するには、既存の設定に基づいて新しいキャリブレーション設定を作成します。

- 1 キャリブレーションマネージャーで、一覧からキャリブレーション設定を選択し、**編集**をクリックします。
- 2 以下の設定を指定します。
 - **名前** - 用紙名、坪量、用紙の種類のほか特定の印刷条件（ハーフトーン、グロス設定など）もわかるような名前を入力します。名前は 70 文字まで入力できます。
 - **コメント** - (オプション) 追加の説明情報を入力します。この情報は、Fiery server で使用可能なキャリブレーション設定の一覧に表示されます。

測定値の表示

DeltaE 測定空間でのキャリブレーションの詳細を表示します。

特定のキャリブレーション設定の測定データをデフォルトデータ（工場出荷時のデフォルトデータ、またはカスタムキャリブレーション設定の場合は初回の測定データ）にリセットすることができます。このオプションは、現在の測定データがすでにデフォルトデータになっている場合には使用できません。

- 1 キャリブレーションマネージャーで、キャリブレーションを選択し、測定値の表示をクリックします。キャリブレーションの詳細が表示されます。
- 2 キャリブレーションデータをリセットするには、デフォルト測定値にリセットをクリックします。このアクションを実行すると、キャリブレーター測定値の最後のセットが削除されます。

画像補正

Fiery server は、画像の色調、カラー、シャープさ、赤目補正を調整する 2 種類の画像補正方法をサポートしています。

- 印刷前の目視確認は不要な高品位イメージ画像処理適用印刷オプションによる簡単かつ高速な調整。
- 印刷前に微修正や目視確認が必要な Image Enhance Visual Editor (IEVE) による個別調整。

IEVE と高品位イメージ画像処理適用印刷オプションはそれぞれ独立した機能ですが、IEVE と高品位イメージ画像処理適用印刷オプションを同時に使用して画像を調整しないでください。同時に使用すると両方からの設定が適用され、画像の外観や品質に予期せぬ影響を及ぼす可能性があります。

高品位イメージ画像設定をカスタマイズする

高品位イメージ画像設定印刷オプションのデフォルト設定では、ジョブ内の各指定画像の露出、カラー、シャドウ、ハイライト、およびシャープさが自動的に最適化されます。デフォルト設定では満足な結果が得られない場合は、明るさ、コントラスト、赤目補正などのプロパティに関する高品位イメージ画像設定をカスタマイズできます。

高品位イメージ画像設定印刷オプションがジョブで選択されている場合は、ジョブの指定されたページまたはシートにあるカラー画像に写真仕上げの効果が印刷時に適用されます。このオプションは写真画像のみに適用され、ロゴやグラフなどのグラフィックとテキストには適用されません。

高品位イメージ画像設定印刷オプションは、プリンタードライバおよびジョブのプロパティのイメージタブにあります。この印刷オプションの詳細については、取扱説明書の『印刷ガイド』を参照してください。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ 3 つのドット）をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 デバイスセンターのワークフローから高品位イメージ画像をクリックします。

3 編集をクリックします。

4 カスタム設定をクリックし、設定を変更して、OK をクリックします。

- 露出—ダイナミック補正、コントラスト、および明るさのコントロールを有効にします。

ダイナミック補正を選択すると、Fiery server は各画像を解析し、コントラストと明るさにそれぞれ適正な値を自動的に適用します。ダイナミック補正はダークからライトまでの全範囲を補正します。

明るさとコントラストは手動で調整することもできます。ダイナミック補正が選択されている場合、コントラストおよび明るさコントロールに対する手動調整は、コントラストと明るさの自動調整に追加する形で適用されます。ダイナミック補正が選択されていない場合は、明るさとコントラストの手動調整がオリジナルの画像に適用されます。

- カラーキャスト補正、色調、彩度のコントロールを有効にします。

キャスト補正を選択すると、Fiery server は各画像を解析し、画像のカラーバランスを自動補正します。

色調と彩度の調整値は手動で指定することもできます。キャスト補正が選択されている場合、手動調整の内容はキャスト補正による自動調整に追加する形で適用されます。色のバランス効果に加えて、色調と彩度が適用されます。キャスト補正が選択されていない場合は、色調と彩度の手動調整がオリジナルの画像に適用されます。

- シャドウ/ハイライト—自動補正、シャドウ、およびハイライトのコントロールを有効にします。

自動補正を選択すると、Fiery server は画像を解析し、暗すぎるシャドウと明るすぎるハイライトを適正に補正します。シャドウおよびハイライトの効果を手動で指定するには、最初に自動補正オプションの選択を解除します。

- シャープさ—スキンのシャープさおよびスキン以外のシャープさのコントロールを有効にします。

スキンのシャープさは、肌の色調に影響します。スキン以外のシャープさは、それ以外の色のシャープさを調整します。それぞれのオプションは、-100（ソフト）から 100（シャープ）の範囲で指定できます。

- 赤目補正—赤目とは光源（通常はカメラのフラッシュ）が被写体の目の網膜に反射して、瞳孔が赤く写る現象です。

赤目補正を選択すると、Fiery server は画像を解析し、赤目を補正します。領域コントロールを使用して、補正範囲を調整できます。値を 100 にすると赤い瞳孔部分だけが補正されます。

Image Enhance Visual Editor

Image Enhance Visual Editor (IEVE) は、Fiery server に送信される PDF または PostScript ジョブ (Fiery JDF ワークフロー経由で送信されるジョブを含む) 内にあるそれぞれのイメージを補正するための視覚的ワークスペースを提供する画像補正アプリケーションです。

IEVE で実行した調整は Fiery server のジョブのみに適用され、オリジナルソース書類には適用されません。

IEVE を使用して以下のことができます。

- 1 枚または複数のページの 1 つ以上の画像を最適化します。
- 設定を適用し、印刷前の画像の微調整を行う際には、画像への設定の結果を確認します。
- 設定のセットをプリセットとして保存します。プリセットは将来、他のジョブに適用できます。

制限

- IEVE でのジョブの編集は、一度に 1 台のクライアントコンピューターで行うことができます。複数のクライアントコンピューターで編集を行うと、期待どおりの結果が得られない場合があります。
- IEVE でジョブを編集および保存し、以前のバージョンの IEVE でジョブを開く場合、一部の編集内容は表示されないか、削除される場合があります。
- IEVE は 100 ページ以下のファイルしか開けないよう制限されています。
- IEVE は 1 ページから最大 50 の画像を抽出します。
- 画像のふちがその画像の別のふち（たとえば、正方形または長方形のふち）およびページのふちと直角に交わっていない場合、画像を選択して編集することはできません。これには、ページの底辺から非直角に回転した画像および正方形や長方形ではない画像も含まれます。

Image Enhance Visual Editor を使用する

Image Enhance Visual Editor (IEVE) は、Command WorkStation のジョブから開くことができます。

- 待機キューでジョブを右クリックし、Image Enhance Visual Editor を選択します。

大きなジョブを開く

Image Enhance Visual Editor (IEVE) がインストールされている Fiery server にマウス、キーボード、マウスキットもインストールされている場合、大きいジョブが開かないか、適切に表示されない場合があります。Fiery server のハードディスクの空き容量を増やすと、問題を解決できる場合があります。

- 1 IEVE と Command WorkStation を閉じます。
- 2 E ドライブに一時ファイル用のフォルダーを作成します。このフォルダーに **Temp** という名前を付けます。
- 3 Windows のスタートメニューからコントロールパネルをクリックします。
- 4 コントロールパネルでシステムをダブルクリックします。
- 5 システムのプロパティダイアログボックスで詳細タブをクリックします。環境変数をクリックします。
- 6 環境変数ダイアログボックスの一番上で、TEMP 変数を選択します。編集をクリックします。
- 7 ユーザー変数の編集ダイアログボックスで、手順 2 で作成した Temp フォルダーへのパスを入力します。OK をクリックします。
- 8 TMP 変数について手順 6~7 を繰り返します。手順 7 (199 ページ) と同じパスを使用します。

メモ：大きなジョブを次回開いた際、IEVE ではこの一時フォルダーが使用され、ジョブが正常に表示されません。

画像を調整する

調整ペインの機能を使用して、画像を調整できます。

プレビュータブまたは分割タブには、調整に役立つツールがいくつか用意されています。

調整を行う場合は、以下のいずれかを実行します。

- 画像にプリセットを適用する。
- 色調、ハイライト/シャドウ、カラー、シャープさ、赤目補正および特殊効果レイヤーの設定を自由に編集できます。これらの設定がすべての画像で使用できるとは限りません。

メモ：仕上げオプションなど、画像の外観に影響を与えない一部のジョブのプロパティは、プルーフ印刷に適用されない場合があります。

色調を調整する

色調設定は、色調レベル（コントラストと明るさ）と、画像のハイライトおよびシャドウに影響を与えます。露出または照明の問題により、画像のハイライトまたはシャドウの細部がほとんど見えない場合には、ハイライト/シャドウ設定を使用して、これらの細部を見やすく補正できます。

色調を自動調整する

自動プリセットを適用して、色調を自動調整することができます。

- プリセットメニューの自動をクリックします。

色調を手動で調整する

色調を個々に調整することができます。ハイライト/シャドウ設定では、0～100の値を入力できます。他のすべての設定については、-100～100の値を入力できます。

- 調整ペインの色調セクションから、以下のいずれかを設定します。
 - 自動（レベル） - 画像を分析し、最良の外観を達成するために色調レベルを自動的に設定します。この調整により、露出不足と露出過多が補正されます。
画像がすでに最適化されている場合、またはほぼ最適化されている場合には、違いが分からないかもしれません。自動をオンにした後でも、必要に応じてハイライト/シャドウ設定を微調整できます。
 - 明るさ - 画像の明るさを増減します。
 - コントラスト - 画像のコントラストを増減します。
 - 精細度 - 画像のコントラスト量に影響を与えることなく、画像の精細度（細部）の量を増減します。
 - 自動（ハイライト/シャドウ） - 最適なハイライトおよびシャドウのレベルを計算し、その調整を画像に自動的に適用し、ハイライトとシャドウ設定をアップデートします。
画像がすでに最適化されている場合、またはほぼ最適化されている場合には、違いが分からないかもしれません。自動をオンにした後でも、必要に応じてハイライト/シャドウ設定を微調整できます。
 - ハイライト - 画像のハイライト部分が見やすくなるよう、画像のハイライト部分の細部を強調します。
 - シャドウ - 画像のシャドウ部分が見やすくなるよう、画像のシャドウ部分の細部を強調します。

カラーを調整する

色調再現（トーンリプロダクション）を最適化させた場合、通常、カラーに関する唯一の問題はカラーキャスト（画像のカラーのアンバランス）です。カラー設定は、カラーバランスと彩度全体に影響を与えます。

カラーを自動調整する

自動プリセットを適用して、カラーを自動調整できます。

- プリセットメニューの自動をクリックします。

カラーを手動で調整する

プリセットを使用することなく、カラーを手動で調整することができます。

- 調整ペインのカラーセクションで以下のいずれかを設定します。
 - 温度 - ブルー-イエローカラーバランスを設定します（Lab 色空間の b チャンネル）。
 - ティント - レッド-グリーンカラーバランスを設定します（Lab 色空間の a チャンネル）。
 - 彩度 - 画像のすべてのカラーの彩度を増減します。
 - 肌色の彩度 - 画像全体の彩度ではなく、画像の肌色の彩度のみを増減します。
 - 彩度および肌色の彩度の比率を固定します - 彩度設定を増減すると、他の彩度設定の値も同じ分だけ調整されます。たとえば彩度が 10 で、肌色の彩度が 20 であり、ロックがオンになっている場合、彩度を 15 に上げると、肌色の彩度は 25 に増加します。
 - 自動（カラーバランス） - 最適な外観となるよう、画像のカラーバランス（温度とティント）を自動的に補正します。

画像がすでに最適化されている場合、またはほぼ最適化されている場合には、違いが分からないかもしれません。自動をオンにした後でも、必要に応じてカラーバランス設定を微調整できます。

シャープさを調整する

「シャープさ」を高く設定してぼやけた画像を鮮明にさせるか、「シャープさ」を低く設定して画像をぼかすことができます。ぼかしは、特殊効果やポートレート写真にしばしば利用されます。

シャープさを自動調整する

自動プリセットを適用して、シャープさを自動調整できます。

- プリセットメニューの自動をクリックします。

シャープさを手動で調整する

プリセットを使用することなく、シャープさを手動で調整することができます。

- 調整ペインのシャープさセクションで、以下のいずれかを設定します。

- シャープさ - 画像内の肌色以外のカラーに影響を及ぼします。
- 肌色のシャープさ - 画像内の肌色に影響を及ぼします。

メモ：シャープさと肌色のシャープさを同じ値に設定すると、好ましくない結果になることがあります。その理由は、物体のくっきりとしたレンダリングを生み出しているシャープさのレベルが原因で、画像内の人物の肌があばたのあるざらついたような外観になってしまうおそれがあるからです。ほとんどの場合、シャープさを肌色のシャープさよりも高く設定することで最適な結果が得られます。

- シャープさおよび肌色のシャープさの比率を固定します - シャープさ設定を高くしたり低くしたりすると、別のシャープさ設定の値も同じだけ調整されます。たとえばシャープさが **15** で、肌色のシャープさが **0** であり、ロックがオンになっている場合、シャープさを **30** に上げると、肌色のシャープさは **15** に増加します。

赤目を補正する

赤目補正は画像を分析し、赤目を識別および補正しようと試みます。補正する領域を選択し、許容値を増減することで、該当箇所を補正および調整をすることができます。

許容値設定は、画像のすべての赤目補正領域に適用されます。

- 調整する画像を選択します。
- 赤目補正の下のオンをクリックします。
このアプリケーションは画像を分析して、赤目を含むと判別される部分に長方形のマーカーを表示します。
- 次のいずれかの操作を行います。
 - 赤目補正領域を削除するには、マーカーの隅にある赤い X をクリックします。
 - 赤目補正領域を手動で作成するには、赤目補正がオンであることを確認し、イメージ内でクリック & ドラッグしてマーカーを作成します。
 - 赤目補正領域のサイズを変更するには、マーカーのハンドルをドラッグします。
- 赤目補正の量を変更するには、許容値を赤目が解消されるだけの値に設定します。
 - 許容値を上げると、赤目マスクを拡大できます。
 - 許容値を下げると、赤目マスクを縮小できます。
- 赤目補正が完了した後にマーカーを非表示にするには、マーカーの非表示を選択します。

メモ：赤目補正はマーカーが非表示でも適用されています。

編集内容をジョブに保存

編集内容の保存は、PDF ジョブと PostScript ジョブで異なります。

- PDF ジョブを編集して保存する場合、調整内容は保存ジョブに保存されます。IEVE を閉じ、その後同じジョブを IEVE で開くと、コントロールは保存時と同様に設定されます。設定を手動で微調整するか、希望の効果を得られなかった変更を取り消します。
- PostScript ジョブを編集して保存する場合、編集内容はジョブに反映され、取り消すことはできません。IEVE を閉じ、その後同じジョブを IEVE で開くと、編集時と同じ状態の画像が表示されますが、すべてのコントロールはデフォルト設定になります。

プリセット

プリセットを、1つ以上のページ、または1つ以上のページの1つ/複数の画像に適用することができます。

以下の定義済みのプリセットが使用できます。

- **自動 - ハイライトおよびシャドウを自動的に強調しますおよびカラーバランスを自動的に調整します**を有効にし、**精細度、彩度、肌色の彩度、シャープさ、肌色のシャープさ**を最適なレベルに設定します。
- **補正なし** - すべてのコントロールは元の未変更の設定になり、画像は元の状態に戻ります。PDF ファイルについては、選択された画像に加えられたすべての調整が削除されます。PostScript ファイルについては、最後にファイルを保存した以降に、選択された画像に加えられたすべての調整が削除されます。

設定のセットをプリセットとして保存して、カスタムプリセットを作成することもできます。

メモ: プリセットが選択されているときに色調補正ペインで設定を変更すると、プリセットリストに「カスタム」プリセットが表示されます。変更された設定を使用して新しいプリセットを作成することができます。

プリセットを使用する

プリセットを作成して適用できます。カスタムプリセットは削除できますが、自動および補正なしプリセットは削除できません。開いているジョブのカスタムプリセットを削除した場合、IEVE は補正なしプリセットを適用します。プリセットを削除しても、プリセットが適用された画像の設定には影響しません。

プリセットを作成する

既存の設定を使用するか、独自の設定でプリセットを作成できます。

- 1 保存する設定をすでに持っている画像を選択するか、選択した画像に調整を加えます。
- 2 プリセットリストで、別名保存を選択します。
- 3 プリセットの名前を入力して OK をクリックします。

プリセットの削除

プリセットがプリセットリストから削除され、補正なしプリセットが現在の画像に適用されます。

- 1 プリセットリストで、削除するプリセットを選択します。
- 2 削除をクリックし、はいをクリックして確定します。

メモ：プリセット削除され、補正なしプリセットが現在の画像に適用されます。

画像にプリセットを適用する

1つまたは複数の画像にプリセットを適用することができます。

- 1 画像を選択します。
- 2 プリセットリストで、プリセットを選択します。

プリセットを1つまたは複数のページに適用する

プリセットを1つまたは複数のページに適用することができます。

- 1 プリセットリストで、プリセットをクリックします。
- 2 プリセットリストの横にある適用先をクリックします。
- 3 ページを選択してページ範囲を入力するか、全ページを選択します。

画像をリセットする

補正なしプリセットを適用すると、画像は元の状態にリセットされます。PDF ファイルでは、選択された画像に加えられたすべての調整が削除されます。PostScript ファイルでは、最後にファイルを保存した後に、選択された画像に加えられたすべての調整が削除されます。

- 1 画像を選択します。
- 2 次のいずれかを行います。
 - 調整の下の復帰をクリックします。
 - プリセットリストで、補正なしを選択します。

校正を印刷する

Image Enhance Visual Editor からジョブを1部またはジョブの反復校正を直接印刷して出力を確認できます。校正印刷では、現在の編集を使用して選択したページのコピーが作成され、印刷済みキューに新しいジョブとして直接送信されます。印刷が完了すると、校正印刷ジョブが削除されます。

- 1 校正を印刷するには、ファイル > 校正印刷を選択します。

2 現在のページを印刷するか、すべてのページを印刷するかを選択します。

スポットカラー

スポットカラー機能は、Command WorkStation のスポットカラー（名称付きカラー）マネージャーです。この機能を使用すると、Fiery server でスポットカラーの定義を編集したり、カスタムスポットカラーの定義を作成したりできます。スポットカラーは、Fiery Spot-On 機能の一部です。Fiery server で Spot-On が使用可能で、有効になっている場合は、スポットカラーとそのスポットカラーと同等の CMYK 値のリストを調整および管理することができます。

スポットカラーは、PANTONE、HKS、TOYO、DIC などの名称付きカラーのライブラリを搭載しています。スポットカラーライブラリには、オリジナルのスポットカラー値とそれに対応するデバイス独自の定義（Lab 値）が含まれています。スポットカラーは、Fiery server 上の出力プロファイルごとに、スポットカラーに最も近い CMYK 値を算出します。新しい出力プロファイルを作成するか、既存出力プロファイルを更新した場合、スポットカラーは対応する最良の CMYK 値を自動的に再計算します。

代替カラーのリストを作成できます。このリスト内のカラーが、その RGB 値または CMYK 値で書類内に使用されている場合は、スポットカラーのカラー定義に従って、書類での定義とは異なる CMYK 値のカラーに代替されます。これにより、正確なカラー出力が可能になり、個々の RGB および CMYK カラーが上書きされず。

スポットカラーを使用すると、スポットカラーをジョブで使用されている汎用カラーに割り当てて処理することもできます。2色印刷マッピング機能は、印刷会社のオペレーターが2色刷りをシミュレートできるように設計されています。この機能を使用すると、プリンターですでに作成されているカラーにジョブ内のカラーをマッピングして、2色刷りジョブを2色プリンターに印刷することができます。

メモ：FS350/350 Pro 以前の Fiery システムソフトウェアを搭載する Fiery server で2色印刷マッピングが使用可能な場合、マッピングは Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition で有効になります。

スポットカラーグループと定義

Command WorkStation のスポットカラー機能を使用すると、Fiery server でスポットカラーの定義を編集したり、カスタムスポットカラーの定義を作成したりできます。一度に1人のユーザーのみがスポットカラーを使用できます。

スポットカラーウィンドウは3つの部分に分かれています。

- 画面の左側には、カラーグループの一覧が表示されます。
- 画面の中央には、現在選択されているカラーグループのスポットカラーの一覧が表示されます。
- 画面の右側には、現在選択されているスポットカラーの定義、およびオリジナルの Lab 値と出力プロファイルにより変換された後の CMYK 値を示すスウォッチが表示されます。

スポットカラー定義内の「!」アイコンは、1つ以上のインクが最大値に達していることを示しています。

デフォルトで、Fiery server には、DIC、HKS、TOYO などの複数の PANTONE カラーグループが付属します。これらの標準グループはロックされています。ロックされたグループは、削除、名前の変更、またはエクスポートを行えません。また、ロックされたグループにスポットカラーを追加したり、スポットカラーの名前を変更したり、スポットカラーを削除したりすることもできません。スポットカラーの優先順位を変更することもできません。

スポットカラー編集用の出力プロファイルを選択する

Fiery server は、出力プロファイルごとにスポットカラー辞書を管理しています。スポットカラーを編集すると、そのスポットカラーに関連付けられている出力プロファイルを使用して印刷されるジョブのスポットカラーにその編集内容が適用されます。

Fiery server に応じて、出力プロファイルを直接選択することも、編集するスポットカラーを使用するジョブの印刷設定（ジョブのプロパティ）を指定することもできます。Fiery server は、印刷設定から出力プロファイルを決めます。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 リソースでスポットカラーをクリックします。
- 3 出力プロファイルがスポットカラーペインの上部に表示される場合は、一覧から出力プロファイルを選択します。
- 4 プロパティがスポットカラーペインの上部に表示される場合は、プロパティをクリックし、編集されたスポットカラーを使用するジョブの印刷設定を選択して、OK をクリックします。

ジョブのプロパティウィンドウにある印刷設定は、Fiery server の現在のデフォルト設定です。

メモ： カラー管理に関係のない印刷設定は無視されます。

用紙種類の混合ジョブの場合は、最初のページの印刷設定が使用されます。

スポットカラーペインの給紙方法および出力プロファイルの設定が更新されます。

スポットカラーまたはカラーグループの優先順序を変更する

スポットカラーの定義を検索する場合、Fiery server はスポットカラーの一覧に表示されている順序でカラーグループ内のカラーを検索します。複数のスポットカラーが同じ名前を持つ場合、一覧の一番上から探して Fiery server が最初に見つけたカラーが優先されます。必要に応じて、カラーグループまたはカラーグループ内のスポットカラーの順序を変更して、特定のスポットカラーの優先順位を指定してください。

メモ： ロックアイコン付きカラーグループ内ではカラーの順序を変更できません。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 リソースでスポットカラーをクリックします。

- 3 カラーグループまたはカラーを選択します。
- 4 選択した項目を一覧内の新しい場所にドラッグします。

スポットカラーを検索する

スポットカラーを名前で検索することができます。Fiery server はスポットカラーのリストに表示されている順序でカラーグループ内のカラーを検索します。複数のスポットカラーが同じ名前の場合、リストで最初に現れる名前が優先されます。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 リソースでスポットカラーをクリックします。
- 3 検索をクリックします。
- 4 スポットカラーの名前の一部分または全体を入力し、次へをクリックします。

メモ： 検索では大文字と小文字が区別されます。
前に向かって検索するには、前へをクリックします。

スポットカラーを編集する

スポットカラーの CMYK 値を定義するには、数値を入力するか、カラーズウォッチのパターンから目視で一致するものを選択するか、または測定器を使用して対象物の色を測定します。

スポットカラーマッチング印刷オプションを選択すると、スポットカラーは自動的にそのスポットカラーに対応する最良の CMYK 値に変換され、CMYK のインク/トナーを使用してスポットカラーをシミュレートすることができます。ところが、特定の印刷状況によっては、最良の結果を得るためにデフォルトの CMYK 値を調整する必要が出てくる場合があります。スポットカラーで、スポットカラーの定義を変更することができます。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 リソースでスポットカラーをクリックします。
- 3 スポットカラーを探してダブルクリックします。

4 次のいずれか（または複数）の操作を行います。

- CMYK のパーセンテージの値を直接編集するには、C、M、Y、K の各フィールドをクリックして新しい値を入力します。フィールド間を移動するには Tab キーを使用します。新しいカラーが現在の選択の隣に表示されます。
- 目視で新しいカラーを選択するには、ダイアログボックス下側のカラーパッチをクリックします。

選択したカラーが新たな**現在の選択**となり、中央クラスタの中央パッチに表示されます。隣接パッチには、更新後の色相のバリエーションが表示されます。これらは、それぞれ色つき矢印で示された方向に中央パッチの色相を変化させたものです。画面の左側と右側のクラスタは、中央のクラスタの**微調整モード**での設定による、彩度または明るさのバリエーションです。隣接パッチのバリエーションの度合いを制御するには、調整スライドバーを**細**（より小さなバリエーション）または**粗**（より大きなバリエーション）の方向にスライドしてください。

メモ：カラーを選択すると、ダイアログボックスの右上部に**!**アイコンが表示されることがあります。このアイコンは、1つ以上のインク/トナーがその最大値に達していることを示しています。

- 測定器を使用して新しいカラーを選択するには、**スポットカラー値を測定およびインポートする**（214 ページ）を参照してください。

5 テストページを印刷するには、印刷をクリックします。

モニター上でスポットカラーを正確に合わせるのは非常に困難です。必ずテスト印刷ページを印刷してカラーを確認してください。

6 OK をクリックして、編集した内容を保存します。

スポットカラーを最適化する

コンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合、Fiery Device Linker のスポットカラー最適化機能を使用してスポットカラーの定義を最適化することができます。最適化ではスポットカラーの印刷サンプルを測定し、この測定データを使用してスポットカラーの定義を調整できます。

Device Linker を使用したスポットカラーの最適化についての詳細は、Device Linker 画面上のヘルプアイコンをクリックしてください。

1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。

- サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
- サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
- サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
- サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。

2 リソースでスポットカラーをクリックします。

3 次のいずれかの操作を行います。

- 1つまたは複数のスポットカラーを選択し（追加でカラーを選択するには Ctrl キーを押しながら選択）、選択したカラーを右クリックして、**スポットカラー最適化**を選択します。
- **編集**をクリックし、**スポットカラー最適化**を選択します。Device Linker でスポットカラーを選択します。

4 Device Linker での最適化が完了したら、完了をクリックして、スポットカラーウィンドウに戻ります。

スポットカラーまたはカラーグループの作成、名前変更、削除を行う

スポットカラーまたはカラーグループの作成、名前変更、削除を行うことができます。ロックされたスポットカラーやカラーグループは変更できません。

スポットカラーまたはカラーグループを作成する

新しいスポットカラーを既存のグループ内に作成したり、新しいカラーグループを作成したりできます。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 リソースでスポットカラーをクリックします。
- 3 スポットカラーリストまたはカラーグループリストで、新しいスポットカラーまたはカラーグループを配置する場所を選択し、**新規**をクリックします。
- 4 スポットカラーまたはグループを選択し、スポットカラーまたはカラーグループの名前を入力します。
- 5 スポットカラーの場合は、その定義を指定します。

スポットカラーの CMYK 値を定義するには、数値を入力するか、カラースウォッチのパターンから目視で一致するものを選択するか、または測定器を使用して対象物の色を測定します。また、Lab 値によってスポットカラーを定義することもできます。
- 6 保存したうえで別のスポットカラーまたはグループを追加するには、**新規追加**をクリックします。
- 7 新しいスポットカラーまたはグループを保存するには、**OK** をクリックします。

スポットカラーまたはカラーグループの名前を変更する

既存のスポットカラーまたはカラーグループがロックされていない場合、それらの名前を変更できます。スポットカラーの名前を特定のジョブ内で使用されている名前に一致させるには、大文字、小文字、スペースなども含めて名前を正確に入力する必要があります。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。

- 2 リソースでスポットカラーをクリックします。
- 3 スポットカラーまたはグループを右クリックし、**名前の変更**を選択します。
- 4 新しい名前を入力して、Enter キーまたは Return キーを押します。

スポットカラーまたはカラーグループを削除する

スポットカラーやカラーグループ（およびそのグループ内のスポットカラー）は、ロックされていない限り削除できます。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 リソースでスポットカラーをクリックします。
- 3 スポットカラーまたはグループを右クリックし、**削除**を選択します。
- 4 確認画面では **はい** をクリックします。

カスタムカラーグループをインポートおよびエクスポートする

Fiery server から、カスタムカラーグループを ICC ファイルとしてコンピューターにエクスポートすることができます。カスタムカラーグループをコンピューターから Fiery server にインポートできます。

インポートしたカラーグループは、スポットカラーグループの一覧に追加され、Fiery server ですぐに使用することができます。

カスタムカラーグループをインポートする

スポットカラー定義は Fiery server 上に用意されていますが、それ以外のスポットカラー定義をサポートするには、コンピューターから名前付きカラープロファイルをカスタムカラーグループとしてインポートします。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 リソースでスポットカラーをクリックします。

- 3 カラーグループの一覧から、インポートしたカラーグループを追加する場所を選択します。
- 4 インポートをクリックします。
- 5 インポートするカラーグループを選択します。
多くの ICC プロファイルが表示されていても、インポートできるのは ICC 名前付きカラープロファイルだけです。
- 6 開くをクリックします。

インポートしたグループは、カラーグループ一覧で、前の手順で選択したグループの前に追加されます。このグループは一覧でその下に表示されているカラーグループよりも優先順位が高くなります。インポートするグループ名が一覧内の既存のグループと同一名の場合は、インポートするカラーグループ名を変更するように促すメッセージが表示されます。

カスタムカラーグループをエクスポートする

カスタムカラーグループを別の Fiery server と共有するには、そのグループをローカルコピーにエクスポートして、ローカルコピーを別の Fiery server にインポートします。ロックされているカラーグループをエクスポートすることはできません。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 リソースでスポットカラーをクリックします。
- 3 エクスポートするカラーグループを選択します。
- 4 エクスポートをクリックします。
- 5 ファイル名を入力し、ファイルタイプを選択します。
- 6 ファイルの保存先を指定し、保存をクリックします。

カラーグループの色の範囲を表示する

コンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合は、Fiery Profile Inspector を使用して、グループ内のスポットカラーの色空間の色の範囲と、選択出力プロファイルの色の範囲とを比較して表示することができます。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。

- サーバー> デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 リソースでスポットカラーをクリックします。
 - 3 表示するカラーグループを選択し、**検査**をクリックします。

Profile Inspector が別のウィンドウで開きます。スポットカラーと出力プロファイルの色の範囲を比較するなど、Profile Inspector の使用方法については、Profile Inspector 画面上のヘルプアイコンをクリックして参照ください。

カラーウォッチページとウォッチブック

スポットカラーとその隣接スポットカラーを含むウォッチページを印刷することができます。カラーグループ内のすべてのスポットカラーが含まれているウォッチブックや、カラーグループ内の選択されたカラーを印刷することもできます。

スポットカラーマッチング

ウォッチページまたはウォッチブックを印刷する際、スポットカラーについては次のジョブプロパティを使用してジョブが印刷されます。

- Fiery server のスポットカラーペインで出力プロファイルを選択できる場合、スポットカラーについては指定した出力プロファイルと Fiery server のデフォルトのジョブプロパティを使用してウォッチブックまたはウォッチページが印刷されます。
- Fiery server のスポットカラーペインでプロパティを選択できる場合、スポットカラーについては選択したジョブプロパティを使用してウォッチブックまたはウォッチページが印刷されます。スポットカラーでジョブのプロパティを選択していない場合、スポットカラーについては Fiery server のデフォルトのジョブプロパティが使用されます。

いずれの場合も、ジョブのプロパティのスポットカラーマッチングオプションを無効にしている場合は、メッセージが表示されます。スポットカラーマッチングは使用されるスポットカラーのスポットカラー定義に対して有効にする必要があるため、スポットカラーによるウォッチブックまたはウォッチページの印刷では、スポットカラー（または Fiery server）で設定されたジョブのプロパティに関係なく、スポットカラーマッチングオプションが常に有効にされます。

キャリブレーション

Fiery server のキャリブレーションを行うことにより、一貫した信頼性のあるカラー出力が可能となります。キャリブレーションは、時間の経過や印刷状況の変化によるプリンターのカラー出力の変動を調整します。

ウォッチブックまたはウォッチページを印刷する際に、キャリブレーションの有効期間が切れていることを知らせる警告が表示された場合は、期限切れのキャリブレーションを使用してジョブが印刷されるタイミングを検出するように Fiery server が設定されています（すべての Fiery server がこの機能をサポートしているわけではありません）。警告を無視して印刷を続行することもできますが、一貫性のあるカラー出力を得るために、最新のキャリブレーションのみを使用してスポットカラーからページを印刷することをお勧めします。

カラースウォッチページまたはスウォッチブックを印刷する

単色スポットカラーのカラースウォッチページ、またはスポットカラーグループのスウォッチブックを印刷できます。

スポットカラースウォッチページを印刷する

スウォッチページを印刷するときには、スポットカラーとパターンを選択します。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 リソースでスポットカラーをクリックします。
- 3 スポットカラーをダブルクリックし、印刷をクリックします。
- 4 レイアウトを選択します。
 - カラーサーチパターン - スポットカラー編集または新規スポットカラーダイアログボックスで表示されているものと同じパターンでパッチを印刷します。
 - 隣接カラーパターン - スポットカラー編集または新規スポットカラーダイアログボックスで表示されているパッチを、3列 x 8行形式で印刷します。
- 5 印刷設定（プロパティ）で給紙方法を指定していない場合は、スウォッチブック印刷用の用紙サイズと給紙方法を選択します。
- 6 印刷またはOK（Fiery server でサポートされている、どちらかのボタン）をクリックして、スウォッチページを印刷します。

カラースウォッチブックを印刷する

スウォッチブックを印刷するときには、スポットカラーグループとレイアウトを選択します。

- 1 スポットカラーウィンドウで、カラーグループを選択し、次のいずれかの操作を実行します。
 - カラーグループ内の全スポットカラーのスウォッチブックを印刷するには、カラーグループを選択して印刷をクリックします。
 - カラーグループ内の選択したカラーのスウォッチブックを印刷するには、スポットカラーウィンドウでカラーグループを選択し、Ctrl キーを押しながらスポットカラーをクリックして選択し、印刷をクリックします。

カラースウォッチ 8x8 レイアウトが印刷されます。カラースウォッチ 8x8 は、8列 x 8行の形式でカラーパッチを印刷します。

FS200/200 Pro より前の Fiery システムソフトウェアを実行している Fiery server では、カラーズウォッチ 8X4 レイアウトを選択できます。

- 2 印刷設定（プロパティ）で給紙方法を指定していない場合は、スウォッチブック印刷用の用紙サイズと給紙方法を選択します。
- 3 印刷または OK（Fiery server でサポートされているどちらかのボタン）をクリックして、スウォッチページを印刷します。

スポットカラー値を測定およびインポートする

EFI ES-2000 分光測色計など、単一のカラーサンプルを測定できる計器がある場合、測定したカラー値を直接スポットカラー定義にインポートできます。この機能を使用することによって、印刷物のロゴの赤色やパッケージの黄色など、実物の実際のカラーにスポットカラーを合わせることができます。

メモ： X-Rite i1Pro または i1Pro 2 を使用する場合は、Fiery から購入したものを使用する必要があります。EFI 社製以外の計器は、スポットカラーでは使用できません。

- 1 分光測色計をインストールし、コンピューターで使用できるように設定します。
計器のインストールおよび設定の詳細については、計器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 2 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ 3 つのドット）をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 3 リソースでスポットカラーをクリックします。
- 4 計器が接続されていることを確認し、計器をクリックします。
- 5 分光測色計をキャリブレーションドックに置いて、キャリブレーションをクリックします。キャリブレーションにより、測定の精度が向上します。
- 6 対象となるカラーグループを選択して新規 > スポットカラーをクリックするか、スポットカラーをダブルクリックして編集します。
- 7 分光測色計の計測部が測定するカラーの中央にくるように、分光測色計をカラーの上に置きます。
- 8 分光測色計のボタンを押して測定します。測定した CMYK 値が以下のようにスポットカラーにインポートされます。
 - カラー一覧でカラーが選択されている場合、そのカラーの定義が、測定したカラー値に更新されます。
 - スポットカラー編集または新規スポットカラーウィンドウが開いている場合、現在の選択が測定したカラー値で更新されます。
 - カラーグループ一覧でカラーグループが選択されている場合、インポートした測定値を持つ新しいカラーがグループ内に作成されます。

代替カラー

代替カラー機能は、ジョブ内のカラーを最終印刷の別のカラーにマッピングするために使用されます。

代替カラーは、テキスト、ベクトルグラフィック、ラインアートにのみ影響します。ラスターイメージには影響しません。

カラーが代替カラーとして定義されている場合、RGB カラー用の設定（RGB ソースなど）や CMYK カラー用の設定（CMYK ソース）は無効になります。代替カラーはスポットカラーと同様のプロセスでカラー変換されます。

⚠ 注意 代替カラー機能と Postflight 機能を同時に使用することはできません。これらの印刷オプションには制限があります。

代替カラー機能を使用するには、次の操作を行う必要があります。

- Command WorkStation で代替カラー値を設定します。
- 代替カラー印刷オプションをオンにして書類を印刷します。

代替カラーを設定する

代替カラーは、代替グループと呼ばれる特殊なタイプのスポットカラーグループ内に存在します。代替カラーでは、オリジナルカラーの CMYK 値とそのカラーの代替カラーの CMYK 値を指定します。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 リソースでスポットカラーをクリックします。
- 3 代替グループがすでに存在する場合は、代替グループを選択し、6（215 ページ）に進みます。それ以外の場合は、代替グループを作成するために、カラーグループの一覧で、新しい代替グループを配置する場所を選択します。
- 4 新規をクリックし、代替グループを選択します。
- 5 新規グループ用の名前を入力し、OK をクリックします。
- 6 スポットカラーの一覧で、新しい代替カラーを配置する場所を選択します。
- 7 新規をクリックし、代替カラーを選択します。
- 8 オリジナルのカラー値を指定するカラーモードを選択します。
- 9 オリジナルカラーの許容値を選択します。

許容範囲はカラーがオリジナルカラーにどの程度近くなければならないかを決定します。許容範囲での「小」または「大」は、次のように定義されています。

カラーモード	小さい許容範囲	大きい許容範囲
CMYK (0-100%)	+/-0.25%	+/-0.5%
RGB (デバイスコード 0-255)	+/-0.25	+/-1
RGB (0-100%)	+/-0.25%	+/-0.5%

メモ：許容範囲の設定は、変換後のカラーには影響を及ぼしません。

- 10 オリジナルカラーの値を入力します。フィールド間を移動するには **Tab** キーを使用します。
- 11 変換の下の編集をクリックします。
- 12 変換後のカラーの名前を入力し、**OK** をクリックします。

2色印刷マッピング

2色印刷マッピングを使用すると、ジョブ内のプロセスカラーを2色刷りのプリントデバイス（シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック、またはスポットカラー）のプロセスカラーにマッピングできます。2色印刷マッピング機能は、プリントショップのオペレーターが2色刷りのプリントデバイスで校正を行えるようにデザインされています。

この機能を使用すると、ジョブ内のプロセスカラーをプリンターですでに用意されているカラーにマッピングして、2色刷りのジョブを2色刷りのプリントデバイスに印刷できます。

メモ：2色印刷マッピングは、代替カラーとは異なります。2色印刷マッピングは、ジョブで使用されるプロセスカラーを変換します。代替カラーは、ジョブ内の1つのカラーを別のカラーに変換します。

2色印刷マッピング機能を使用するには、以下のタスクを行う必要があります。

- Command WorkStation で2色印刷マッピング値を設定します。
- 2色印刷マッピング印刷オプションをオンにして書類を印刷します。

この機能を使用するときは、次の制約が適用されます。

- コンポジットオーバープリントまたは色分解の組合せを有効にしている場合、2色印刷マッピングは無視されます。
- Postflight はカラー変換を行う前にオリジナル書類の状態を点検してレポートを作成するため、Postflight レポートには2色印刷マッピングの情報は含まれません。
- ジョブで2色印刷マッピングと代替カラーを同時に選択することはできません。また、2色印刷マッピングを設定するときに、代替カラーを選択することもできません。

2 色印刷マッピングを設定する

2 色印刷マッピングを設定するには、ジョブ内の各オリジナルカラーに対する出力カラーを指定します。

1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。

- サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
- サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
- サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
- サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。

2 リソースでスポットカラーをクリックします。

3 2 色印刷マッピングをクリックします。

4 2 色のプロセスカラーのそれぞれについて、ジョブ内で使用されるオリジナルのプロセスカラーを選択します。

最初は、ブラックとマゼンタがオリジナルのプロセスカラーとして表示されます。カラー選択を変更すると、印刷のプロセスカラーも同じカラーに変わります。これは、誤って他のプロセスカラーにマッピングするのを防ぐためです。

5 印刷で、プロセスカラーのマッピング先であるプロセスカラーまたはスポットカラーを選択します。スポットカラーを選択するには、一覧からカラーグループとカラー名を選択してください。

6 OK をクリックします。2 色印刷マッピング用のグループが保存され、スポットカラーウィンドウ内のグループの一覧に追加されます。

Spot Pro のスポットカラー

Spot Pro は、スポットカラーの作成、管理および編集を行うための包括的なプログラムです。Spot Pro を使用して、Fiery server でスポットカラーの定義を編集したり、カスタムスポットカラーの定義を作成したりすることができます。スポットカラーは、Spot Pro 機能の一部です。お使いの Fiery server で Spot Pro が使用可能であり、有効になっている場合は、スポットカラーとそれと等価の CMYK 値のリストを調整や管理できます。

Command WorkStation は、すべての主要なスポットカラーメーカーのスポットカラーを自動的に管理する内部スポットカラーライブラリを備えています。不明なスポットカラーが含まれるジョブを Command WorkStation に読み込む場合は、ジョブを正しく印刷する前に定義する必要があります。

Spot Pro は、PANTONE、HKS、TOYO、DIC などから名前付きのカラーの Fiery server ライブラリを事前に読み込みます。スポットカラーライブラリには、オリジナルのスポットカラー値とそれに対応するデバイス独自の定義 (L*a*b*値) が含まれています。Fiery server 上の各出力プロファイル用に、Spot Pro は各スポットカラーに最も近い CMYK 値を算出します。新しいプロファイルが生成または更新されるたびに、Spot Pro は同等の CMYK 値を自動的に再計算し、L*a*b*値を変換します。

「代替」カラーのリストを作成できます。このリスト内のカラーが、その RGB 値または CMYK 値で書類内で使用されている場合は、Spot Pro のカラー定義に従って、書類での定義とは異なる CMYK 値のカラーに代替されます。これにより、正確なカラー出力が可能になり、個々の RGB および CMYK カラーが上書きされません。

Spot Pro を起動する

Command WorkStation のデバイスセンターから Spot Pro を起動できます。

新規または既存のカスタムカラーグループにスポットカラーを追加できます。新しいスポットカラーをシステムグループに追加することはできません。

1 次のいずれかの方法で Spot Pro を起動します。

- ジョブセンターで、ツールバーから Spot Pro をクリックします。
- サーバー > Spot Pro をクリックします。
- サーバーウィンドウでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
- デバイスセンターで、リソース > Spot Pro をクリックします。

メモ： Command WorkStation における1つまたは複数の Fiery servers に接続されている場合は、Spot Pro の1つのインスタンスのみを開くことができます。これにより、Command WorkStation のジョブセンターまたはデバイスセンターのジョブを引き続き使用できます。

2 Spot Pro を起動をクリックします。

3 次のいずれかを行います。

- 新しいスポットカラーを作成するには、新規 > スポットカラーをクリックします。

Spot Pro は、接続されているプリンターから情報を取得し、その情報を使用して新しいスポットカラーを正確に再現できるかどうかを確認します。

- 既存のスポットカラーグループを開くには、ツールバーの開くをクリックし、スポットカラーグループを参照します。Spot Pro は、Adobe Swatch Exchange (.ASE)、CXF、ICC および ICM のファイルフォーマットでスポットカラーをインポートできます。

メモ： macOS Mojave 10.14 の場合は、オプションをクリックし、ファイルフォーマットを選択して開きます。

同じスポットカラーの複数のコピーを含む CXF ファイルをインポートすると、ファイルに重複が含まれていることを示すエラーメッセージが表示されます。スポットカラーの最初のインスタンスのみが使用されます。.CXF ファイルは、ファイルを作成した元のアプリケーション内で修正することができます。

Spot Pro ワークスペース

メインウィンドウには、スポットカラーグループのリストと、各グループ内の名前付きスポットカラーのリストが表示されます。名前付きスポットカラーを選択すると、スポットカラーのプレビューが表示されます。

Spot Pro メインウィンドウには以下の領域が含まれます。

- Spot Pro グループウィンドウ

スポットカラーグループの順序は、Fiery server のスポットカラーの検索順序を定義します。

Spot Pro カラーグループは、名前、タイプまたはロック状態で自動的に並べ替えられません。

最新のグループがリストの一番上(または最初)に追加されます。

デフォルトでは、Fiery server は一覧の先頭からカラーを検索し、最初に一致した名前付きスポットカラー定義をジョブに適用します。ジョブのプロパティウィンドウで別のグループを選択して、この検索設定をジョブごとに上書きすることも可能です。

リスト上で各スポットグループを手動で上下に移動させて、カラー検索順序を変更できます。

グループ名を右クリックして、**上へ移動**または**下へ移動**を選択して一度に1ステップずつ移動させるか、**最上部に移動**または**最下部に移動**を選択して、検索順序を変更するリストの一番上または一番下にグループ名を移動させることができます。

- Spot Pro カラーウィンドウ

列幅を調整することができます。

最新のカラーがリストの一番上(または最初)に追加されます。

スポットカラー名を右クリックして、**上へ移動**または**下へ移動**を選択して一度に1ステップずつ移動させるか、**最上部に移動**または**最下部に移動**を選択して、検索順序を変更するリストの一番上または一番下にスポットカラー名を移動させることができます。


- Spot Pro カラープレビューウィンドウ


選択したスポットカラーのオリジナルスポットカラーと変換したスポットカラーのプレビューが表示されます。

色域警告と ΔE は、選択したスポットカラーにも表示されます。

オリジナルと変換された $L^*a^*b^*$ 値は選択した出力プロファイルに基づいて計算されます。

選択したスポットカラーの分解値が表示されます。

スポットカラーを編集するには、編集アイコン () をクリックして Spot Pro エディターウィンドウを開きます。

1つまたは複数のスポットカラーを選択し、複製アイコン () をクリックして Spot Pro 複製ウィンドウを開きます。複製されたスポットカラーは全く新しいグループに保存することができます。その場合、新しいグループ名を指定したり、既存のカスタムグループに追加したりすることができます。

- Spot Pro カラーエディターウィンドウ

選択したスポットカラーを編集できます。スポットカラーは、選択されている出力プロファイルとバリエーションに基づいて $L^*a^*b^*$ 値、LCH 値、デバイス分解を変更して、編集することができます。

Spot Pro グループタイプ

Spot Pro には、2つのカラーグループタイプ（システムカラーおよびカスタムカラー）と代替カラーグループがあります。

スポットカラーグループ - システムカラー

システムスポットカラーグループおよびグループ内のすべてのカラーは、ロックされています。編集はできませんが、削除したり名前を変更したりすることはできません。スポットカラーの名前を編集するには、カラーを複製してカスタムスポットカラーグループに保存します。

スポットカラーグループ - カスタムカラー

少なくとも1つまたは必要な数のカスタムスポットカラーグループを作成できます。

カスタムグループのスポットカラーには編集、コピー、カット、削除などをおこなえます。同じカスタムスポットグループ内のカラーには、一意の名前が必要です。ただし、異なるカスタムスポットカラーグループのカラーに同じ名前がついている場合があります。

代替カラーグループ

カスタム代替カラーに代替カラーグループを作成できます。

特殊カラーグループ

プリンターでサポートされている特殊カラーによっては、1つ以上の特殊カラーグループがデフォルトで使用できます。

Spot Pro には、エイリアス機能を使用して、異なるまたは複数のスポットカラーを1つのスポットカラーにリンクまたは関連付けする別の方法があります。

Spot Pro カラータイプ

ユーザーが定義した出力プロファイルは、色分解値とカラーズウォッチの表示に使用されます。

Spot Pro は、カラーを作成または複製するときに、すべての分解値を自動的に生成します。別の出力プロファイルを選択して、それぞれの分解値を表示したり、1つ以上の出力プロファイルの分解値を変更したりすることができます。また、1つの出力プロファイルの色分解を複数またはすべての出力プロファイルに適用することもできます。

1つの出力プロファイルの分解値を他の出力プロファイルに適用する

以下の点に留意してください。

- 分解値を他の出力プロファイルに適用すると、カラーメトリックスポットカラーが正しく再現されないことがあります。
- 分解値が異なる色空間、用紙または素材に適用されると、結果が不正確または望ましくないものになることがあります。

- 1 Spot Pro で、次のいずれかの操作を行います。
 - グループを右クリックし、**適用**を選択します。
 - カラーを右クリックまたは **Shift** キーを押しながら複数のカラーをクリックして、**適用**を選択します。
 - 出力プロファイルフィールドの隣にある**適用**アイコンをクリックします。
- 2 分解値を適用する出力プロファイルを選択します。
- 3 保存をクリックします。

Spot Pro のカスタマイズ

Spot Pro の環境設定

Spot Pro の環境設定を行うことができます。

- 1 Spot Pro 環境設定ウィンドウを開くには、**環境設定**ツールバーアイコンをクリックします。
- 2 ΔE 許容値を指定します。
- 3 ΔE 形式を指定します。
 - dE 2000 - CIE が 2000 年に推奨した CIELAB の一種です。この方法では、 $KL = KC = KH = 1.0$ を使用します。
 - dE CIE76 - 1976 年に CIE（国際照明委員会）が規定した、色差を距離で表すための式です。
 - dE CMC - 色度と色相に対する明度の相違率（ISO 標準 ISO 105-J03 に基づいて計算）です。明度と色度の加重は、知覚データとともに使用する場合、1.0 です。
 - dE 94 - CIE TC1-29 が色差式として推奨する CIELAB の一種です。グラフィックアートアプリケーションの場合、この方法では $K1 = 0.045$ と $K2 = 0.015$ を使用します。
- 4 次のいずれかを選択して、**推奨測定モード**を指定します。
 - M0 - UV を含む
 - M1 - D50 UV を含む
 - M2 - UV カット
- 5 Fiery Edge スポットカラー処理を使用すると、特に色域外のカラーで、スポットカラーの精度を向上させるために、スポットカラーレシピをより制御できます。Fiery Edge スポットカラー処理を有効にすると、システムのすべてのスポットカラーレシピが再計算されます。これは、Fiery server のすべてのスポットカラーレシピの ΔE 値に影響します。拡張色域プロファイル（CMYK 以外の色）がある Fiery server の場合、スポットカラーレシピを再計算すると、出力値は 4 色（ブラックを含む）に制限されます。Fiery Edge スポットカラー処理を使用すると、次のことができます。
 - Fiery Edge 設定で許容される最大 ΔE 偏差を指定する。
 - 許容される ΔE 偏差を増やすと、スポットカラーレシピがよりきれいになり、より視覚的に魅力的になることがあります。

- 汚染除去を指定して、非常に低い値のスポットカラーレシピからカラーを削除する。
 - スポットカラーレシピの少量のプロセカラーにより、しみのある見た目になることがあります。スポットカラーレシピから低い値のカラーを削除すると、スポットカラーがきれいに見える場合があります。
- 95%以上のトーン値で塗りつぶしを指定して、スポットカラーレシピのカラーが95%以上の場合には100%を使用する。
 - 100%未満の値のカラーを使用したスポットカラーレシピでは、細かくて白いしみのパターンが出る場合があります。カラー値を100%に増やすと、この問題は解消されます。
- 出力プロファイルからブラック最大値の設定を上書きを指定して、グレーをより均一にし、スポットカラーレシピで使用されるCMYのインクやトナーの量を削減する。

メモ：Fiery Edge スポットカラー処理を有効にすると、既存の標準スポットカラーレシピが置き換えられます。標準のスポットカラーレシピや編集内容を保存するには、Fiery Edge スポットカラー処理を有効にする前に、標準スポットカラーグループを.iccファイル形式でバックアップしてください。標準Fiery スポットカラー処理テクノロジーとFiery Edge スポットカラー処理をいつでも切り替えることができます。

6 入力設定を指定します。

- 汚染除去
- 95%超のトーン値で塗りつぶし
- 出力プロファイルからブラック最大値の設定を上書き

7 デフォルトの環境設定を使用するには、工場出荷時のデフォルトをクリックします。

サポートされている測定デバイス

Spot Pro は、以下の測定デバイスをサポートしています。

- ES-3000/i1Pro3/i1Pro3 Plus
- ES-2000/i1Pro2
- ES-1000/i1Pro
- MYIRO-1
- FD-5BT
- TECHKON SpectroDens

Spot Pro 列を管理する

システムスポットカラーまたはカスタムスポットカラーの列見出しをカスタマイズすることができます。これらの列の順序を変更したり、グループ内のスポットカラーに関連する情報を追加/削除したりすることができます。

列の表示を変更する

列を追加または削除できます。

- 1 Spot Pro カラーペインで列を右クリックします。
 - 2 列のオプションは次のとおりです。
 - システムスポットカラーの場合、カラスウォッチを表示、Lab (オリジナル)、Lab (変換)、分解または ΔE を選択します。
 - カスタムスポットカラーの場合、カラスウォッチを表示、Lab (保存)、Lab (変換)、分解または ΔE を選択します。
- メモ:** ΔE 列を追加すると、 ΔE の値が Spot Pro の環境設定ウィンドウで設定されている許容範囲を超えた場合に警告アイコンが表示されます。
- メモ:** パッチ&名前列を削除したり、移動させたりすることはできません。
- 3 メニュー内の項目を選択して、列の追加/削除を行います。

列の幅を調整する

Spot Pro 列の幅を変更できます。

- そのためには、列の境界を左または右にドラッグします。

列の順序を変更する

Spot Pro 列の幅を変更できます

- 列を右クリックしてその列をドラッグし、Spot Pro カラーペインの列の位置を変更します。

メモ: パッチ&名前列を削除したり、移動させたりすることはできません。

スポットカラーライブラリの有効化/無効化

Spot Pro で、スポットカラーグループの表示と非表示を切り替えることができます。

メモ: Fiery システムソフトウェア FS600/600 Pro 以降を搭載する Fiery server でのみ、スポットカラーライブラリを有効または無効にできます。

- 1 Spot Pro グループウィンドウの上部にある、スポットカラーグループの有効化/無効化アイコン (⚙️) をクリックします。
- 2 スポットカラーグループの有効化/無効化ウィンドウで、有効にするカラーグループのチェックボックスを選択し、無効にするカラーグループのチェックボックスをクリアします。

メモ: 無効にしたスポットカラーグループは、Command WorkStation ですべて非表示になることから、すべての Fiery アプリケーションでスポットカラー処理に使用できません。

3 OK をクリックして保存します。

Spot Pro ツールバーアイコン

Spot Pro のツールバーには、一連の標準的なアイコンが表示されます。

新規	現在選択されているグループに応じて、利用可能なオプションと共にサブメニューが表示されます。 メモ： スポットグループオプションは、システムスポットグループ、カスタムカラーグループ、および代替カラーグループで使用できます。
スポットカラー	現在選択されているスポットカラーグループに新しいスポットカラーを作成します。 メモ： スポットカラーオプションは、システムスポットグループ、特殊カラーグループ、およびカスタムカラーグループで使用できます。
代替グループ	代替スポットカラーのグループを作成します。 メモ： 代替グループオプションは、システムスポットグループ、特殊カラーグループ、カスタムカラーグループ、および代替カラーグループで使用できます。
代替カラー	現在選択されている代替カラーグループに新しい代替カラーを作成します。 メモ： 代替カラーオプションは、代替カラーグループでのみ使用できません。
削除	選択したカラーグループまたは名前付きスポットカラーをカラーグループから削除します。
印刷/印刷準備完了/印刷キューへ送信	Fiery server に応じて、選択したスポットカラーまたは選択したスポットカラーグループに対し、印刷、印刷準備の完了、印刷キューへの送信を開始できます。
最適化	選択した用紙または素材および出力プロファイルに対して、選択したグループの選択したカラーまたはすべてのカラーを最適化します。
開く	ユーザーが指定した場所からスポットカラーまたはスポットカラーグループを開きます。また、Adobe アプリケーションとの間でカスタムまたはユーザーが作成したライブラリを開くこともできます。
名前を付けて保存	スポットカラーまたはスポットカラーグループを Fiery server からユーザーが指定した別の場所に保存します。また、カスタムライブラリまたはユーザーが作成したライブラリを Adobe アプリケーションに/から保存することもできます。
2色印刷マッピング	マッピングする処理カラーを選択し、デバイスカラーまたはスポットカラーを検索して選択します。
環境設定	Spot Pro の環境設定ウィンドウを開き、そのウィンドウで ΔE 許容範囲と ΔE フォーマットを設定できます。

スポットカラーを検索する

スポットカラーが存在するさまざまなライブラリを検索してスポットカラーを見つけたり、表示したりすることが容易に行えます。

検索カラーフィールドを使用して、検索基準に基づいて名前付きスポットカラーまたはスポットカラーのリストを検索することができます。スポットカラーの結果は、スポットカラー名の横に小さなスウォッチのあるグループ名の下に表示されます。

スポットカラーを検索する

カスタムスポットカラーや内部スポットカラーライブラリのスポットカラーを検索できます。

- 1 **Spot Pro** ツールバーアイコンの隣にある検索カラーフィールドに検索条件を入力します。

名前付きスポットカラーを部分検索できます。たとえば、「レッド」を検索する場合、**Spot Pro** は名前の中に「レッド」のある全てのスポットカラーを検索します。

- 2 **Enter** キーを押すか、虫メガネのアイコン（検索アイコン）をクリックして、指定した検索条件に該当するスポットカラーを検索します。入力したテキストでは大文字と小文字が区別されません。

検索条件が3文字未満の場合、検索結果は現在選択されているグループに制限されます。すべてのスポットカラーライブラリを検索リンクをクリックして、すべてのグループを検索することができます。検索条件が3文字以上の場合、すべてのスポットカラーグループ全体で検索が行われます。ページに表示される結果は、一回に500件までに制限されます。

- 3 検索結果でスポットカラーを選択できます。検索用語は、検索カラーフィールドで「X」アイコンが表示されたままになります。

検索カラーフィールドを再度クリックすると、検索結果が再度表示されます。検索の絞り込みまたは一覧から別の結果を選択できます。


- 4 検索を実行した後、現在の検索条件を消去するには、「X」アイコンをクリックして検索フィールドと検索結果を消去します。もしくは、ツールバーアクション、スポットカラーの編集、または**Spot Pro** ウィンドウを閉じるなど、別の主なアクションを選択すると、自動的に検索結果が消去されます。これにより、別の条件で検索することができます。

スポットカラーを編集する

スポットカラーの $L^*a^*b^*$ 値または CMYK 値を定義するには、数値を入力するか、カラースウォッチのパターンから目視で一致するものを選択するか、測定デバイスを使用して対象物のカラーを測定します。

スポットカラーマッチング印刷オプションを選択すると、スポットカラーは自動的にそのスポットカラーに対応する最良の CMYK 値または $L^*a^*b^*$ 値に変換され、CMYK のインク/トナーを使用してスポットカラーをシミュレートできるようになります。ただし、特定の印刷状況によっては、最良の結果を得るためにデフォルトの CMYK 値または $L^*a^*b^*$ 値を調整する必要がある場合があります。**Spot Pro** を使用して、スポットカラーの定義を変更できます。

システムスポットカラーとカスタムスポットカラーの両方を編集できます。システムスポットカラーの名前は変更または削除できないことがあります。

- 1 Spot Pro から、編集するスポットカラーを見つけ、編集アイコン () をクリックします。
カスタムスポットカラーまたはカスタムスポットカラーグループの名前を変更することができます。
- 2 次のいずれか (または複数) の操作を行います。
 - L*a*b*値を直接編集するには、L*、a*または b*フィールドをクリックし、新しい値を入力します。フィールド間を移動するには Tab キーを使用します。変換したカラーのプレビューがオリジナルの隣に表示されます。
メモ: L*a*b*の隣にある矢印をクリックして、編集モードを CIE LCH に切り替えて、LCH 値を直接編集することができます。LCH モードでは、選択したスポットカラーの明度、色相または Chroma を変更できます。
 - 測定をクリックして L*a*b*値を測定し、画面の指示に従います。
リストから測定器を選択します。
 - CMYK のパーセンテージの値を直接編集するには、C、M、Y、K の各フィールドをクリックして新しい値を入力します。フィールド間を移動するには Tab キーを使用します。変換したカラーのプレビューがオリジナルの隣に表示されます。
分解値は、指定された用紙またはサブストレートの選択された出力プロファイルに基づいて計算されます。これは、スポッティングなどの異物や視覚的な不自然さをなくす場合や、ブラックまたはシアン のドットにより不鮮明になる場合に特に便利です。CMYK+プロファイルでは、それぞれのインクの色分解を編集できます。たとえば、CMYKOV 出力プロファイルが選択されている場合、CMYK、オレンジ、バイオレットの色分解値を編集できます。
 - スポットカラーを視覚的に編集するには、現在選択されているカラーが Spot Pro カラーエディタペインの下部にある中央六角形の中央パッチに反映されます。
多六角形でカラー変更を制御できます。ターゲットカラーがハイライト表示されます。左右の六角形は、彩度または明るさの次のバリエーションを表します。カラーバリエーションの矢印 (レッド、グリーン、ブルー、シアン、マゼンタ、イエロー) は、中央パッチから色相がシフトする方向を示します。矢印をクリックすると、矢印の方向に対象カラーが移動します。
隣接パッチのバリエーションの度合いを制御するには、調整スライドバーを弱 (より小さなバリエーション) または強 (より大きなバリエーション) の方向にスライドさせます。弱または強スライドバーでは、クリックするごとに度合いが変わります。デフォルト設定ではスライドバーは中央に位置します。
メモ: 特定のカラーを選択すると、「！」アイコンが Spot Pro カラーエディターウィンドウの右上角に表示されます。このアイコンは、1 つ以上のインク/トナーがその最大値に達していることを示しています。
- 3 テストページを印刷するには、バリエーションの隣にある矢印をクリックして印刷を選択します。
バリエーションのパッチレイアウトを選択して、用紙またはサブストレートソースを選択することも可能です。
モニター上でスポットカラーを正確に合わせるのは非常に困難です。必ずテスト印刷ページを印刷してカラーを確認してください。
- 4 次のいずれかを行います。
 - 完了をクリックして編集を終了し、Spot Pro カラーエディターウィンドウを閉じる。
 - キャンセルをクリックして編集を中止し、Spot Pro カラーエディターウィンドウを閉じて Spot Pro カラープレビューウィンドウに戻る。

- 保存をクリックして編集内容を保存し、Spot Pro カラーエディターウィンドウを閉じずに別のスポットカラーに切り替える。
- リセットアイコン (🔄) をクリックして、オリジナルに表示されるスポットカラーのオリジナルの値に戻す。

スポットカラーのバリエーション

オリジナルのスポットカラーから、色相や彩度または明度レベルが若干異なる選択したスポットカラーと多数の隣接カラーを印刷できます。スポットカラーのバリエーションを選択して、ジョブのオリジナルスポットカラーを置き換えることができます。

これはスポットカラーのバリエーションを印刷する際に便利です。L*a*b*色空間の不統一により、 ΔE が完全に一致しても、ビジュアルが完全に一致するとは限らないためです。ある用紙で正確なカラーに見えるスポットカラーが、別の用紙では明らかに間違ったカラーで出力される場合があります。

スポットカラーのバリエーションを作成する場合、Spot Pro は7つのカラーパッチの3つのグループをハニカム型パターンで表示します。中央グループの中央パッチが、オリジナルのスポットカラーです。周囲の6つのカラーパッチはそれぞれ、オリジナルスポットカラーのバリエーションで、シアン、グリーン、イエロー、レッド、マゼンタ、ブルーの色相で各方向に位置します。

カラーパッチの外側にある2つのグループは、彩度と明度のいずれか選択した方の増減を表します。

スポットカラーのバリエーションを作成する

スポットカラーの外観を変更し、色相と彩度/明度レベルが若干異なる隣接カラーの再現を印刷して比較し、使用するカラーを1つ選択できます。

バリエーションを印刷するには、少なくともレターサイズまたはA4サイズの用紙が必要です。

デフォルトでは、スポットカラーバリエーションは Command WorkStation ジョブセンターにインポートされ、ジョブはインポート時に自動的に印刷されます。

- 1 Spot Pro のグループで、カスタムスポットカラーを選択し、21 のバリエーションを生成します。

現在選択されているカラーは、バリエーションの Spot Pro カラーエディターウィンドウの下部にある中央六角形の中央パッチに反映されます。

多六角形でカラー変更を制御できます。ターゲットカラーがハイライト表示されます。左右の六角形は、彩度または明るさの次のバリエーションを表します。カラーバリエーションの矢印(レッド、グリーン、ブルー、シアン、マゼンタ、イエロー) は、中央パッチから色相がシフトする方向を示します。矢印をクリックすると、矢印の方向に対象カラーが移動します。

- 2 彩度または明るさのチューニングモードを選択します。

微調整モードを使用すると、明るさまたは彩度に基づいてスポットカラーを変更できます。

下げる矢印または上げる矢印を動かして、彩度または明るさの割合を上げ/下げします。

- 3 隣接パッチのバリエーションの度合いを制御するには、調整スライドバーを細（より小さなバリエーション）または粗（より大きなバリエーション）の方向にスライドさせます。

弱または強スライドバーでは、クリックするごとに度合いが変わります。デフォルト設定ではスライドバーは中央に位置します。

メモ：特定のカラーを選択すると、「！」アイコンが Spot Pro カラーエディターウィンドウの右上角に表示されます。このアイコンは、1つまたは複数のインク/トナーがその最大値に達していることを示しています。

- 4 テストページを印刷するには、バリエーションの隣にある印刷アイコンをクリックします。

バリエーションのパッチレイアウトを選択して、用紙またはサブストレートソースを選択することも可能です。

モニター上でスポットカラーを正確に合わせるのは非常に困難です。必ずテスト印刷ページを印刷してカラーを確認してください。

- 5 次のいずれかのパターンレイアウトを選択します。

- カラー検索パターン-ハニカムパターンと同じように配置されているカラーパッチの3つのグループを印刷します。
- 隣接カラーパターン-カラーパッチを3x7グリッドで印刷します。上段の中央のパッチにはオリジナルのスポットカラーが表示されます。さらに、グリッドパターンには、各カラーパッチのカラー値の詳細が示されます。

- 6 用紙またはサブストレートソースを選択します。

- 7 OK をクリックします。

反復を複数回実行するために隣接カラーパターンを印刷してから、必要なカラー値を入力して、使用するカラーパッチを各チャートから選択することができます。

メモ：カラー検索パターンを印刷する場合は、チャートを印刷し、使用するカラーパッチを選択するまで、Spot Pro を終了しないでください。

- 8 カラーが最もよく再現されているスポットカラーパッチを識別して、次のいずれかを行います。

- 対応するパッチで1回クリックする。

この手順により、スポットカラーの定義が100%で更新されます。

メモ：選択したカラーパッチがその後のスポットカラーバリエーションの新しい基準になることに注意してください。したがって、カラーパッチを誤って複数回クリックすると、そのカラーパッチに基づいて、その後のスポットカラーバリエーションは作成されます。リセットアイコン (↺) をクリックすると、オリジナルのスポットカラーとそのバリエーションに戻ります。

- 対応するパッチのカラー値を入力する。

この手順は、隣接カラーパターンを印刷した場合にのみ実行できます。

スポットカラーまたはカラーグループを削除する

スポットカラーやカラーグループ（およびそのグループ内のスポットカラー）は、ロックされていない限り削除できます。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 リソースで **Spot Pro** をクリックし、**Spot Pro** を起動をクリックします。
- 3 スポットカラーまたはグループを右クリックし、削除を選択します。
- 4 はいをクリックしして確定します。

スポットカラーまたはスポットカラーライブラリの複製またはエクスポート

スポットカラーライブラリを複製すると、選択した出力プロファイルの元の $L^*a^*b^*$ 値と変換された値のみが複製されます。他の出力プロファイルについては、**Spot Pro** は元の $L^*a^*b^*$ 値を使用して複製されたライブラリを再計算します。システムスポットカラーをカスタムスポットカラーライブラリに複製すると、 $L^*a^*b^*$ 値は予測される $L^*a^*b^*$ 値に対応します。これらの予測値は、選択した出力プロファイルとスポットカラーの元の $L^*a^*b^*$ 値から取得されました。


スポットカラーまたはスポットカラーライブラリに加えられた変更は、このシナリオでは複製されません。

- スポットカラーまたはスポットカラーライブラリを変更した後に、別の出力プロファイルが選択されます。
- スポットカラーまたはスポットカラーを含むライブラリが複製されます。

個々のスポットカラーを使用する場合、スポットカラーライブラリを使用する場合と同じ再計算動作が実行されます。この動作は、スポットカラーとスポットカラーライブラリのエクスポートにも適用されます。

ジョブのスポットカラーを編集する

Command WorkStation 待機リストからジョブのスポットカラーを編集できます。
Fiery server は、スポットカラーを含むジョブを検出します。

- 1 待機リストからスプール済みジョブを選択し、右クリックして**スポットカラー編集**を選択するか、アクション > **スポットカラー編集**で選択するか、またはジョブ概要ウィンドウで編集アイコン () をクリックして **Spot Pro** を開きます。

メモ：スポットカラー編集オプションは、スポットカラーを含む PDF ジョブでのみ使用できます。

ジョブ概要ウィンドウには、スポットカラーのジョブの使用可能なスポットカラー数が一覧表示されます。

- 2 ジョブのスポットカラーを編集するには、次のいずれかの操作を行います。

メモ：ジョブの使用可能なスポットカラーが一覧表示され、正しいスポットカラーライブラリ、スポットカラーグループまたは名前付き ICC プロファイルに関連付けられています。

- 欠落しているスポットカラーを、Fiery server に追加するか、Fiery server 上の既存のスポットカラーにエイリアスして解決します。

欠落しているスポットカラーを追加するには、L*a*b*、LCH またはデバイスの CMYK 値を定義し、それを既存のグループに追加するか、新しいグループを作成して追加します。

メモ：CMYK+設定をサポートしているプリンターの場合は、CMYK と追加のインク/トナーを定義することができます。

- すべてのスポットカラーを既存のカスタムグループまたは新しいカスタムグループに追加できます。欠落しているスポットカラーは、定義またはエイリアスによって1つずつ追加できます。
- 保存するスポットカラーの1つと同じ名前のスポットカラーが既存のグループにすでにある場合、重複するスポットカラーを解決します。

既存のグループに同じ名前のスポットカラーが存在する場合は、新しい編集で既存のスポットカラーを置換しないようにすることができます。

- エイリアススポットカラーを管理します。サーバーに存在するすべてのエイリアスマッピングが表示されます。すべてのエイリアス編集は「アップデート」する必要があります。サーバーでの更新に時間がかかる場合があります。
- 特殊カラーをサポートしているプリンターの場合は、スポットカラーに特殊カラーを追加できます。

メモ：特殊カラーは、ジョブベースのスポットカラーエディターでオンまたはオフにすることはできません。ジョブのプロパティからオンまたはオフにする必要があります。

- ジョブのすべてのスポットカラーを印刷して、スウォッチブックを印刷します。欠落しているスポットカラーは、印刷時に十字記号で「空」のパッチとして識別されます。

3 保存をクリックして変更を保存し、完了をクリックして変更を保存してジョブに適用し、スポットカラー編集ウィンドウを閉じるか、キャンセルをクリックして保存せずに終了します。

Spot Pro スポットカラーのエイリアス

Spot Pro は、Fiery server 上のスポットカラーのマッピングまたはエイリアスをサポートしています。任意のスポットカラーを、既存のスポットカラーへの固定リンクを作成するエイリアスにマッピングすることで、2つのスポットカラー名が異なっても、同じカラー値を使用できます。

上級ユーザーは、エイリアス機能を使用して、異なるまたは複数のスポットカラーを1つのスポットカラーにリンクまたはマッピングできます。

Spot Pro のエイリアス機能を使用すると、次の操作を行うことができます。

- 1つの Pantone スポットカラーと別の Pantone スポットカラーの間で、または HKS スポットカラーから Pantone スポットカラーに対してエイリアスを作成します。
- Fiery server 上で任意のカスタムスポットカラーのエイリアスを作成します。
- 複数のエイリアススポットカラーを Fiery server に追加するのではなく、Fiery server 上にあるオリジナルのスポットカラーに複数のエイリアススポットカラーを作成します。
- エイリアスまたはスポットカラーを削除しても、オリジナルのスポットカラーは削除されません。

- エイリアスが削除された場合は、1 つまたは複数のオリジナルスポットカラーの間のエイリアスリンクを削除します。
- リンクされているスポットカラーの番号と名前をオリジナルのスポットカラーに表示します。
- エイリアスリンクを使用してオリジナルのスポットカラーを編集すると、オリジナルのスポットカラーへのすべてのリンクが更新されます。

メモ: Fiery ColorRight Package または Fiery Graphic Arts Pro Package は、Fiery システムソフトウェア FS400/400 Pro 以降を搭載した Fiery server にインストールする必要があります。

エイリアススポットカラー


Fiery server でエイリアススポットカラーをオリジナルのスポットカラーにマッピングまたはリンクするには、いくつかの手順が必要です。

エイリアススポットカラーを作成する際は、次の点に注意してください。

- エイリアススポットカラーは、すべてのスポットカラーグループで一意的な名前にする必要があります。
- 2 つの異なるスポットカラーグループに、同名のエイリアススポットカラーを使用することはできません。
- オリジナルのスポットカラーを変更すると、その他のエイリアススポットカラーへのリンクが更新されません。
- 同じ名前のスポットカラーは、スポットカラーグループが異なる場合でも、異なる 2 つのスポットカラーにリンクすることはできません。スポットカラー用にエイリアスリンクが作成されている場合、複数のグループにまたがっていても、同じ名前のスポットカラーはすべて同じエイリアスリンクになります。同様に、1 つのスポットカラーのエイリアスリンクが削除されると、同じ名前のすべてのスポットカラーのエイリアスリンクも削除されます。
- スポットカラーとそれにマッピングされているスポットカラー両方のエイリアススポットカラーには、スポットカラー名に「@」文字を付けないでください。
- ユーザーが出力プロファイルを切り替えると、エイリアス情報の更新に時間がかかることがあります。更新操作が完了するまで、更新されたエイリアス情報は表示されません。
- エイリアスリンクを使用したスポットカラーのインポートとエクスポートは、.ASE および.CXF ファイルフォーマットではサポートされていません。エイリアスリンクを使用してスポットカラーをエクスポートする場合、リンクはエクスポートもインポートもされません。

オリジナルのスポットカラーへのエイリアスリンクの作成

エイリアスによって、名前が異なる 2 つのスポットカラーの間の固定リンクが作成され、両方で同じカラー値が使用されるようになります。

1 Spot Pro で、ツールバーのエイリアスアイコン () をクリックします。

2 オリジナルのカラーをオリジナルカラーエリアに入力し、プラス記号をクリックして追加します。

一度に 1 色以上のオリジナルカラーを追加できます。オリジナルカラーには既存のカラーまたは既存以外のカラーを指定することができます。

カラーが Fiery server に存在する場合、カラーは存在タグと明るいグリーンの背景色とともに表示されます。カラーが存在しない場合、カラーは不在タグと明るいレッドの背景色とともに表示されます。

- 3 エイリアス先検索フィールドにスポットカラーの名前を入力し、虫メガネ (Q) をクリックして検索を実行します。
- 4 結果リストで、目的のカラーを選択します。

エイリアスとして選択されているスポットカラーは、オリジナルのスポットカラーの代わりに再現されません。これは、変換されたカラーとして表示され、スポットカラーへのリンクが一覧表示されます。エイリアススポットカラーを含むジョブは、オリジナルのスポットカラーの色分解値を使用して印刷されます。

メモ: L*a*b、色分解、バリエーションに関連付けられている情報とフィールドは、エイリアススポットカラーでは無効になっています。
- 5 エイリアスカラーを選択した後、エイリアス追加をクリックします。

オリジナルのカラーには、テーブルでマッピングされているエイリアスカラーが表示されます。
- 6 エイリアススポットカラーを編集または削除する必要がある場合は、次のいずれかを実行します。
 - エイリアススポットカラーの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。

オリジナルのカラーエリアでは、エイリアススポットカラーにマッピングされているスポットカラーの既存のリストにスポットカラーを追加することや、「X」をクリックしてスポットカラーを削除することができます。

エイリアススポットカラーは、エイリアス先フィールドで変更できます。

作業が完了したら、エイリアス更新をクリックします。
 - テーブル内のエイリアススポットカラーの横にある削除アイコン (🗑) をクリックして、ジョブから削除します。
- 7 適用して閉じるをクリックして、Fiery server に情報を保存します。

エイリアスを使用してスポットカラーを表示する

Spot Pro ウィンドウでは、指定されたスポットカラーのエイリアスが存在する場合、エイリアス列が表示されます。

スポットカラーにその他のスポットカラーがエイリアスとしてリンクされている場合は、そのスポットカラーがエイリアス列の感嘆符アイコンのポップアップバルーンに表示されます。感嘆符アイコン (❗) をクリックするかカーソルを合わせると、カラー数とそれにマッピングされているスポットカラーのリストを表示できます。Spot Pro プレビューペインには、選択したスポットカラーへのエイリアスリンクも表示されます。

指定されたスポットカラーのエイリアスが存在する場合、エイリアス列に一覧表示されます。

スポットカラーにエイリアスがない場合、エイリアス列にはなしが表示されます。

スポットカラー間のエイリアスリンクを削除する

- 1 Spot Pro で、ツールバーのエイリアスアイコン (🔗) をクリックすると、エイリアスウィンドウが開き、エイリアススポットカラーを削除したり管理したりできます。
- 2 削除アイコン (🗑) を選択すると、エイリアスリンクを削除できます。

3 完了をクリックして、Fiery server に情報を保存します。

メモ：スポットカラーは、オリジナルの色分解値に戻ります。

特殊なカラーとエイリアススポットカラー

Spot Pro では、特殊カラー編集のあるスポットカラーにエイリアスを行う場合、特殊カラーはサポートされません。

たとえば、スポットカラー A がスポットカラー B にエイリアスされ、スポットカラー B がそれぞれ値 50 と 20 を伴うゴールドとシルバーの特殊カラー編集を有している場合、スポットカラー A は、ゴールドとシルバーの値のためにスポットカラー B からの特殊カラーの値で更新されます。

特殊カラーとスポットカラーのミックス

Spot Pro は、特殊カラーの追加、編集、ミックスによるスポットカラーの処理をサポートしています。特殊カラーは、一部の Fiery server ではサポートされていません。プリンターまたはプレスの機能に応じて、複数の特殊カラーを追加または編集できます。

スポットカラーと混合した特殊カラーは、サポートされているどのファイル形式（Adobe Swatch Exchange (.ASE)、CXF、ICC または ICM）でも保存できません。

上級ユーザーは、スポットカラーを編集または作成し、特殊カラーを追加して、シンボルやモノグラムを印刷するためのシルバー、ゴールド、ネオンピンクなどを使用して、独自の効果を生成することができます。

Spot Pro では、次の 2 種類の Fiery サーバーで特殊カラーを使用した編集をサポートしています。


- Spot Pro で使用できるようにするには、プリンターまたはプレスに特殊カラーをインストールする必要があります。
- Spot Pro で使用できるようにするには、特殊カラーにライセンスが必要ですが、特殊カラーをプリンターまたはプレスにインストールする必要はありません。

Spot Pro を起動すると、特殊カラー機能はデフォルトで無効になります。Fiery server で特殊トナーをロードして設定する必要があります。また使用するには、Spot Pro で特定のカラーグループの特殊カラー機能を有効にする必要があります。

メモ：Fiery ColorRight Package または Fiery Graphic Arts Pro Package は、Fiery システムソフトウェア FS400/400 Pro 以降を搭載した Fiery server にインストールする必要があります。

特殊カラーとスポットカラーをミックスする

特殊カラーコンポーネントを使用してスポットカラーを編集できます。たとえば、CMYK+シルバーのスポットカラーを編集/定義するには、特殊カラーの%を指定します。

- 1 Spot Pro で、スポットカラーを選択し、編集アイコン () をクリックします。
- 2 カラー定義タブを選択します。

3 スポットカラー色分解 (%) 値を編集します。

プレビューパッチでは、パッチにいくつかのシルバー/ゴールド/特殊カラーが含まれていることを視覚的に示す感嘆符 (❗) アイコンが表示されます。

特殊カラー値を編集すると、新しいカラーが変換済みパッチカラーとして表示されます。これは特殊カラーとミックスされたオリジナルカラーのプレビューパッチです。

メモ：

特殊カラーが1つ以上のスポットカラーに追加され、グループでオンになっている場合、スポットカラーグループ名の横に緑色のチェックマーク (✅) が表示されます。特殊カラーが1つ以上のスポットカラーに追加され、グループでオフになっている場合、スポットカラーグループ名の横にイエローの感嘆符 (⚠) が表示されます。

4 リセットアイコン (↺) をクリックして、オリジナルに表示されるスポットカラーのオリジナルの値に戻します。

特殊カラーを使用したスポットカラーの目視検査

特殊カラーを含むスポットカラーの目視検査を行うことができます。

特殊カラーを使用してスポットカラーを表示するには、次の2つの方法があります。

メモ：

Command WorkStation のジョブのプロパティウィンドウで特殊カラーオプションをオンにする必要があります。

- 指定された出力プロファイルを使用してジョブを印刷し、ユーザーが定義したスポットカラーの特殊カラーの印刷外観を実際に確認できます。
- 指定された出力プロファイルを使用して、ユーザー定義の特殊カラーを含むスウォッチページを印刷し、スウォッチの印刷外観を目視検査できます。スウォッチページの印刷の詳細は、[1つまたは複数のスポットカラーのスウォッチブックを印刷する](#) (239 ページ) を参照してください。

特殊カラーミックスおよび出力プロファイル

特殊カラーを使用した編集は、すべてのスポットカラーグループ (カスタムと工場出荷時) で提供されていますが、1つのグループに制限されていません。代替カラーグループではサポートされていません。

出力プロファイルごとに特殊カラー値を使用する場合は、次の点に注意してください。

- 特殊カラーの値は、特定の出力プロファイルで維持されます。たとえば、ユーザーがシルバーを使用してスポットカラーを編集し、出力プロファイルを変更した場合、そのプロファイルのシルバーは保持されません。特殊カラー情報は出力プロファイル固有のもので、ユーザーが出力プロファイルを変更すると、特殊カラー情報が変更されます。
- 特殊カラー情報は、出力プロファイルごとに Fiery server で保持され、対応する出力プロファイルが選択されている場合に取得されます。

- 特殊カラー印刷はスウォッチブックでのみサポートされており、バリエーション印刷には使用できません。
- ライセンスされた特殊カラーをサポートする Fiery server では、1 つまたは 2 つの特殊カラーがライセンスされてインストールされている場合に、書類内で 1 つまたは 2 つの特殊カラーを使用することができます。ライセンスされている特殊カラーは、ゴールド、シルバー、蛍光ピンク、蛍光イエロー、クリアまたはホワイトです。特殊カラーがライセンスされていてもインストールされていない場合は、処理することはできませんが、印刷はできません。スポットカラーエディターを使用して特殊カラーを編集すると、特殊カラーが有効になっているすべての出力プロファイルにも編集が含まれます。

Fiery server が CMYK に加えて 2 つのカラーステーションを持てるように 2 つの特殊カラーをサポートしている場合は、CMYK より前にホワイトなどの 1 つの特殊カラーを印刷し、CMYK に重ねてまたは CMYK の後にクリアなどの 1 つの特殊カラーを印刷することができます。特殊カラー、シルバー、ゴールドは、1 番目または最後のステーションにインストールして印刷することができます。

メモ：2 つのカラーステーションでゴールドとシルバーを同時にサポートすると、プリンターでサポートされている場合は、最初または最後のステーションで印刷できるようになります。

制限

- 1 特殊カラーコンポーネントを含むスポットカラーのバリエーションでは、特殊カラーコンポーネントは再現されません。
- 2 特殊カラーコンポーネントを使用したスポットカラーの最適化では、信頼性の高い測定値が返されないため、測定デバイスの限界により、特殊カラーコンポーネントは再現されません。スポットカラーは、特殊カラーコンポーネントが含まれていない場合でも、可能な限り正確に再現できるよう最適化されます。
- 3 インストールされている特殊カラーの場合、複数の特殊トナーロットが有効になっており、トナーロットに同じ特殊トナーが設定されている場合は、Spot Pro は両方の特殊トナーロットを表示しますが、値はユーザーインターフェイスの 1 つの特殊トナーロットのみに保存されます。
- 4 ライセンスされた特殊カラーでは、2 つの特殊トナーロットが有効で、トナーロットに共通の特殊カラーが含まれている場合、ロット 2 の固有の特殊カラーのみが一覧表示されます。

たとえば、2 つのロットがある場合、S1 と S2 が有効になり、

- S1 と S2 の特殊カラーのリストが同じ場合、Spot Pro では 1 つのロットのみが表示されます。
- S1 と S2 に次のような共通の特殊カラーが含まれている場合、
 - S1 - ホワイト、ゴールド、シルバー
 - S2 - ホワイト、シルバー、ピンク、ゴールドS1 スロットにはホワイト、ゴールド、シルバーが表示され、S2 スロットにはホワイト、シルバー、ピンク、ゴールドが表示されるように、Spot Pro はすべての色が表示されます。両方のロットで同じカラーを選択して編集することはできません。
- S1 と S2 の両方に異なる特殊カラーが含まれていて、共通する項目がない場合、両方のロットは設定されているすべてのカラーと共に表示されます。

スポットカラーを最適化する

Spot Pro は、特定の用紙またはサブストレートおよび出力プロファイルに対して、1 つ以上の選択されたスポットカラーを最適化します。最適化することで、カラーの違い (ΔE) を低減し、より最適なカラーメトリック

マッチングを実現することができます。カスタムスポットカラーと、内部スポットカラーライブラリのスポットカラーを最適化できます。

Spot Pro は以下をサポートしています。

- FieryMeasure のすべての測定器
- 既存のスウォッチブック機能、つまりパッチサイズとページサイズ

開始する前に、測定器をコンピューターに接続します。

- 1 Spot Pro で、1 つ以上のスポットカラーを選択します。
- 2 最適化をクリックします。
- 3 最適化設定ウィンドウで、**選択カラーのみ**を最適化するか**すべてのスポットカラー**を最適化するかを選択します。
すべてのスポットカラーを選択する場合は、次のいずれかのオプションに最適化を適用します。
 - このグループのすべてのスポットカラー
 - 全グループのすべてのスポットカラー
- 4 リストから測定計器を選択します。

メモ：

サポート対象のインライン測定器のみが表示されます。

- 5 次へをクリックして、**ジョブのプロパティ**ウィンドウを開きます。
- 6 用紙またはサブストレートソースを設定します。
メモ：カラー設定を変更しないでください。
- 7 印刷をクリックして、最適化するスポットカラーのチャートを印刷します。
- 8 画面の指示に従ってチャートを測定します。
- 9 次へをクリックします。

Spot Pro は、実際の平均 ΔE と最大 ΔE を表示します。

- 10 Spot Pro は、最適化のために、 $L^*a^*b^*$ スポットカラー値、デバイス値、および色差を示すレポートを生成できます。レポートを生成するには、最適化後、**レポート列の表示**をクリックします。
- 11 反復をクリックして、それ以上最適化できなくなるまで最適化手順を繰り返します。
反復結果が最適化テーブルに表示されます。目的の最適化を選択し、**適用**をクリックして最適化を使用します。
特定の反復を選択し、最適化テーブルから削除することができます。
- 12 レポートを HTML として保存するには、**レポートを保存**をクリックします。
- 13 完了をクリックして、スポットカラー最適化ファイルを作成します。スポットカラー最適化ファイルは、そのスポットカラーテーブルを使用しているすべてのワークフローに適用されます。

色域警告

色域は、プリンターが再現できる全範囲のカラーを示します。ジョブの処理中、色域以外のスポットカラーは、利用可能な色域にある最も近いカラーにマップされます。色差は ΔE 値で表示されます。ユーザーが指定した許容範囲内でスポットカラーを再現できない場合は、色域警告が表示されます。

Spot Pro は、この許容範囲内にあるスポットカラーを「色域内」として認めることで、さまざまな ΔE 式 ($\Delta E2000$ 、 $\Delta E76$) での許容値の指定に対応しています。

Spot Pro は、ユーザーが指定した ΔE 形式で、各スポットカラーのカラー等級 ΔE を表示します。

ΔE 列には、スポットカラーを正確に再現できるかどうかを示されます。グリーンは「色域の範囲内」にあることを示します。黄色は「色域の範囲外」を示します。スポットカラーの ΔE が、そのカラーの定義された許容制限範囲を超えていても、プリンターの色域の範囲内である可能性があることに注意してください。

スポットカラーが色域の範囲外にある場合は、 ΔE 値を減らすことができます。次を参考にしてください:

- 別の用紙またはサブストレートに切り替えます。これにより、最良の結果が得られる組み合わせをすばやく見つけることができます。
- スポットカラーを最適化します。

階調曲線編集によるスポットカラー

スポットカラーグラデーションエディター機能を使用すると、スポットカラーのグラデーションをさまざまなパーセント (%) で編集できます。スポットカラー再現曲線を定義して、100%以外の正確なスポットカラーが得られるようになります。

スポットカラーグラデーションでは、すべてのスポットカラーがサポートされます。

デフォルトでは、スポットカラーは 100%と 0%のカラー値で定義されています。フルトーンカラーは 100%で表されます。用紙のカラーは 0%で表されます。デフォルトでは、下地ホワイトの未測定値は 0%と同じです。


ジョブでスポットカラーのグラデーションを印刷する必要があり、印刷時に明るすぎるまたは薄すぎると見られる場合は、グラデーション曲線に沿ってスポットカラーの色調値を加算または減算することによって、強度を変更することができます。

メモ: Fiery ColorRight Package または Fiery Graphic Arts Pro Package は、Fiery システムソフトウェア FS400/400 Pro 以降を搭載した Fiery server にインストールする必要があります。


カラーグラデーションエディターを使用する

スポットカラーグラデーションエディターでは、スポットカラーのグラデーションの明るさを変更します。

メモ: スポットカラーに特殊カラーコンポーネントが含まれている場合は、プロセスカラーと特殊カラーコンポーネントの両方がグラデーション曲線の影響を受けます。

1 Spot Pro で、スポットカラーを選択し、編集アイコン () をクリックします。

2 グラデーションタブを選択します。

- 3 入力および出力テーブルに、1~99 の範囲内でグラデーションを入力します。
テーブルの値は、カラーティントの割合を表しています。値 0（ゼロ）と 100 は変更できません。
値は、プライマリプロセスカラーと特殊カラーに適用され、色調曲線に表示されます。
メモ：0（ゼロ）および 100 を含む最大 15 の値を持つことができます。「+」アイコンの付いた行を追加します。15 行目を追加すると、「+」アイコンが使用できなくなります。
- 4 曲線に沿ってグラデーションポイントを変更するには、ポイントを上（色を追加）または下（色を削減）にドラッグしてください。また、必要な座標をテーブルに直接入力することもできます。
- 5 グラデーションを削除するには、テーブルで行を選択し、Delete キーを押します。
- 6 グラデーション曲線をリセットするには、リセットアイコン（) をクリックして、0（ゼロ）および 100 の元の値に戻します。

カラースウォッチページとスウォッチブック

スポットカラーとその隣接スポットカラーを含むスウォッチページを印刷することができます。カラーグループ内のすべてのスポットカラーまたは選択されたカラーが含まれるカラーグループのスウォッチブックを印刷することもできます。

スポットカラーマッチング

スポットカラースウォッチまたはスウォッチブックを印刷する場合、出力プロファイルと用紙または素材ソースの組み合わせは、正確に印刷するために必要な主なジョブプロパティです。Spot Pro カラーペインウィンドウで出力プロファイルを選択し、次にツールバーまたは右クリックメニューで印刷をクリックしてから、スウォッチブックの印刷ワークフローで用紙トレイまたは給紙を選択します。残りの設定にはデフォルトのジョブプロパティが使用されるため、カラーの精度にはほとんど影響しません。

キャリブレーション

Fiery server のキャリブレーションを行うことにより、一貫した信頼性のあるカラー出力が可能となります。キャリブレーションは、時間の経過や印刷状況の変化によるプリンターのカラー出力の変動を調整します。

カラースウォッチページまたはスウォッチブックを印刷する

単色スポットカラーのカラースウォッチページ、またはスポットカラーグループのスウォッチブックを印刷できます。

1 つまたは複数のスポットカラーのスウォッチブックを印刷する

スウォッチブックを印刷する場合は、1 つ以上のスポットカラーと 1 つのレイアウトを選択します。

1 Spot Pro で、1 つ以上のスポットカラーを選択します。

Shift キーを押しながら連続するカラーを選択するか、Ctrl キーまたはコマンドキーを押しながら特定のカラーを選択または選択解除することができます。

複数のスポットカラーライブラリからスポットカラーを選択するには、内部スポットカラーライブラリからカスタムスポットカラーセクションにスポットカラーをドラッグします。

2 印刷をクリックするか、右クリックしてメニューから印刷を選択します。

メモ： Fiery server により、印刷、キューに印刷または印刷へ送信オプションがあります。

3 パッチサイズを選択します。

サイズは、Command WorkStation の地域設定に従い、mm またはインチで表示されます。

4 チャートサイズを選択します。

カスタムチャートサイズの幅と高さは、5.0~39.37 インチに定義できます。

また、チャートサイズは、プリンターまたはプレスで扱える一番大きな用紙までに限られます。

5 用紙またはサブストレートソースを選択します。

6 カラースウォッチブックで測定された ΔE 値を印刷するには、測定済み $\Delta E 2000$ 値を表示チェックボックスを選択します。

7 カスタマー名と連絡先情報を指定します。

「カスタマー名と連絡先情報」フィールドでは、各行に最大 35 文字のテキストを含む最大 5 行まで指定できます。最初の行はカスタマー名用です。

Fiery ロゴと製造元ロゴが印刷されています。

8 ジョブのプロパティをクリックして、追加の印刷設定を指定します。

9 OK をクリックして、スポットカラースウォッチブックを印刷します。

チャートサイズが用紙トレイで扱える用紙サイズよりも大きい場合、警告メッセージが表示され、OK{2} ボタンは無効になります。

ジョブは、Command WorkStation のジョブセンターで複数の PDF ファイルページとして表示されます。印刷されたジョブで、スポットカラー名と CMYK カラー値が、各カラーパッチの下に印刷されます。

グループ内のすべてのスポットカラーのスウォッチブックを印刷する

スウォッチブックを印刷するときには、スポットカラーグループとレイアウトを選択します。

- 1 Spot Pro で、1 つのカラーグループを選択します。

メモ：一度に印刷できるカラーグループは1つだけです。

- 2 印刷をクリックするか、右クリックしてメニューから印刷を選択します。

メモ：Fiery server により、印刷、キューに印刷または印刷へ送信オプションがあります。

- 3 パッチサイズを選択します。

サイズは、Command WorkStation の地域設定に従い、mm またはインチで表示されます。

- 4 チャートサイズを選択します。

カスタムチャートサイズの幅と高さは、5.0~39.37 インチに定義できます。

また、チャートサイズは、プリンターまたはプレスで扱える一番大きな用紙までに限られます。

- 5 用紙またはサブストレートソースを選択します。

- 6 カラーズウォッチブックで測定された ΔE 値を印刷するには、測定済み $\Delta E2000$ 値を表示チェックボックスを選択します。

- 7 カスタマー名と連絡先情報を指定します。

「カスタマー名と連絡先情報」フィールドでは、各行に最大 35 文字のテキストを含む最大 5 行まで指定できます。最初の行はカスタマー名用です。

Fiery ロゴと製造元ロゴが印刷されています。

- 8 ジョブのプロパティをクリックして、追加の印刷設定を指定します。

- 9 OK をクリックして、スポットカラーズウォッチブックを印刷します。

チャートサイズが用紙トレイで扱える用紙サイズよりも大きい場合、警告メッセージが表示され、OK{2} ボタンは無効になります。

ジョブは、Command WorkStation のジョブセンターで複数の PDF ファイルページとして表示されます。印刷されたジョブで、スポットカラー名と CMYK カラー値が、各カラーパッチの下に印刷されます。

代替カラー

代替カラー機能は、ジョブ内のカラーを印刷されたジョブの別のカラーにマッピングするために使用されます。

代替カラーはテキスト、ベクトルグラフィック、ラインアートのみに影響します。ラスター画像には適用されません。

カラーが代替カラーとして定義されている場合、RGB カラー用の設定 (RGB ソースなど) や CMYK カラー用の設定 (CMYK ソース) は無効になります。代替カラーはスポットカラーと同様のプロセスでカラー変換されます。

注意 代替カラー機能と Postflight 機能を同時に使用することはできません。これらの印刷オプションには制限があります。

代替カラーは、CMYK + カラーモードおよび関連付けられている出力プロファイルをサポートしていません。代替カラー機能を使用するには、次の操作を行う必要があります。

- Command WorkStation で代替カラー値を設定します。
- 代替カラー印刷オプションをオンにして書類を印刷します。

代替カラーの作成や編集を行う


代替カラーは、代替グループと呼ばれる特殊なタイプのスポットカラーグループ内に存在します。代替カラーでは、オリジナルカラーの CMYK 値とそのカラーの代替カラーの CMYK 値を指定します。

- 1 次のいずれかの方法で Spot Pro を起動します。
 - ジョブセンターのツールバーで Spot Pro をクリックします。
 - 次に、サーバー > Spot Pro をクリックします。
 - サーバーペインでサーバー名の隣にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - デバイスセンターのリソースで Spot Pro をクリックします。
- 2 Spot Pro を起動をクリックします。
- 3 新規をクリックし、代替グループを選択します。
 代替グループの場合は、グループ名を入力して OK をクリックします。
 代替グループがすでに存在する場合は、代替グループを選択し、5 に進みます。
- 4 カラーの一覧で、新しい代替カラーを配置する場所を選択します。
- 5 新規をクリックし、代替カラーを選択して代替カラーを作成します。
- 6 オリジナルのカラー値を指定するカラーモードを選択します。
- 7 オリジナルカラーの許容値を選択します。

許容範囲はカラーがオリジナルカラーにどの程度近くなければならないかを決定します。許容範囲での「小」または「大」は、次のように定義されています。

カラーモード	小さい許容範囲	大きい許容範囲
CMYK (0-100%)	+/-0.25%	+/-0.5%
RGB (デバイスコード 0-255)	+/-0.25	+/-1
RGB (0-100%)	+/-0.25%	+/-0.5%

メモ：許容範囲の設定は、変換後のカラーには影響を及ぼしません。

- 8 オリジナルカラーの値を入力します。フィールド間を移動するには **Tab** キーを使用します。
- 9 変換されたカラーの値を入力します。
- 10 次のいずれかを行います。
 - 完了をクリックして編集を終了し、Spot Pro カラーエディタペインを終了します。
 - 保存をクリックして編集内容を保存し、Spot Pro カラーエディタペインを終了せずに、別のスポットカラーに切り替えます。
- 11 代替カラーを編集するには、Spot Pro カラーエディタペインで、編集アイコン () をクリックします。必要な変更を行い、次のいずれかを行います。
 - 完了をクリックして編集を終了し、Spot Pro カラーエディタペインを終了します。
 - 保存をクリックして編集内容を保存し、Spot Pro カラーエディタペインを終了せずに、別のスポットカラーに切り替えます。

Fiery TrueBrand を使用する

Fiery TrueBrand を使用すると、ブランドカラーにマッチした印刷出力を行うことができます。Microsoft Office などの一部のアプリケーションでは、RGB エリアのみでのカラーの定義を許可しています。Fiery TrueBrand を使用すると、Microsoft Office の RGB カラーを PANTONE カラーのように印刷できます。

Fiery server でサポートされている、PANTONE、DIC、HSK、TOYO ライブラリおよびユーザーが作成したカスタムスポットカラーから、任意の名前付きカラーを使用できます。

メモ： Fiery TrueBrand は、アプリケーション内で定義されている要素の RGB カラーにのみ適用されます。

Fiery システム管理者からキャリブレーション権限を与えられていることを確認します。詳細は、『Configure のヘルプ』を参照してください。

Fiery TrueBrand は一部の Fiery servers では使用できません。

- 1 Microsoft Word や Adobe Acrobat などのデスクトップアプリケーションでジョブを開きます。

サポートされるソースファイルの種類は、PDF と Microsoft Office のファイル形式 (.doc、.docx、.xls、.xlsx、.ppt または .pptx) です。

また、Command WorkStation ジョブセンターで待機または処理後待機しているジョブを開くこともできます。
- 2 Fiery Driver または Command WorkStation のジョブのプロパティウィンドウで、カラータブを選択し、代替カラーを選択します。

これは、Fiery server が RGB ブランドの代替カラーを使用するように指示します。特定のジョブで RGB ブランドの代替カラーを使用しない場合は、代替カラーチェックボックスをオフにします。

- 3 次のいずれかの方法で Fiery TrueBrand を起動します。
 - Fiery Driver で、ツールタブの Fiery TrueBrand リンクを選択します。ツールタブを使用するには、双方向通信を有効にする必要があります。
 - WebTools で、左側の Fiery TrueBrand アイコンをクリックします。
 - Web ブラウザーで、Fiery server の IP アドレスが含まれた **https://<IP アドレス>/truebrandapp** を入力し、Enter を押します。
- 4 ユーザー名とパスワードを入力してください。
- 5 開始をクリックします。
- 6 画面の指示に従います。

サーバーリソースを管理する

Fiery システムソフトウェアのアップデートとパッチ

Command WorkStation には、Fiery システムソフトウェアおよび Fiery API のアップデートやパッチをインストールする Fiery アップデート機能が含まれています。そのため、システムソフトウェアのアップデートは、Fiery server とリモートコンピューターのどちらかからでもインストールできます。また、Fiery server をインターネットに接続しなくてもアップデートやパッチをインストールできます。

Fiery アップデートにアクセスするには、Command WorkStation を開始します。

Command WorkStation を実行しているコンピューターは、次の条件を満たす必要があります。

- インターネットに接続されている
- Fiery server と同じネットワーク上にある

Fiery server へのアップデートやパッチのインストールは、1 度に 1 台のコンピューターからしか行うことができません。パッチをインストールする場合は、システムアップデートを無効にする必要があります。

Command WorkStation からの Fiery server システムソフトウェアのアップデート

クライアントコンピューターまたはローカルで Fiery server を使用して、Fiery server システムソフトウェアをアップデートできます。

Command WorkStation で Fiery server に接続するには、Fiery server の名前または IP アドレスが必要です。

メモ：クライアントコンピューターには、Fiery server システムアップデートを実行するための有効なインターネット接続が必要です。

メモ：最良の結果を得るためには、Fiery server や Command WorkStation でジョブやアクションが処理中でないときにアップデートやパッチをインストールしてください。

- 1 Command WorkStation を起動します。
- 2 サーバー > デバイスセンター > Fiery アップデート > アップデートを選択します。
- 3 利用可能なアップデートを表示してインストールするには、Fiery アップデートの下のアップデートをクリックし、次に右ペインでインストールするアップデートのそれぞれについてアップデートをクリックします。
- 4 利用可能なパッチを表示するには、Fiery アップデートの下のパッチを選択します。
- 5 インストールするパッチを選択してください。
パッチを選択すると、必要となる以前のパッチも自動的に選択されます。

- 6 Fiery API についてのメッセージが表示されたら、OK をクリックして Fiery API をインストールします。Fiery アップデートを使用したパッチのインストールには、Fiery API が必要です。
- 7 アップデートをクリックして、選択したパッチをインストールします。
すべての排他的パッチをインストールした後、Fiery server をリブートする必要があります。
メモ：各排他的パッチと一緒に複数の非排他的パッチをインストールすることができます。
- 8 アップデートやパッチがインストールされたら、OK をクリックして Fiery server をリブートします。
メモ：リブートが完了したら、システム管理者は Command WorkStation で Fiery server に再接続する必要があります。
メモ：パッチのインストールが進行中の場合は、Fiery server に接続した Command WorkStation に通知が表示されます。
- 9 インストール済みのアップデートやパッチの一覧を表示するには、Fiery アップデートの下の履歴をクリックします。

サーバーのパフォーマンスとセキュリティを調べる

Fiery ヘルスモニターを使用すると、システム全体の健全性を常に把握し、予防措置リストを表示することで、プロダクション印刷環境に関する要求に応えるための最も効率的な状況で、Fiery server が安全かつ確実に動作するよう維持できます。

サーバーを最適な稼働状態で維持する

- 1 次のいずれかの方法で、Fiery ヘルスモニターを起動します。
 - ジョブセンターの右上隅、パートナーロゴの下にある Fiery ヘルスモニターリンクをクリックする。
 - サーバー > Fiery ヘルスモニターを選択する。
 - Fiery server 名を右クリックして、ヘルスモニターを選択する。
- 2 いずれかのツールをクリックします。
 - Fiery アップデート (Fiery server でサポートされている場合) が Fiery システムソフトウェアおよび Fiery API のアップデートとパッチをインストールします。[Command WorkStation からの Fiery server システムソフトウェアのアップデート](#) (244 ページ)
 - C : ドライブのディスクスペースの確認は、C : ドライブのディスク使用量を監視し、システム管理者に Windows ディスククリーンアップを開始するよう求めます。
 - E : ドライブまたは J : ドライブのディスクスペースの確認は、ジョブストレージドライブ (FS400/400 Pro 以降は J : ドライブ、FS350/350 Pro 以前は E : ドライブ) を監視し、サーバーの初期化機能を使用してジョブ、ログ、VDP リソースを消去します。[サーバーの初期化](#) (95 ページ)
 - Fiery 再起動はパフォーマンスを最適化するために定期的に Fiery server を再起動するようにシステム管理者に促します。

- アーカイブマネージャーは、Fiery server の外部ジョブをアーカイブします。[ジョブをアーカイブする](#) (91 ページ)

メモ：Command WorkStation > 環境設定アーカイブマネージャーがオフになっている場合、Fiery ヘルスマニターには表示されません。

- Fiery バックアップスケジュール (Fiery server でサポートされている場合) は毎日または週ごとの自動バックアップのスケジュールを設定します。これにより、デフォルトブラウザウィンドウで WebTools が開きます。ブラウザでセキュリティエラーが表示された場合、そのエラーを無視して続行できます。
- Windows アップデートを使用すると、Fiery server が最新の Windows アップデートを使用しているかどうかを確認し、システム管理者に Windows アップデートアプリケーションを起動するように求めます。

メモ：ディスククリーンアップおよび Windows アップデートは、Windows ベースの Fiery サーバーのみに適用され、リモート Command WorkStation 接続からは使用できません。ただし、リモート Command WorkStation クライアントは、キーボード、モニター、Fiery server に接続されているマウスを使用するか、またはこれら 2 つの項目に対して Windows リモートデスクトップを使用するように求められます。

仮想プリンター

仮想プリンターを使用すると、事前に定義されたジョブ設定を使用して Fiery server で印刷が行えます。仮想プリンターはネットワーク上に公開されているので、ユーザーは仮想プリンターをコンピューター上のプリンターとして設定できます。

システム管理者は、仮想プリンターを Command WorkStation で管理できます。印刷を複製し、仮想プリンターを待機させて設定を変更できます。システム管理者は、新しい仮想プリンターを作成することもできます。

リストから仮想プリンターを選択すると、ジョブのプロパティがデバイスセンター > ワークフロー > 仮想プリンターの右側のパネルに表示され、さまざまなタスクにアクセスするためのツールバーが追加されます。

システム管理者は、ジョブプリセットを仮想プリンターとして公開できます。詳細については、[プリセットのプリント設定](#) (65 ページ) を参照してください。

デフォルト設定

デフォルト設定機能では、ジョブのデフォルトのプロパティを変更することにより、Fiery server をカスタマイズできます。

仮想プリンターを作成、編集または複製する

システム管理者だけが仮想プリンターを作成、編集、複製できます。また、システム管理者はジョブプリセットを仮想プリンターとして公開することもできます。

- 1 デバイスセンターでワークフローをクリックし、仮想プリンターをクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- 仮想プリンターを作成するには、ツールバーの**新規**をクリックします。
 - 基本の仮想プリンターを作成する場合は、**仮想プリンター**を選択します。
 - IPDS 仮想プリンターを作成する場合は、**IPDS 仮想プリンター**を選択します。
- 仮想プリンターを編集するには、ツールバーの**編集**をクリックします。
- 仮想プリンターを複製するには、ツールバーの**複製**をクリックします。

3 以下を指定します。

- **プリンター名** - 仮想プリンターの名前（英数字で指定）。
メモ：仮想プリンターの作成または複製後はその名前を変更できません。ただし、印刷設定は変更できます。
- **説明** - 仮想プリンターをユーザーに説明するためのコメントを追加または変更します（例：「会社案内用」）。
- **ジョブアクション** - Fiery server アクションのいずれか1つ（待機や処理後待機など）を選択します。
- **ジョブのプロパティ** - 定義を選択してジョブのプロパティにアクセスし、印刷設定を指定します。サーバープリセットも選択肢として表示されます。

メモ：ロックアイコンをクリックすると、該当するジョブ設定をロックできます。

4 必要に応じて、JobExpert のチェックボックスを選択し、ドロップダウンリストからカテゴリーを選択します。

5 必要に応じて、プリフライトを選択し、設定を編集します。

- **PDF ジョブのプリセット** - プリセットを選択できます。
- **PDF 以外のジョブのプリセット** - デフォルトのプリフライト設定を使用したり、プリフライト設定をカスタマイズしたり、他のプリセットを選択したりすることができます。
- **デフォルトプリセット** - 編集を行わない限りデフォルトのプリフライト設定が使用されることを示します。
- **編集** - 他のプリセットを選択したり、プリフライト設定をカスタマイズしたりできます。

メモ：カスタマイズしたプリフライト設定をプリセットとして保存することもできます。

- **重大エラー発生の場合** - 重大エラーが発生した場合に実行するアクションを指定します。ジョブアクションを使用は、仮想プリンター用に指定されたジョブアクションを示します。

6 IPDS 仮想プリンターの場合は、次へをクリックし、IPDS ウィンドウで適切な設定を指定します。

- ジョブ
- エラー
- 仮想給紙トレイ設定
- 画像シフト
- スタッカー設定

7 OK をクリックします。

ロックされたジョブ設定

ジョブ設定をロックすると、他のユーザーはその設定を変更することができません。

次の点に注意してください。

- **仮想プリンターを使用して Command WorkStation にジョブをインポート** - インポートされたジョブは、Fiery server のロックされた設定を使用し、ジョブに指定されている競合する設定を上書きします。
- **ロックされていないジョブ設定** - ユーザーはジョブ設定を変更できます。ジョブはこれらの設定に従って印刷されます。ただし、ジョブ設定が指定されていない場合は、ジョブは仮想プリンター設定を使用します。

ジョブプリセットを仮想プリンターとして公開する

サーバージョブプリセットは仮想プリンターとして公開できます。

- 1 デバイスセンターでワークフローをクリックし、ジョブプリセットをクリックします。
- 2 プリセットを選択し、仮想プリンターとして公開をクリックします。
- 3 新規仮想プリンターダイアログボックスで設定を指定します。

メモ：ジョブのプロパティを除くすべての設定を指定できます。ジョブのプロパティには、サーバープリセットで指定された設定が使用されます。

仮想プリンターを管理する

Fiery server のシステム管理者は、仮想プリンターの公開、非公開、削除ができます。

- 1 デバイスセンターでワークフローをクリックし、仮想プリンターをクリックします。
- 2 リストから仮想プリンターを選択し、ツールバーから次のいずれかのボタンをクリックします。
 - **公開**をクリックすると、選択した仮想プリンターをネットワーク上に公開できます。
サーバー設定で SMB 印刷が有効になっている場合、仮想プリンターはネットワーク上で共有されます。
 - **非公開**をクリックすると、選択した仮想プリンターをネットワークから削除できます。
以降、この仮想プリンターは共有プリンターとして表示されません。また、これ以降は Command WorkStation でもこの仮想プリンターはジョブをインポートできるプリンターとして表示されません。
 - **削除**をクリックすると、選択した仮想プリンターを削除できます。

仮想プリンターへ印刷する（Windows の場合）

仮想プリンターを使用すると、既定のジョブ設定で印刷できます。

仮想プリンターはネットワーク上に公開されているため、仮想プリンターの IP アドレスまたは DNS 名についてはシステム管理者にお問い合わせください。

プリンターの追加の詳細については、取扱説明書の『印刷ガイド』を参照してください。

インストール可能なオプションを更新する

Windows コンピューターから仮想プリンターで印刷するには、双方向通信を有効にして、インストール可能なオプションが更新する必要があります。

- 1 デバイスとプリンターで仮想プリンターを見つけます。
場所はプリンターと FAX または単にプリンターとなっている場合があります。
- 2 仮想プリンターを右クリックし、プリンターのプロパティを選択します。
- 3 インストール可能なオプションタブをクリックし、Fiery server との双方向通信が確立していることを確認します。
- 4 更新をクリックします。

ジョブの印刷

Windows から仮想プリンターに印刷するには、ジョブ設定を選択する必要があります。

- 1 ファイルを開き、ファイルメニューから印刷を選択します。
- 2 プロパティをクリックします。
- 3 Fiery 印刷タブが選択されていることを確認し、タブをクリックしてジョブ設定を選択します。
- 4 設定を指定したら、OK をクリックして、印刷をクリックします。

Mac コンピューターから仮想プリンターへ印刷する

仮想プリンターを使用すると、既定のジョブ設定で印刷できます。

仮想プリンターはネットワーク上に公開されているため、仮想プリンターの IP アドレスまたは DNS 名についてはシステム管理者にお問い合わせください。

Mac コンピューターから公開済みの仮想プリンターに印刷するには、プリンタードライバーをインストールしてから仮想プリンターを追加します。

プリンタードライバーのインストールの詳細については、取扱説明書の『印刷ガイド』を参照してください。

インストール可能なオプションを更新してジョブを印刷する

Mac コンピューターから仮想プリンターで印刷するには、すべてのインストール可能なオプションがアップデートされるように双方向通信を有効にする必要があります。

- 1 ファイルを開き、ファイルメニューから印刷を選択します。
- 2 仮想プリンターをプリンターとして選択します。
- 3 ドロップダウンリストから **Fiery** の機能を選択し、**双方向通信**を選択します。
双方向通信が有効になると、仮想プリンターは更新され、プリンターにインストールされたオプションが反映されます。
- 4 クイックアクセスウィンドウで**全プロパティ**をクリックし、ジョブの印刷オプションと設定を指定します。
- 5 OK をクリックしてから印刷をクリックします。

用紙カタログ

Paper Catalog とは、プロダクション印刷会社で使用可能なメディアにさまざまな属性を保存できるシステムベースの用紙ウェアハウスデータベースです。

Paper Catalog データベースは Fiery server に格納されています。Fiery server のリブート/初期化を行ってもデータベースは影響を受けません。

Paper Catalog が Fiery server でサポートされている場合、ユーザーはプリンタードライバの Paper Catalog または Command WorkStation のジョブのプロパティからジョブのメディアを選択することができます。

Paper Catalog を設定/管理するには、Command WorkStation にシステム管理者としてログインする必要があります。

メモ: Fiery server でサポートされている内容に応じて、Paper Catalog またはメディアカタログがユーザーインターフェイスに表示されます。

アクセスレベル

用紙カタログの機能で利用できるレベルは、Command WorkStation へのログイン方法によって異なります。関連するアクセスレベルは以下のとおりです。

- システム管理者 - Command WorkStation および Fiery server のすべての機能にアクセスできます。システム管理者のパスワードが必要です。
- オペレーター - ジョブセンターの全機能にアクセスできます。デバイスセンターでは、Configure、バックアップ/復帰、パスワードの変更およびジョブログの削除にはアクセスできません。Paper Catalog、仮想プリンター、カラー管理機能を表示することはできますが、編集はできません。オペレーターのパスワードが必要です。

Paper Catalog では、システム管理者は次の操作ができます。

- 複数の用紙属性の組み合わせを定義し、それぞれの組み合わせに一意の名前を割り当てる
- 各メディアにカラープロファイルを割り当てる
- ジョブ送信時に設定済み用紙を選択する
- 用紙をトレイに割り当てる

- ユーザーが使用できる Paper Catalog の列を指定する
- Paper Catalog データベースを一元的に管理する
- Paper Catalog お気に入りを指定する

Paper Catalog では、オペレーターは次の操作ができます。

- ジョブ送信時に設定済み用紙を選択する
- 用紙をトレイに割り当てる
- Paper Catalog お気に入りを指定する

Paper Catalog から用紙を選択する

Paper Catalog の設定とエントリの定義が完了した後に、用紙カタログから用紙を選択してジョブに割り当てることができます。

メモ：用紙カタログエントリは、ジョブに割り当てる前に **Command WorkStation** で設定する必要があります。詳細は、[Paper Catalog エントリを作成する](#) (255 ページ) を参照してください。

システム管理者は、次の方法で Paper Catalog にアクセスできます。

- ジョブのプロパティの用紙または用紙種類の混合
- ジョブのプロパティの製本とギャングアップレイアウトオプション
- Fiery Impose、Fiery Compose、または Fiery JobMaster (サポートされている場合)
- Fiery server の名前の横にある詳細アイコン (3 つのドット)

ジョブのプロパティの Paper Catalog から選択する

Paper Catalog は **Command WorkStation** のジョブのプロパティウィンドウから使用できます。

1 ジョブセンターの待機リストからジョブを選択します。次のいずれかを行います。

- アクションメニューからプロパティをクリックします。
- 右クリックし、プロパティを選択します。
- ジョブセンターツールバーのプロパティアイコンをクリックします。
- ジョブをダブルクリックします。

2 用紙をクリックします。

- 3 Paper Catalog を設定してエントリを定義した後に、Paper Catalog リストから目的の項目を選択します。用紙に関連付けられた属性を確認するには、用紙を選択後、**選択**ボタンをクリックします。

用紙種類の混合の Paper Catalog から選択することもできます。

レイアウトタブから製本またはギャングアップを選択した場合、用紙を割り当てる際に用紙カタログから**選択**を選択することもできます。

メモ：用紙カタログのエントリを指定し、ジョブのプロパティウィンドウの用紙サイズ（または用紙エントリに関連付けられた別の属性）を変更すると、Paper Catalog の割り当てはキャンセルされます。その場合、ジョブのプロパティウィンドウでは Paper Catalog が**未定義**と表示されます。

Fiery Compose または Fiery JobMaster の Paper Catalog から選択する

システム管理者は、Paper Catalog に Fiery Compose または Fiery JobMaster からアクセスできます（サポートされている場合）。

- 1 ジョブセンターの待機または印刷済みキューでスプール済みのジョブを右クリックし、**Compose** または **JobMaster** を選択します。
- 2 次のいずれかを行います。
 - Fiery Compose または Fiery JobMaster ウィンドウのページ表示で、ページを右クリックし、用紙を指定を選択します。
 - Fiery Compose または Fiery JobMaster ウィンドウの設定ペインで、シートフィールドの隣にある**編集**ボタンをクリックします。
- 3 表示されたウィンドウで、メディアフィールドの横にある矢印をクリックしてメディアメニューを表示します。
- 4 下にスクロールして、用紙カタログから**選択**を選択します。
- 5 用紙カタログウィンドウで適切な用紙を選択し、**OK** をクリックします。
- 6 もう一度、**OK** をクリックします。
詳細は、『Fiery JobMaster/Fiery Impose/Fiery Compose のヘルプ』を参照してください。

Fiery Impose の Paper Catalog から選択する

システム管理者は、Paper Catalog に Fiery Impose からアクセスできます（サポートされている場合）。

- 1 ジョブセンターの待機または印刷済みキューでスプール済みのジョブを右クリックし、**Impose** を選択します。
- 2 次のいずれかを行います。
 - Fiery Compose または Fiery JobMaster ウィンドウのページ表示ペインで、ページを右クリックし、用紙を指定を選択します。
 - Fiery Impose ウィンドウの設定ペインで、シートフィールドの隣にある**編集**ボタンをクリックします。
- 3 表示されたウィンドウで、用紙フィールドの横にある矢印をクリックして用紙メニューを表示します。

- 4 下にスクロールして、用紙カタログから選択を選択します。
- 5 用紙カタログウィンドウで適切な用紙を選択し、OK をクリックします。
- 6 もう一度、OK をクリックします。
詳細は、『Fiery JobMaster/Fiery Impose/Fiery Compose のヘルプ』を参照してください。

Paper Catalog を設定する

システム管理者は、プリンターで使用可能な用紙を説明する Paper Catalog エントリを作成します。

データベースに存在しない Paper Catalog エントリが、アーカイブから復元されたジョブに含まれている場合、Paper Catalog はアーカイブ属性を使用して自動的に新しいエントリを作成します。

システム管理者のみが、Paper Catalog の設定オプションにアクセスして、特定の印刷会社のシナリオに合わせてカスタマイズできます。

- 1 目的の Fiery server にシステム管理者としてログインします。システム管理者パスワードが設定されている場合はそのパスワードを入力します。
- 2 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - サーバリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 3 リソースで用紙カタログをクリックします。
用紙カタログウィンドウでは、エントリの作成、編集、削除、複製、および Paper Catalog データベースの管理ができます。

Paper Catalog 設定を選択する

Paper Catalog エントリを作成する際、システム管理者は、プリンター（PPD）準拠と JDF（Job Definition Format）のどちらかの用紙属性セットを選択できます。

- PPD 用紙属性セットは Fiery server 専用です。個々の設定の名前は各デバイスを通じて標準になりますが、可能なオプションのリストは変わります。PPD セットは新規ユーザーおよび中級ユーザーにお勧めです。
- JDF 用紙属性セットは、JDF（Job Definition Format）用の印刷業界標準の仕様になります。この用紙属性セットは Fiery server 専用のものでなく、このセットを使用すると MIS ジョブ送信ワークフローからの用紙定義のスムーズなマッピングが可能になります。JDF セットは、JDF ワークフローに精通した上級ユーザーにお勧めです。

メモ：Fiery server は JDF 印刷をサポートしている必要があり、この機能は **Configure > ジョブ送信 > JDF 設定 > JDF** を使用可能にする。

両方のセットに共通な用紙属性もいくつかありますが、双方で名前が微妙に異なります。JDF セットは PPD セットに比べてより詳細な用紙属性を提供します。

- 1 Paper Catalog を開きます。
- 2 Paper Catalog ウィンドウで、ツールバーの**設定**をクリックします。
- 3 使用する仕様で PPD 準拠または JDF 準拠を選択します。

Paper Catalog の新規エントリの属性

新規 Paper Catalog エントリの属性を別のタブでグループごとにまとめることができます。

新規エントリを作成する前に、PPD 設定または JDF 設定のどちらを選択します。詳細については、[Paper Catalog 設定を選択する](#) (253 ページ) を参照してください。

PPD 設定

次のタブがあります。

- **新規または編集**：使用する用紙を指定する設定を選択します。

JDF 設定

次のタブがあります。

- **基本とその他の属性**：より詳細に用紙を説明するためのさまざまな JDF 属性が含まれています。
- **設定**：カラープロファイルと給紙方向を選択します。

Paper Catalog での列の表示を変更する

Paper Catalog ウィンドウの列見出しは、PPD 準拠の用紙属性を使用しているか、JDF 準拠の用紙属性を使用しているかによって動的に変化します。

システム管理者は、表示されるこれらの列の順序を変更したり、特定の印刷環境に有益な情報が提供されるように列を追加/削除したりできます。列の幅を調整するには、列の枠線を左右にドラッグします。

メモ：トレイは、常に先頭の列の見出しになるので移動/削除はできません。

- 1 Paper Catalog ウィンドウで、列見出しバーを右クリックします。
- 2 次のいずれかを行います。
 - 追加をクリックすると、メニューから項目を選択して列に追加できます。
 - 削除をクリックすると、列を削除できます。
 - 左へ移動または右へ移動をクリックすると、希望する方向に列を移動できます。

Paper Catalog で JDF 属性を指定する

システム管理者は Paper Catalog 用紙エントリーの JDF 用紙属性を指定できます。

その場合、用紙カタログ設定ダイアログボックスで JDF 準拠仕様を選択する必要があります。

- 1 Paper Catalog ウィンドウで、次のいずれかを行います。
 - 新規追加アイコンをクリックします。
 - 既存のカタログエントリーを編集するには、エントリーを選択し、編集ボタンをクリックします。
- 2 表示される新規または編集ウィンドウの一般またはその他の属性タブで情報を入力します。必要な情報をテキストフィールドに入力するか、または矢印をクリックして属性のドロップダウンメニューにアクセスします。
- 3 設定タブをクリックし、必要に応じて属性を指定します。

カラープロファイル設定の指定については、[カラープロファイル設定を指定する](#)（256 ページ）を参照してください。

新しいエントリーは、編集可能な（白い）エントリーとして Paper Catalog ウィンドウに表示されます。

Paper Catalog エントリーを作成する

システム管理者は Paper Catalog で新しい用紙および用紙属性を指定できます。

Paper Catalog の新規エントリーを作成する時に、カタログエントリーの複製名を使用できます。ただし、一部のプリンターを除きます。そうしたプリンターでは、Paper Catalog は重複する名前を無視します。

- 1 Paper Catalog を開きます。
- 2 Paper Catalog ウィンドウで、ツールバーの設定をクリックして、PPD 準拠または JDF 準拠設定を選択します。
- 3 ツールバーで新規追加をクリックします。
- 4 新規ウィンドウで属性を指定します。

星印 (*) が付いた設定では必ず選択を行わなければなりません。

メモ：用紙属性に誤った値を入力して別の用紙属性に移動すると、誤った用紙属性は元の設定値に戻ります。

トレイから新しい用紙を追加する

トレイに対して用紙設定がすでに指定されている場合は、トレイから新規 Paper Catalog エントリの作成を開始できます。

これには、用紙カタログ設定ダイアログボックスで PPD 準拠仕様を選択する必要があります。

- 1 次のいずれかの方法で Paper Catalog を開きます。
 - ツールバーの用紙カタログアイコンをクリックします。
 - サーバーメニューの用紙カタログをクリックします。

- サーバーリスト内のサーバーを右クリックし、用紙カタログを選択します。
 - サーバーリスト内のサーバーを右クリックし、デバイスセンターを選択します。デバイスセンターでリソースタブをクリックし、用紙カタログを選択します。
- 2 用紙カタログツールバーで設定をクリックして、PPD 準拠仕様を選択します。
PPD 準拠は、プリンターのデフォルトの用紙属性セットです。特定の属性については、『印刷ガイド』を参照してください。
 - 3 Command WorkStation で、サーバーリスト内の Fiery server のトレイを右クリックして、メニューから新しい用紙を追加するを選択します。
新規用紙ウィンドウが表示されます。トレイの属性と一致するフィールドにはその値が反映されているため、これらの設定は編集できません。
 - 4 必要に応じて、新規用紙ウィンドウで新規用紙の詳細の属性を指定します。

カラープロファイル設定を指定する

システム管理者は、カラー出力プロファイルを Paper Catalog エントリに関連付けることができます。

Fiery server のデフォルトまたはカスタム出力プロファイルが、割り当て可能な Paper Catalog 属性として名前別に一覧表示されます。

- 1 Paper Catalog ウィンドウで、ツールバーの設定をクリックします。
- 2 Paper Catalog 設定を PPD 準拠または JDF 準拠に指定します。
- 3 次のいずれかを行います。
 - 新規追加をクリックします。
 - 既存のカタログエントリを編集するには、エントリを選択し、編集ボタンをクリックします。
- 4 適切なプロファイルオプションをカタログエントリに割り当てます。JDF 属性では、このオプションは設定タブにあります。

おもてカラープロファイル：用紙のおもて面にのみ適用されるデフォルトのカラープロファイルです。リスト内の出力プロファイルの一覧から選択します。ジョブのプロパティで新しいカラープロファイルを指定すると、この属性は上書きされます。PPD と JDF のどちらの設定でも表示されます。

裏カラープロファイル - 用紙の裏面にのみ適用されるデフォルトのカラープロファイルです。リスト内の出力プロファイルの一覧から選択します。裏カラープロファイルメニューには、おもて面と同じも含まれています。ジョブのプロパティで新しいカラープロファイルを指定すると、この属性は上書きされます。PPD と JDF のどちらの設定でも表示されます。

長辺給紙または短辺給紙をクリックして給紙方向を指定します。

- 5 OK をクリックします。

新規または変更されたエントリが Paper Catalog ウィンドウの名前の下に表示されます。

出力プロファイルの詳細については、『カラー印刷』を参照してください。

用紙カタログエントリをお気に入りとしてマークする、または削除する

用紙カタログウィンドウで、よく使用する用紙カタログエントリをお気に入りとしてマーク、または削除できます。

用紙カタログエントリをお気に入りとしてマークする

よく使用する用紙カタログエントリをお気に入りとしてマークするには、次のいずれかを行います。

- エントリを選択して、ツールバーのお気に入りをクリックする。
- 用紙カタログエントリを右クリックし、リストからお気に入りを選択する。
用紙カタログエントリの横に星が表示されます。

用紙カタログエントリをお気に入りから削除する

お気に入りとしてページマークしたエントリを削除できます。

- お気に入りエントリを選択し、次のいずれかを行います。
 - ツールバーのお気に入りをクリックする。
 - エントリを右クリックし、リストからお気に入りをクリアする。

ジョブのプロパティウィンドウの使用可能なメディアリストで、用紙カタログのお気に入りを表示できます。

用紙カタログのお気に入りについての詳細

用紙カタログのお気に入りは、次の項目には適用されません。

- 用紙カタログをエクスポート
- Fiery リソースおよび設定のバックアップ/復元オプション

メモ：インポート > 既存とマージを使用して用紙カタログエントリを Fiery server に復元すると、既存のお気に入りが維持されます。

用紙カタログエントリを使用しているジョブの検索

高度な検索を実行すると、特定の用紙カタログエントリを使用しているすべてのジョブを表示できます。

- 1 Command WorkStation では、サーバーウィンドウですべてのジョブをクリックします。
すべてのキューのすべてのジョブが、すべてのジョブビューに一覧表示されます。
- 2 ジョブ一覧列ヘッダを右クリックし、新規追加 > メディア > Paper Catalog の名前を選択します。
Paper Catalog の名前が、ジョブ一覧カラムヘッダに表示されます。

- 3 ツールバーの**その他**フィルターの横にある矢印をクリックします。
- 4 検索フィルターのカスタマイズリストで、**Paper Catalog** の名前を選択し、**保存**をクリックします。
- 5 **Paper Catalog** の名前フィルターの横にある矢印をクリックし、必要な用紙カタログエントリを選択して、**適用**をクリックします。
選択した用紙カタログエントリを使用しているすべてのジョブが表示されます。
- 6 オプションとして、**保存**をクリックすると検索結果をビューとして保存できます。**検索結果をビューとして保存**に名前を入力し、**保存**をクリックします。

ビューがサーバーウィンドウのキューリストの下に表示されます。

Paper Catalog エントリの複製

既存のカタログエントリを複製し、カスタマイズすることで新しいエントリを作成できます。

Paper Catalog の新規エントリの作成時には、カタログエントリの複製名を使用できます。ただし、一部のプリンターを除きます。そのような場合、複製した名前は **Paper Catalog** で無視されます。

メモ：システム管理者だけが **Paper Catalog** を設定できます。

- 1 **Paper Catalog** メインウィンドウで、複製する **Paper Catalog** エントリを選択します。
- 2 複製ボタンをクリックし、必要に応じて名前を入力して **OK** をクリックします。
複製されたエントリは、エントリリストの最下部に表示されます。
- 3 カatalogエントリをカスタマイズするには、**編集**ボタンをクリックします。詳細は、[用紙カタログエントリの編集または削除](#) (258 ページ) を参照してください。

メモ：**Paper Catalog** エントリを右クリックして**編集**または**複製**を選択することもできます。

用紙カタログエントリの編集または削除

Fiery Command WorkStation 6.8 以降では、デフォルトのサーバー設定である場合や、次のいずれかに割り当てられている場合でも、用紙カタログエントリを編集または削除できます。

- ジョブ
- トレイ
- スマートメディア
- プリセット
- 仮想プリンター

トレイに関連付けられている用紙カタログエントリを編集または削除するには、まず関連付けを削除する必要があります。詳細は、[トレイ関連付けを削除](#) (259 ページ) を参照してください。

特定の用紙カタログエントリを使用しているすべてのジョブを表示するには、高度な検索を実行します。詳細は、[用紙カタログエントリを使用しているジョブの検索](#) (257 ページ) を参照してください。

トレイ関連付けを削除

トレイ関連付けを削除するには、次の操作を行います。

- 1 Fiery Command WorkStation の消耗品領域で、トレイの右にある矢印をクリックします。
- 2 関連付けを除去をクリックします。

Paper Catalog エントリを編集する

用紙カタログエントリの属性と値を編集できます。

- 1 Paper Catalog ウィンドウで、次のいずれかを行います。

- エントリを選択して、ツールバーの編集をクリックする。
- 選択したエントリをダブルクリックする。
- 選択したエントリを右クリックし、編集を選択する。

1つ以上のジョブが用紙カタログエントリを使用していることを通知するメッセージが表示されません。

- 2 用紙カタログエントリが次のいずれかに関連付けられている場合：

- a) **トレイ**：トレイの関連付けを削除するように通知されます。詳細については、[トレイ関連付けを削除](#) (259 ページ) を参照してください。
- b) **ジョブ、スマートメディア、プリセット、仮想プリンター、またはデフォルトのサーバー設定**：1つ以上のジョブが用紙カタログエントリを使用していることを通知するメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら、OK をクリックします。

- 3 必要な情報をテキストフィールドに入力するか、または矢印をクリックして属性のリストを表示します。新しい属性設定を選択するか、または新しい属性値を入力します。

メモ：メディア属性に誤った値を入力して別のメディア属性に移動すると、誤ったメディア属性は元の設定値に戻ります。

- 4 OK をクリックして変更を保存します。

メモ：すでにキューにあるジョブの場合、ジョブを処理または印刷したり、ジョブのプロパティウィンドウを開いたりすると、メディア属性列がアップデートされます。

Paper Catalog エントリを削除する

Paper Catalog ウィンドウで、用紙カタログエントリを削除できます。

- 1 Paper Catalog ウィンドウで、リストから削除する Paper Catalog エントリを選択します。

メモ：連続している複数のエントリを選択する場合は Shift キーを押しながらクリックし、連続していない複数のエントリを選択する場合は Ctrl キーを押しながらクリックします。

2 次のいずれかの方法で、選択したエントリを削除します：

- ツールバーの削除をクリックする。
- 選択したエントリを右クリックし、削除を選択する。

3 用紙カタログエントリが次のいずれかに関連付けられている場合：

- **トレイ**：選択したエントリが1つ以上のトレイに関連付けられていることを通知するメッセージが表示されます。はいをクリックしてトレイの関連付けを削除し、用紙カタログエントリを削除します。
- **ジョブ、スマートメディア、プリセット、仮想プリンター、またはデフォルトのサーバー設定**：1つ以上のジョブが用紙カタログのエントリを使用していることを通知するメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら、OK をクリックします。

メモ：用紙カタログエントリを削除すると、そのエントリはジョブに関連付けられなくなります。ジョブのプロパティウィンドウでは、用紙カタログリストに**未定義**と表示されます。

カスタムページサイズを定義する

システム管理者は、Paper Catalog エントリの作成または編集時にカスタムページサイズを定義できます。

1 次のいずれかを行います。

- **新規追加**アイコンをクリックします。
- 既存のカタログエントリを編集するには、エントリを選択し、**編集**をクリックします。

2 **新規**または**編集**ダイアログで、用紙サイズフィールドの横にある**カスタム**をクリックし、そのカタログエントリのカスタムページの値を入力します。OK をクリックします。

3 必要に応じて製品 ID を追加し、OK をクリックします。

Paper Catalog 設定を使用してジョブを送信する

Fiery システムソフトウェア FS350/350 Pro 以降を搭載した Fiery servers では、Paper Catalog 設定のジョブを Fiery server から別のサーバーに送信しても、設定を維持できます。

Paper Catalog 設定のジョブが Fiery server から別のサーバーに送信され、一致する Paper Catalog エントリが宛先の Fiery server データベースで見つかり、一致するエントリがジョブに使用されます。

一致する Paper Catalog エントリが見つからない場合、Paper Catalog 設定がジョブに適用されるので、新しいエントリを作成する必要はありません。

ジョブのプロパティでは、Paper Catalog プリントオプションが**未定義**に設定されますが、その他のメディア設定には、送信元 Fiery server からのジョブの Paper Catalog 設定が反映されます。

1 次のいずれかを行います。

- Paper Catalog 設定を使用したジョブを**待機キュー**で右クリックし、**送信先**を選択します。
- **待機キュー**からジョブを選択し、**アクションメニュー**の**送信先**をクリックします。

- 2 リストから出力先の Fiery server を選択します。
選択したジョブが出力先の Fiery server の待機キューにリストされます。
- 3 目的とするジョブアクションを選択します。

Paper Catalog データベースを管理する

システム管理者が Paper Catalog データベースを設定および管理します。

Paper Catalog データベースを設定すると、そのデータベースをエクスポートしたり、別の Paper Catalog データベースとマージしたり、出荷時のデフォルトにリセットしたり、Paper Catalog 用紙エントリを公開/非公開したりすることができます。

Paper Catalog データベースをエクスポートする

エクスポートしたデータベースは.xml ファイルとして保存されるため、いつでも Paper Catalog にインポートできます。

Paper Catalog データベースを置き換える前、またはシステムソフトウェアを再インストールする前に、現在のデータベースをエクスポートして別の場所にバックアップしておくことをお勧めします。データベース内の全エントリをエクスポートするか、一部のエントリをエクスポートするかを選択することができます。

- 1 Paper Catalog ウィンドウで、ツールバーのエクスポートをクリックし、すべてエクスポート...を選択します。
一部の用紙エントリのみをエクスポートする場合は、Paper Catalog で複数のエントリを選択し、**選択項目をエクスポート...**を選択します。連続しているエントリを選択する場合は Shift キーを押しながらクリックし、連続していないエントリを選択する場合は Ctrl キーを押しながらクリックします。
- 2 エクスポートしたデータベースファイルを保存するためのコンピューターまたはネットワーク上の保存場所を指定します。
- 3 データベースファイルの名前を入力して、**保存**をクリックします。

エクスポートされたデータベースは.xml ファイルとして保存されます。

Paper Catalog データベースを置き換える

システム管理者は、新しいデータベースをインポートして、既存の Paper Catalog データベースを置き換えることができます。

Paper Catalog データベースを置き換える前に、現在使用しているデータベースをエクスポートしてアーカイブすることをお勧めします。

- 1 Paper Catalog ウィンドウのツールバーで**インポート**をクリックして、**既存を置換...**を選択します。
- 2 コンピューターまたはネットワーク上にある置換データベースファイル (.xml ファイル) を検索し、**開く**をクリックします。
- 3 警告メッセージが表示されたら**はい**をクリックします。

Paper Catalog データベースをマージする

システム管理者は、別のデータベースからエントリをインポートして、マージした Paper Catalog データベースを作成できます。

インポートするデータベース内に既存のデータベースと同一の属性を持つエントリがあった場合、そのエントリはインポートされません。オリジナル（既存）のデータベースエントリがそのまま修正されずに残ります。

- 1 Paper Catalog ウィンドウのツールバーでインポートをクリックし、**既存とマージ...**を選択します。
- 2 インポートするデータベースファイル（.xml ファイル）をコンピューターまたはネットワーク上から検索し、**開く**をクリックします。

これで現在の Paper Catalog データベースに、選択したデータベースがマージされました。

メモ：インポートしたデータベース内で用紙と関連付けられていたカラープロファイルはすべて、マージ後は無効になります。

上記の手順を繰り返すことで複数の Paper Catalog データベースを 1 つにマージできます。

Paper Catalog を工場出荷時のデフォルトにリセットする

システム管理者は、Paper Catalog データベースを工場出荷時のデフォルトに復元させることができます。

Paper Catalog を工場出荷時のデフォルトにリセットすると、追加/編集されたカタログエントリはすべて消去されます（ただし、カタログエントリがジョブに割り当てられている場合、トレイに割り当てられている場合、またはロックされている場合を除きます）。カスタマイズしたエントリを保存する場合は、工場出荷時のデフォルトにリセットする前に既存のカタログデータベースをエクスポートしてください。

- 1 **設定**をクリックし、
- 2 **用紙カタログ設定**ウィンドウで、**出荷時デフォルト設定**にリセットをクリックします。
- 3 警告メッセージが表示されたら**はい**をクリックします。

Paper Catalog 用紙エントリを非公開または公開する

デフォルトでは、すべての Paper Catalog エントリが画面に表示され、ユーザーがジョブ用に選択できます。つまり、これらのエントリは「公開」されます。

システム管理者がエントリを非公開にすると、用紙カタログメインウィンドウではグレー表示になり、ジョブのプロパティまたはプリンタードライバの用紙カタログリストには表示されません。システム管理者は、非公開にしたエントリを用紙カタログウィンドウ内で非表示にする選択もできます。

システム管理者は、非公開のエントリをいつでも再公開できます。

メモ：Paper Catalog エントリがジョブ、仮想プリンター、プリセットのいずれかで使用されている場合は、非公開にできません。

- 1 用紙カタログメインウィンドウで、公開または非公開にしたいエントリを選択します。
連続している複数のエントリを選択する場合は **Shift** キーを押しながらクリックし、連続していない複数のエントリを選択する場合は **Ctrl** キーを押しながらクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- エントリを非公開にするには、用紙カタログメニューバーの非公開アイコンをクリックします。
- エントリを公開するには、用紙カタログメニューバーの公開アイコンをクリックします。

メモ：また、Paper Catalog エントリを右クリックし、非公開または公開を選択することもできます。

用紙属性

Paper Catalog エントリを作成または編集する際に、多くの用紙属性を指定できます。カタログエントリの用紙属性を、Paper Catalog の新規または編集ウィンドウで設定します。

入力が必要の属性は名前の横に星印 (*) が表示されます。入力が必要の属性のフィールドは、空のままにできません。

Paper Catalog には次の 2 種類の用紙属性セットがあります。

- プリンター (PPD) 準拠 (デフォルト)
 各 PPD 設定で表示される選択肢は、接続している Fiery server の PPD によって決まります。
- JDF (Job Definition Format) 準拠
 JDF 属性は標準であり、接続している Fiery server に依存しません。

一般的な用紙属性

属性名は Paper Catalog のメインウィンドウのカラム見出しに表示されます。その内容は、選択した設定が PPD 準拠か JDF 準拠かによって異なります。

メモ：属性名は、使用している Fiery server でサポートされているものによって異なる場合があります。

JDF 属性について、以下に説明します。同等の PPD 設定も含まれています。Paper Catalog エントリーの作成に指定された PPD 属性はプロジェクトごとに異なります。そのため、PPD 属性の用語もさまざまです。お使いの製品で可能な PPD 設定の詳細については、『印刷ガイド』を参照してください。

メモ：属性の説明では、「用紙」または「紙」という用語は「素材」を指します。

% (再生紙率)	用紙に含まれる再生紙の比率をパーセントで入力します。
戻る	用紙の裏に適用できる設定です。 裏 (266 ページ) を参照してください。ユーザーは、おもて面と同じチェックボックスをオフにし、コーティング、光沢値、印刷可能面のオプションの中から選択することもできます。
裏カラープロファイル	用紙の裏面にのみ適用されるデフォルトのカラープロファイルです。ジョブのプロパティで新しいカラープロファイルを指定すると、この属性は上書きされます。PPD と JDF のどちらの設定でも表示されます。
明るさ	用紙の Light reflectance (光反射率) です。値は、0% (低反射率) ~100% (高反射率) の範囲を指定できます。
CIE Lab カラー	機器非依存の用紙の色です。CIE L*a*b*値でカラーを指定します。

ティント (CIE)	用紙の中立、非飽和、非着色の度合いを示します。用紙の Tint 値は、CIE の xyz 座標値を使用して指定します。(0, 0, 0) の座標値は、赤-緑軸で完全に中立であることを示します。
白色度 (CIE)	可視スペクトラム全体で計測される、用紙による光の反射量を示します。反射量は、CIE の xyz 座標値による値で指定します。(100, 100, 100) の座標値は、完全な白色を示します。
カラー名	用紙のカラーです。半透明の用紙を指定するには、「クリア」カラーオプションを選択してください。
カスタムカラー名	用紙のカスタムカラーです。「カラー」メニューに目的のカラーが表示されない場合は、このフィールドにカスタムカラーの名前を入力します。
説明	ユーザーがこの用紙を購入先に注文する際に役立つわかりやすい情報です。たとえば、「Hammermill Color Copy 10246-7 8 1/2" x 11" 105 g/m2 Photo White Ultra Smooth」というような説明にします。
給紙方向	給紙方向属性では、用紙の給紙方向を指定します。 給紙方向 (267 ページ) を参照してください。
フルート/紙目方向	波型の素材が給紙される方向を指定します。次のオプションから選択します。 <ul style="list-style-type: none">なし: デフォルト。短辺 - 波型の素材が給紙される際の短辺側。長辺 - 波型の素材が給紙される際の長辺側。
おもて:	用紙のおもてに適用できる設定です。 おもて (266 ページ) を参照してください。
おもてカラープロファイル	用紙のおもて面にのみ適用されるデフォルトのカラープロファイルです。ジョブのプロパティで新しいカラープロファイルを指定すると、この属性は上書きされます。PPD 準拠と JDF 準拠のどちらの設定でも表示されます。
グレード	「グレード」属性は用紙表面の質を示します。1~5 のレベルで指定します。 グレード (267 ページ) を参照してください。
穴の種類	用紙のパンチ穴のパターン (該当する場合) を表示します。
用紙カラー	使用する用紙のカラーに関する PPD 設定。用紙のカラーに関する JDF 設定としては、カラー名とカスタムカラー名があります。
用紙ユニット	用紙ユニット属性は、プリンターに給紙する用紙の物理フォーマットを示します。 用紙ユニット (268 ページ) を参照してください。
用紙重量	使用する用紙の重量に関する PPD 設定。平方メートルあたりのグラム単位 (g/m2) またはポンド (lb) の測定単位で表されます。類似の JDF 設定は 重量 (272 ページ) です。

名前	トレイにセットする用紙を説明するための、カタログエントリーの識別名です (たとえば、11" x 17" Hammermill 105 g/m など)。適切な名前をこのフィールドに入力します。
不透明度	不透明度属性は用紙の透明レベルを示します。不透明度 (268 ページ) を参照してください。
出力用紙サイズ	用紙出力に対して選択できる定義済みのサイズ。サイズを選択したり、カスタム用紙サイズを入力したりできます。
不透明度レベル%	用紙の不透明度の割合です。0%は完全に透明、100%は完全に不透明であることを示します。
用紙サイズ	用紙の高さと幅を指定します。サイズを選択したり、カスタム用紙サイズを入力したりできます。 用紙サイズオプションの詳細については、取扱説明書の『印刷ガイド』を参照してください。
用紙タイプ	この PPD 設定には、タイプ、種類詳細 (270 ページ)、テクスチャ (269 ページ) 設定など、JDF のカテゴリに類似したカテゴリが含まれています。
印刷済み	このチェックボックスがオンになっている場合、用紙には印刷済みの内容が含まれていることを示します (たとえば、印刷済みのレターヘッドがある便箋など)。このチェックボックスがオフになっている場合は、用紙は印刷済みでないことを示します。
印刷テクノロジー	使用できる印刷テクノロジーを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • オフセット：金属プレートを使用して (オフセット) 画像をゴム媒体またはローラーに転写した後、素材に印刷します。 • レーザー：光や「レーザー」を使用してテキストや画像を素材に転写します。このタイプの印刷では、トナーを使用して素材に印刷します。
製品 ID	部品番号、アイテムコード、商品コードなど、使用される用紙に関する識別子であり、印刷オペレーターによって手動で、または Management Information System (MIS) によって定義されます。
パンチ穴のある用紙	可能なパンチ穴の組み合わせに関する PPD 設定。類似の JDF 設定は穴の種類です。
セットごとの用紙枚数	グループ化された用紙セットの枚数を定義します。たとえば、5 枚のブリカッタブを持つタブストックの場合、セット数は「5」になります。
タブのプロパティ	新しい Paper Catalog エントリーの JDF 設定を指定し、種類詳細メニューからタブストックを選択すると、タブのプロパティボタンが有効になります。タブのプロパティ (268 ページ) を参照してください。
テクスチャ	テクスチャ属性は、使用する用紙の表面テクスチャを示します。テクスチャ (269 ページ) を参照してください。
厚さ	用紙の厚さをミクロン (μm) 単位で指定します。

タイプ	<p>この JDF 属性は、使用する用紙ストックタイプを示します。次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 用紙 - 標準の繊維質の用紙です。• 透明度 - プロジェクターに使用する透明の用紙ストックです。
種類詳細	<p>種類詳細属性は、使用する用紙ストックタイプの詳細な設定を示します。種類詳細 (270 ページ) を参照してください。</p>
重量	<p>重量属性は、平方メートルあたりのグラム単位 (g/m²) またはポンド (lb) を単位として表されます。重量 (272 ページ) を参照してください。</p>

おもて

おもて領域には、用紙のおもてに適用できる次の属性があります。

次のオプションから選択します。

コート	<p>用紙のおもて面のコーティングの種類です。コート (267 ページ) を参照してください。</p>
光沢値	<p>光を 75 度の角度で当てたときに、用紙おもて面で反射する光の割合です。反射の割合の値が大きいと、光沢値が大きいです。</p>
印刷可能面	<p>画像を印刷する面を指定します。</p>

裏

裏ウィンドウには、用紙の裏に適用できる次の属性があります。

おもて面と同じ	<p>おもてウィンドウで選択した設定と同じ設定にします。おもて (266 ページ) を参照してください。</p> <p>メモ: Fiery server では、おもて面と同じがデフォルトになっています。おもて面と同じチェックボックスをオフにし、コーティング、光沢値、印刷可能面属性のオプションの中から選択することもできます。</p>
コート	<p>用紙の裏面に適用される前処理コーティングの種類を指定します。コート (267 ページ) を参照してください。</p>
光沢値	<p>光を 75 度の角度で当てたときに、用紙裏面で反射する光の割合です。反射の割合の値が大きいと、光沢値が大きいです。</p>
印刷可能面	<p>イメージを印刷する面を指定します。</p>

コート

コート属性は、用紙に使用する表面コートのタイプを示します。

次のオプションから選択します。

なし	コーティングを適用しません。
コート紙	表面シーリング剤を使用して、表面光沢、なめらかさ、重みなどの質感を用紙に与えます。
光沢	つやと反射が強いコーティング。
高光沢	鏡面仕上げを行うすべてのコーティングの中で最も光沢があります。このコーティングは非常に反射が強く、シャープな解像度を実現します。
マット	つやがほとんどない非光沢で、「フラット」とも呼ばれます。このコーティングでは、用紙の厚みが少し増すことがあります。
サテン	光沢レベルは光沢コーティングより低く、マットコーティングより高くなります。カラーはくっきりと鮮やかに用紙に印刷されます。
半光沢	光沢レベルは、光沢コーティングとマットコーティングのほぼ中間に位置します。このコーティングはシャープな解像度を実現します。

給紙方向

給紙方向属性では、用紙の給紙方向を指定します。

次のオプションから選択します。

長辺給紙	用紙は、用紙サイズで定義したシートの長辺側から給紙されます。
短辺給紙	用紙は、用紙サイズで定義したシートの短辺側から給紙されます。

グレード

「グレード」属性は用紙表面の質を示します。1～5のレベルで指定します。

メモ：この属性は、デジタル印刷の場合は通常使用しません。

使用する必要がある場合は、次のガイドラインに従ってください。

グレード	用紙の表面品質
1	光沢コート紙
2	マットコート紙
3	光沢コート紙（ロール）
4	非コート紙（白）

グレード	用紙の表面品質
5	非コート紙 (ナチュラル)

用紙ユニット

用紙ユニット属性は、プレスまたはプリンターに給紙する用紙の物理フォーマットを示します。次のオプションから選択します。

- シート** 1枚1枚カットされた紙です。
- ロール紙** スピンドルに巻き付けられた連続紙です。
- 連続** 折りたたまれた連続紙 (ファンフォールド紙) です。

不透明度

不透明度属性は用紙の透明レベルを示すものです。次のオプションから選択します。

- 不透明** 用紙/メディアが不透明な場合に選択します。このタイプの用紙/メディアでは、両面印刷しても通常は裏面が透けて見えることはありません。
- 半透明** バックライト表示のようなある照明条件化で透明であるような用紙/メディアを使用する場合に選択します。
- 透明** すべての照明条件下で裏が見えている用紙/メディアを使用する場合はこのオプションを選択します。

タブのプロパティ

新規の Paper Catalog エントリを JDF 設定で指定し、種類詳細メニューからタブストックを選択した場合は、タブのプロパティボタンが有効になります。

ボタンをクリックして以下の JDF タブ設定を選択します。

- タブ丁合い順** プリカットのタブのセットに適用できます。
- タブ幅** タブの正中線に沿って測ったタブ辺沿いの幅。各タブは、タブピッチと呼ばれるスペース内の中央にあります。
- タブ辺** 用紙のどの端 (左、上、右、下) にタブがあるかを示します。
- タブ高さ** タブが他の用紙の本体を超えて延長する正の距離です (単位はポイント)。

タブオフセット	用紙のかどから、タブ辺沿いのバンクにおける最初のタブの pitch point (ピッチポイント) 端までの距離の大きさ (単位はポイント)。この距離はタブのバンクの両端で同一です。
山数	すべてのポジションが占められていた場合のシングルセット中の同サイズのタブの数。

テクスチャ

テクスチャ属性は、使用する用紙の表面テクスチャを示します。

次のオプションから選択します。

アンティーク	表面はベラムより粗い仕上げになっています。
カレンダー仕上げ	エクストラスムーズまたはつや出し非コート紙です。
コックル	紙の表面にさざ波状のしわを付けた仕上げです。
無光沢	光沢やつやのないコート紙です。
エッグシェル	表面が卵の殻のような模様の付いた仕上げです。
リネンエンボス	表面が粗織り布に似た、エンボス加工の仕上げです。
英語	マシン仕上げよりスムーズで、スーパーカレンダー仕上げより粗い仕上げの表面です。
フェルト	特殊フェルト加工仕上げです。
レイド	垂直線と水平線のパターン (すそ目模様) の仕上げです。
ライトコックル	コックルほどのしわのない、さざ波状のしわをもつ仕上げです。
リネン	表面が粗織り布のテクスチャをもつ仕上げです。
光沢	光沢のある仕上げです。
マシン仕上げ	エクストラスムーズまたはつや出し非コート紙ですが、イングリッシュよりも粗い仕上げです。
マット	光沢やつやのない無光沢仕上げです。
モトル	斑点模様の仕上げです。
パーチメント	羊皮紙に似た外観を持つ仕上げです。
サテン	サテン地に似たスムーズな無光沢仕上げです。
セミベラム	わずかに粗い仕上げですが、ベラムより滑らかです。
シルク	絹織物に似たスムーズな無光沢仕上げです。
スムーズ	表面が滑らかな仕上げです。

ステイップル	微細な凹凸仕上げです。
スエード	スエード地に似たスムーズな無光沢仕上げです。
スーパーカレンダー仕上げ	最もスムーズで、最もつやのある非コート紙です。
スーパースムーズ	凹凸のない仕上げです。ウルトラスムーズよりも滑らかです。
トラディショナルレイド	レイドよりも込み入ったパターンのすそ目模様の仕上げです。
ウルトラスムーズ	凹凸のない仕上げですが、スーパースムーズほど滑らかではありません。
カレンダー仕上げなし	粗くつやのない非コート仕上げです。
ベラム	やや粗い無光沢仕上げです。
ベルベット	ベルベット地に似た滑らかな無光沢仕上げです。
ウーブ	柔らかく滑らかな仕上げです。

種類詳細

種類詳細属性は、使用する用紙ストックタイプの詳細な設定を示します。

次のオプションから選択します。

普通紙	このオプションは、用紙ストックが特別な記述を必要としない場合に選択します。システムによっては、このオプションの指定が必須の場合がありますが、多くの場合には普通紙を使用する場合でもこのオプションは指定する必要はありません。
ボール紙	段ボールにも使用される用紙です。
連続紙（横取り）	用紙サイズによって定義された長辺に沿って連続的につながったシートから成る不透明用紙です。
連続紙（縦取り）	用紙サイズによって定義された短辺に沿って連続的につながったシートから成る不透明用紙です。
封筒	郵便に使用できる用紙です。普通紙の封筒または透明の住所用の窓が付いている封筒のいずれかです。
封筒（普通）	印刷済みでない封筒で、住所用の窓がないものです。
封筒（窓付き）	住所用の透明の窓が付いている封筒です。
フルカットタブ	シートの長さ全体のタブを持つ用紙です。
ラベル	シールのラベル用紙です。
レターヘッド	印刷済みレターヘッドを含む裁断済みシートの不透明用紙です。

複写帳票	複数の層からなるフォームとして使用する用紙です。フォームの個々の層は切り離し可能で、別の用紙トレイから引き出される場合もあります。各層は事前に丁合いされている可能性が高くなります。これらの用紙は NCR (No Carbon Required) と呼ばれています。
連続調	写真画質の画像印刷をサポートする、裁断済み不透明用紙です。
プリカットタブ	複数のタブを持つ用紙です。
ステーションナリ	不透明の裁断済みシートです。一般的な用紙はこのカテゴリにあてはまります。
タブストック	1 つまたは複数のタブを持つ用紙です。フルカットタブまたはプリカットタブのいずれかです。または、タブとして使用される十分な厚さと堅さを備える用紙を示します。この用紙にはタブがある場合もありません。

米国基本サイズ

米国基本サイズ属性は、米国標準の用紙サイズをインチで指定します。

米国基本サイズは、米国国内で用紙ストックの基本重量の計算に使用されているもので、用紙ストックをインチ単位で指定したサイズです。用紙ストックの基本サイズを指定するだけで、それに対応するサイズの用紙を購入できます。次のオプションから選択します。

用紙ストック	米国基本サイズ
Bond	17 インチ x 22 インチ
Ledger	17 インチ x 22 インチ
Thin (manifold, onion skin)	17 インチ x 22 インチ
Duplicator	17 インチ x 22 インチ
Safety	17 インチ x 22 インチ
Uncoated book	25 インチ x 38 インチ
Coated book	25 インチ x 38 インチ
Text book	25 インチ x 38 インチ
Cover Papers	20 インチ x 26 インチ
Index bristol	25.5 インチ x 30.5 インチ
Tagboard	24 インチ x 36 インチ

用紙ストック	米国基本サイズ
Blanks	22 インチ x 28 インチ
Printing bristol	22.5 インチ x 28.5 インチ
Wedding bristol	22.5 インチ x 28.5 インチ
Blotter	19 インチ x 24 インチ
ラベル	25 インチ x 38 インチ
Newsprint	24 インチ x 36 インチ

重量

重量属性は、平方メートルあたりのグラム単位 (g/m²) またはポンド (lb) を単位として表されます。

北米地域の用紙ストックタイプの基本重量は、ポンド単位 (lb) で表されます。単位を g/m² に変換するには、基本重量に、適切な変換係数を乗算します。

たとえば、50 ポンドの Bond ストックの重さをグラム値で表すには、次の計算を行います。

$$\text{基本重量} \times \text{変換係数} = 50 \times 3.76 = 188\text{g/m}^2$$

用紙ストックタイプごとの変換係数については、次の表を参照してください。

用紙ストックタイプ	変換係数
Bond	3.76
Ledger	3.76
Thin (manifold, onion skin)	3.76
Duplicator	3.76
Safety	3.76
Uncoated book	1.48
Coated book	1.48
Text book	1.48
Cover Papers	2.70

用紙ストックタイプ	変換係数
Index bristol	1.81
Tagboard	1.63
Blanks	2.28
Printing bristol	2.19
Wedding bristol	2.19
Blotter	3.08
Label	1.48
Newsprint	1.63

トレイ関連付け

トレイ関連付け機能を使用すると、Paper Catalog 用紙エントリをトレイに割り当てることができます。この機能を使用すると、プリンターはトレイに関連付けられた Paper Catalog の用紙を自動的に使用して、特定の Paper Catalog エントリを使用するジョブを印刷できるようになります。

メモ：トレイ関連付けは、Paper Catalog がサポートされている場合のみ使用できます。

トレイ関連付け機能を使用すると、Paper Catalog の用紙をプリンターに装着されているトレイに指定できます。

また、たとえば、トレイで同じ用紙を時間の 90%以上使用するようにプリンターが設定されているプリントジョブでは、スマート用紙を使用して、自動トレイ関連付けを行うこともできます。

トレイ関連付け表示

トレイ関連付けは以下に表示されます。

- 消耗品領域
- Paper Catalog ウィンドウ
- ジョブのプロパティの用紙領域にある Paper Catalog リスト

Command WorkStation の消耗品領域では、プリンターに装着されているすべてのトレイが、セットされている用紙のサイズと共に表示されます。

Paper Catalog の用紙エントリが特定のトレイと関連付けられている場合、トレイには用紙の名前が表示されます。Paper Catalog の用紙が特定のトレイと関連付けられていない場合、トレイは指定なしと表示されます。

メモ：Paper Catalog エントリがトレイに割り当てられた場合、ジョブのプロパティの給紙トレイで用紙に対して行った選択はすべて無視されます。

用紙をトレイに割り当てる方法はいくつかありますが、その場合、用紙エントリはトレイにセットされる用紙属性と一致する必要があります。Paper Catalog は、Fiery server から報告される用紙属性によって、各トレイに対して示されるエントリをフィルタリングします。

また、トレイでの給紙状況を表示することもできます。詳細は、[トレイ内の用紙状況をモニターする](#) (277 ページ) を参照してください。

用紙をトレイに割り当てる

トレイ関連付け機能を使用すると、Paper Catalog の用紙をプリンターに装着されているトレイに指定できます。スマート用紙機能が Paper Catalog 設定でオンになっている場合は、トレイの関連付けを自動で行うことができます。

用紙カタログウィンドウから用紙をトレイに割り当てる

Paper Catalog では、右クリックまたはドラッグアンドドロップによって用紙をトレイに関連付けることができます。

1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。

- サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
- サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
- サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
- サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。

2 リソースで用紙カタログを選択します。

3 次のいずれかを行います。

- 用紙を右クリックし、関連付けを選択し、トレイを選択します。

メモ：関連付けは、用紙カタログエントリがプリンタートレイのプロパティと一致する場合にのみ表示されます。

- 消耗品領域に表示されている適切なトレイに用紙をドラッグアンドドロップします。

関連付けは、選択した用紙が指定トレイの仕様に一致する場合にのみ表示されます。同様に、ドラッグアンドドロップできるのはトレイの仕様に一致する用紙エントリのみになります。たとえば、レターサイズ用の用紙は、タブロイド用のトレイや、重さまたは給紙方向の異なるレターサイズ用のトレイには関連付けることができません。

消耗品領域から用紙をトレイに割り当てる

Command WorkStation の消耗品領域から、用紙とトレイとの関連付けを作成したり削除したりできます。

1 Fiery Command WorkStation のメインウィンドウで、Fiery server の名前の横にあるプラス記号 (+) をクリックして消耗品領域を表示します。

- 2 トレイの右側の矢印をクリックします。

メモ：用紙がトレイにすでに指定されている場合は、**関連付けを除去**を選択することもできます。関連付けを除去をクリックすると、その後の他の操作なしで、この関連付けは除去されます。

- 3 Paper Catalog のエントリーをひとつ選択します。

トレイで使用可能なすべてのエントリーが表示されます。トレイが Paper Catalog 情報を認識しない場合、プリンタートレイのプロパティと一致するように Paper Catalog エントリーを作成/変更するか、または希望する Paper Catalog エントリーが表示されるようにトレイのプロパティをプリンターに設定します。プリンターには複数の属性を持つものもあれば、サイズの属性しか持たないものもあります。

トレイ関連付けは、Paper Catalog ウィンドウにも表示されます。

スマート用紙

スマート用紙は、ユーザー指定の用紙をセットした時に自動的にトレイ関連付けを行います。

この機能は、プリントショップのような特殊な環境での使用を目的としています。プリントショップでは、同じ用紙をトレイで 90%以上の時間で使用するよう設定されています。この環境下では、ユーザーはいつもトレイに紙のラベルを貼り付けて、オペレーターにどの用紙をセットするかを指示するようにしていました。スマート用紙機能により、Fiery server はユーザー指定の用紙を記憶し、同じ属性を持つ用紙がトレイにセットされると、トレイへの関連付けを自動的に行います。

スマート用紙は、下記のワークフローの 1 つで定義することができます。

- トレイから新規用紙を追加
- Paper Catalog から新規用紙を追加

メモ：スマート用紙を使用するには、**用紙カタログ設定ダイアログ**でスマート用紙をオンにする必要があります。詳細は、[スマート用紙を有効にする](#) (275 ページ) を参照してください。

スマート用紙を有効にする

用紙カタログ設定ダイアログボックスでスマート用紙を有効にできます。

- 1 次のいずれかを行います。
 - デバイスセンターのリソースで用紙カタログを選択します。
 - 次に、サーバー > 用紙カタログを選択します。
 - ジョブセンターツールバーの用紙カタログアイコンをクリックします。
 - サーバリスト内の Fiery サーバーを右クリックし、用紙カタログを選択します。
- 2 設定ボタンをクリックします。
- 3 PPD 準拠を選択します。

メモ：JDF 準拠の用紙属性は、スマート用紙を定義する時には使用できません。
- 4 スマート用紙を使用が選択されていない場合は選択してください。
- 5 閉じるまたは、管理をクリックします。

スマート用紙の管理ダイアログの情報については、[スマート用紙を管理する](#)（277 ページ）を参照してください。

新規スマート用紙を追加する

Paper Catalog のスマート用紙は、トレイまたはスマート用紙の管理ダイアログボックスから追加できます。

Paper Catalog からスマート用紙を追加する

Paper Catalog で用紙を選択して、スマート用紙として追加できます。

- 1 用紙カタログ設定ダイアログでスマート用紙を使用を選択します。
- 2 管理をクリックします。
- 3 スマート用紙の管理ダイアログで追加をクリックし、それから用紙カタログから追加を選択します。
- 4 Paper Catalog で用紙を選択し、追加をクリックします。

選択した用紙がスマート用紙の管理ダイアログでスマート用紙として指定されます。

トレイからスマート用紙を追加する

スマート用紙を追加する場合は、セットされる用紙の設定をプリンターのコントロールパネルおよび新規用紙ダイアログボックスで指定できます。

- 1 用紙カタログ設定ダイアログでスマート用紙を使用を選択します。
- 2 トレイに用紙をセットし、プリンターのコントロールパネルで用紙設定を指定します。
- 3 Command WorkStation で、消耗品ペインのトレイをクリックし、メニューから新規用紙を追加を選択します。

メモ：用紙カタログ設定ダイアログボックスで PPD 準拠仕様が選択されている場合にのみ、新規用紙を追加オプションが表示されます。

新規用紙ダイアログボックスが表示されます。トレイの属性と一致するフィールドにはその値が反映されているため、これらの設定は編集できません。

- 4 必要に応じて、新規用紙ダイアログで新規用紙の詳細の属性を指定します。

Paper Catalog に新規用紙を追加する方法の詳細については、[Paper Catalog エントリーを作成する](#)（255 ページ）を参照してください。

- 5 次のトレイ用スマート用紙として追加チェックボックスを選択します。

新規用紙をスマート用紙として指定します。この属性にマッチングする用紙がトレイにセットされるたびに、トレイが自動的にスマート用紙に関連付けられます。

スマート用紙の管理ダイアログボックスからスマート用紙を追加する

トレイを選択し、スマート用紙の管理ダイアログボックスを使用してスマート用紙を追加することができます。

- 1 消耗品領域でトレイを選択します。
- 2 コンテキストメニューからスマート用紙の管理を選択します。
- 3 スマート用紙の管理ダイアログで、トレイを選択し、追加をクリックし、トレイから追加を選択します。

スマート用紙を管理する

スマート用紙を作成すると、その用紙がスマート用紙の管理ダイアログに表示されます。このダイアログには、利用できるすべてのトレイが表示され、各トレイに指定されたスマート用紙がすべて一覧表示されます。

スマート用紙の管理ダイアログは、用紙カタログ設定ダイアログからアクセスできます。または、消耗品領域でトレイをクリックして表示されるメニューからアクセスできます。

次のアクションを行うことができます。

- Paper Catalog またはトレイから追加する。
 - 選択したスマート用紙を除去する。
 - すべてのスマート用紙を除去する。
 - 列見出しを修正する。
- 列見出しは、使用できる用紙の属性です。

トレイ内の用紙状況をモニターする

プリンターがトレイごとの用紙レベルの報告をサポートしている場合、サーバーリストから用紙状況を確認することができます。

- 1 Command WorkStation のサーバーリストで、Fiery server の名前の横にあるプラス記号 (+) をクリックします。

Fiery server のトレイが表示され、トレイ毎に現在の用紙残量がグラフィック表示されます。

- 2 トレイリストにカーソルを置くと、レベルがパーセントで表示されます。

メディアカタログ

メディアカタログとは、プロダクション印刷会社で使用可能な用紙にさまざまな属性を保存できるシステムベースの用紙ウェアハウスデータベースです。

メディアカタログは、Command WorkStation をインストールするとデフォルトでインストールされます。メディアカタログは Fiery server に格納されており、Fiery server のリブート/初期化を行っても影響を受けません。

メディアカタログを設定/管理するには、Command WorkStation にシステム管理者としてログインする必要があります。メディアカタログの設定が完了すると、メディアカタログエントリを変更できます。

ジョブの用紙を選択するには、Command WorkStation でジョブを選択し、プロパティ > メディアをクリックして、メディアカタログからエントリを選択します。メディアカタログのエントリは、メディアカタログリストにアルファベット順で一覧表示されます。

各メディアカタログエントリは、特定の出力プロファイルに関連付けられています。新しいメディアカタログエントリを作成するときは、メディアカタログエントリを既存のプロファイルと関連付けるか、新しいプロファイルを作成する必要があります。

アクセスレベル

システム管理者がメディアカタログで設定できる内容：

- 複数の用紙属性の組み合わせを定義し、それぞれの組み合わせに一意の名前を割り当てる
- メディアエントリごとにカラープロファイルを設定する
- ジョブ送信時に設定済み用紙を選択する
- ユーザーが使用できるメディアカタログの列を指定する
- メディアカタログを集中管理する
- 仮想プリンターとプリセットに用紙を指定する

オペレーターがメディアカタログで設定できる内容：

- ジョブ送信時に設定済み用紙を選択する

メディアカタログにアクセスする

システム管理者は、プリンターで使用可能な様々なタイプの用紙を説明するメディアカタログエントリを作成できます。システム管理者はオプションの設定にアクセスして、特定の印刷会社のシナリオに合わせてカスタマイズできます。

1 目的の Fiery server にログインします。

2 次のいずれかを行います。

- ジョブセンターツールバーのメディアカタログアイコンをクリックします。メディアカタログアイコンが表示されていない場合は、次の操作を行います。
- ジョブセンターツールバーで、ツールバーを右クリックしてから、標準セットまたはカスタマイズをクリックして、メディアカタログを選択したツールリストに追加します。

メモ： ツールバーのカスタマイズウィンドウで、標準セットをクリックして、メディアカタログを選択したツールリストに追加することもできます。

- メディアカタログアイコンがジョブセンターのツールバーで非表示になっている場合は、ウィンドウを拡大するか、または詳細アイコン（3つの縦のドット）をクリックしてからメディアカタログをクリックします。
- サーバーメニューのメディアカタログをクリックします。

- サーバーリスト内の Fiery server を右クリックし、メディアカタログを選択します。
- サーバーリスト内の Fiery server を右クリックし、デバイスセンターを選択します。デバイスセンターでリソースタブをクリックし、メディアカタログを選択します。

メディアカタログウィンドウでは、エントリの作成、エントリの編集、およびメディアカタログの管理を行うことができます。

メディアカタログウィンドウ

メディアエントリをさまざまな方法で整理して表示します。

メディアカタログウィンドウのデフォルトビューには、カタログ内のすべての用紙の名前が表示されます。名前をクリックすると、選択した名前の以下の属性が表示されます。

メモ：属性名は、使用している Fiery server でサポートされているものによって異なる場合があります。

- メディアカタログエントリの名前
- 説明
- コート（おもて面）
- 用紙カラー
- パンチ穴のある用紙
- 用紙の種類
- 用紙タイプ
- 用紙重量
- 坪量
- サイズ ID
- サイズ/用紙サイズ
- 製品 ID

リストビュー（チェックボックスを選択すると表示）では、全用紙を表示するか、指定したサイズのすべての用紙を表示するかを選択できます。表示される各用紙の情報は、選択した列見出しで決まります。

メディアカタログの列表示を変更する

メディアカタログウィンドウの列見出しは、PPD 準拠の用紙属性を使用しているか、JDF 準拠の用紙属性を使用しているかによって動的に変化します。

システム管理者は、表示されるこれらの列の順序を変更したり、特定の印刷環境に有益な情報が提供されるように列を追加/削除したりできます。列の幅を調整するには、列の枠線を左右にドラッグします。

メモ：トレイは、常に先頭の列の見出しになるので移動したり削除したりすることはできません。

- 1 メディアカタログウィンドウで、リストビューチェックボックスを選択し、列見出しバーを右クリックします。

2 次のいずれかを行います。

- 追加をクリックすると、メニューから項目を選択して列に追加できます。
- 削除をクリックすると、列を削除できます。
- 左へ移動または右へ移動をクリックすると、希望する方向に列を移動できます。

メディアカタログ設定を選択する

メディアカタログエントリを作成する際、システム管理者はプリンター（PPD）準拠と JDF（Job Definition Format）のどちらかの用紙属性セットを選択できます。

- PPD 用紙属性セットは Fiery server 専用です。個々の設定の名前は各デバイスを通じて標準になりますが、可能なオプションのリストは変わります。PPD セットは新規ユーザーおよび中級ユーザーにお勧めします。
- JDF 用紙属性セットは、JDF（Job Definition Format）用の印刷業界標準の仕様になります。この用紙属性セットは Fiery server 専用のものでなく、このセットを使用すると MIS ジョブ送信ワークフローからの用紙定義のスムーズなマッピングが可能になります。JDF セットは、JDF ワークフローに精通した上級ユーザーにお勧めします。

メモ：Fiery server は JDF 印刷をサポートしている必要があり、この機能は **Configure > ジョブ送信 > JDF 設定 > JDF** を使用可能にするで有効にしておく必要があります。

両方のセットに共通な用紙属性もいくつかありますが、双方で名前が微妙に異なります。JDF セットは PPD セットに比べてより詳細な用紙属性を提供します。

- 1 メディアカタログを開く詳細については、[メディアカタログにアクセスする](#)（278 ページ）を参照してください。
- 2 メディアカタログウィンドウで、ツールバーの**設定**をクリックします。
- 3 使用する仕様で PPD 準拠または JDF 準拠を選択します。

PPD 準拠の設定または JDF 準拠の設定のどちらが選択されているかに応じて、メディアカタログウィンドウでリストビューを選択すると、選択した属性が列ヘッダーに表示されます。

メディアカタログの新規エントリの属性

新規メディアカタログエントリの属性を別のタブでグループごとにまとめることができます。

新規メディアカタログエントリを作成する前に、PPD 設定または JDF 設定のどちらかを選択します。詳細については、[メディアカタログ設定を選択する](#)（280 ページ）を参照してください。

新規メディアカタログエントリを作成するには、[メディアカタログエントリを作成する](#)（281 ページ）を参照してください。

PPD 設定

次のタブがあります。

- 一般：使用する用紙を指定する設定を選択します。
- サイズ：既存のエントリを編集するか、新しいエントリを作成します。事前定義された用紙サイズをサイズカタログから選択します。
- カラー設定：カラープロファイルを選択します。

JDF 設定

次のタブがあります。

- 一般とその他属性：より詳細に用紙属性を説明するためのさまざまな JDF 属性が含まれています。

メモ：サイズとカラー設定タブは、PPD 設定と JDF 設定の両方で共通です。

メディアカタログエントリを作成する

システム管理者はメディアカタログで新しい用紙および用紙属性を指定できます。

PPD 準拠の設定または JDF 準拠の設定が選択されているかどうかに応じて、システム管理者は次のタブでメディア属性を指定する必要があります。

- PPD 準拠の場合：一般、設定、サイズ、カラー設定
 - JDF 準拠の場合：一般、その他属性、カラー設定
- 1 メディアカタログを開く詳細は、[メディアカタログにアクセスする](#) (278 ページ) を参照してください。
 - 2 メディアカタログウィンドウで、ツールバーの **設定** をクリックして、PPD 準拠または JDF 準拠設定を選択します。

メモ：使用できるメディア属性は、PPD 準拠または JDF 準拠のどちらの設定を選択したかによって異なります。

- 3 ツールバーで **新規追加** をクリックします。

- 4 **新規** ウィンドウで属性を指定します。

アスタリスク (*) のマークが付いている各設定に対して、値を入力するか、リストからオプションを選択する必要があります。詳細については、[共通メディア属性](#) (287 ページ) を参照してください。

次の点に注意してください。

- メディアカタログの新規エントリの作成時には、カタログエントリの複製名を使用できません。
- 適用可能な範囲を持つ属性の場合は、有効範囲内の値を指定する必要があります。
- データベースに存在しないメディアカタログエントリがアーカイブから復元したジョブに含まれている場合、メディアカタログはアーカイブ済みジョブの属性を使用して自動的に新しいエントリを生成します。

- 固有名は、用紙エントリ名とサイズで構成できます。
- 一般に、用紙カタログエントリを含むジョブをメディアカタログに復元することはお勧めしません。復元された場合、目的の結果が得られない場合があります。

メディアカタログエントリのサイズ属性を定義する

システム管理者は、メディアカタログエントリの作成時または編集時にサイズ関連の属性を設定または変更できます。

- 1 メディアカタログを開き、次のいずれかの操作を行います。
 - ツールバーで**新規追加**をクリックします。
 - 既存のカタログエントリを編集するには、エントリを選択し、**編集**をクリックします。
- 2 **サイズ**タブをクリックします。
- 3 エントリをダブルクリックするか、**編集**をクリックします。
- 4 **サイズ ID** フィールドで、追加または編集するサイズのエントリが存在することを確認します。

メモ：サイズ ID は Fiery server で自動的に生成されます。サイズ ID の変更は可能ですが、サイズ ID が必ず一意になるようにする必要があります。重複するサイズ ID を入力した場合は、エラーメッセージが通知されます。

- 5 サイズカタログリストで、メディアカタログエントリのサイズを選択します。

メモ：サイズカタログリストから用紙サイズを選択すると、サイズ ID フィールドには選択した用紙サイズのサイズ ID が反映されます。サイズ ID は必要に応じて変更できます。

- 6 必要に応じて製品 ID を追加し、**OK** をクリックします。
メディアカタログのメインウィンドウで、名前列のメディアカタログエントリを選択すると、追加または変更された用紙サイズを表示できます。また、メディアカタログエントリの**サイズ**タブにも表示されます。

カラープロファイル設定を指定する

システム管理者は、カラー出力プロファイルをメディアカタログエントリに関連付けることができます。

Fiery server のデフォルトまたはカスタム出力プロファイルは、割り当て可能なメディアカタログ属性として名前別に一覧表示されます。

- 1 メディアカタログウィンドウで、ツールバーの**設定**をクリックします。
- 2 メディアカタログ設定を **PPD 準拠**または **JDF 準拠**に指定します。
- 3 次のいずれかを行います。
 - **新規追加**をクリックします。
 - 既存のカタログエントリを編集するには、エントリを選択し、**編集**ボタンをクリックします。

4 カラー設定タブをクリックして、適切なプロファイルオプションをカタログエントリに割り当てます。

おもてカラープロファイル：用紙のおもて面にのみ適用されるデフォルトのカラープロファイルです。リスト内の出力プロファイルの一覧から選択します。ジョブのプロパティで新しいカラープロファイルを指定すると、この属性は上書きされます。PPD と JDF のどちらの設定でも表示されます。

裏カラープロファイル - 用紙の裏面にのみ適用されるデフォルトのカラープロファイルです。リスト内の出力プロファイルの一覧から選択します。裏カラープロファイルメニューには、おもて面と同じオプションも含まれています。ジョブのプロパティで新しいカラープロファイルを指定すると、この属性は上書きされます。PPD と JDF のどちらの設定でも表示されます。

5 OK をクリックします。

新規または変更されたエントリがメディアカタログウィンドウの名前の下に表示されます。

出力プロファイルについての詳細は、取扱説明書の『カラー印刷』を参照してください。

メディアカタログエントリをお気に入りとしてページマークするまたは削除する

メディアカタログウィンドウで、よく使用するメディアカタログエントリをお気に入りとしてページマークまたは削除できます。

メディアカタログエントリをお気に入りとしてマークする

よく使用するメディアカタログエントリをお気に入りとしてマークするには、次のいずれかを行います。

- エントリを選択して、ツールバーのお気に入りをクリックする。
- メディアカタログエントリを右クリックし、リストから **お気に入り**を選択する。
メディアカタログエントリの横に星が表示されます。

メディアカタログエントリをお気に入りから削除する

お気に入りとしてマークしたエントリを削除できます。

- 次のいずれかを行います。
 - ツールバーのお気に入りをクリックする。
 - エントリを右クリックし、リストからお気に入りをクリアする。

ジョブのプロパティウィンドウの使用可能なメディアリストで、メディアカタログのお気に入りを表示できます。

メディアカタログのお気に入りについての詳細

メディアカタログのお気に入りは、次の項目に適用されません。

- メディアカタログのエクスポート
- Fiery リソースおよび設定のバックアップ/復元オプション

メモ: インポート > 既存とマージを使用してメディアカタログエントリを Fiery server に復元すると、既存のお気に入りが維持されます。

メディアカタログエントリを使用しているジョブの検索

高度な検索を実行すると、特定のメディアカタログエントリを使用しているすべてのジョブを表示できます。

- 1 Command WorkStation では、サーバーウィンドウですべてのジョブをクリックします。すべてのキューのすべてのジョブが、すべてのジョブビューに一覧表示されます。
- 2 ジョブ一覧列ヘッダを右クリックし、新規追加 > メディア > メディアカタログの名前を選択します。メディアカタログの名前が、ジョブ一覧列ヘッダに表示されます。
- 3 ツールバーのその他フィルター横にある矢印をクリックします。
- 4 検索フィルターのカスタマイズリストで、メディアカタログの名前を選択し、保存をクリックします。
- 5 メディアカタログの名前フィルター横にある矢印をクリックし、必要なメディアカタログエントリを選択して、適用をクリックします。選択したメディアカタログエントリを使用しているすべてのジョブが表示されます。
- 6 オプションとして、保存をクリックすると検索結果をビューとして保存できます。検索結果をビューとして保存に名前を入力し、保存をクリックします。

ビューがサーバーウィンドウのキューリストの下に表示されます。

用紙カタログエントリを変更する

システム管理者は、用紙カタログエントリを複製、編集または削除できます。Command WorkStation 6.7 以降では、デフォルトのサーバー設定である場合や、次のいずれかに割り当てられている場合でも、用紙カタログエントリを編集または削除できます。

- ジョブ
- トレイ
- スマートメディア
- プリセット
- 仮想プリンター

特定のメディアカタログエントリを使用しているすべてのジョブを表示するには、高度な検索を実行します。

メディアカタログエントリを複製する

既存のカタログエントリを複製し名前を変更することで、新しいエントリを作成できます。

- 1 メディアカタログウィンドウで、複製するエントリを選択し、ツールバーの複製をクリックします。必要に応じて、エントリを右クリックし、複製を選択します。

メモ：一度に1つのエントリだけを複製できます。

- 2 複製ダイアログボックスで、エントリの新しい名前を入力します。
- 3 OK をクリックして変更を保存します。

複製されたメディアカタログエントリが名前列に表示されます。このエントリを選択し、必要に応じて他の属性を編集できます。

メディアカタログエントリを編集する

メディアカタログエントリの属性と値を編集できます。

- 1 メディアカタログで、次のいずれかを行います。

- エントリを選択して、ツールバーの編集をクリックする。
- 選択したエントリをダブルクリックする。
- 選択したエントリを右クリックし、編集を選択する。

1つ以上のジョブがメディアカタログエントリを使用していることを通知するメッセージが表示されます。

- 2 メディアカタログのエントリが次のいずれかに関連付けられている場合：

- ジョブ、スマートメディア、プリセット、仮想プリンター、またはデフォルトのサーバー設定：1つ以上のジョブがメディアカタログエントリを使用していることを通知するメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら、OK をクリックします。

- 3 必要な情報をテキストフィールドに入力するか、または矢印をクリックして属性のリストを表示します。新しい属性設定を選択するか、または新しい属性値を入力します。

メモ：用紙属性に誤った値を入力して別の用紙属性に移動すると、誤った用紙属性は元の設定値に戻ります。

- 4 OK をクリックして変更を保存します。

メモ：すでにキューにあるジョブの場合、ジョブを処理または印刷したり、ジョブのプロパティウィンドウを開いたりすると、メディア属性列がアップデートされます。

メディアカタログエントリを削除する

メディアカタログウィンドウで、メディアカタログエントリを削除できます。

- 1 メディアカタログウィンドウで、削除するメディアカタログエントリをリストから選択します。
連続している複数のエントリを選択する場合は **Shift** キーを押しながらクリックし、連続していない複数のエントリを選択する場合は **Ctrl** キーを押しながらクリックします。
- 2 次のいずれかの方法で、選択したエントリを削除します：
 - ツールバーの削除をクリックする。
 - 選択したエントリを右クリックし、削除を選択する。
- 3 メディアカタログエントリが次のいずれかに関連付けられている場合：
 - ジョブ、スマートメディア、プリセット、仮想プリンター、またはデフォルトのサーバー設定：1つ以上のジョブがメディアカタログエントリを使用していることを通知するメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら、**OK** をクリックします。

メディアカタログエントリを削除すると、そのエントリはジョブに関連付けられなくなります。ジョブのプロパティウィンドウでは、メディアカタログリストに**未定義**と表示されます。

一時的なカスタム用紙サイズを割り当てる

用紙に一時的なカスタムサイズを割り当てることができます。ジョブにメディアカタログエントリを割り当てる際に適用される定義済みサイズを選択する必要はありません。用紙にカスタムサイズを割り当てる場合、サイズカタログでカスタムサイズの新規エントリを作成する必要はありません。一時的なカスタムサイズが役に立つのは、特定の用紙サイズの使用が1回限りまたは限定されている場合です。

- 1 ジョブを選択し、次のいずれかを行います。
 - アクションメニューからプロパティをクリックします。
 - ジョブを右クリックしてプロパティを選択します。
 - ジョブセンターツールバーのプロパティアイコンをクリックします。
 - ジョブをダブルクリックします。
- 2 ジョブのプロパティウィンドウで、左側のメディアタブをクリックします。
- 3 メディアカタログリストから**未定義**を選択します。
- 4 用紙サイズフィールドで、**カスタム**をクリックし、用紙のカスタムサイズ寸法を指定します。
このカスタムサイズは**用紙サイズ**リストに表示されます。

メモ：カスタムサイズの寸法は一時的なもので、サイズカタログに定義されているサイズの一覧には反映されません。

メディアカタログエントリをジョブに割り当てる

メディアカタログは、Command WorkStation のジョブのプロパティウィンドウから使用できます。

- 1 ジョブを選択し、次のいずれかを行います。
 - アクションメニューからプロパティをクリックします。
 - ジョブを右クリックしてプロパティを選択します。
 - ジョブセンターツールバーのプロパティアイコンをクリックします。
 - ジョブをダブルクリックします。
- 2 ジョブのプロパティウィンドウで、左側のメディアタブをクリックします。
- 3 メディアカタログリストからメディアカタログエントリを選択します。用紙に関連付けられた属性を確認するには、用紙を選択後、**選択**ボタンをクリックします。メディアカタログエントリに割り当てられたサイズ ID がサイズ ID リストに表示されます。
- 4 異なるサイズ ID を選択するか、サイズ ID リストからカスタムサイズを指定できます。

メモ：メディアカタログおよびサイズ ID リスト内のエントリは、アルファベット順に一覧表示されます。

メディアエントリ

メディアカタログエントリを作成または編集する際には、さまざまな用紙属性を指定できます。カタログエントリに用紙属性を設定するには、メディアカタログのメインウィンドウまたは編集ウィンドウを使用します。

入力が必要な属性は名前の横に星印 (*) が表示されます。入力が必要な属性のフィールドは、空のままにできません。

メディアカタログは 2 種類の用紙属性のセットを提供します。

- **プリンター (PPD) 準拠**
各 PPD 設定で表示される選択肢は、接続している Fiery server の PPD によって決まります。
- **JDF (Job Definition Format)**
JDF 属性は標準であり、接続している Fiery server に依存しません。

共通メディア属性

システム管理者は、PPD または JDF いずれかの属性を使用してメディアカタログエントリを作成できます。メディアカタログエントリの作成に指定された PPD 属性はプロジェクトごとに異なります。そのため、PPD 属性の用語もさまざまです。使用している製品で可能な PPD 設定の詳細については、取扱説明書の『印刷』を参照してください。

新しいメディアカタログエントリを作成する場合は、まず PPD 準拠の設定または JDF 準拠の設定を選択する必要があります。詳細は、[メディアカタログ設定を選択する](#) (280 ページ) を参照してください。

PPD 準拠の設定を選択すると、属性が次のタブに表示されます。

- [一般](#) (288 ページ)
- [サイズ](#) (289 ページ)
- [カラー設定](#) (289 ページ)

JDF 準拠の設定を選択すると、属性が次のタブに表示されます。

- [一般](#) (289 ページ)
- [その他属性](#) (290 ページ)
- [サイズ](#) (289 ページ)
- [カラー設定](#) (289 ページ)

次の点に注意してください。

- [サイズ](#) (289 ページ) と [カラー設定](#) (289 ページ) タブは、PPD 設定と JDF 設定の両方で共通です。
- 属性名は、使用している Fiery server でサポートされているものによって異なる場合があります。
- 属性の説明では、「用紙」または「サブストレート」という用語は「メディア」を指します。

名前

用紙を説明するカタログエントリの記述的な名前: メディアカタログエントリに任意の名前を入力します。このフィールドは、PPD 属性と JDF 属性の両方に共通です。

一般タブ (PPD 準拠)

用紙カラー

使用する用紙のカラー: 用紙のカラーに関する JDF 設定には、カラー名とカスタムカラー名が含まれます。

パンチ穴のある用紙

可能なパンチ穴の組み合わせを示します。類似の JDF 設定は穴の種類です。

用紙タイプ

使用する用紙のストックタイプを記述します。オプションリストには、ジョブの種類に応じて使用できるさまざまな種類の用紙が含まれています。

セットごとの用紙枚数

グループ化された用紙セットの枚数を定義します。たとえば、事前にカットされた 5 つのタブのあるインデックス紙の場合、セット数は「5」になります。

用紙重量

使用する用紙の重量を示します。平方メートルあたりのグラム単位 (g/m²) またはポンド (lb) の測定単位で表されます。類似の JDF 設定は [重量](#) (295 ページ) です。

説明

使用する用紙の説明情報と追加の詳細。たとえば、「Hammermill Color Copy 10246-7 8 1/2" x 11" 105 g/m² Photo White Ultra Smooth」というような説明にします。

サイズタブ (PPD と JDF の両方の設定に共通)

サイズ ID	サイズカタログから選択された用紙のサイズを示します。サイズ ID は Fiery server で自動的に生成されます。
サイズカタログ	使用可能な定義済み用紙サイズの一覧です。
サイズ/用紙サイズ	サイズカタログで選択された用紙の幅と高さを示します。
給紙方向	給紙方向属性では、用紙の給紙方向を指定します。 給紙方向 (292 ページ) を参照してください。
製品 ID	製品番号、アイテムコード、商品コードなど、使用されるメディアに関する識別子であり、印刷オペレーターによって手動で、または Management Information System (MIS) によって定義されます。

カラー設定タブ (PPD と JDF 両方の設定に共通)

おもてカラープロファイル	用紙のおもて面にのみ適用されるデフォルトのカラープロファイルです。ジョブのプロパティで異なるカラープロファイルを指定すると、この属性は上書きされます。
裏カラープロファイル	用紙の裏面にのみ適用されるデフォルトのカラープロファイルです。ジョブのプロパティで異なるカラープロファイルを指定すると、この属性は上書きされます。

一般タブ (JDF 準拠)

説明	使用する用紙の説明情報と追加の詳細。たとえば、「Hammermill Color Copy 10246-7 8 1/2" x 11" 105 g/m2 Photo White Ultra Smooth」というような説明にします。
印刷済み	このチェックボックスがオンになっている場合、用紙には印刷済みの内容が含まれていることを示します (印刷済みのレターヘッドがついた便箋など)。このチェックボックスがオフになっている場合は、用紙には印刷済みの要素がないことを示します。
タイプ	使用する用紙のストックタイプを記述します。次のオプションから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 用紙：標準の繊維質の用紙です。 • 透明シート：プロジェクターに使用する透明の OHP シートです。
種類詳細	使用する用紙の種類の追加情報を指定します。 種類詳細 (295 ページ) を参照してください。
タブのプロパティ	新しい用紙カタログエントリの JDF 設定を指定し、 種類詳細 リストからフルカットタブ、プリカットタブ、インデックス紙を選択すると、 タブのプロパティ ボタンが有効になります。 タブのプロパティ (293 ページ) を参照してください。

重量	使用する用紙の重量を示します。平方メートルあたりのグラム単位 (g/m ²) またはポンド (lb) の測定単位で表されます。重量 (295 ページ) を参照してください。
穴の種類	使用する用紙のパンチ穴のパターン (該当する場合)。
テクスチャ	使用する用紙の表面テクスチャを示します。テクスチャ (294 ページ) を参照してください。
% (再生紙率)	用紙に含まれる再生紙の比率 (パーセント)。
カラー名	用紙のカラーです。半透明の用紙を指定するには、「クリア」カラーオプションを選択してください。
カスタムカラー名	用紙のカスタムカラーです。カラーメニューに目的のカラーが表示されない場合は、このフィールドにカスタムカラーの名前を入力します。
印刷テクノロジー	使用できる印刷テクノロジーを選択します。 <ul style="list-style-type: none">• オフセット：金属プレートを使用して (オフセット) イメージをゴム媒体またはローラーに転写した後、用紙に印刷します。• レーザー：光や「レーザー」を使用してテキストやイメージを用紙に転写します。このタイプの印刷では、トナーやドライインクパウダーを使用して用紙に印刷します。
おもて：	用紙のおもて面に適用できる設定です。おもて (291 ページ) を参照してください。
裏	用紙の裏面に適用できる設定です。裏 (291 ページ) を参照してください。おもて面と同じチェックボックスをオフにし、コーティング、光沢値、印刷可能面のオプションから選択することができます。
その他の属性タブ (JDF 準拠)	
明るさ	用紙の光反射率です。値は 0% (低反射率) から 100% (高反射率) の範囲で指定します。
厚さ	用紙の厚さをミクロン (μm) 単位で指定します。
グレード	用紙表面の質を示します。1~5 のレベルで指定します。グレード (292 ページ) を参照してください。
用紙ユニット	プリンターに給紙する用紙の物理フォーマットを示します。用紙ユニット (293 ページ) を参照してください。
CIE Lab カラー	デバイス非依存の用紙の色です。CIE L*a*b*値でカラーを指定します。
白色度 (CIE)	可視スペクトラム全体で計測される、用紙による光の反射量を示します。反射量は、CIE の xyz 座標値による値で指定します。(100、100、100) の座標値は、完全な白色を示します。
ティント (CIE)	用紙の中立、非飽和、非着色の度合いを示します。用紙の Tint 値は、CIE の xyz 座標値を使用して指定します。0 の座標値は、レッド-グリーン軸で完全に中立であることを示します。

不透明度	不透明度属性は用紙の透明レベルを示します。不透明度 (293 ページ) を参照してください。
不透明度レベル%	用紙の不透明度です。0%は完全に透明、100%は完全に不透明であることを示します。

おもて

おもてウィンドウには、用紙のおもてに適用できる次の属性があります。
次のオプションから選択します。

コート	用紙のおもて面のコーティングの種類です。
光沢値	光を 75 度の角度で当てたときに、用紙おもて面で反射する光の割合です。反射の割合の値が大きいと、光沢値が大きいのことを示します。
印刷可能面	イメージを印刷する面を指定します。

裏

裏ウィンドウには、用紙の裏に適用できる次の属性があります。

おもて面と同じ	おもてウィンドウで選択した設定と同じ設定にします。おもて (291 ページ) を参照してください。 メモ： Fiery server では、おもて面と同じがデフォルトになっています。おもて面と同じチェックボックスをオフにし、コーティング、光沢値、印刷可能面属性のオプションの中から選択することもできます。
コート	用紙の裏面に適用される前処理コーティングの種類を指定します。 コート (291 ページ) を参照してください。
光沢値	光を 75 度の角度で当てたときに、用紙裏面で反射する光の割合です。反射の割合の値が大きいと、光沢値が大きいのことを示します。
印刷可能面	イメージを印刷する面を指定します。

コート

コート属性は、用紙に使用する表面コートのタイプを示します。
次のオプションから選択します。

なし	コーティングを適用しません。
コート紙	表面シーリング剤を使用して、表面光沢、なめらかさ、重みなどの質感を用紙に与えます。
光沢	つやと反射が強いコーティングになります。

高光沢	鏡面仕上げを行うすべてのコーティングの中で最も光沢があります。このコーティングは非常に反射が強く、シャープな解像度を実現します。
マット	つやがほとんどない非光沢で、「フラット」とも呼ばれます。このコーティングでは、用紙の厚みが少し増すことがあります。
サテン	光沢レベルは光沢コーティングより低く、マットコーティングより高くなります。カラーはくっきりと鮮やかに用紙に印刷されます。
半光沢	光沢レベルは、光沢コーティングとマットコーティングのほぼ中間に位置します。このコーティングはシャープな解像度を実現します。

給紙方向

給紙方向属性では、用紙の給紙方向を指定します。

次のオプションから選択します。

長辺給紙	用紙は、用紙の長辺側からプリントヘッドに給紙されます。
短辺給紙	用紙は、用紙の短辺側からプリントヘッドに給紙されます。

グレード

「グレード」属性は用紙表面の質を示します。1~5のレベルで指定します。

メモ：この属性は、デジタル印刷の場合は通常使用しません。

使用する必要がある場合は、次のガイドラインに従ってください。

グレード	用紙の表面品質
1	光沢コート紙
2	マットコート紙
3	光沢コート紙 (ロール)
4	非コート紙 (白)
5	非コート紙 (ナチュラル)

用紙ユニット

用紙ユニット属性は、プリンターに給紙する用紙の物理フォーマットを示します。

次のオプションから選択します。

シート	1枚1枚カットされた紙です。
ロール紙	スピンドルに巻き付けられた連続紙です。
連続	折りたたまれた連続紙（ファンフォールド紙）です。

不透明度

不透明度属性は用紙の透明レベルを示します。

次のオプションから選択します。

不透明	用紙/メディアが不透明な場合に選択します。このタイプの用紙/メディアでは、両面印刷しても通常は裏面が透けて見えることはありません。
半透明	バックライト表示のようなある照明条件化で透明であるような用紙/メディアを使用する場合に選択します。
透明	すべての照明条件下で裏が見えている用紙/メディアを使用する場合はこのオプションを選択します。

タブのプロパティ

新しいメディアカタログエントリの JDF 設定を指定し、種類詳細メニューからインデックス紙を選択すると、タブのプロパティボタンが有効になります。

ボタンをクリックして以下の JDF タブ設定を選択します。

タブ丁合い順	プリカットのタブのセットに適用できます。
タブ幅	タブの正中線に沿って測ったタブ辺沿いの幅。各タブは、タブピッチと呼ばれるスペース内の中央にあります。
タブ辺	用紙のどの端（左、上、右、下）にタブがあるかを示します。
タブ高さ	タブが他の用紙の本体を超えて延長する正の距離です（単位はポイント）。
タブオフセット	用紙の角から、タブ辺沿いのバンクにおける最初のタブのピッチポイント端までの距離の大きさ（単位はポイント）。この距離はタブのバンクの両端で同一です。
山数	すべてのポジションが占められていた場合のシングルセット中の同サイズのタブの数。

テクスチャ

テクスチャ属性は、使用する用紙の表面テクスチャを示します。

次のオプションから選択します。

アンティーク	表面はベラムより粗い仕上げになっています。
カレンダー仕上げ	エクストラスムーズまたはつや出し非コート紙です。
コックル	紙の表面にさざ波状のしわを付けた仕上げです。
無光沢	光沢やつやのないコート紙です。
エッグシェル	表面が卵の殻のような模様の付いた仕上げです。
リネンエンボス	表面が粗織り布に似た、エンボス加工の仕上げです。
英語	マシン仕上げよりスムーズで、スーパーカレンダー仕上げより粗い仕上げの表面です。
フェルト	特殊フェルト加工仕上げです。
レイド	垂直線と水平線のパターン（すそ目模様）の仕上げです。
ライトコックル	コックルほどのしわのない、さざ波状のしわをもつ仕上げです。
リネン	表面が粗織り布のテクスチャをもつ仕上げです。
光沢	光沢のある仕上げです。
マシン仕上げ	エクストラスムーズまたはつや出し非コート紙ですが、イングリッシュよりも粗い仕上げです。
マット	光沢やつやのない無光沢仕上げです。
モトル	斑点模様の仕上げです。
パーチメント	羊皮紙に似た外観を持つ仕上げです。
サテン	サテン地に似たスムーズな無光沢仕上げです。
セミベラム	わずかに粗い仕上げですが、ベラムより滑らかです。
シルク	絹織物に似たスムーズな無光沢仕上げです。
スムーズ	表面が滑らかな仕上げです。
スティップル	微細な凹凸仕上げです。
スエード	スエード地に似たスムーズな無光沢仕上げです。
スーパーカレンダー仕上げ	最もスムーズで、最もつやのある非コート紙です。
スーパースムーズ	凹凸のない仕上げです。ウルトラスムーズよりも滑らかです。

トラディショナルレイド	レイドよりも込み入ったパターンのすそ目模様の仕上げです。
ウルTRASムーズ	凹凸のない仕上げですが、スーパースムーズほど滑らかではありません。
カレンダー仕上げなし	粗くつやのない非コート仕上げです。
ベラム	やや粗い無光沢仕上げです。
ベルベット	ベルベット地に似た滑らかな無光沢仕上げです。
ウーブ	柔らかく滑らかな仕上げです。

種類詳細

種類詳細属性は、使用する用紙ストックタイプの詳細な設定を示します。

次のオプションから選択します。

普通紙	このオプションは、用紙ストックが特別な記述を必要としない場合に選択します。システムによっては、このオプションの指定が必須の場合がありますが、多くの場合には普通紙を使用する場合でもこのオプションは指定する必要はありません。
ボール紙	段ボールにも使用される用紙です。
連続紙（横取り）	サイズによって定義された長辺に沿って連続的につながったシートから成る不透明用紙です。
連続紙（縦取り）	サイズによって定義された短辺に沿って連続的につながったシートから成る不透明用紙です。
ラベル	シールのラベル用紙です。

重量

重量属性は、平方メートルあたりのグラム単位 (g/m²) またはポンド (lb) を単位として表されます。

北米地域の用紙ストックタイプの基本重量は、ポンド単位 (lb) で表されます。単位を g/m² に変換するには、基本重量に、適切な変換係数を乗算します。

たとえば、50 ポンドの Bond ストックの重さをグラム値で表すには、次の計算を行います。

$$\text{基本重量} \times \text{変換係数} = 50 \times 3.76 = 188\text{g/m}^2$$

用紙ストックタイプごとの変換係数については、次の表を参照してください。

用紙ストックタイプ	変換係数
Bond	3.76
Ledger	3.76

用紙ストックタイプ	変換係数
Thin (manifold, onion skin)	3.76
Duplicator	3.76
Safety	3.76
Uncoated book	1.48
Coated book	1.48
Text book	1.48
Cover Papers	2.70
Index bristol	1.81
Tagboard	1.63
Blanks	2.28
Printing bristol	2.19
Wedding bristol	2.19
Blotter	3.08
Label	1.48
Newsprint	1.63

メディアカタログを管理する

システム管理者がメディアカタログを設定および管理します。

メディアカタログを設定すると、そのデータベースをエクスポートしたり、別のメディアカタログとマージしたり、出荷時のデフォルトにリセットしたりすることができます。

メディアカタログをエクスポートする

メディアカタログをエクスポートすると、.xml ファイルとして保存されます。

メディアカタログを置き換える前、またはシステムソフトウェアを再インストールする前に、既存のカタログをエクスポートして別の場所にバックアップしておくことをお勧めします。データベース内の全エントリをエクスポートするか、サブセットをエクスポートするかを選択できます。

カタログはエクスポート後、いつでもメディアカタログにインポートできます。

メモ：一般的に、用紙カタログエントリをメディアカタログにインポートすることはお勧めしません。インポートされた場合、目的の結果が得られない場合があります。

- 1 メディアカタログウィンドウで、ツールバーのエクスポートをクリックし、**すべてエクスポート**を選択します。

一部の用紙エントリのみをエクスポートしたい場合は、メディアカタログで複数のエントリを選択し、**選択項目をエクスポート**を選択します。連続しているエントリを選択する場合は **Shift** キーを押しながらクリックし、連続していないエントリを選択する場合は **Ctrl** キーを押しながらクリックします。

- 2 エクスポートしたファイルを保存するためのコンピューターまたはネットワーク上の保存場所を指定します。
- 3 エクスポートしたファイルの名前を入力して、**保存**をクリックします。

メディアカタログをエクスポートすると、.xml ファイルとして保存されます。

メディアカタログを置き換える

システム管理者は、新しいメディアカタログをインポートして、既存のメディアカタログを置き換えることができます。

メディアカタログを置き換える前に、現在使用しているカタログをエクスポートしてアーカイブすることをお勧めします。

- 1 メディアカタログウィンドウのツールバーでインポートをクリックして、**既存を置換**を選択します。
- 2 コンピューターまたはネットワーク上にある置換用の.xml ファイルを検索し、**開く**をクリックします。
- 3 警告メッセージが表示されたら**はい**をクリックします。

2つのメディアカタログをマージする

システム管理者は、別のメディアカタログからエントリをインポートして、マージされたメディアカタログを作成できます。

次の点に注意してください。

- インポートするカタログ内に既存のメディアカタログのエントリと同一の属性を持つエントリがあった場合、そのエントリはインポートされません。オリジナル（既存）のエントリがそのまま修正されずマージされたメディアカタログに残ります。
- 一般的に、用紙カタログエントリをメディアカタログにインポートすることはお勧めしません。インポートされた場合、目的の結果が得られない場合があります。

- 1 メディアカタログウィンドウのツールバーでインポートをクリックし、**既存とマージ**を選択します。

- 2 インポートするデータベースファイル (.xml ファイル) をコンピューターまたはネットワーク上から検索し、開くをクリックします。

これで現在のメディアカタログに、選択したエントリがマージされました。

メモ：2つのカタログをマージした場合、インポートしたメディアカタログ内で用紙と関連付けられていたカラープロファイルはすべて無効になります。

上記の手順を繰り返すことで複数のメディアカタログを既存のカタログにマージできます。

メディアカタログを出荷時のデフォルトにリセットする

システム管理者は、メディアカタログを出荷時のデフォルトに復元させることができます。

メディアカタログを出荷時のデフォルトにリセットすると、追加または編集されたカタログエントリはすべて消去されます（ただし、カタログエントリがジョブやトレイに割り当てられている場合、またはロックされている場合を除きます）。カスタマイズしたエントリを保存する場合は、出荷時のデフォルトにリセットする前に既存のカタログをエクスポートします。

- 1 メディアカタログウィンドウで、ツールバーの**設定**をクリックします。
- 2 メディアカタログ設定ウィンドウで、**出荷時デフォルト設定**にリセットをクリックします。
- 3 警告メッセージが表示されたら**はい**をクリックします。

トレイ関連付け

トレイ関連付けを使用すると、メディアカタログメディアエントリをプリンタートレイに割り当てることができます。この機能を使用すると、プリンターは、特定のメディアカタログエントリを使用するジョブに関連付けられた指定のメディアカタログを自動的に引き出すことができますようになります。

メモ：トレイ関連付けの機能は、メディアカタログがサポートされている場合のみ使用できます。

トレイ関連付け機能を使用すると、メディアカタログのメディアをプリンターに装着されているトレイに割り当てることができます。

また、たとえば、トレイで同じ用紙を時間の90%以上使用するようにプリンターが設定されているプリントジョブでは、スマート用紙を使用して、自動トレイ関連付けを行うこともできます。

トレイ関連付け表示

トレイ関連付けは以下に表示されます。

- 消耗品エリア
- メディアカタログウィンドウ
- ジョブのプロパティのメディアエリアにあるメディアカタログリスト

Command WorkStation の消耗品エリアでは、プリンターに装着されているすべてのトレイが、セットされている用紙のサイズと共に表示されます。

メディアカタログの用紙エントリが特定のトレイと関連付けられている場合、トレイには用紙の名前が表示されます。メディアカタログの用紙が特定のトレイと関連付けられていない場合、トレイは**指定なし**と表示されます。

メモ: メディアカタログエントリがトレイに割り当てられると、ジョブのプロパティでそのメディアの給紙トレイに対して行った選択はすべて無視されます。

用紙をトレイに割り当てる方法はいくつかありますが、その場合、用紙エントリはトレイにセットされる用紙属性と一致する必要があります。メディアカタログは、Fiery server からレポートされる用紙属性によって、各トレイに対して示されるエントリをフィルタリングします。

また、トレイでの給紙状況を表示することもできます。[トレイ内の用紙状況を監視する](#) (303 ページ) を参照してください。

トレイ関連付けを削除

トレイ関連付けを削除するには、次の操作を行います。

- 1 Fiery Command WorkStation の消耗品領域で、トレイの右にある矢印をクリックします。
- 2 関連付けを除去をクリックします。

用紙をトレイに割り当てる

トレイ関連付け機能を使用すると、メディアカタログの用紙をプリンターに装着されているトレイに割り当てることができます。スマート用紙機能がメディアカタログ設定でオンになっていれば、自動的にトレイ関連付けを行うことができます。

メディアカタログウィンドウから用紙をトレイに割り当てる

メディアカタログでは、右クリックまたはドラッグアンドドロップによって用紙をトレイに関連付けることができます。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - サーバリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 リソースでメディアカタログを選択します。
- 3 次のいずれかを行います。
 - 用紙を右クリックし、関連付けを選択し、トレイを選択します。

メモ: 関連付けは、メディアカタログエントリがプリンタートレイのプロパティと一致する場合にのみ表示されます。
 - 消耗品エリアに表示されている適切なトレイに用紙をドラッグアンドドロップします。

関連付けは、選択した用紙が指定トレイの仕様に一致する場合にのみ表示されます。同様に、ドラッグアンドドロップできるのはトレイの仕様に一致する用紙エントリのみになります。たとえば、レタ

ーサイズ用の用紙は、タブロイド用のトレイや、重さまたは給紙方向の異なるレターサイズ用のトレイには関連付けることができません。

消耗品エリアから用紙をトレイに割り当てる

Command WorkStation の消耗品エリアから、用紙とトレイとの関連付けを作成したり削除したりできます。

- 1 Fiery Command WorkStation のメインウィンドウで、Fiery server の名前の横にあるプラス記号 (+) をクリックして消耗品エリアを表示します。
- 2 トレイの右側の矢印をクリックします。次のオプションから選択します。
 - 指定：プリンタートレイのプロパティに一致するメディアカタログエントリを選択します。

メモ：トレイで使用可能なすべてのエントリが表示されます。トレイがメディアカタログの情報を認識しない場合、プリンターのトレイプロパティと一致するように用紙カタログエントリを作成または変更するか、希望するメディアカタログエントリが表示されるようにトレイのプロパティをプリンターに設定します。プリンターには複数の属性を持つものもあれば、サイズの属性しか持たないものもあります。

- 新規用紙を追加：メディアカタログエントリを作成します。メディアカタログのエントリがプリンターのトレイプロパティと一致する場合は、この新しいエントリをトレイに割り当てることができます。

用紙がトレイにすでに指定されている場合は、以下を選択することができます。

- 関連付けを除去：以前トレイに割り当てられていたメディアエントリを削除します。

トレイ関連付けは、メディアカタログウィンドウにも表示されます。

スマート用紙

スマート用紙は、ユーザー指定の用紙をセットした時に自動的にトレイ関連付けを行います。

この機能は、プリントショップのような特殊な環境での使用を目的としています。プリントショップでは、同じ用紙をトレイで90%以上の時間で使用するよう設定されています。この環境下では、ユーザーはいつもトレイに紙のラベルを貼り付けて、オペレーターにどの用紙をセットするかを指示するようにしていました。スマートメディア機能では、Fiery server がユーザー指定のメディアを記憶していて、同じ属性を持つメディアがトレイにセットされると、トレイへの関連付けが自動的に行われるようになります。

スマート用紙は、下記のワークフローの1つで定義することができます。

- トレイから新規用紙を追加
- メディアカタログから新規メディアを追加

メモ：スマート用紙を使用するには、メディアカタログ設定ダイアログボックスでスマート用紙をオンにする必要があります。[スマート用紙を有効にする](#) (301 ページ) を参照してください。

スマート用紙を有効にする

メディアカタログ設定ダイアログボックスでスマート用紙を有効にできます。

- 1 次のいずれかを行います。
 - デバイスセンターのリソースでメディアカタログを選択します。
 - サーバー > メディアカタログを選択します。
 - ジョブセンターツールバーのメディアカタログアイコンをクリックします。
 - サーバリスト内の Fiery server を右クリックし、メディアカタログを選択します。
- 2 設定ボタンをクリックします。
- 3 PPD 準拠を選択します。

メモ：JDF 準拠の用紙属性は、スマート用紙を定義する時には使用できません。
- 4 スマート用紙の使用が選択されていない場合は選択してください。
- 5 閉じるまたは管理をクリックします。

スマート用紙の管理ダイアログボックスの情報については、[スマート用紙を管理する](#) (302 ページ) を参照してください。

新規スマート用紙を追加する

スマート用紙は、メディアカタログ、トレイまたはスマート用紙の管理ダイアログボックスから追加できます。

メディアカタログからスマート用紙を追加する

メディアカタログで用紙を選択して、スマート用紙として追加できます。

- 1 用紙カタログ設定ダイアログでスマート用紙の使用を選択します。
- 2 管理をクリックします。
- 3 スマート用紙の管理ダイアログで追加をクリックし、メディアカタログから追加を選択します。
- 4 メディアカタログで用紙を選択し、追加をクリックします。

選択した用紙がスマート用紙の管理ダイアログでスマート用紙として指定されます。

トレイからスマート用紙を追加する

スマート用紙を追加する場合は、セットされる用紙の設定をプリンターのコントロールパネルおよび新規用紙ダイアログボックスで指定できます。

- 1 用紙カタログ設定ダイアログでスマート用紙の使用を選択します。

- 2 トレイに用紙をセットし、プリンターのコントロールパネルで用紙設定を指定します。
- 3 Command WorkStation で、消耗品ウィンドウのトレイをクリックし、メニューから新規用紙を追加を選択します。

メモ：用紙カタログ設定ダイアログボックスで PPD 準拠仕様が選択されている場合にのみ、新規用紙を追加オプションが表示されます。

新規用紙ダイアログボックスが表示され、トレイの設定と一致するフィールドにはその値が反映されます。これらの設定は編集できません。

- 4 必要に応じて、新規用紙ダイアログで新規用紙の詳細の属性を指定します。
追加できる属性の詳細については、[メディアカタログの新規エントリの属性](#) (280 ページ) を参照してください。
- 5 <トレイ名>のスマート用紙として追加チェックボックスを選択します。

新規用紙をスマート用紙として指定します。この属性にマッチングする用紙がトレイにセットされるたびに、トレイが自動的にスマート用紙に関連付けられます。

スマート用紙の管理ダイアログボックスからスマート用紙を追加する

トレイを選択し、スマート用紙の管理ダイアログボックスを使用してスマート用紙を追加することができます。

- 1 消耗品エリアでトレイを選択します。
- 2 コンテキストメニューからスマート用紙の管理を選択します。
- 3 スマート用紙の管理でトレイを選択し、追加をクリックし、トレイから追加を選択します。

スマート用紙を管理する

スマート用紙を作成すると、その用紙がスマート用紙の管理ダイアログボックスに表示されます。このダイアログボックスには、使用可能なトレイと、各トレイに関連付けられているスマート用紙も表示されます。

スマート用紙の管理ダイアログは、メディアカタログ設定ダイアログから、または消耗品エリアでトレイをクリックして表示されるコンテキストアクションメニューからアクセスできます。

次のアクションを行うことができます。

- メディアカタログまたはトレイから追加する。
- 選択したスマート用紙を除去する。
- すべてのスマート用紙を除去する。
- 列見出しを修正して、使用できる用紙属性を追加する。

メモ：列見出しは、使用できる用紙の属性です。

トレイ内の用紙状況を監視する

プリンターがトレイごとの用紙レベルの報告をサポートしている場合、サーバーリストから用紙状況を確認することができます。

- 1 Command WorkStation のサーバーリストで、Fiery server の名前の横にあるプラス記号をクリックします。
Fiery server のトレイが表示され、トレイ毎にロードされたメディアがグラフィック表示されます。
- 2 トレイリストにカーソルを置くと、レベルがパーセントで表示されます。

サイズカタログ

サイズカタログでは、よく使用するカスタムサイズのリストをユーザーが作成できます。サイズカタログは Fiery server に格納されます。サイズカタログを作成すると、ジョブごとに用紙のサイズ寸法を指定する必要がある場合のエラーの発生を減らすことができます。

メモ：サイズカタログを管理するには、Command WorkStation にシステム管理者としてログインする必要があります。

Command WorkStation からサイズカタログへアクセスする

サイズカタログには、Command WorkStation > デバイスセンター > サイズカタログでアクセスできます。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターにアクセスします。
 - サーバーリストの Fiery server の横にある、その他アイコン（3つのドット）をクリックし、デバイスセンターを選択します。
 - サーバーリスト内の Fiery server を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
 - サーバー一覧で Fiery server をダブルクリックします。
 - Command WorkStation のサーバーメニューでデバイスセンターをクリックします。
- 2 デバイスセンターで、リソースをクリックし、サイズカタログを選択します。

サイズカタログを管理する

サイズカタログを初めて開くと、デフォルトのサイズカタログエントリが一覧表示され、用紙の名前とサイズが表示されます。サイズカタログを設定したら、エントリの追加、変更または削除、公開または非公開、インポートまたはエクスポート、出荷時のデフォルトへのリセットを行います。

サイズカタログエントリを作成/編集する

よく使用する用紙のカスタムサイズのサイズカタログエントリを作成または編集できます。

メモ：デフォルトのサイズカタログエントリは編集できません。

1 デバイスセンター>リソース>サイズカタログで、次のいずれかを行います。

- 新規追加アイコンをクリックして、サイズカタログエントリを作成します。
- 既存のエントリを編集するには、エントリを選択し、編集アイコンをクリックします。

メモ：エントリを編集するには、エントリをダブルクリックするか、エントリを右クリックして編集を選択することもできます。

2 追加または編集ウィンドウで、エントリの名前や寸法を指定または変更します。

次の点に注意してください。

- サイズカタログエントリごとに一意の名前が必要です。2つのサイズカタログエントリが同じ名前を共有することはできません。
- 各サイズカタログエントリの名前が一意であれば、同じ寸法のサイズカタログエントリが複数あってもかまいません。
- サイズカタログエントリのサイズ測定単位のデフォルトは、Command WorkStation > 編集 > 環境設定 > 地域 > 測定単位で設定できます。
- サイズカタログエントリの幅は、用紙の先端/給紙辺/グリッパージェッジを示します。

3 OK をクリックします。

新規または変更されたエントリがサイズカタログに一覧表示されます。

メモ：デフォルトのサイズカタログエントリは、プレスまたはプリンターの性能によって異なる場合があります。

サイズカタログエントリを削除する

サイズカタログから1つ以上のサイズカタログエントリを削除できます。

メモ：デフォルトのサイズカタログエントリは削除できません。

1 デバイスセンター>リソース>サイズカタログで、削除する1つまたは複数のエントリを選択します。

連続している複数のエントリを選択する場合は **Shift** キーを押しながらクリックし、連続していない複数のエントリを選択する場合は **Ctrl** キーを押しながらクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- エントリを右クリックし、削除を選択します。
- ツールバーの削除アイコンをクリックします。

エントリを削除してもよいかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。

3 はいをクリックします。

選択したエントリがサイズカタログから削除されます。

サイズカタログエントリを公開または非公開にする

デフォルトでは、すべてのサイズカタログエントリが画面に表示され、ユーザーがジョブ用に選択できます。つまり、これらのエントリは「公開」されます。

サイズカタログに記載されているエントリを非公開にすることができます。サイズカタログエントリが非公開になると、そのエントリは、デバイスセンター > サイズカタログのサイズカタログエントリのリストで使用できなくなります。さらに、非公開になったサイズカタログエントリは、ユーザーが用紙サイズを指定する際に選択することができません。デバイスセンター > サイズカタログで非公開エントリを隠すチェックボックスを選択して、非公開エントリを非表示にすることができます。

エントリを非公開にしても、いつでもそのエントリをまた公開することができます。

メモ：サイズカタログが1つのエントリのみで構成されている場合、公開アイコンと非公開アイコンはグレー表示されます（使用できません）。

- 1 デバイスセンター > リソース > サイズカタログで、公開または非公開にするエントリを1つまたは複数選択します。
連続している複数のエントリを選択する場合は **Shift** キーを押しながらクリックし、連続していない複数のエントリを選択する場合は **Ctrl** キーを押しながらクリックします。
- 2 次のいずれかを行います。
 - エントリを非公開にするには、ツールバーの**非公開**アイコンをクリックします。
 - エントリを公開するには、ツールバーの**公開**アイコンをクリックします。

メモ：また、サイズカタログエントリを右クリックし、**非公開**または**公開**を選択することもできます。

サイズカタログエントリをインポートする

すでに作成したサイズカタログエントリをインポートして、既存のサイズカタログに追加することができます。

メモ：インクジェットプレスに接続された Fiery server で作成されたサイズカタログエントリをインポートすることは一般的に推奨されません。インポートされた場合、目的の結果が得られない場合があります。

インポート時に、サイズの異なる重複するサイズ名が見つかった場合は、サイズはそのまま「_1」や「_2」などの接尾辞がサイズ名に付加されます。

- 1 デバイスセンター > リソース > サイズカタログで、ツールバーの**インポート**アイコンをクリックします。
- 2 インポートする.json ファイルをコンピューターまたはネットワーク上から検索し、**開く**をクリックします。
.json ファイルがサイズカタログにインポートされ一覧表示されます。.json ファイルに複数のサイズカタログエントリ含まれている場合は、各サイズカタログエントリが別々に一覧表示されます。

既存のサイズカタログにさらに追加するサイズカタログエントリについて、この手順を繰り返します。

サイズカタログエントリをエクスポートする

エクスポートしたサイズカタログエントリは.json ファイルとして保存され、いつでもサイズカタログに再度インポートできます。

サイズカタログのすべてのエントリまたは一部のエントリのエクスポートを選択することができます。公開サイズカタログエントリも非公開サイズカタログエントリもエクスポートできます。

- 1 デバイスセンター > リソース > サイズカタログで、ツールバーのエクスポートアイコンをクリックし、すべてエクスポート...を選択します。

一部のサイズカタログエントリのみエクスポートする場合は、複数のエントリを選択し、**選択項目をエクスポート...**を選択することができます。連続しているエントリを選択する場合は **Shift** キーを押しながらクリックし、連続していないエントリを選択する場合は **Ctrl** キーを押しながらクリックします。

- 2 エクスポートしたサイズカタログエントリを保存する場所を、使用しているコンピューターまたはネットワーク上で指定します。
- 3 エクスポートしたエントリの名前を入力した後、**保存**をクリックします。
エクスポートしたサイズカタログエントリは.json ファイルとして保存されます。

メモ：複数のサイズカタログエントリを選択するか、**すべてエクスポート...**オプションを使用しても、1つの.json ファイルが作成されて、エクスポートしたサイズカタログエントリがそこに保存されます。

サイズカタログを出荷時のデフォルトにリセットする

出荷時デフォルト値へのリセットを使用すると、サイズカタログを出荷時のデフォルトエントリと属性に復元させることができます。

サイズカタログを出荷時のデフォルトにリセットすると、追加または編集されたサイズカタログエントリはすべて消去されます（ただし、サイズカタログエントリがジョブに割り当てられている場合を除きます）。カスタマイズしたエントリを保存する場合は、出荷時のデフォルトにリセットする前に既存のサイズカタログをエクスポートしてください。

- 1 デバイスセンター > リソース > サイズカタログを開き、ツールバーの出荷時デフォルト設定にリセットをクリックします。

メモ：サイズカタログツールバーで出荷時デフォルト設定にリセットが非表示になっている場合、デバイスセンターウィンドウを拡大するか、または詳細アイコン（3つの縦のドット）をクリックして、各アイコンのオプションを表示します。

- 2 警告メッセージが表示されたらはいをクリックします。

バリエブルデータ印刷リソース

バリエブルデータ印刷（VDP）ジョブでは、マスターデータとグローバル/再利用可能リソースのバリエブルデータを使用してジョブを構成します。

FreeForm 1 および 2 マスター部分を固定データとして、異なるバリエブルデータと組み合わせて、バリエブルデータ印刷に使用します。たとえば、レターヘッドのテンプレートを FreeForm マスターとして保存しておき、それをバリエブルデータ部分（手紙の内容など）のバックグラウンドとして繰り返し使用できます。

グローバルリソースとは、バリアブルデータと一緒にバリアブルデータ印刷（VDP）ジョブのために Fiery server にダウンロードする必要がある画像のことです。これらのグローバルリソースは、各プロジェクト内の 1 つのグループとして Fiery server に格納されます。

バリアブルデータ印刷（VDP）リソースを使用した場合、システム管理者は Fiery server のディスク容量を次のように管理できます。

- FreeForm 1 および 2 マスターの管理
- グローバルリソースの表示と削除
- 将来のバリアブルデータ印刷（VDP）ジョブのためのグローバルリソースの作成と保存
- Fiery server へのグローバルリソースのアーカイブと復元

VDP リソースにアクセスするには、Fiery server に接続して詳細アイコンをクリックし、デバイスセンター > リソース > バリアブルデータ印刷リソースを選択します。

FreeForm 1 および 2 マスターを管理する

FreeForm 1 および 2 バリアブルデータ印刷では、ジョブのマスターデータを Fiery server に送信し、バリアブルデータとは別にマスターデータを RIP 処理します。

このマスターデータの RIP 済みデータを Fiery server に FreeForm 1 および 2 マスターとして保存しておき、必要に応じてバリアブルデータと組み合わせて印刷します。

マスターデータを作成した後は、バリアブルデータ印刷リソースを使用して FreeForm マスターのサムネイルを表示したり、Fiery server のマスターファイルを管理できます。

- 1 任意の Fiery server に接続して、デバイスセンター > リソース > バリアブルデータ印刷リソースをクリックします。
- 2 FreeForm 1 および 2 マスターを表示するには、FreeForm をクリックして FreeForm マスターを選択します。そして、表示メニューからリストビューまたはサムネイルビューをクリックします（Fiery server がサポートしている場合）。
- 3 FreeForm 1 および 2 マスターを削除するには、FreeForm をクリックし、FreeForm 言語またはマスターファイルを選択して削除をクリックします。
- 4 現在の情報を更新するには、リフレッシュをクリックします（Fiery server がサポートしている場合）。

バリアブルデータ印刷リソースをバックアップする

FreeForm 1 および FreeForm 2 のマスターとグローバルリソースをバックアップできます。

プロジェクトの FreeForm 1 および 2 マスターをバックアップする

デバイスセンターのバリアブルデータ印刷リソース機能を使用すると、FreeForm マスターを別のファイルにバックアップできます。

- 1 適切な Fiery 印刷コントローラーに接続して、デバイスセンター > リソース > バリアブルデータ印刷リソースをクリックします。

- 2 FreeForm をクリックして、FreeForm 言語を選択し、FreeForm マスターを選択します。
- 3 バックアップをクリックします。
- 4 ファイルを保存する場所を指定し、OK をクリックします。

プロジェクトのグローバルリソースをバックアップする

デバイスセンターのバリアブルデータ印刷リソース機能を使用すると、プロジェクトを別のファイルにバックアップできます。

PDF/VT ジョブではバックアップ/復帰を実行できません。

- 1 必要な Fiery server に接続し、デバイスセンター > リソース > バリアブルデータ印刷リソースをクリックします。
- 2 バリアブルデータ印刷フォルダーをクリックし、利用可能なプロジェクトのリストを表示します。
- 3 アーカイブするプロジェクトを選択し、バックアップをクリックします。
- 4 ファイルを保存する場所を指定し、OK をクリックします。

バリアブルデータ印刷リソースを復元させる

FreeForm 1 および 2 のマスターとアーカイブ済みグローバルリソースを復元できます。

プロジェクトの FreeForm 1 および 2 マスターを復元する

FreeForm 1 および 2 マスターを別のファイルにバックアップしている場合は、それを復元できます。

- 1 復元をクリックします。
- 2 アーカイブ済みのマスターファイルを保存した場所を検索してファイルを選択し、復元をクリックします。

プロジェクトのアーカイブ済みグローバルリソースを復元する

アーカイブ済みのジョブは、ファイルがアーカイブされたオリジナルの Fiery server にのみ復元できます。

メモ：FreeForm 1 および 2 を除き、グローバルリソースを持たないバリアブルデータ印刷言語は、バリアブルデータ印刷リソースに表示されません。グローバルリソースを復元したバリアブルデータ印刷言語のみが、バリアブルデータ印刷リソースに表示されます。

- 1 復元をクリックします。
- 2 アーカイブ済みファイルを保存した場所を検索してファイルを選択し、復元をクリックします。

グローバルリソースを表示および削除する

グローバルリソースや、プロジェクトのジョブ名情報を表示できます。

- 1 必要な Fiery server に接続し、デバイスセンター > リソース > バリアブルデータ印刷リソースをクリックします。
- 2 グローバルリソースを表示するには、プロジェクトをクリックし、表示メニューからリストビューまたはサムネイルビューをクリックします (Fiery server でサポートしている場合)。
- 3 送信済みジョブの名前情報とプロジェクトのリソースを表示するには、プロジェクトをクリックし、リソースまたはジョブをクリックします (Fiery server でサポートしている場合)。
- 4 グローバルリソースを削除するには、バリアブルデータ印刷 (VDP) 言語またはプロジェクトをクリックして、削除をクリックします。
- 5 現在の情報を更新するには、リフレッシュをクリックします (Fiery server でサポートしている場合)。

フォント

フォント管理ウィンドウには、Fiery server に常駐するフォントが表示されます。ローカルプリンターにフォントリストを印刷することもできます。

Fiery サーバーのフォントを管理する

フォントの追加、アップデート、削除およびフォント一覧の印刷ができます。

Configure で、次の設定を行います。

ジョブ送信 > キュー > フォントキューの公開を有効にします。セキュリティ上の理由から、フォントをインストールしている間のみ、フォントキューを有効にします。

PostScript フォントの場合は、セキュリティ > PostScript セキュリティを無効にします。

メモ：サーバー上の日本語フォントやサポートアプリケーションによってダウンロードされたフォントは、すべてロックされています。Fiery server にダウンロードされた日本語のフォントは、アプリケーションをインストールすることでのみ削除できます。

- 1 次のいずれかの方法で、デバイスセンターを開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン (縦に並んだ3つのドット) をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、デバイスセンターを選択します。
- 2 リソース > フォントをクリックします。
- 3 PS フォントを選択します。

Fiery server に現在常駐するフォントの一覧が表示されます。

- 4 フォントを追加または更新するには、**新規追加**をクリックします**追加**をクリックして、ダウンロードするフォントを探し、**OK**、**リフレッシュ**をクリックします。
Adobe PostScript Type 1 フォントを追加できます。
- 5 フォントを削除するには、フォント一覧のロックされていないフォントを選択し、**削除**をクリックします。ロックされたフォントは削除できません。
- 6 フォント一覧を印刷するには、**印刷**をクリックします。
- 7 PostScript フォントを追加した場合は、**セキュリティ > PostScript セキュリティ**を再度有効にします。

フォントのバックアップと復元を実行する

Fiery server 上のすべてのフォントをバックアップおよび復元できます。フォントを個別に選択することはできません。

Fiery server でフォントのバックアップや復元を実行するには、システム管理者としてログインする必要があります。

- 1 次のいずれかの方法で、**デバイスセンター**を開きます。
 - サーバーリストでサーバー名の横にある詳細アイコン（縦に並んだ3つのドット）をクリックします。
 - サーバーリスト内でサーバー名をダブルクリックします。
 - サーバー > デバイスセンターの順にクリックします。
 - サーバー名を右クリックし、**デバイスセンター**を選択します。
- 2 **リソース > フォント**をクリックします。
- 3 **バックアップ**または**復元**をクリックします。
- 4 表示される web ブラウザーウィンドウで、**セキュリティ**の指示に従います。
- 5 **バックアップリソースと設定**で、**今すぐバックアップ**をクリックします。
- 6 ダイアログボックスが表示されたら、システム管理者としてログインします。
- 7 バックアップする項目の一覧で、**フォント**を選択します。
- 8 以下のガイドラインを順守します。

Fiery server も格納されている内蔵ドライブにはフォントをバックアップしないでください。フォントの復元は、バックアップの作成元になったものと同じ Fiery server に対して行う必要があります。

ユーザーとグループ

Fiery server にアクセスするユーザーを作成し、グループに割り当てることによってユーザーの権限を定義できます。初期設定でいくつかのグループが設定されていますが、新規にグループを作成することも可能です。同じグループ内の全ユーザーが同じ権限を持ちます。

メモ：Command WorkStation では、既存の管理者グループまたはオペレーターグループのユーザーのみがログインでき、ユーザーが作成したカスタムグループからはログインできません。

ユーザーとグループに関する詳細情報は、**Configure > ユーザーアカウント**で確認できます。

作成したユーザーをグループに割り当てるだけでなく、組織全体のアドレスリストからユーザーを追加することもできます。これを行うには、最初に、Fiery server で LDAP サービスを使用可能に設定する必要があります。

グループを表示または追加する

システム管理者は、グループ機能を使用して、権限を指定して印刷グループを設定したり、グループにユーザーを追加したりできます。

メモ：グループをサポートしていない Fiery servers もあります。

ユーザーおよびグループの権限を変更するには、**設定**をクリックします。詳細は、[グループ権限を変更する](#) (42 ページ) を参照してください。

ジョブログを使用する

ジョブログには、処理および印刷済みのジョブ、印刷日時、特記事項などの記録が保存されます。

メモ：システム管理者が Fiery server をクリアしたり、新しいソフトウェアをインストールしたりした場合、ジョブログが消去されることがあります。

システム管理者は、**Configure** で自動のジョブログメンテナンスを設定できます (ジョブログをエクスポートして消去する日時を設定するなど)。

ジョブログの管理方法の詳細については、『**Configure のヘルプ**』を参照してください。

ジョブログを表示する

- 適切な Fiery server に接続し、次のいずれかの操作を行います。
 - サーバー名の横にある詳細アイコン (3 つのドット) をクリックしてデバイスセンターを選択した後、**ログ > ジョブログ**をクリックします。
 - サーバー ログ >**をクリックします。
- タイムスタンプ - 印刷終了**列または**日付/時刻列**のいずれかを選択し、表示するジョブの日付範囲を指定します。

最初の列には、最後に印刷されたジョブを上部に表示する **タイムスタンプ - 印刷終了**が表示されます。

2 番目の列には、Fiery server がジョブを受信した日時が表示されます。
- すべてのジョブを表示するには、**フィルターを消去**をクリックします。

ジョブに対してプルーフ印刷を選択すると、印刷済みプルーフがジョブログに表示され、部数が 1 に設定されます。

ジョブログ列のカスタマイズ

- 1 列見出しを右クリックします。
- 2 追加を選択します。
- 3 使用可能な列の一覧で、追加する列を選択します。
- 4 列を削除するには、列見出しを右クリックして削除を選択します。
- 5 列の順序を変更するには、列見出しを選択して別の場所にドラッグします。

ジョブログエントリの詳細情報を表示する

ジョブログのエントリの詳細を表示することができます。標準の Windows または macOS コントロールを使用してテキストをコピーし、選択、すべて選択、コピーなどを行うことができます。また、Fiery server またはローカルプリンターから詳細を印刷することもできます。

- 行を選択してツールバーの詳細をクリックするか、行をダブルクリックします。
ジョブログの列は垂直方向に表示されるため、詳細な情報を一目で確認して印刷することができます。

ジョブログを印刷する

- 1 適切な Fiery server に接続し、次のいずれかの操作を行います。
 - サーバー名の横にある詳細アイコン（3つのドット）をクリックしてデバイスセンターを選択した後、ログ>ジョブログをクリックします。
 - サーバー>ログをクリックします。
- 2 印刷をクリックします。
- 3 印刷に使用するプリンターを選択します。選択肢は、Fiery（現在接続している Fiery server）またはローカルプリンターのどちらかです。
 - Fiery を選択した場合、ジョブが印刷されます。
 - ローカルプリンターを選択した場合は、プリンターを選択し、印刷をクリックします。

ジョブログのコンテンツをエクスポートする

- 1 適切な Fiery server に接続し、次のいずれかの操作を行います。
 - サーバー名の横にある詳細アイコン（3つのドット）をクリックしてデバイスセンターを選択した後、ログ>ジョブログをクリックします。
 - サーバー>ログをクリックします。

- 2 エクスポートをクリックします。
- 3 現在の表示を選択してジョブログの現在の日付の範囲の表示をエクスポートするか、または完了ログを選択して指定された日付の範囲の表示に関係なくジョブログ全体をエクスポートします。

ジョブログのコンテンツをエクスポートおよび消去する

- 1 適切な Fiery server に接続し、次のいずれかの操作を行います。
 - サーバー名の横にある詳細アイコン（3つのドット）をクリックしてデバイスセンターを選択した後、ログ>ジョブログをクリックします。
 - サーバーペインでサーバー名をダブルクリックしてデバイスセンターを開き、ログ>ジョブログを選択します。
 - サーバー>ログをクリックします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - エクスポート/消去をクリックします。
 - 消去をクリックします。

Graphic Arts ツール

Fiery グラフィックアート機能

Fiery server のグラフィックアート機能にはパッケージで提供されるものがあります。Fiery server がどのパッケージに対応しているかについては、Fiery server に付属の取扱説明書を参照してください。

FS350/350 Pro 以前のバージョンでは、次のパッケージを使用できます。

- [Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition](#) (314 ページ)
- [Fiery Productivity Package](#) (315 ページ)

FS400/400 Pro 以降のバージョンでは、次のパッケージを使用できます。

- [Fiery Graphic Arts Pro Package](#) (315 ページ)
- [Fiery Automation Package](#) (316 ページ)
- [Fiery ColorRight Package](#) (316 ページ)

Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition

Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition は Fiery server の機能パッケージです。このパッケージが Fiery server にインストールされていると、Command WorkStation で次の機能を使用できます。

- [2色印刷マッピング](#) (216 ページ)
- [コントロールバー](#) (317 ページ)
- [トラッピング](#) (321 ページ) (設定可能)
- [用紙シミュレーションの白色点編集](#) (324 ページ)
- [プリフライト](#) (326 ページ)
- [Fiery ImageViewer](#) (328 ページ)

メモ：プログレッシブオプションは、デバイスセンターまたはジョブのプロパティからは使用できなくなりました。ただし、Fiery ImageViewer からはプログレッシブ印刷の設定と印刷を行うことができます。[プログレッシブ](#) (323 ページ) を参照してください。

Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition の次の機能は、Command WorkStation の一部ではありません。

- Hot Folders フィルター
- Ugra/Fogra Media Wedge
- 統合された Altona Visual Test

Fiery Productivity Package

Fiery Productivity Package は、グラフィックアート機能を含む Fiery server の機能パッケージです。

Fiery Productivity Package が Fiery server にインストールされている場合、Command WorkStation で次の機能を使用できます。

- [スポットカラー](#) (205 ページ) (スポットカラー機能の一部)
- [コントロールバー](#) (317 ページ)
- [トラッピング](#) (321 ページ) (設定可能)
- [Fiery ImageViewer](#) (328 ページ)
- [Image Enhance Visual Editor](#) (198 ページ)
- 高度なジョブ管理 (プリンターで使用可能な場合)
 - 割り込み印刷
 - 「次に印刷」 および 「次に処理」
 - 印刷日時指定
- [仮想プリンター](#) (246 ページ)
- [Fiery JDF ジョブ](#) (104 ページ)

Fiery Productivity Package の次の機能は、Command WorkStation には含まれていません。

- Hot Folders
- Hot Folders フィルター
- Fiery JobFlow Base
- Fiery JobFlow

Fiery Graphic Arts Pro Package

Fiery Graphic Arts Pro Package には、特にグラフィックアートアプリケーションの要件に適合した機能が含まれています。このパッケージが Fiery server にインストールされていると、Command WorkStation で次の機能を使用できます。

- [コントロールバー](#) (317 ページ)
- [Fiery ImageViewer](#) (328 ページ)
- [プリフライト](#) (326 ページ) (FS400 Pro)
- [Preflight Pro](#) (328 ページ) (FS500 Pro 以降)
- [Spot Pro のスポットカラー](#) (217 ページ)

Fiery Graphic Arts Pro Package の次の機能は、Command WorkStation の一部ではありません。

- Ugra/Fogra Media Wedge
- 統合された Altona Visual Test

[2色印刷マッピング](#) (216 ページ) の機能は、以前は Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition でしか使用できませんでした。この機能は、Fiery Graphic Arts Pro Package をサポートするすべての Fiery server (FS400 Pro 以降) に含まれています。

Fiery Automation Package

Fiery Automation Package は以下の高度なジョブ管理機能を含みます。Fiery Automation Package が埋め込み Fiery server にインストールされ、アクティベートされている場合は、Command WorkStation の次の追加ジョブ管理機能を使用できます。

- 高度なジョブ管理機能 (プリンターで使用可能な場合)
 - 割り込み印刷
 - 「次に印刷」 および 「次に処理」
 - 印刷日時指定

詳細は、[キュー内のジョブを管理するコマンド](#) (18 ページ) を参照してください。

- [Fiery JDF と JMF について](#) (104 ページ)
- [プリフライト](#) (326 ページ)
- [仮想プリンター](#) (246 ページ)

Fiery Automation Package の次の機能は、Command WorkStation の一部ではありません。

- Hot Folders
- Hot Folders フィルター
- Fiery JobFlow Base
- Fiery JobFlow

Fiery ColorRight Package

Fiery ColorRight Package には、特にグラフィックアートアプリケーションの要件に適合した機能が含まれています。Fiery ColorRight Package が埋め込み Fiery server でインストールされ、アクティベートされている場合は、Command WorkStation の次の追加カラー機能を使用できます。

- [コントロールバー](#) (317 ページ)
- [Fiery ImageViewer](#) (328 ページ)
- [Image Enhance Visual Editor](#) (198 ページ)
- [Spot Pro のスポットカラー](#) (217 ページ)

[2色印刷マッピング](#) (216 ページ) の機能は、Fiery ColorRight Package をサポートするすべての Fiery server (FS400 以降) に含まれています。

コントロールバー

Fiery server でコントロールバー機能がサポートされている場合は、ユーザーが定義した場所で、静的なカラーバーや動的なジョブ情報を含むコントロールバーを各印刷済みページに追加できます。

この機能は、ジョブのカラー精度の校正やチェックに役立ちます。コントロールバーは、Fiery Color Profiler Suite などの分析ツールと併用して、カラー品質評価に使用できます。

コントロールバーはジョブごとに有効にでき、またサーバーのデフォルト設定としてすべてのジョブでコントロールバーを印刷する設定も可能です。

コントロールバーは編集することも、新規に作成することもできます。コントロールバーはジョブの一部ではないため、コントロールバー付きで印刷したジョブを、コントロールバーの定義を変更した後に印刷すると、異なる印刷結果を得ることができます。

コントロールバーは、PostScript ジョブと PDF ジョブでサポートされています。

使用できるコントロールバー機能は、Fiery server 上で動作するソフトウェアのバージョンによって異なります。

- Fiery システムソフトウェアが FS150/150 Pro の場合は、ページサイズごとにカスタムコントロールバーを作成できます。ジョブの機能は、コントロールバー印刷オプションで設定します。また、適用されるコントロールバーはジョブのページサイズによって決まります。ジョブのページサイズに対応するコントロールバーが存在しない場合は、工場出荷時に提供されたコントロールバー（デフォルトと呼ばれる）が使用されます。
- Fiery システムソフトウェアが FS200/200 Pro 以降の場合は標準のコントロールバー（Fiery と呼ばれる）と任意のカスタムコントロールバー（独自に作成したもの）を任意のページサイズに適用できます。コントロールバー印刷オプションを使用すると、ジョブに使用するコントロールバーを選択できます。また、コントロールバーの定義を編集する場合、指定のページサイズでコントロールバーがどう表示されるかプレビュー表示することができます。

ページサイズとコントロールバー（FS150/150 Pro）

Fiery システムソフトウェア FS150/150 Pro の場合、標準のコントロールバーは Fiery server のデフォルトの用紙サイズ、レター/A4 以上に対応しています。ほとんどのジョブは、標準のコントロールバーで対応できます。必要に応じて、他の用紙サイズ用のコントロールバーを作成することもできます。

メモ：Fiery システムソフトウェア FS200/200 Pro 以降では、コントロールバーをすべての用紙サイズで印刷できるため、コントロールバーにシステムページサイズを指定する必要はありません。システムページサイズは、FS150/150 Pro のバージョンにのみ適用されます。

Fiery server で生成されたすべてのページには、システムページサイズが指定されています。複数のコントロールバーで同じシステムページサイズの値を使用することはできません。既存のコントロールバーと同じシステムページサイズを持つカスタムコントロールバーを保存しようとする、警告メッセージが表示されます。

特定の用紙サイズのシステムページサイズを判断するには、その用紙サイズと印刷方向に標準のコントロールバーを使用してジョブを印刷してください。システムページサイズは、コントロールバー内に印刷されます。

デフォルトでコントロールバーを印刷する (FS200/200 Pro および FS150/150 Pro)

デフォルトでコントロールバーを印刷オプションは、Fiery server に送信されるすべてのページにコントロールバーを印刷するサーバー設定です。

- 1 デバイスセンターのカラー設定で、コントロールバーをクリックします。
- 2 デフォルトでコントロールバーを印刷の設定を選択します。
 - Fiery システムソフトウェア FS150/150 Pro では、このオプションを選択または選択解除します。ページサイズにコントロールバーが存在しない場合は、すべてのページはページサイズのコントロールバーまたは標準のコントロールバー付きで印刷されます。
 - コントロールバーを選択するか、オフを選択します。すべてのページが、選択されたコントロールバー付きで印刷されます。

デフォルトでコントロールバーを印刷

FS200/200 Pro 以降の Fiery システムソフトウェアですべてのジョブにコントロールバーを印刷するように、サーバーのデフォルトを設定できます。

- 1 詳細アイコン (3つのドット) をクリックし、デフォルト設定...を選択します。
- 2 デフォルト設定ウィンドウでジョブ情報を選択します。
- 3 レポートまでスクロールし、コントロールバーのメニューオプションを選択します。

Fiery server には、出荷時のデフォルトのコントロールバーが「Fiery」という名前で用意されています。カスタムコントロールバーを作成することができます。
- 4 以下から選択します。
 - オフ：コントロールバーは印刷されません。
 - Fiery：出荷時のデフォルトのコントロールバーが印刷されます。
 - カスタムコントロールバー：すべてのカスタムコントロールバーが一覧表示されます。選択した1つが印刷されます。

コントロールバーの設定をロックして、ユーザーによる変更を禁止することができます。

メモ： 出荷時のデフォルトはオフです。ジョブのプロパティを出荷時のデフォルトにリセットするには、デフォルト設定ウィンドウでリセットをクリックします。

コントロールバーを表示および編集する

コントロールバーの定義を表示したり、設定を編集することができます。

コントロールバーは、特定のジョブのプロパティには適用されない情報や設定を含めるように設定できます。ジョブに適用されない情報または設定がコントロールバーに含まれている場合、空白のフィールドや定義されていないフィールドがコントロールバーに含まれている可能性があります。これは、ユーザー独自のワークフローにカスタムコントロールバーを作成することで回避できます。

メモ: システムページサイズの設定は編集できません。この設定は Fiery システムソフトウェア FS150/150 Pro でのみ使用可能です。

- 1 デバイスセンターのカラー設定で、コントロールバーをクリックします。
- 2 リストからコントロールバーを選択すると、ウィンドウの右側に定義が表示されます。
- 3 設定を変更するには、**編集**をクリックし、各オプションの値を定義します。

Fiery システムソフトウェア FS150/150 Pro の場合：

- **説明** - 後から見て分かるように、コントロールバーの説明を 1 行で追加します。
- **カラーバー EPS ファイル** - EPS ファイルには、カラーバーやロゴなどのページに追加したい固定情報を含めることができます。デフォルトは標準です。カスタムを選択して、ユーザーが設計した EPS ファイルをコンピューターから選択するか、なしを選択し、EPS ファイルが不要であることを示します。
- **ジョブ情報** - 選択したジョブ設定がカラーバーとともに印刷されます。プリントオプションは Fiery server のモデルによって異なります。
- **テキスト位置** - この一覧で、ページに印刷するジョブ情報の位置を選択します。テキストは、指定した用紙の辺に沿って読み取れる方向に配置されます。
- **端からの間隔** - ジョブ情報の印刷開始位置をページの左下角からの距離で指定します。

Fiery システムソフトウェア FS200/200 Pro 以降の場合：

- **コントロールバーの名前** - コントロールバーの選択に使用する名前です。

メモ: プリンタードライバーでは、この名前は双方向通信が有効になっている場合にのみ表示されません。

- **カラーバー** - カラーバー表示のオン/オフ、標準画像からの選択、カスタム画像 (EPS や PDF 形式) のインポート、イメージの配置の指定などを実行できます。

メモ: PDF 形式のイメージの場合、最初のページのみが使用されます。

- **ジョブ情報** - ジョブ情報の表示のオン/オフ、表示するジョブ設定の選択、テキストの表示や配置の指定などを実行できます。

メモ: 使用できるジョブ設定は、Fiery server のモデルによって異なります。

- **ページ設定** - プレビューページサイズの選択、余白の指定 (カラーバーおよびジョブ情報は余白の内側に配置されます)、ミラーイメージ (透明な用紙) の選択などを実行できます。

- 4 OK をクリックして、編集した内容を保存します。

カスタムまたは複製のコントロールバーを作成する

コントロールバーを複製してそれぞれのニーズに合ったカスタムコントロールバーを作成できます。また、コントロールバーを新規に作成することもできます。たとえば、カラーバーのイメージとして別の EPS ファイルを使用したコントロールバーを作成できます。

- 1 デバイスセンターのカラー設定で、コントロールバーをクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- コントロールバーを複製するには、コントロールバーを選択して、複製をクリックします。
- カスタムコントロールバーを作成するには、新規作成をクリックします。

3 各オプションの値を指定します。

Fiery システムソフトウェア FS150/150 Pro の場合は、既存のコントロールバーで使用されていないシステムページサイズを指定する必要があります。特定の用紙サイズのシステムページサイズを判断するには、デフォルトのコントロールバーで印刷したジョブの対象用紙サイズと印刷方向を参照してください。システムページサイズは、コントロールバーとともに印刷されます。

詳細については、[コントロールバーを表示および編集する](#) (318 ページ) を参照してください。

4 OK をクリックして、コントロールバーを保存します。

カスタムコントロールバーをエクスポート、インポート、または削除する

Fiery server からコンピューターにカスタムコントロールバーをファイルとしてエクスポートし、ローカルコピーを共有したり、別の Fiery server にインポートしたりすることができます。インポートされたコントロールバーは、すぐに Fiery server で使用できるようになります。

メモ： カスタムコントロールバーは削除できますが、標準のコントロールバーは削除できません。

FS200/200 Pro ソフトウェアが動作する Fiery server で作成されたコントロールバーは、前のバージョンのソフトウェアが動作する Fiery server にインポートできません (あるいはその逆もインポートできません)。

エクスポートされたコントロールバーにインポート先の Fiery server でサポートされていない機能が含まれている場合 (たとえば、Fiery server 固有のジョブ設定など)、インポート先では非表示になります。

1 デバイスセンターのカラー設定で、コントロールバーをクリックします。

2 次のいずれかを行います。

- コントロールバーをエクスポートするには、コントロールバーを選択し、エクスポートをクリックし、ファイルの保存先を指定して、フォルダー選択をクリックします。
- コントロールバーをインポートするには、インポートをクリックし、対象のコントロールバーを検索して選択し、開くをクリックします。

3 カスタムコントロールバーを削除するには、対象のコントロールバーを選択し、削除をクリックして、確認画面ではいをクリックします。

出荷時のデフォルトのコントロールバーを復元する

標準のコントロールバーを初期状態 (出荷時のデフォルト) に復元できます。Fiery システムソフトウェア FS200/200 Pro の場合は、次の操作を行います。

1 デバイスセンターのカラー設定で、コントロールバーをクリックします。

2 コントロールバーを選択し、編集をクリックします。

3 出荷時デフォルト設定にリセット、リセットの順にクリックします。

トラッピング

トラッピングとは、多色刷りの印刷時に版の位置ずれによってオブジェクト周囲に白い縁、または「すき間」が発生するのを防ぐ手法です。トラッピング機能を使用して、オブジェクトを拡大または縮小して印刷し、オブジェクトの周囲にすき間が発生するのを防止します。

自動トラッピング印刷オプションを有効に設定すると、トラッピングがジョブに適用されます。

使用している Fiery server が設定可能なトラッピング機能をサポートしている場合は、自動トラッピング印刷オプションのトラッピング設定を完全にコントロールできます。Fiery server の出荷時デフォルト設定は、プリンターでの普通紙印刷用に最適化されています。ほとんどの場合、デフォルトのトラッピング設定でも十分な結果が得られますが、使用した用紙での印刷品質に納得できない場合は、条件に合うようトラッピングの値を設定してください。デバイスセンターのトラッピングペインで出荷時のデフォルトボタンをクリックすると、いつでもトラッピング設定を出荷時のデフォルトに復元できます。

メモ: トラッピング設定を操作するには、システム管理者としてログインする必要があります。オペレーターはトラッピング設定を表示できますが、変更することはできません。

トラッピングについての詳細は、取扱説明書の『カラー印刷』を参照してください。

すべてのジョブにデフォルトの自動トラッピングを設定する

デフォルト設定ウィンドウの自動トラッピングチェックボックスを選択すると、Fiery server に送信されるすべてのジョブにトラッピングが適用されます。

- 1 詳細アイコン (3つのドット) をクリックし、デフォルト設定...を選択します。
- 2 デフォルト設定ウィンドウで、カラーを選択します。
- 3 カラー設定が見えるまでスクロールし、自動トラッピングを選択します。
この設定をロックして、ユーザーがジョブのプロパティで変更できないようにすることができます。

トラッピング幅を指定する

トラッピング幅の値で、オブジェクト間のトラッピングエリアの幅が決定します。幅の値は、給紙方向を基準に指定します。横方向は給紙方向に対して垂直となり、縦方向は給紙方向に対して平行となります。

- 1 デバイスセンターのカラー設定でトラッピングをクリックします。
- 2 トラッピング幅で、水平方向および垂直方向のトラッピング幅を指定します。また、トラッピング幅を強制的に同じ値にする場合は、水平方向の値と垂直方向の値の間に表示されるリンクアイコンを選択します。リンクアイコンを選択する際、設定されている数値が異なる場合、そのうちの高い方の値が使用されます。
 - 横 - 水平方向のトラップ幅を指定します (0~10 ピクセル)。
 - 縦 - 垂直方向のトラップ幅を指定します (0~10 ピクセル)。

ビットマップ画像の表示で、選択した値の結果をすぐに確認することができます。

トラッピングカラーリダクションを指定する

トラッピングカラーリダクション値によって、トラッピングに適用される各カラーの濃度が決定されます。色の異なる2つのオブジェクト間にトラッピングを適用すると、2色のカラーを組み合わせた3つ目のカラーが生成されます。トラッピングカラーリダクション機能を使用すると、この3つ目のカラーによる線を見えにくくすることができます。

トナーの濃度リダクションの割合を指定します。100%を選択すると、トラッピングエリアにトナー濃度が適用されません。0%を選択すると、オブジェクトの縁と同じトナー濃度が適用されます。

- 1 デバイスセンターのカラー設定でトラッピングをクリックします。
- 2 トラッピングカラーリダクションで、以下のカラーチャンネルの値を指定します。
 - シアン - シアン用のトラッピングリダクション (0~100%) を指定します。
 - マゼンタ - マゼンタ用のトラッピングリダクション (0~100%) を指定します。
 - イエロー - イエロー用のトラッピングリダクション (0~100%) を指定します。
 - ブラック - ブラック用のトラッピングリダクション (0~100%) を指定します。
- 3 (オプション) トラッピング値を強制的に同じ値にする場合は、トラッピングリダクション値の間に表示されるリンクアイコンを選択します。リンクアイコンを選択する際、異なる数値が設定されている場合、そのうちの最も高い値が使用されます。

各カラーの左にあるアイコンで、選択した値の結果を視覚的に確認することができます。

トラッピングセル形状を指定する

トラッピングセル形状は、コントラストの強い背景に対してトラッピングを適用する際のピクセルの形を選択します。ピクセルより大きい要素の場合は、形状、または形状の一部がオブジェクトのコーナーから見えるようになります。

- 1 デバイスセンターのカラー設定でトラッピングをクリックします。
- 2 トラッピングセル形状で、楕円、ダイヤモンド、または長方形を選択します。

オブジェクトのトラッピング方法を指定する

オブジェクトのトラッピング方法でオプションが選択されていない場合は、オブジェクト (テキストとグラフィック) に対するトラッピングのみ適用されます。画像にトラッピングを適用するには、オブジェクトのトラッピング方法の設定を使用します。

- 1 デバイスセンターのカラー設定でトラッピングをクリックします。
- 2 オブジェクトのトラッピング方法で、以下のいずれかのトラッピング方法を選択します。
 - オブジェクトを画像にトラップ - 各オブジェクトおよび画像の境界線にトラッピングが適用されます。
 - 画像内でトラップ - 画像内の各ピクセルにトラッピングが適用されます。このオプションは、オブジェクトを画像にトラップが選択されている場合のみ選択することができます。

プログレッシブ

「プログレッシブ」とは、マルチカラー書類で CMYK 色分解の任意の組み合わせを印刷することを指します。分解の印刷またはプルーフは、ジョブの問題を診断するために使用できます。

デバイスセンターまたはジョブのプロパティでプログレッシブを設定または印刷することはできません。ただし、ImageViewer で分解を表示して印刷すると、同じような操作を実行できます。曲線を特定のインクで統合すると、それをプリセットとして保存できます。詳細については、[Fiery ImageViewer](#) (328 ページ) を参照してください。

プログレッシブの順序が、プリンターで実際に適用される順序を表す必要はありません。画像の構成分析には別の順序が便利な場合もあります。

プログレッシブ機能を使用すると、トラッピング効果の確認、2 種類のカラートナー間でのハーフトーン作用のチェック、2 つの版同士での登録の確認、カラー分解パラメーターの表示などができます (たとえば、ブラック版のみ、またはブラック版以外の全色印刷時にグレー置換 (GCR) レベルを確認するのに便利です)。

プログレッシブ機能は、プリンターで印刷する場合にジョブで使用される色分解を示します。この機能は、他のプリンターに対するプルーフに使用されることは想定していません。

校正用ハーフトーンシミュレーション

ユーザーがハーフトーンを定義、生成してより正確な校正を行うための機能として、ハーフトーンシミュレーション機能が提供されています。ハーフトーン解像度がプリンターの解像度より低い場合は、ハーフトーン校正でオフセット印刷のフィルムや版の最終的な網点イメージをシミュレートすることができます。

プリセット済みハーフトーンシミュレーションを選択してジョブを印刷し、好結果を得ることができます。使用している Fiery server がハーフトーンシミュレーションをサポートしている場合、特定の印刷ジョブに適用するカスタムスクリーン機能を定義することができます。Fiery server では、カラーチャンネルごとに異なる線数の設定をサポートしている場合もあります。

カラーの正確さがドットのシミュレーションよりも重要な場合は、実際のジョブ印刷に使用するハーフトーンスクリーンを使用して Fiery server でのキャリブレーションが行われていること、また、印刷に使用する出力プロファイルがそのハーフトーンスクリーンに適合していることを確認してください。ハーフトーンスクリーンを変更すると、通常はプリンターのカラー出力に影響します。

ドットのシミュレーションがカラーの正確さより重要な場合は、CMYK シミュレーションなし (CMYK ソースを変換を省略または ColorWise オフに設定) で印刷します。

カスタムハーフトーンスクリーンを表示または編集する

ハーフトーンスクリーンの値をカスタマイズする場合、カスタムハーフトーンスクリーンを設定し、ジョブの印刷時にハーフトーンシミュレーション印刷オプションでスクリーンを選択します。

ハーフトーンシミュレーション印刷オプションのユーザー定義スクリーン 1、ユーザー定義スクリーン 2、ユーザー定義スクリーン 3 の設定に対応するカスタムハーフトーンスクリーンを最大 3 つ定義できます。各スクリーンに対して、角度、線数、網点の形状を定義することができます。

カスタムハーフトーンスクリーンを指定する

ハーフトーンシミュレーションウィンドウでは、カスタムハーフトーンスクリーンを指定できます。

- 1 デバイスセンターのカラー設定でハーフトーンシミュレーションをクリックします。
- 2 各カラーチャンネル（シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック）の角度と線数、カスタムハーフトーンスクリーンの網点形状を指定します。
 - 角度 - 各カラーの角度（0～360°）
 - 線数 - 線数とは、ハーフトーンドットを構成するスポット行の数を指し、1 インチあたりの行数（LPI）を表します。
4つのカラーチャンネルの線数をすべて同じ値に制限するには、リンクアイコンを選択します。
Fiery server が各カラーチャンネルでの異なる線数の設定をサポートしていない場合、線数値はすべてのカラーチャンネルに適用されます。
 - 網点形状 - 一覧から形状を選択するか、カスタムを選択してカスタム形状を指定します。

網点のカスタム形状を指定する

標準の網点形状では十分ではない場合、網点形状をカスタマイズできます。

- 1 網点形状を編集ウィンドウのテンプレートリストから事前定義された形状を選択します。
テキストフィールドに網点の形状を示す PostScript ファンクションが表示されます。
- 2 PostScript 関数を編集して網点形状を変更したら、プレビューをクリックして表示します。
- 3 プレビューのサイズを変更するには、適用範囲スライダーを移動します。
- 4 カスタム形状を保存してウィンドウを閉じるには、OK をクリックします。

用紙シミュレーションの白色点編集

用紙シミュレーション機能では、ページの白の領域を印刷せずにおくのではなく、出力の印刷カラーとして白で用紙を塗ることができます。白色点編集を使用することによって、CMYK ソースプロファイルで白色点として定義されている、シミュレーションの用紙の白の色相、明るさ、および彩度を調整することができます。

お使いの Fiery server が白色点編集付きの用紙シミュレーションをサポートしている場合、必要であれば、納得の行く結果を得るために白色点をカスタマイズすることができます。

メモ：代替カラーを C=0、M=0、Y=0、K=0 に定義している場合、「代替カラー」で定義した値によって「用紙シミュレーション」の値が上書きされます。

用紙シミュレーションの白色点値を編集する

用紙シミュレーションの白色点編集機能では、既存の CMYK ソースプロファイルをカスタマイズして、白色点を調整することができます。調整したカスタムプロファイルは、特定の出力プロファイルにリンクさせる必

必要があります。用紙シミュレーションの白色点編集を反映させるには、ジョブを印刷する際、編集済みのカスタム CMYK ソースプロファイルとそれにリンクされている出力プロファイルを選択する必要があります。

既存の CMYK ソースプロファイルを保存するには、白色点を編集する前にプロファイルを複製しておいてください。プロファイルをエクスポートし、別の名前を付けてインポートすることにより、プロファイルを複製できます。

メモ：CMYK ソースプロファイルの白色点を編集することはできますが、出力プロファイルを編集することはできません。

ES-2000 などの分光測色計を使用できる場合は、カラーの測定値を直接インポートできます。この機能によって、用紙の実際のカラーに基づいたターゲットカラーを指定することができます。分光測色計を使用するには、白色点の編集を開始する前に、分光測色計のインストールと設定を実行してください。

メモ：X-Rite i1Pro 2 を使用する場合は、Fiery から購入したものを使用する必要があります。

- 1 デバイスセンターで、リソース > プロファイルをクリックします。
- 2 カスタマイズする CMYK ソースプロファイルを選択して、用紙シミュレーションをクリックします。
- 3 上記の CMYK ソースプロファイルにリンクする出力プロファイルを選択して、OK をクリックします。

メモ：カスタムプロファイルを使用してジョブを印刷する場合は、ここで選択した出力プロファイルを選択する必要があります。

- 4 モニタープロファイルで、使用しているモニターに適したモニタープロファイルが表示されていることを確認します。

モニター上でカラーを正確に表示するには、製造元推奨のモニター設定を行い、適切なモニタープロファイルを指定する必要があります。

- 5 分光測色計を使用して白色点を測定するには、その分光測色計アイコンをクリックします。
- 6 分光測色計をキャリブレーションドックに置いて、キャリブレーションをクリックします。キャリブレーションにより、測定の精度が向上します。
- 7 分光測色計の計測部が測定するカラーの中央にくるように、分光測色計をカラーの上に置きます。
- 8 分光測色計のボタンを押して測定します。測定した CMYK 値が CMYK フィールドにインポートされ、対応する Lab 値が表示されます。
- 9 必要に応じて、色相、明るさ、彩度の値を手動で編集します。

- 色相 - 0.0 から 359.9 まで
- 明るさ - 0.0 から 100.0 まで (100.0 を含む)
- 彩度 - 0.0 から 100.0 まで (100.0 を含む)

スライダーをドラッグするか、テキストフィールドに数値を入力して値を編集します。スライダーは絶対的な値を示すものではありません。ダイアログボックスを開いたときのスライダーの位置と値は、用紙の白色部分の定義に対する相対的なものです。ダイアログボックスの左上にあるプレビューパッチ、または右側に表示される Lab 値で変更を確認してください。

- 10 テストページを印刷するには、印刷をクリックします。
- 11 テストページで編集結果が適切に印刷されている場合は、保存をクリックし、用紙シミュレーション白色点ダイアログボックスを閉じます。

プリフライト

印刷前にプリフライト機能を使用してジョブを確認し、印刷エラーを低減して無駄なコストを削減することができます。プリフライト機能を使用すると、印刷時にエラーが発生しがちな項目を確認し、選択したプリンターで予想通りの印刷結果が得られるようになります。

プリフライトチェックを実行するには、次のいずれかが必要です。

表 1: 外部 Fiery サーバー

Fiery システムソフトウェア	パッケージ
FS350 Pro 以前	Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition
FS400 Pro	Fiery Graphic Arts Pro Package
FS500 Pro 以降	標準 - オプションパッケージは不要

表 2: 埋め込み Fiery サーバー

Fiery システムソフトウェア	パッケージ
FS350 以前	サポートされていません
FS400	Fiery Automation Package
FS500	Fiery Automation Package

メモ: Preflight には、カラーまたは白黒のサーバー向け Windows を搭載した Fiery システムソフトウェア FS500 Pro 以降のオプションパッケージは必要ありません。

プリフライトでは、エラーだけではなく、セキュリティ設定、ページサイズ、色空間などジョブに関する情報のレポートも生成されます。

プリフライトのチェックは、Hot Folders、仮想プリンター、Command WorkStation で有効化できます。

メモ: 処理済みのジョブをプリフライト機能でチェックすることはできません。

プリフライトでは次のファイル形式がサポートされています。

Fiery サーバー	サポートされているファイル形式
Windows ベース	PostScript、PDF、EPS、PPML、Creo VPS および PDF/VT
埋め込み	PostScript、PDF、EPS、Creo VPS

TIFF および PCL ファイル形式はプリフライト機能でサポートされていません。

プリフライト機能では、次のカテゴリーのエラーをチェックできます。

- フォント - 不明のフォントおよび Courier フォントの置換をチェックします。
- スポットカラー - 不明のスポットカラーをチェックします不足しているスポットカラーは、Command WorkStation のスポットカラーで追加できます。
- イメージ解像度 - 指定値未満のイメージの解像度をチェックします。
- バリアブルデータ印刷リソース - 不明のバリアブルデータ印刷リソースをチェックします。チェックするレコード数を指定して、処理時間が長くなるのを防ぐことができます。
- ヘアライン - 指定値未満のヘアライン幅をチェックします。
- オーバープリント - オーバープリントをチェックします。
- PostScript - PostScript エラーをチェックします。

プリフライトの設定で、チェックするエラーのカテゴリとエラーのレポート方法を指定することができます。プリフライトの設定は、プリセットとして保存できます。これにより、特定のジョブのプリフライト設定をすばやく選択できます。

メモ： Fiery Preflight Pro が利用可能な場合は、スプール済みまたは処理済みの PDF または PDF/VT ジョブを Command WorkStation で確認できます。その他のファイルの種類については、プリフライトを使用します。

プリフライトチェックの設定と実行

プリフライトの設定で、チェックするエラーのカテゴリとエラーのレポート方法を指定することができます。プリフライトの設定は、プリセットとして保存できます。これにより、特定のジョブのプリフライト設定をすばやく選択できます。

- 1 ジョブセンターで、待機ジョブを選択し、アクション > Preflight を選択します。
- 2 必要に応じて、プリセットリストからプリセット（設定のコレクション）を選択します。
- 3 チェックするエラーの各カテゴリを選択し、任意の設定を指定します。特定のカテゴリをスキップするには、該当するチェックボックスの選択を解除します。
スキップされたカテゴリは、**未確認**と表示されます。
- 4 エラーのカテゴリごとに通知レベル（**重大**または**警告**）を選択します。
- 5 重大エラーが検出され次第、プリフライトの実行を停止する場合は、1つ目の重大エラーでプリフライトを中止を選択します。
- 6 設定を新規プリフライトとして保存するには、プリセットリストから**別名保存**を選択します。
- 7 この設定でプリフライトチェックを実行するには、**Preflight** をクリックします。
プリフライトが実行され、結果がレポートに表示されます。このレポートを印刷して保存できます。レポートを再表示するには、ジョブセンターでジョブを選択し、**プリフライトレポート表示**を選択します。

Fiery Preflight Pro

Fiery Preflight Pro 機能を使用して、ジョブが選択したプリセットで定義される一連の基準に準拠しているかどうかを確認します。

Preflight Pro は、Fiery システムソフトウェア FS500 Pro 以降が搭載された Windows ベースの Fiery サーバーのみで使用できます。Preflight Pro は Fiery server で Fiery Graphic Arts Pro Package がアクティベートされている場合のみ有効になります。

Fiery Preflight Pro で次の種類のジョブを確認できます。

- PDF
- PDF/VT
- FreeForm Plus (FS600 以降)

Preflight Pro が行う確認は、選択したプリセットで定義される設定に基づいています。プリセットはスプール済みジョブと処理済みジョブに適用できます。ジョブがプリセットで定義されている基準から逸脱した場合、Preflight Pro はジョブのエラーと警告をキャプチャするレポートを生成します。

メモ： Preflight Pro は PDF、PDF/VT および FreeForm Plus のジョブのみに適用されます。PDF 以外のすべてのファイルタイプのプリフライトは、[Preflight](#) (326 ページ) を使用して実行されます。

Preflight Pro にアクセスするには、Command WorkStation にシステム管理者またはオペレーターとしてログインする必要があります。Command WorkStation ジョブセンターでスプール済みまたは処理済みのジョブを右クリックし、Preflight Pro を選択します。また、Fiery Hot Folders または仮想プリンターから送信されたジョブをプリフライトできます。

Fiery ImageViewer

Fiery ImageViewer では、ジョブを印刷する前に、ジョブのカラーまたはグレーレベル（サポートされている場合）をソフト校正および編集できます。処理済みジョブ（ラスター画像）の方向、コンテンツ、一般カラーまたはグレースケールの精度をプレビューできます。

カラー出力

プレビューアプリケーションとは異なり、Fiery ImageViewer は、プリンターに送信される実際の CMYK 値を使用してジョブを表示するため、正確なソフト校正が得られます。キャリブレーションの効果はソフト校正には表示されませんが、色はキャリブレーションの影響を受ける可能性があります。

C、M、Y、K の応答曲線を個別に編集できます。編集結果を保存して他のカラージョブに適用できます。また、CHROMiX Curve2 または Curve3 を使用して作成された G7 キャリブレーション曲線を適用することもできます。

各プロセスカラーの色分解データを個別に表示することも、他のプロセスカラーと組み合わせて表示することもできます。ジョブにハーフトーンシミュレーションが設定されている場合は、すべての色分解のコンポジット画像がドットレベルでプレビューされます。Fiery ImageViewer からページを印刷すると、Fiery ImageViewer で選択された色分解のコンポジットカラー情報が出力に含まれます。

モノクロ出力

Fiery ImageViewer では、印刷する前にジョブのグレーレベルを調整できます。応答曲線（入力濃度と出力濃度のグラフィック表示）を変更したり、ジョブのプレビューで効果を表示したりすることにより、これらの補正を視覚的に行えます。

また、Fiery ImageViewer では、Fiery server に現在のジョブの応答曲線補正をインストールすることもできます。これ以降、処理されるすべてのジョブに、同じグレーレベルの調整が適用されます。

ImageViewer の必要条件

Command WorkStation には Fiery ImageViewer バージョン 4.0 が含まれています。コンピューターは、以下の要件および接続タイプを満たす必要があります。

- OpenGL バージョン 3.2 以降に対応する GPU
- グラフィックカードに最低 750 MB のメモリが使用可能
- リモートデスクトップ接続を使用して接続しているクライアントコンピューター

Fiery ImageViewer 3.0 は、コンピューターが次の要件を満たしていない場合に使用されます。

- 白黒 Fiery server に接続された Command WorkStation

OpenGL のバージョンは、OpenGL Extensions Viewer などのサードパーティ製ソフトウェアで確認できます。

ImageViewer を起動する

Command WorkStation のジョブから ImageViewer を起動することができます。

メモ：Command WorkStation プレビューから ImageViewer を起動することもできます。

- 1 Command WorkStation ジョブセンターで処理済み/待機中ジョブを選択します。
必要に応じて、アクション > 処理後待機を選択して、ジョブの状況を処理済み/待機に変更します。
- 2 次のいずれかを行います。
 - アクション > ImageViewer を選択します。
 - 選択したジョブを右クリック（Windows の場合）または Ctrl キーを押しながらクリック（macOS の場合）し、表示されるメニューから ImageViewer を選択します。

Fiery ImageViewer ツールバーを使用して共通アクションにすばやくアクセスする

Fiery ImageViewer ツールバーを使用すると、ジョブに適用できる共通アクションにすばやくアクセスできます。ツールバーの表示/非表示を切り替えるには、「t」キーをクリックします。


一部のツールバーアイコンは、Fiery server でサポートされている場合のみ使用できます。

ボタン	説明
保存 	保存ボタンをクリックすると、ジョブの現在の設定が保存されます。
重複 	複製ボタンをクリックすると、サムネイルウィンドウで選択したページが複製されます。
削除 	削除キーを使用すると、サムネイルウィンドウで選択したページが削除されます。
復帰 	復帰ボタンをクリックすると、ジョブの前の設定が復元されます。
校正印刷 	校正印刷ボタンをクリックすると、Fiery ImageViewer からジョブを 1 部またはジョブの反復校正を直接印刷して、出力を確認できます。校正印刷では、変更が加えられてもその変更は保存されません。また元のジョブは変更されません。
拡大鏡 	(Fiery ImageViewer v3) カーソルを移動させた場所にイメージの拡大エリアが表示されます。 (Fiery ImageViewer v4) 画像を少しずつ拡大します。
ワイパー 	(Fiery ImageViewer v4) ワイパーボタンをクリックすると、対角線上に画面が分割されるため、ユーザーは調整が行われる前と後のイメージを確認できます。イメージをパンして、分割を修正前または修正後に移動することができます。 イメージ上の対角線を移動またはスワイプするには、Windows の場合は ctrl+alt 、macOS の場合は cmd+opt をクリックしてから、マウスのホイールを使用して対角線を回転させます。
ルーラー 	ルーラーボタンをクリックすると、キャンバスの側面に X 軸と Y 軸に沿って測定ルーラーが表示されます。

ボタン	説明
測定 	測定ボタンをクリックすると、書類内の2つの場所をクリックできる測定ツールがアクティブになります。このツールは、2点間の距離と角度、X軸とY軸の高さと幅を測定します。
スポットカラーを保持 	スポットカラーを保持を有効にすると、カラーチャンネル曲線の調整による影響を受けません。スポットカラーを保持を無効にすると、カラーチャンネル曲線の調整による影響を受けます。
回転 	回転ボタンを使用すると、イメージプレビュー表示を90度単位で回転させることができます。 メモ： このアクションによって、最終的な印刷出力の方向が変更されることはありません。回転はジョブ内のすべてのページに影響を与えるグローバル設定です。
ミラー 	ミラーボタンでは、イメージプレビューを水平方向にミラーリングしたり、イメージプレビューのミラー効果を逆にしたりすることができます。 メモ： このアクションによって、最終的な印刷出力が変更されることはありません。ミラーは、ジョブ内のすべてのページに影響を与えるグローバル設定です。
部分修正 	部分修正ツールを使用すると、イメージの任意の場所にある選択ボックスを描画して、ローカルでカラーを編集することができます。 このボタンは、部分修正機能をサポートしている Fiery server でのみ使用できます。

イメージプレビューウィンドウでルーラーを表示する


Fiery ImageViewer のイメージプレビューウィンドウの上端と左端に沿ってルーラーを表示することができます。

- イメージプレビューウィンドウにルーラーを表示するには、次のいずれかの操作を行います。
 - ツールバーのルーラーアイコン () をクリックします。
 - Ctrl キー、Shift キー、R キーを同時に押します。
 - 表示 > ルーラーをクリックします。
- ルーラーに沿ってカーソルを置いて、書類キャンバス全体に水平または垂直のガイドラインを表示し、ページの内容の配置場所を識別できるようにします。

- 3 水平ルーラーと垂直ルーラーの両方を表示するには、ルーラーの左上隅をクリックアンドドラッグします。これは、画像上の任意のポイントまでの垂直および水平方向の距離を測定するのに便利です。

イメージプレビューウィンドウで距離を測定する


Fiery ImageViewer のイメージプレビューウィンドウで距離を測定できます。このツールは、2 点間の距離と角度、および X 軸と Y 軸の高さと幅を測定します。

- 1 測定ツールを使用するには、次のいずれかの操作を行います。
 - ツールバーの測定アイコン () をクリックします。
 - Ctrl キーを押しながら M キーを押します。
 - 表示 > 測定値をクリックします。
- 2 イメージプレビューウィンドウで、書類の計測開始ポイントをクリックします。
- 3 イメージプレビューウィンドウで、書類の計測終了ポイントをクリックします。

イメージプレビューを調整する

ナビゲーターウィンドウでイメージプレビューの表示を管理できます。イメージプレビューは、画面サイズに合うように拡大することができます。

ナビゲーターウィンドウの境界ボックスにはイメージプレビューで表示できる画像の一部が含まれています。境界ボックスが見づらい場合は、編集 > 環境設定でカラーを変更します。

- 1 イメージプレビューに表示される画像の一部の位置を変更するには、以下のいずれかを行います。
 - ナビゲーターウィンドウで境界ボックスをドラッグする。
 - イメージをドラッグする。
 - 画像内の特定の位置のプレビューを中央に配置するには、Shift キーを押しながらその位置をクリックする。
- 2 画像を右に回転させるには、次のいずれかを行います。
 - リストから 90°、180°または 270°を選択するか、回転 () アイコンをクリックします。
 - 表示 > 回転をクリックし、適切な選択をクリックします。

回転はプレビュー上でのみ使用でき、印刷ジョブには適用できません。

プレビューを元の方向にリセットするには、表示 > 回転 > リセットをクリックします。

- 3 イメージプレビューを水平にミラーするには、ミラー <insert icon> アイコンをクリックします。ミラーはプレビュー上でのみ使用でき、印刷ジョブには適用できません。イメージプレビューのミラー効果を反転させるには、もう一度ミラーアイコンをクリックします。

- 4 (Fiery ImageViewer 4.0 の場合) 画面を対角線上に分割して、調整を行う前後の画像を確認するには、ワイパーアイコンをクリックします。

対角線より上のラスターエリアには編集後のイメージが表示され、対角線より下のラスターエリアには編集前のイメージが表示されます。画像をパンして、分割を修正前または修正後に移動することができます。画像がドラッグされる方向に移動します。

ctrl+alt (Windows の場合) か cmd+option (macOS の場合) とマウスのスクロールホイールを使用して、ワイパーを画面内で移動できます。

- 5 イメージプレビューを拡大するには、表示 > フルスクリーンをクリックします。
通常の表示に戻すには、F キーを押します。
- 6 非印画領域を表示するには、非印画領域 > 表示をクリックします。非印画領域の色は、環境設定で変更できます。

画像位置の調整

画像位置ウィンドウでは、印刷資料の両面の垂直および水平方向の位置を正確に制御できます。また、イメージプレビューウィンドウで最終的な印刷結果を視覚的にプレビューすることもできます。

プリンターが 100%登録されていない場合、画像位置を調整すれば、両面印刷したときのおもてと裏の位置ずれを修正したり、パンチ穴や綴じなどのフィニッシャー動作に適応したり、基本的なオフセットの問題が発生するジョブを修正したりすることができます。トレイ調整ではすべての印刷ジョブに対して調整しますが、画像位置では各ジョブに個別の変更を行うことができます。

- 1 Fiery ImageViewer で画像位置を有効にするには、Viewer コントロールウィンドウの画像位置タブからオフセットチェックボックスを選択します。
- 2 オフセットの単位メニューから、オフセットに使用する単位を選択します。
- 3 X と Y に正または負の値を入力して、シートのおもて面と裏面の位置を調整します。おもて面と裏面を一緒にシフトするには、おもてと裏の画像位置を合わせるチェックボックスを選択します。
- 4 両面の調整に関する視覚的なプレビューを表示するには、おもて面および裏面オーバーレイウィンドウのオーバーレイメニューからオンを選択します。これにより、おもてと裏の不透明度が減少し、ページのおもてと裏の調整の効果を確認できます。不透明度 (おもて) および不透明度 (裏) スライダーで、おもてと裏の不透明度を個別に調整できます。
- 5 おもてと裏の内容を見やすくするには、表示モードで次のいずれかのオプションを選択します。
 - 連続階調：印刷されたカラーでおもてと裏を表示します。
 - カスタム：おもてと裏をカスタムソリッドカラーで表示します。おもてカラーまたは裏カラーのカラーボックスをクリックして、おもてと裏の内容の表示に使用するカラーを変更します。

画像のサイズを変更する

画面下部のズームコントロールの他にも、画像のサイズを変更する方法がいくつか用意されています。

- 1 画像を拡大して、画像内の各データピクセルを単一のピクセルとして画面に表示するには、**表示 > ピクセル等倍**を選択します。

ピクセルの実際の表示サイズは、モニター解像度の設定によって決まります。

メモ： (Fiery ImageViewer 3.0 の場合) ジョブにハーフトーンシミュレーション設定が適用され、ズームが100%以上に設定されている場合は、ハーフトーンのドットパターンと形状が表示されます。ドットパターンの頻度によって、ドットは複数のピクセルで構成されます。

- 2 ページ全体がイメージプレビューに合わせて表示されるように縮小するには、ズームコントロールの横にあるウィンドウサイズに合わせるアイコンをクリックするか、**表示 > ウィンドウサイズに合わせる**を選択します。
- 3 (ImageViewer 3.0 の場合) カーソルがある位置の周辺領域を拡大表示して、カーソルの動きに合わせて拡大表示を移動するには、**拡大鏡**アイコンをクリックするか、**表示 > 拡大鏡**を選択します。

画像内のカラー値を表示する

カラー印刷のジョブでは、ImageViewer は、プリンターに送信される実際のカラー値を使用してジョブを表示します。画像内の任意のポイントのカラー値を調べることができます。

- 画像内のピクセルにマウスポインターを置きます。

各インクの値が分解ペインに表示されます。

適用範囲合計には、サンプルされたラスターピクセルの色分解値 (%) の合計が表示されます。

オブジェクトインスペクターを使用して、ラスターのピクセルの表示に使用されたオブジェクトタイプも表示できます。詳細は、[オブジェクトインスペクター](#) (334 ページ) を参照してください。

オブジェクトインスペクター

オブジェクトインスペクターは、ラスター画像のピクセルが描画されたときのオブジェクトタイプを示します。

サンプルされるピクセルの分解カラー値 (%) も表示されます。オブジェクトタイプには、画像、グラフィック、テキスト、エッジのピクセル (エッジ強調のためにタグ付けされたピクセル) などがあります。サンプル

されるピクセルが複数ページオブジェクトの混合から描画された場合、オブジェクトタイプは不明のタイプとして表示されます。

- オブジェクトインスペクターを使用するには、イメージプレビューペインでピクセルの上にカーソルを置きます。




カラー置換



カラー置換を使用すると、出力するラスター画像のカラーを置き換えることができます。これは、ソリッドカラーと均一な色合いに最適です。

メモ：カラー置換機能は、Fiery システムソフトウェア FS350/350 Pro 以降を搭載した Fiery servers に接続されている場合に、Fiery ImageViewer 4.0 以降でのみ使用できます。

置換するカラーティント値を入力するか、置換する元のカラーをスポイトで選択することができます。次に、カラー置換のティント値、サンプルの置換カラーをスポイトで入力できます。または、既存の Fiery Spot カラーで置換することもできます。カラー置換の順序を変更してもよく、個々の置換を目型のアイコンで表示または非表示にすることができます。

画像上の領域をピクセル単位にまで拡大して、カラー置換をすることができます。

カラー置換機能を使用するには、イメージプレビューペインで、イメージの元のカラーのピクセルの上にスポイト（カラーピッカーアイコン ）を移動した後、置換カラーのピクセルの上にスポイト（置換ピッカーアイコン ）を移動します。大きい四角は、現在表示されている領域を定義しますが、小さな正方形はピクセルです。必要に応じて、スポットカラー置換アイコンをクリック（）で Fiery server 上のスポットカラーライブラリを開き、スポットカラーを選択して置換カラーに使用できます。適用をクリックして、変更を保存します。

ページ（）およびローカル（）アイコンには、カラー補正の種類が表示されます。ページおよびローカル編集は、実線または破線で区別されます。エントリが変更された場合、そのエントリは現在のページでのみ有効であるため、適用されている場合は、このチェックボックスは削除されます。全ページチェックボックスを選択すると、ローカルカラー置換およびページカラー置換をすべてのページに適用することができます。

ページカラー曲線またはページカラー置換をプリセットとして保存するか、ページカラー曲線とページカラー置換の両方をプリセットとして保存した後、Command WorkStation、Fiery Hot Folders または Fiery Driver をジョブプロパティを使用して、カラー置換を適用することができます。

最大 32 カラーの置換を適用できます。カラー置換の順序を変更してもよく、個々の置換を非表示または削除することができます。代わりに使用されるカラーは、編集ペイン内のカラー置換を選択することにより、後で変更できます。

Fiery ImageViewer 4.2 以降では、任意のカラー置換編集を適用すると、編集ウィンドウの全ページチェックボックスを明示的に選択しない限り、現在のページにのみ適用されます。変更はジョブの印刷中に適用されません。

以下の点に留意してください。

- カラー置換編集に対し、いずれかのページで全ページチェックボックスの選択を解除すると、現在のページを除くすべてのページで特定の編集が削除されます。
- 最大 32 色のカラーをページごとに置換できます。
- 最良の結果を得るには、カラー置換を適用するときに、Fiery ImageViewer でラスターを 100% で表示してください。ラスターを 100% 未満で表示する場合、ラスタープレビューのアンチエイリアスが原因で、カラー置換後の画像の端でノイズが発生することがあります。これは印刷には影響しません。






- カラー置換は、コンポジットオーバープリントオプションを選択して処理したジョブにのみ使用できます。
- カラー置換エントリがいずれかのページから削除されると、書類内のすべてのページから削除されます。ただし、これはカラー置換編集（全ページチェックボックス）が選択されている場合に限りです。カラー置換編集（全ページチェックボックス）を消去すると、編集の削除は現在のページでのみ適用できます。

ローカルカラー置換



ローカルカラー置換を使用すると、ページの選択した領域に対してローカルでカラー補正を行うことができます。

メモ：ローカルカラー置換機能は、Fiery ImageViewer 4.2 以降でのみ使用できます。

ローカルカラー置換を使用するには、次の手順を実行します。

- ローカル補正ボタン () をクリックし、マーカーを使用して画像内の領域を選択して、ローカルカラー補正を適用します。選択した領域にのみカラー置換が適用されるように、選択領域は破線で表示されます。
- 大きい正方形を使用して、画像上の領域を縮小してカラー置換のピクセル (小さな正方形) に合わせします。
- オリジナルのカラーのピッカーアイコン () をクリックします。置換カラーピッカーアイコン () をクリックし、画像に移動してカラーを選択するか、CMYK、CMYK+、グレースケールおよび特殊 CMYK+ のカラーモードの値を置換列で変更して、カラーを変更または置換できます。カラー強調に使われる大きい四角は、現在表示されている領域を定義しますが、小さな正方形は選択したカラーのピクセルを定義します。
- 必要に応じて、カラーを Fiery server のスポットカラーライブラリの既存のスポットカラーで置換します。スポットカラー置換アイコン () をクリックし、名前または「345」などの数字のあいまい検索で特定のスポットカラーを検索するか、リストをスクロールしてスポットカラーを選択してから、OK をクリックします。
- 必要に応じて、カラー調整ペインで個々のカラー曲線を調整して、カラー調整を行います。マーカー選択と曲線調整を行った後、適用およびキャンセルボタンは、ローカル修正ボタン () の隣のツールバーに表示されます。変更が完了したら、適用をクリックして、ローカルのカラー編集を保存します。

カラー置換が行われた後、適用をクリックして、変更をカラー置換ペインに保存します。カラー置換は、編集ペインに表示される行として表示されます。

編集ペインには、編集がカラー置換またはカラー曲線のカラー調整で行われた場合の、ローカルレベルまたはページレベルで行われたカラー編集がすべて表示されます。編集ペインに一覧表示されている行の目のアイコンをクリックして、ローカルカラー置換と元のカラーを切り替えます。編集列のペイントブラシアイコン () は、カラー編集が、カラー置換ペインで行われた変更に基づいたカラー置換を使用して行われたことを示します。波線ボックスアイコン () は、カラー編集が、全体的なカラー曲線の変更を表示するカラー調整ペインを使用して行われたことを示します。

書類のすべてのページでローカルカラー置換を適用する場合は、その特定のカラー置換に対しすべてのページチェックボックスをクリックします。書類内のすべてのページで指定された領域には、同じカラー置換が表示されます。

編集ペインに一覧表示されているいずれかの行で置換カラーをクリックし、ローカルカラー置換領域を調整することができます。その後特定領域のマーカーを調整することができます。

色分解の表示と印刷

分解ペインでは、イメージプレビューに表示する色分解や、ImageViewer からジョブを印刷する際に出力に含める色分解を管理できます。ページごとに異なる色分解を設定することもできます。

- 色分解を表示するには、次のいずれかを行います。
 - どの分解を表示および印刷するかを指定するには、分解ウィンドウの分解名の横にあるチェックボックスを選択または解除します。

メモ：Fiery ImageViewer 4.0 以降では、分解ウィンドウで選択されているかどうかに関わらず、すべての色分解を印刷します。
 - 現在選択されている分解を反転するには、表示 > 分解 > 選択範囲を反転を選択します。

選択範囲を反転させると、選択されていない色分解が新たに選択されます。たとえば、CMYK 分解が使用可能でシアンとマゼンタが選択されている場合、その選択範囲を反転させるとイエローとブラックが表示されます。
 - すべての色分解をすばやく表示するには、表示 > 分解 > すべて選択を選択します。
 - Fiery server からインク/トナー順序が読み込まれます。色分解ウィンドウには、プロセスカラーと特殊カラーが表示されます。特殊カラーは、プリンターにインストールされている順序で表示されます。

プロセスカラーで印刷する特殊カラーが色分解リストの下部に表示され、プロセスカラーの上に印刷されるカラーがリストの一番上に表示されます。

メモ：特殊カラーをサポートする Fiery server に特殊カラーが表示されます。

ImageViewer の編集

ImageViewer の編集プリントオプションを使用すると、サーバー上にプリセットとして保存されているカラー曲線の編集データを ImageViewer から適用できます。

Command WorkStation の ImageViewer は、Fiery server 上にある処理済みのジョブの CMYK 曲線を編集するために使用できます。これらの曲線編集は、ImageViewer のカラー調整ウィンドウのプリセットエリアでプリセットとして保存できます。これらのプリセットは、ジョブのプロパティウィンドウのカラータブで、ImageViewer 編集印刷オプションを使用してスプール済みジョブに適用できます。

ジョブのプリセットを選択するには、ImageViewer の編集オプションを使用します。

出荷時の曲線の編集データは、次の一般的なカラー修正に適用されます。

- 補正なし
- 低ハイライト
- ミッドトーン強調
- シャドウ詳細
- C キャスト（シアン）低減
- M キャスト（マゼンタ）低減
- Y キャスト（イエロー）低減

プリセットリストには、出荷時のカーブ編集とカスタムカーブの編集が表示されます。

ジョブが処理された後、編集データはジョブに取り込まれ、ImageViewer でそのジョブを表示しても編集データとしては表示されなくなります。

曲線を使用して応答を編集する

カラー印刷のジョブにはカラー調整ペイン、モノクロ印刷のジョブには曲線編集ペインで応答曲線を編集して、ジョブに適切な編集を加えることができます。この機能では、カラー印刷ジョブの各色分解用またはモノクロ印刷のジョブのグレー用に、すべてのカラー曲線の応答曲線をカスタマイズできます。

モノクロ印刷のジョブの場合、グレー応答曲線への編集はジョブの全ページに適用されます。

メモ：カラー印刷のジョブ用に曲線編集を作成した後は、ジョブを保存してから色相環タブに切り替えてください。先に保存しなかった場合は、すべての曲線編集が失われます。

曲線をグラフィック表示で編集する

- 1 カラージョブの場合、カラー調整ペインで曲線タブをクリックします。
- 2 必要に応じて、カラー曲線の表示方法を調整します。
 - 特定のカラー曲線を選択するには、チャンネルメニューからカラーを選択します。
 - すべてのカラー曲線を同時に選択するには、チャンネルメニューからすべてのチャンネルを選択します。

メモ：すべてのチャンネルを選択している場合、Page Up と Page Down キーを使用して表示曲線を切り替えます。

- 3 カラージョブまたは白黒ジョブの場合は、次のいずれかを実行します。
 - 曲線上のいずれかの場所をクリックして、曲線にポイントを加える。
 - 曲線上のポイントを目安の値までドラッグして、曲線を編集する。

メモ：Windows では、ポイントを選択し、矢印キーを使用してポイントをいずれかの方向に 1%移動させるか、Shift キーを押しながら矢印キーを押して大幅に移動させることができます。

- 曲線上のポイントを削除するには、ポイント選択し、削除を押す。
ポイントを選択して、削除したいポイント上にドラッグする。
- Windows では、曲線上の一点を選択し、Shift キーを押しながら Page Up または Page Down キーを使用してポイント上を移動する。

カラー曲線データを編集する

- 1 カラージョブの場合、カラー調整ペインで曲線タブをクリックし、次に曲線編集をクリックします。
- 2 表示されるテーブルで、数値を編集します。
テーブルの各行は、グラフ内の編集ポイントに対応しています。

3 次のいずれかを実行します。

- 事前に定義されている行セットを表示するには、コントロールポイントリストからセットを選択します。
- 行を追加するには、空の行で入力します。
- 行を削除するには、行のどこかでクリックして、**行の削除**をクリックします。

色相環を使用して色を編集する

カラー印刷のジョブでは、カラー調整ペインの色相環を使用して色を編集できます。

メモ：色相環を使用して行う編集は、**曲線**タブに切り替えた後も保持されます。一方、曲線を使用して行う編集は、**色相環**タブに切り替える前にジョブを保存しないと、編集内容が失われます。

1 カラー調整ペインの色相環タブをクリックします。

2 色の範囲（ハイライト、すべて、またはシャドウ）をクリックして、編集する色の範囲を設定します。

メモ：色の範囲の選択は、明るさには適用されません。明るさは、常に色の範囲全体に適用されます。

3 色相と彩度を編集するには、色相環内の新しい場所をクリックします。

イメージプレビューに編集結果が反映されます。

4 色相、彩度、ブラック、または明るさのスライダーをドラッグして編集結果を微調整するか、スライダーの右側に新しい数値を入力します。

画像からグレー応答曲線を編集する

モノクロの Fiery server では、**曲線編集**ペインのグレー応答曲線を使用して、ジョブのグレー応答を正確に編集できます。

グレー応答曲線に対する編集は、ジョブの全ページに適用されます。

メモ：曲線編集の下にある応答曲線は、Fiery server の応答曲線ではありません。処理済みのジョブでは、グレーレベルが Fiery server によってすでに変換されています。

1 画像内にあるカーソルを調整対象のグレーエリアに移動します。

小さいエリアでも画像に多様なグレーレベルが含まれていることがあります。調整したいグレーを正確に指定できるよう、画像を十分拡大してください。

2 カーソル位置で Ctrl キーを押しながらクリックします。

クリックした位置のグレーレベルに対応するポイントが応答曲線上でハイライト表示されます。

3 矢印キーを使用して、そのポイントを望ましい位置へ移動することで応答曲線を調整します（上矢印キーを使用すると濃くなり、下矢印キーを使用すると薄くなります）。

カラー編集を1ページまたは全ページに適用する

カラー印刷のジョブでは、現在のページからカラー編集をコピーし、ジョブの別のページまたは全ページに貼り付けることができます。

- 1 カラー調整ペインで曲線タブをクリックし、適用先をクリックします。
- 2 ページ番号を指定し、OK をクリックします。

ローカルファイルを使用してカラー編集を適用する

カラー印刷のジョブには、まず使用しているコンピューターのローカルファイルにカラー編集を保存します。そして保存先のファイルから編集をインポートして、IFiery ImageViewer の現在のページに適用することができます。現在のページは、同様のジョブまたは別のジョブのものである場合があります。

メモ: Fiery server の種類によっては、カラー編集をサーバープリセットとして保存し、異なるジョブに適用することができます。

ファイルにカラー編集を保存する

- 1 ファイル > エクスポート > カラー調整を選択します。
- 2 ファイル名を入力し、ファイルタイプを選択します。
- 3 ファイルの保存先を指定し、ファイルを保存します。

ファイルからカラー編集をインポートする

- 1 ファイル > インポート > カラー調整を選択します。
- 2 必要なカラー編集ファイルを選択します。
- 3 開くをクリックします。
現在のページにカラー編集が適用されます。

サーバープリセットを使用してカラー編集を適用する

お使いの Fiery server がこの機能をサポートしている場合、カラー編集をサーバープリセットとして保存できます。プリセットを使用して、同様のカラー編集を Fiery ImageViewer の異なるジョブに適用できます。Fiery ImageViewer を使用せずに Command WorkStation のジョブのプロパティウィンドウから待機ジョブにプリセットを適用することもできます。

メモ: 使用しているコンピューターのローカルファイルにカラー編集を保存し、ImageViewer の異なるジョブに編集を適用することも可能です。

カラー編集をプリセットとして保存する

- 1 カラー調整ペインで、保存したいカラー編集を作成します。
- 2 次のいずれかを行います。
 - Fiery ImageViewer 4.7 以降の場合、ツールバーの別名保存をクリックします。
 - Fiery ImageViewer 4.6 以前の場合、曲線タブをクリックし、プリセット > 別名保存をクリックします。
- 3 プリセットの名前を入力して OK をクリックします。
プリセットがリストに追加されます。

メモ：カラー置換は、Fiery ImageViewer 4.0 以降で使用でき、グローバルな修正としてプリセットに保存されます。カラー置換はページ単位で使用することはできません。

ImageViewer のプリセットを使用してカラー編集を適用する

- 1 カラー調整ペインで曲線タブをクリックし、プリセットリストからプリセットを選択します。
- 2 ファイル > 保存をクリックします。
プリセットが現在のジョブに適用されます。

ジョブのプロパティのプリセットを使用してカラー編集を適用する

- 1 Command WorkStation のジョブセンターで、待機ジョブを選択し、アクション > プロパティをクリックします。
- 2 カラータブをクリックし、ImageViewer Curves オプションからプリセットを選択して OK をクリックします。
- 3 同じジョブを選択した状態で、アクション > 処理後待機をクリックします。
プリセットのカラー編集が処理済みのジョブに適用されます。

メモ：ジョブの処理後、カラー編集はジョブに組み込まれ、ImageViewer 上で編集として表示されなくなります。

プリセットの削除

- 1 カラー調整ウィンドウで、プリセットリストからプリセットを選択します。
プリセットが画像に適用されます。

- 2 プリセットリストで、画像に適用されたカスタムプリセットを選択し、削除をクリックします。確認画面でははいをクリックします。
プリセットがリストおよび画像から削除されます。

メモ：Fiery ImageViewer で適用されない一貫性のない曲線または不適切な曲線が見られるにもかかわらず、そうした曲線を削除できないうえに、ジョブのプロパティで曲線のリストがすべて表示されない場合、Fiery ImageViewer で **ctrl+shift+D** (Windows) または **cmd+shift+D** (macOS) を押すことで解決できます。そうすることで、すべての不適切な曲線が内部的に削除され、ジョブのプロパティで曲線プリセットのすべてのリストが表示されるようになります。

プリセットの名前を変更する

- Fiery ImageViewer 4.7 以降の場合、ツールバーのギアアイコンをクリックしてカスタムプリセットの管理ウィンドウを起動します。
 - クリックして1つのカスタムプリセットを選択するか、**Ctrl** キーを押しながらクリック (Windows の場合) または **cmd** キーを押しながらクリック (macOS の場合) で複数のカスタムプリセットを選択します。
 - 名前の変更をクリックします。
 - プリセットの名前を入力して **OK** をクリックします。

Curve2/Curve3/Curve4 ファイルからカラー曲線を適用する

カラー印刷のジョブには、CHROMiX Curve2、Curve3 または Curve4 (G7 キャリブレーションソフトウェア) で作成され、テキストファイルとしてエクスポートされた CMYK 応答曲線をインポートすることができます。標準フォーマットまたは Delta フォーマットのファイルを使用できます。

- 1 カラー調整ウィンドウで曲線タブをクリックし、曲線編集をクリックします。
- 2 曲線をインポートをクリックし、曲線を含むファイルを選択し、開くをクリックします。

グレー応答曲線の編集を適用する

モノクロ印刷のジョブでは、使用しているコンピューターのファイルに編集済みグレー応答曲線を保存し、その編集を別のモノクロ印刷のジョブに適用できます。グレー応答曲線はジョブの全ページに適用されます。

グレー応答曲線を保存する

- 1 ファイル > 曲線をファイルに保存を選択します。
- 2 ファイル名を入力します。
- 3 ファイルの保存先を指定し、ファイルを保存します。

グレー応答曲線をインポートする

メモ：ファイルから曲線をインポートすると、現在のジョブに行った変更が失われます。

- 1 ファイル > ファイルから曲線をロードを選択します。
- 2 必要なグレー応答曲線を選択します。
- 3 開くをクリックします。

Fiery ImageViewer でページを管理する

Fiery ImageViewer の書類内および異なる書類間でページを管理できます。

Fiery ImageViewer のサムネイルウィンドウには、ジョブ内の各シート表面のサムネイルビューが表示されます。サムネイルウィンドウを使用して、ジョブのページを管理できます。

書類ページの順序を変更する

サムネイルウィンドウでページのサムネイルをドラッグアンドドロップして、Fiery ImageViewer の書類ページの順序を変更できます。

- 1 書類内で移動するページを選択するには、次のいずれかの操作を行います。
 - ページのサムネイルをクリックして、1 ページを選択します。
 - Shift キーを押しながらクリックすると、複数のページを選択できます。
 - Ctrl キー (Windows) または cmd キー (macOS) を押しながらクリックして、個々のページを選択します。
 - Ctrl+A (Windows) または cmd+A (macOS) を押して、すべてのページを選択します。
- 2 ページのサムネイルをサムネイルウィンドウ内の新しい場所にドラッグします。


メモ：Fiery ImageViewer では、バリアブルデータジョブ用に書類間のページの並べ替えはサポートされません。

ページを削除する

サムネイルウィンドウを使用して、Fiery ImageViewer の書類のページを削除できます。

- 1 書類内で削除するページを選択するには、次のいずれかの操作を行います。
 - ページのサムネイルをクリックして、1 ページを選択します。
 - Shift キーを押しながらクリックすると、複数のページを選択できます。
 - Ctrl キー (Windows) または cmd キー (macOS) を押しながらクリックして、個々のページを選択します。
 - Ctrl+A (Windows) または cmd+A (macOS) を押して、すべてのページを選択します。

2 削除するページを選択するには、次のいずれかの操作を行います。

- 選択したページのサムネイルを右クリックし、削除を選択します。
- 削除キーを押します。
- 編集 > 削除をクリックします。
- ツールバーの削除アイコン () をクリックします。

メモ：バリアブルデータジョブの Fiery ImageViewer では、ページの削除はサポートされていません。


ページを複製する

サムネイルウィンドウを使用して、Fiery ImageViewer の書類のページを複製できます。

1 書類内で複製するページを選択するには、次のいずれかの操作を行います。

- ページのサムネイルをクリックして、1 ページを選択します。
- Shift キーを押しながらクリックすると、複数のページを選択できます。
- Ctrl キー (Windows) または cmd キー (macOS) を押しながらクリックして、個々のページを選択します。
- Ctrl+A (Windows) または cmd+A (macOS) を押して、すべてのページを選択します。

2 選択したページを複製するには、次のいずれかの操作を行います。

- 選択したページのサムネイルを右クリックし、複製を選択します。
- 編集 > 複製をクリックします。
- ツールバーのページの複製アイコン () をクリックします。

メモ：バリアブルデータジョブの Fiery ImageViewer では、ページの複製はサポートされていません。

書類間でページを移動する

サムネイルウィンドウを使用して、Fiery ImageViewer の書類間でページを移動できます。

1 Fiery ImageViewer で 2 つの書類を開きます。

メモ：Fiery ImageViewer を使用して書類間でページを移動するには、両方の書類が同じ色空間を使用する必要があります。

2 書類内の移動するページを選択するには、次のいずれかの操作を行います。

- ページのサムネイルをクリックして、1 ページを選択します。
- Shift キーを押しながらクリックすると、複数のページを選択できます。

- Ctrl キー (Windows) または cmd キー (macOS) を押しながらクリックして、個々のページを選択します。
 - Ctrl+A (Windows) または cmd+A (macOS) を押して、すべてのページを選択します。
- 3 選択したページを 1 つのサムネイル ウィンドウから別の Fiery ImageViewer サムネイルウィンドウにドラッグします。
- メモ:** バリアブルデータジョブ用 Fiery ImageViewer では、書類間のページの移動はサポートされていません。

編集したジョブを印刷する


ジョブを編集した後、そのジョブを印刷できます。

カラー印刷のジョブでは、**分解**ペインで選択された色分解のコンポジットカラー情報が印刷ページに含まれます。ページごとに異なる色分解を設定することもできます。

- 1 カラー印刷のジョブのページごとに、印刷する色分解を**分解**ペインで設定します。
- 2 ファイル > 保存をクリックします。
- 3 ファイル > 印刷をクリックします。
- 4 ページ範囲を選択し、印刷をクリックします。

校正を印刷する

ジョブを 1 部またはジョブの反復校正を Fiery ImageViewer から直接印刷して出力を確認できます。校正印刷では、現在の編集を使用して選択したページのコピーが作成され、印刷済みキューに新しいジョブとして直接送信されます。印刷が完了すると、校正印刷ジョブが削除されます。

- 校正を印刷するには、ツールバーの校正印刷アイコン () を選択します。

ソフト校正を PDF にエクスポートする

カラー印刷のジョブでは、ソフト校正を PDF 形式で保存すると、他の時間や場所で表示できるようになります。PDF にエクスポートする場合には、ページ範囲と解像度を選択できます。

メモ: ソフト校正にはキャリブレーションの効果は表示されませんが、色はキャリブレーションの影響を受ける可能性があります。また、ジョブで適用されたカラー置換の変更も表示されません。

ソフト校正は印刷用ではないため、ソフト校正の解像度はジョブの解像度と異なる場合があります。

- 1 ファイル > エクスポート > PDF ソフト校正の順にクリックします。
- 2 ページ範囲を指定します。ページ番号やページ範囲を複数指定する場合は、それらをカンマで区切ります。
- 3 解像度を選択します。

- 4 OK をクリックします。
- 5 ファイルの名前を入力します。ファイルタイプは常に PDF です。
- 6 ファイルの保存先を指定し、保存をクリックします。

白黒ソフト校正を PDF にエクスポートする

白黒印刷のジョブでは、ソフト校正を PDF 形式で保存すると、別の時間や他の場所で表示できるようになります。PDF のソフト校正を保存する場合には、ページ範囲と解像度を選択できます。

メモ：ソフト校正にはキャリブレーションの効果は表示されませんが、色はキャリブレーションの影響を受ける可能性があります。また、ジョブで適用されたカラー置換の変更も表示されません。

ソフト校正は印刷用ではないため、ソフト校正の解像度はジョブの解像度と異なる場合があります。

- 1 ファイル > PDF ソフト校正をクリックします。
- 2 ページ範囲を指定します。ページ番号やページ範囲を複数指定する場合は、それらをカンマで区切ります。
- 3 解像度を選択します。
- 4 OK をクリックします。
- 5 ファイルの名前を入力します。ファイルタイプは常に PDF です。
- 6 ファイルの保存先を指定し、保存をクリックします。

モニタープロファイルと出力プロファイルを比較する

カラー印刷のジョブでは、コンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合、Fiery Profile Inspector を使用して、モニタープロファイルの色域とジョブ用の出力プロファイルの色域を比較するモデルを表示できます。

この比較により、より正確なソフト校正を行うことができます。また、Fiery ImageViewer の画像を印刷出力と比較した場合のイメージを把握できます。

Fiery ImageViewer を実行しているモニターの現在のモニタープロファイルが使用されます。結果を最適にするには、Fiery Color Profiler Suite を使用してモニターをプロファイルします。

メモ：(Fiery ImageViewer 3.0 の場合) コンピューターに Fiery Color Profiler Suite がインストールされている場合は、Fiery ImageViewer 環境設定でモニタープロファイルを作成をクリックし、Fiery Monitor Profiler で新しいモニタープロファイルを作成できます。

- Fiery ImageViewer で、表示 > モニタープロファイルと出力プロファイルを比較を選択します。

Fiery server に現在の編集を実装する

モノクロの Fiery server では、現在のジョブのグレー応答曲線の編集をサーバーに実装できます。現在の曲線編集を実装すると、今後処理されるすべてのジョブに同じグレーレベルの調整が適用されます。

同じ編集を多くのジョブに適用する場合は、この機能が便利です。

注意 Fiery server に曲線編集を実装し、その後で別の曲線編集のセットを実装する場合は、新しい曲線編集を作成する前に、出荷時のデフォルト状態に復帰してください。

- 1 サーバー > 曲線編集をインストールを選択します。
- 2 確認画面で OK をクリックします。

Fiery server で出荷時のデフォルト応答曲線に復帰する

モノクロの Fiery server では、実装したグレー応答曲線の編集を取り消したい場合、出荷時のデフォルト応答曲線に復帰できます。出荷時のデフォルト曲線に復帰すると、今後処理されるジョブに、グレーレベルの調整は適用されません。グレーレベルは、Fiery server のデフォルトの動作に従って処理されます。

- 1 サーバー > 工場出荷値に復帰を選択します。
- 2 確認画面で OK をクリックします。

Set Fiery ImageViewer preferences

For color jobs, you can specify Fiery ImageViewer preferences such as units and monitor profile.

The image size (dimensions) and resolution are displayed at the bottom of the screen.

- 1 Select Edit > Preferences (Windows) or ImageViewer > Preferences (macOS).
- 2 Set any of these preferences in the Preferences window:
 - Units - Sets the units for displaying the dimensions and resolution.
 - 'Clear' Separation Display Settings - If the Fiery server supports a clear varnish separation in addition to C, M, Y, and K separations, use this setting to specify Mask Color and Opacity of the clear separation as shown in Fiery ImageViewer.
 - Cross Hair Color Picker - Click the color block to select the color of the bounding box in the Navigator pane.
 - (For Fiery ImageViewer 3.0) Monitor Profile - Either displays the operating system setting for the monitor profile or allows you to select the monitor profile. To obtain an accurate soft proof, use a profile that is accurate for your monitor.

If Fiery Color Profiler Suite is installed on your computer, you can click Create a Monitor Profile to create a new monitor profile in Fiery Monitor Profiler.
 - Reset Preferences - Resets the Fiery ImageViewer preference settings back to their default values.
 - (For Fiery ImageViewer 3.0) Always launch ImageViewer 3 - Clear the check box to run Fiery ImageViewer 4.0 for future sessions.
 - (For Fiery ImageViewer 4.0) Always launch ImageViewer 3 - Select to run Fiery ImageViewer 3.0 in the current session and for future sessions.
 - (For Fiery ImageViewer 4.6) Always launch ImageViewer 3 - is removed from Edit > Preferences. Fiery ImageViewer 3.0 cannot be launched explicitly.

Fiery ImageViewer 3.0 から Fiery ImageViewer 4.0 への変更

Fiery ImageViewer 3.0 と Fiery ImageViewer 4.0 の間の変更の説明。

- 1 Fiery ImageViewer 4.0 は、OpenGL レンダリングアーキテクチャに基づいています。そのため、Fiery ImageViewer 4.0 を使用するには、OpenGL バージョン 3.2 以上をサポートしているビデオカード/GPU が必要です。macOS でこの要件が満たされていない場合は、Fiery ImageViewer 3.0 が起動します。OpenGL のバージョンは、OpenGL Extensions Viewer などのサードパーティ製ソフトウェアを使用して確認できます。
 - Windows 用 - http://download.cnet.com/OpenGL-Extensions-Viewer/3001-18487_4-34442.html
 - macOS 用 - <https://itunes.apple.com/in/app/opengl-extensions-viewer/id444052073?mt=>
- 2 ビデオカードが搭載されていない Windows コンピューターまたは OpenGL バージョン 3.2 以降をサポートしていないビデオカードまたは GPU が搭載されている Windows コンピューターの場合、Fiery ImageViewer 4.0 はソフトウェアレンダリングモードで起動します。

メモ：ソフトウェアレンダリングモードで Fiery ImageViewer を使用すると、パフォーマンスが低下する場合があります。ただし、Fiery ImageViewer 4.0 のすべての機能は使用できます。
- 3 リモートデスクトップ接続を使用して Windows クライアントコンピューターにログオンすると、Fiery ImageViewer 4.0 はソフトウェアレンダリングモードで起動します。
- 4 Fiery ImageViewer 4.0 では、一度に 5 つのセッションのみを開くことができます。
- 5 Fiery ImageViewer 4.0 は、キャンバスの中央にラスターを表示します。Fiery ImageViewer 4.0 には画像の中央画面移動機能があります。
- 6 モニタープロファイルオプションと Fiery Color Profiler Suite をダウンロードする情報は、環境設定ウィンドウから除去されました。Fiery ImageViewer 4.0 では、モニターのオペレーティングシステムのデフォルトプロファイル（複数のモニターを含む）を使用します。
- 7 Navigator ウィンドウでフォーカスがない領域はグレー表示になります。
- 8 ハーフトーンシミュレーションオプションはサポートされていません。
- 9 拡大鏡ツールはサポートされていません。
- 10 Fiery ImageViewer 4.0 は、白黒製品ではサポートされていません。代わりに Fiery ImageViewer 3.0 が起動されます。

製本メーカー

製本メーカーの面付け

Booklet Maker は、より高度な面付け用のプログラムを使用することなく、複数ページの印刷ジョブを製本として印刷できる面付け機能です。

面付けでは、1枚のシートに複数のページを割り付けて印刷処理をします。面付けされたシートを折り合わせると、ページが実際に読み進められる順序に並びます。

Booklet Maker は、2-up 面付けを行うように設計されています。この方式では、書類の4つのページが両面印刷用の1枚のシートに割り付けられ、書類の2つのページが1枚のシートのおもてと裏にそれぞれ印刷されます。ほぼすべてのアプリケーションで製本用の面付け設定を行うことができます。

ページが面付けされる順序は、選択したとじ方法によって決まります。

Booklet Maker は、プリンタードライバーまたは Command WorkStation の「ジョブのプロパティ」からアクセスできます。Booklet Maker は、次の2とおりの方法で操作できます。

- Booklet Maker ウィザードを使用 - 初めて使用するユーザーや初級ユーザーにお勧めの方法です。
- 製本メーカーのメインペインで設定項目を指定 - 経験のあるユーザーや上級ユーザーにお勧めの方法です。

メモ：プリンタードライバーから Booklet Maker にアクセスしたことがある場合、1-up 無線とじでの用紙種類の混合はプリンタードライバーではサポートされていないので注意してください。この機能を使用するには、ジョブを Command WorkStation の待機キューに送信する必要があります。

この『ヘルプ』では、2-up 面付けのレイアウトについて説明します。プリンターに無線とじフィニッシャーなどの製本用フィニッシャー機能が備わっている場合、追加のオプションについては取扱説明書の『印刷ガイド』を参照してください。

製本メーカーおよび Fiery Impose について

Booklet Maker の設定は Fiery Impose でサポートされています。Booklet Maker の設定を行ったジョブを Fiery Impose で開き、面付けレイアウトのプレビューや、面付けレイアウトのさらなる変更もできます。

Fiery Impose は Booklet Maker のすべての設定を Fiery Impose コマンド用に変換およびマッピングします。Booklet Maker で設定されたジョブを Fiery Impose で編集すると、そのジョブは Booklet Maker では編集できなくなります。Fiery Impose では Booklet Maker より多くの設定が提供されており、逆方向にマッピングすることはできません。

メモ：Fiery Impose の全機能を使用するには、アプリケーションの有効ライセンスが必要です。それ以外の場合は、Fiery Impose はデモモードで使用できますが、ジョブは「デモ」というウォーターマークが入った状態で保存されます。

Fiery Impose の詳細は、『Fiery JobMaster-Fiery Impose-Fiery Compose のヘルプ』を参照してください。

Booklet Maker へのアクセス

Booklet Maker には、プリンタードライバー、または Command WorkStation のジョブのプロパティからアクセスできます。

プリンタードライバーから製本メーカーにアクセスする

Fiery server プリンタードライバーのレイアウトタブから Booklet Maker にアクセスします。

- 1 アプリケーションで、ファイル > 印刷を選択し、プリンターリストから Fiery server を選択します。
 - Windows の場合は、プロパティをクリックします。
 - macOS の場合は、Fiery の機能をドロップダウンリストから選択します。
- 2 次のいずれかを行います。
 - Windows の場合は、Fiery 印刷タブを選択します。
 - macOS の場合は、クイックアクセスウィンドウで全プロパティをクリックします。
- 3 レイアウトタブをクリックし、ブックレットオプションを選択します。

Command WorkStation から Booklet Maker にアクセスするには

Command WorkStation のジョブのプロパティウィンドウから Booklet Maker にアクセスします。

次の作業を開始する前に、Command WorkStation でジョブを待機キューにインポートします。

- 1 ジョブのプロパティを開くには、次のいずれかの手順を実行します。
 - ジョブセンターの待機リストで印刷ジョブをダブルクリックします。
 - ジョブセンターの待機リストでジョブを右クリック (macOS) または Ctrl キーを押しながらクリック (Windows) し、表示されるメニューからプロパティを選択します。
 - ジョブセンターの待機リストでジョブを選択し、アクションメニューからプロパティを選択します。
- 2 ジョブのプロパティウィンドウでレイアウトタブを選択します。
- 3 ブックレットオプションを選択します。

ブックレットを作成する

Booklet Maker ウィンドウでブックレットを作成します。または Booklet Maker ウィザードを使用します。プリンタードライバーまたは Command WorkStation のジョブのプロパティのレイアウトタブで製本オプションを選択すると、Booklet Maker は小冊子を作成するための設定項目を動的に表示します。Booklet Maker のメ

インウィンドウ、または Booklet Maker ウィザード（各手順のイメージが表示される）を使用して処理を完了できます。

Booklet Maker ウィンドウにブックレットを作成する

ウィザードを使用したくない場合は、Booklet Maker ウィンドウでオプションを選択することでブックレットを作成できます。

1 ジョブのプロパティウィンドウでレイアウトタブを選択します。

2 製本オプションを選択します。

3 製本タイプとじ方法：中とじ、複合中とじ、無線とじ

メモ：プリンターに無線とじフィニッシャーなど製本用フィニッシャーを装着している場合、1-up 無線とじオプションが使用できることがあります。

4 とじ辺の選択：左とじ、上とじ、右とじ

5 用紙サイズ：

- Paper Catalog またはメディアカタログから選択する（Paper Catalog またはメディアカタログが Fiery server でサポートされているかどうかに応じて）
- カスタム用紙サイズを作成します。
- 書類サイズと同じを選択します。

6 用紙に合わせて縮小を選択して、オリジナルの書類の縦横比を維持しながら書類のサイズを縮小します。

7 ページ調整設定を選択してページ上のイメージ位置を決定します。

クリープを補正するには、用紙の種類に対する設定を行います（中とじと複合中とじのブックレットに使用できます）。

- 普通 - 製本するページ数が多い場合に選択します。
- 厚紙 - 厚紙または坪量が多い用紙に印刷する場合に選択します。この場合、プリンタードライバーまたは Command WorkStation のジョブのプロパティ > 用紙で適切な厚紙を指定する必要があります。

8 表紙設定を指定します（中とじのブックレットに使用できます）。

メモ：詳細については、[表紙を追加する](#)（372 ページ）を参照してください。

9 OK をクリックして設定を保存するか、印刷設定を選択してジョブを印刷または処理します。

製本メーカーウィザードを使用してブックレットを作成する

Booklet Maker ウィザードでは、指示に従いながら段階的な手順でブックレットを作成できます。

1 レイアウトタブをクリックし、製本オプションを選択します。

2 ウィザード起動をクリックします。

- 3 ウィザードのナビゲーションを行うには、以下のコントロールを使用します。
 - 次の画面に進むには、**次へ**をクリックします。
 - 前の画面に戻るには、**前へ**をクリックします。
 - 設定内容をキャンセルして **Booklet Maker** を終了するには、**キャンセル**をクリックします。
- 4 ウィザードに表示される手順に従います。

メモ：「製本タイプ」で「中とじ」または「複合中とじ」が選択されている場合は、表紙設定および内容を指定します。「複合中とじ」が選択されている場合は、サブセット内のシート数を指定します。
- 5 設定の概要を表示します。
- 6 ブックレットを保存するには**完了**をクリックします。また、設定を変更するには**前へ**をクリックし、ジョブをキャンセルするには**キャンセル**をクリックします。

製本タイプ

ブックレットを作成する際には、製本タイプオプションを選択し、とじ方法ととじ辺を選択します。

とじ方法により、印刷ジョブの面付けの方法が決まります。とじ辺により、ブックレットの背表紙の位置、レイアウトの方向、ページ内容の回転の有無が決まります。

製本方法

Booklet Maker では、次のとじ方法がサポートされています。

- [中とじ](#) (353 ページ)
- [複合中とじ](#) (354 ページ)
- [無線とじ](#) (356 ページ)
- [1-up 無線とじ](#) (357 ページ)

プリンターに無線とじフィニッシャーなど製本用フィニッシャーを装着している場合、追加のとじ方法については取扱説明書の『印刷ガイド』を参照してください。

とじ辺

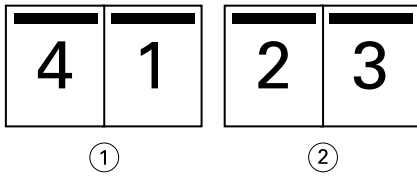
Booklet Maker では3つのとじ辺オプションがあります。

- **左とじ** - 通常、左から右方向に文字を読む言語で使用されます。小冊子は右側から左側へ開きます。
- **上とじ** - 一般的にカレンダー、横向きの書類、シネマサイズの書類で使用されます。小冊子は上方向に開きます。

上とじのとじ辺に表紙がある場合、裏表紙の外側は自動的に 180 度回転しておもて表紙の向きと同じ向きになります。
- **右とじ** - 一般的に右から左方向に文字を読む言語で使用されます。小冊子は左側から右側へ開きます。

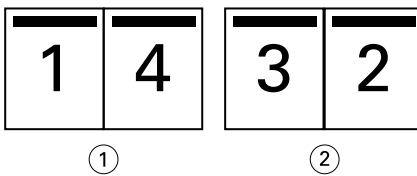
次の図に、とじ辺による2面付けのレイアウトの違いを示します。

図 1: 左とじ



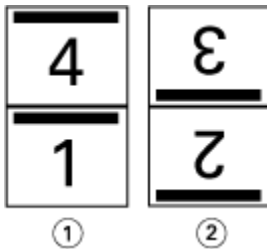
- 1 おもて
- 2 裏

図 2: 右とじ



- 1 おもて
- 2 裏

図 3: 上とじ



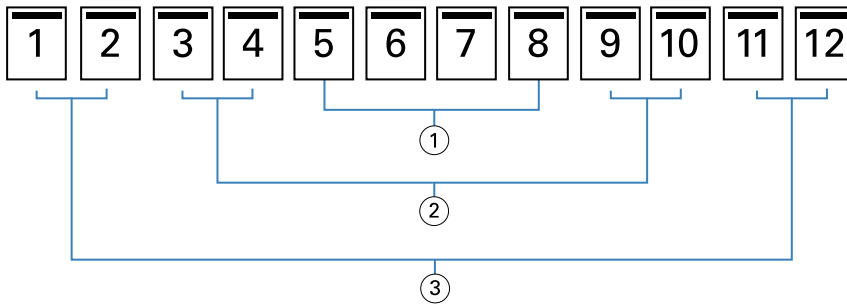
- 1 おもて
- 2 裏

中とじ

中とじは、サドルステッチとじとも呼ばれ、最も簡単なとじ方法です。中とじでは、折り丁部分がグループごとに綴じられ、中央折り目に沿ってステープル（ホチキス）で止めるか縫われて背表紙になります。中とじではクリーブが生じます。

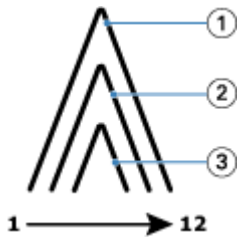
中とじには、印刷済みおよびインラインカバーのオプションが含まれています。

次の図は、左中とじ用に整版された 12 ページの書類の面付けの折り丁を示しています。



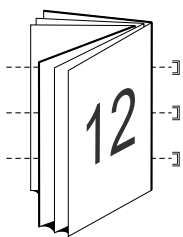
- 1 折り丁3
- 2 折り丁2
- 3 折り丁1

次の図は、12 ページの中とじの折り丁がどのように1つのグループとして折られるかを示しています。



- 1 折り丁1
- 2 折り丁2
- 3 折り丁3

次の図は、折り線に沿って折り丁がどのように糸またはステープル（ホチキス）でとじられるかを示しています。

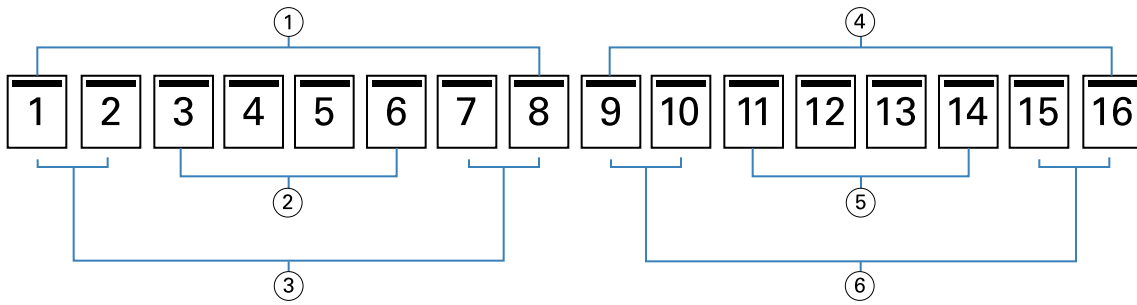


複合中とじ

複合中とじでは、複数の中とじのブックレット（サブセット）を結合してより大きなブックレットを形成します。サブセットを折り目（背表紙）に沿って重ね合わせて、印刷後に糸または接着剤でとじます。複合中とじではクリープが生じます。

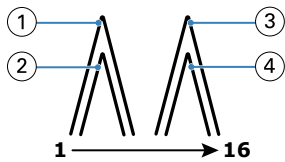
サブセット内のシート数（中とじ） - 各サブセットに含めるシートの数を指定します。

次の図は、複合中とじ、左とじで16 ページの書類を面付けしてとじる場合を示しています。各サブセットには2枚のシート（シートごとに8 ページの書類ページ）が含まれます。



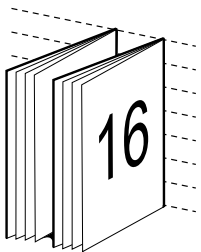
- 1 サブセット 1
- 2 折り丁 2
- 3 折り丁 1
- 4 サブセット 2
- 5 折り丁 4
- 6 折り丁 3

次の図は、16 ページの複合中とじの折り丁がどのように折り重ねられ、サブセットがどのように重ね合わされるかを示しています。サブセット 1 には折り丁 1 および 2、サブセット 2 には折り丁 3 および 4 が含まれます。



- 1 折り丁 1
- 2 折り丁 2
- 3 折り丁 3
- 4 折り丁 4

次の図は、複合中とじ、左とじのブックレットの場合に、サブセットが折り線に沿ってどのように重ねてとじられるかを示しています。

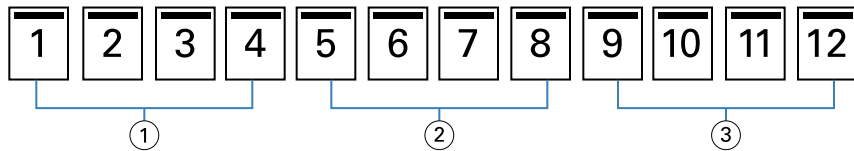


無線とじ

無線とじでは、折り丁を1つずつ別々に折り、折り目に沿って折り丁を重ね合わせます。この折り目がブックレットの背表紙になります。

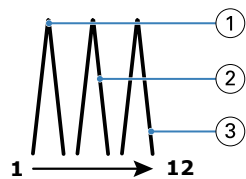
折り丁とは、折りを入れた1枚のシートで、連続した順番でブックレットのページを構成します。ブックレットの各折り丁は同じように折りを入れます。無線とじでは、表紙に糊づけする前に背となる部分を平らにする必要があり、また通常、より大きなとじしろを必要とします。無線とじではクリープが生じます。

次の図は、無線とじ、左とじで12ページの書類を面付けしてとじる場合を示しています。



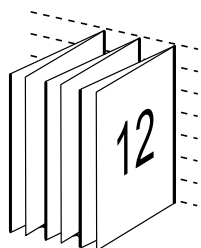
- 1 折り丁1
- 2 折り丁2
- 3 折り丁3

次の図は、無線とじの折り丁がそれぞれ別々に折られてから、どのように折り目に沿って重ねられるかを示しています。



- 1 折り丁1
- 2 折り丁2
- 3 折り丁3

次の図は、無線とじ、左とじのブックレットの場合に、折り丁が折り目に沿ってどのように重ねられるかを示しています。



1-up 無線とじ

1-up 無線とじ方法では、重ね合わせられた本文ページが印刷されるため、エッジは（希望する場合に）トリミングされ、糊づけされ、表紙で覆われる場合があります。

1-up 無線とじで小冊子を印刷するには、プリンターに無線とじをサポートする製本用フィニッシャーが装着されている必要があります。

プリンターが 1-up 無線とじをサポートしている場合は、取扱説明書の『印刷ガイド』を参照してください。

製本方法が 1-up 無線とじの場合は、Booklet Maker で用紙種類の混合の設定を指定できます。

用紙サイズ 2-up

用紙サイズは、ブックレットの印刷に使用する実際の用紙（折り無し）のサイズです。

ブックレットの用紙サイズを選択する際には、次の複数の選択肢があります。

- 使用可能なサイズのリストから選択する
- Paper Catalog またはメディアカタログから選択する（Paper Catalog またはメディアカタログが Fiery server でサポートされているかどうかに応じて）
- カスタムの用紙サイズを作成する
- 原稿サイズと同じを選択する

カスタムページサイズ

Booklet Maker では、ブックレットの本文ページとカバーページにカスタムページサイズを使用することができます。プリンタードライバーから Booklet Maker にアクセスする場合は、カスタムの書類サイズを作成することもできます。カスタムページの最小および最大ページサイズは、プリンターおよびフィニッシャーの性能によって異なります。

お使いのプリンターでサポートされているカスタムサイズの範囲については、『印刷ガイド』を参照してください。

原稿サイズ

原稿サイズとは、オリジナル書類の各ページのサイズのことであり、使用しているアプリケーションの印刷設定（ページ設定）ダイアログボックスで定義されています。ブックレットをデザインする際は、原稿サイズをデジタル入力（オリジナル書類で定義されているページサイズ）、用紙サイズを物理的な出力（プリンターのトレイにセットされている実際の用紙のサイズ）と考えると便利です。

メモ：アプリケーションの書式設定メニューで指定したサイズは、アプリケーションの印刷設定（ページ設定）ダイアログボックスで指定したサイズと異なる場合があります。Booklet Maker で使用するサイズは、アプリケーションの印刷設定（ページ設定）ダイアログボックスで指定されています。

給紙辺

用紙が最初にプリンターに入る側を給紙辺といいます。給紙方向（短辺給紙または長辺給紙）は、特定の用紙サイズに関連付けられています。

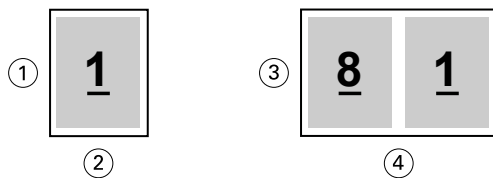
印刷設定（ページ設定）で書類サイズを選択する場合、指定した用紙サイズの給紙辺を考える必要はありません。ただし、フィニッシャーによっては特定の給紙辺でなければならない場合があります。Booklet Maker で

は、フィニッシャーでサポートされていない給紙方向の用紙サイズがある場合、その用紙サイズは、利用できるサイズの一覧でグレーアウトされます。

書類サイズと同じ

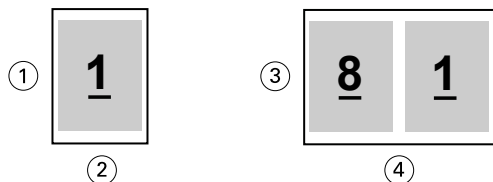
このオプションを選択すると、書類の用紙サイズをオリジナルのファイルと同じサイズに保持できます。用紙サイズは、書類ページのサイズの少なくとも2倍になるように選択する必要があります。

たとえば、8.5 x 11 インチの書類は、11x17 インチの用紙に印刷します。書類サイズ（入力）は下の図の左側に、用紙サイズ（出力）は右側に表示されます。



- 1 11 インチ
- 2 8.5 インチ
- 3 11 インチ
- 4 17 インチ

A4 サイズ (297 x 210 mm) の書類は、A3 サイズ (297x420 mm) に印刷します。書類サイズ（入力）は下の図の左側に、用紙サイズ（出力）は右側に表示されます。



- 1 297 mm
- 2 210 mm
- 3 297 mm
- 4 420 mm

メモ：上の例の図は、同じ系列（A4～A3）または標準（レターからタブロイド紙）の用紙サイズを示しています。Booklet Maker では、ある系列から別の系列（たとえば、A4 からレター）に整版することもできます。詳細は、[ページの調整](#)（363 ページ）を参照してください。

選択した用紙サイズに合わせて書類ページを縮小する

特定の用紙サイズに合わせて書類のページサイズを縮小するには、用紙サイズメニューから目的のサイズを選択します。

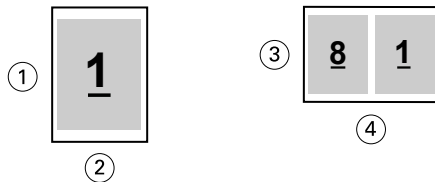
Booklet Maker は、オリジナルの書類の縦横比を保持しながら、選択した用紙サイズに合わせて書類ページを自動的に縮小します。

たとえば、書類サイズが 8.5 x 11 インチの印刷ジョブに用紙サイズメニューで 8.5 x 11 インチを選択し、2-up 面付けを指定した場合、書類ページは 5.5 x 8.5 インチに縮小され、用紙に 2 ページずつ並列して印刷されます。下の図は、左側に書類サイズ（入力）、右側に用紙サイズ（出力）を示しています。



- 1 11 インチ
- 2 8.5 インチ
- 3 8.5 インチ
- 4 11 インチ

また、書類サイズが A4 (297x210 mm) の印刷ジョブに用紙サイズメニューで A4 を選択した場合、書類ページは 210x148.5 mm に縮小され、用紙に 2 ページずつ並列して印刷されます。下の図は、左側に書類サイズ（入力）、右側に用紙サイズ（出力）を示しています。



- 1 297 mm
- 2 210 mm
- 3 210 mm
- 4 297 mm

メモ：用紙に合わせて縮小オプションは、書類ページサイズを縮小するだけです。用紙に合わせて縮小では、拡大は行われません。詳細は、[用紙に合わせて縮小オプション](#) (359 ページ) を参照してください。

用紙に合わせて縮小オプション

Booklet Maker は、デフォルトで、オリジナル書類の縦横比を保持しながら選択された用紙サイズに合わせて書類のページを縮小します。

書類サイズと選択した用紙サイズに基づいて、Booklet Maker は、次のように縮小率を自動的に計算します。

用紙サイズに対する書類サイズ	拡大縮小率
書類サイズが用紙サイズの 1/2 以下の場合	100%
書類サイズが用紙サイズの 1/2 よりも大きい場合	用紙に合わせて縮小

メモ：用紙に合わせて縮小オプションは、書類ページサイズを縮小するだけです。用紙に合わせて縮小では、拡大は行われません。

用紙に合わせて縮小メニューには次の3つのオプションがあります。

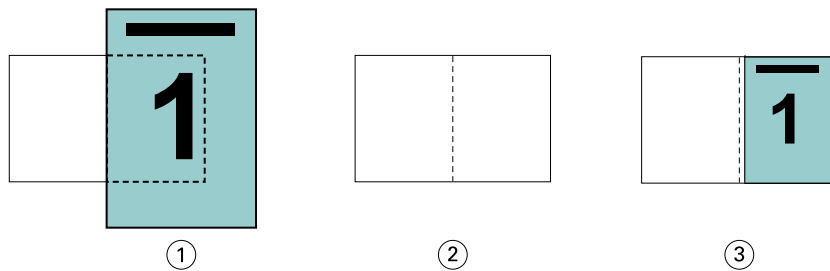
- シートサイズ (デフォルト) : シートの端に合わせてコンテンツ (画像) を縮小することで、シートサイズを最大限に活用します。
- 出力可能領域 : シートの出力可能領域に収まるようコンテンツ (画像) を縮小します。
- オフ : コンテンツを縮小しません。

用紙に合わせて縮小 > シートサイズ

Booklet Maker は、選択された用紙サイズの 1/2 になるよう書類のページを自動的に縮小し、シートサイズを最大限活用します。この場合、オリジナルの書類の縦横比を維持するために比率が制約されることから、コンテンツの一部でクリッピングが発生することがあります。

次の例では、用紙に合わせて縮小が適用されると、ページの上側と下側がシートいっぱいに拡大される一方で、右側と左側には余白が作成されます。

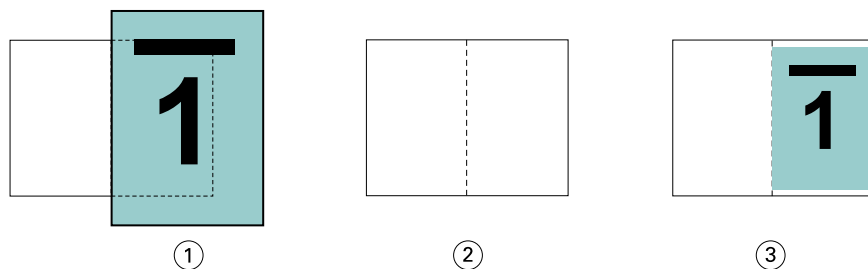
たとえば、13x19 インチの書類は、11x17 インチの用紙の 1/2 サイズ (8.5x11 インチ) に縮小されます。



- 1 書類サイズ - 13x19 インチ
- 2 用紙サイズ - 用紙サイズ 11x17 インチ (1/2 = 8.5x11 インチ)
- 3 結果 - 書類サイズ 13x19 インチが用紙サイズの 1/2 (8.5x11 インチ) になるように縮小

Booklet Maker は異なる系列の用紙や、非標準サイズの用紙にも面付けすることができます。

たとえば、A4 サイズの書類を、レターサイズの用紙に合わせて縮小できます。書類サイズは、レターサイズの用紙 (8.5x11 インチ) の 1/2 である 5.5x8.5 インチに縮小されます。



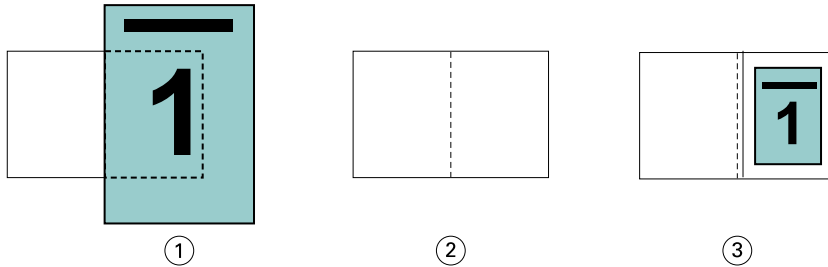
- 1 書類サイズ - A4 (210x297 mm)
- 2 用紙サイズ - 用紙サイズ 8.5x11 インチ (1/2 = 5.5x8.5 インチ)
- 3 結果 - A4 サイズの書類が 1/2 (5.5x8.5 インチ) の用紙サイズになるように縮小

用紙に合わせて縮小 > 出力可能領域

Booklet Maker は、シートの出力可能領域に収まるよう自動的にコンテンツを縮小します。

下の例では、シートの出力可能領域内に収まって印刷されるよう、画像の上下左右すべてに余白が作成されます。オリジナルの書類の縦横比を維持するために、比率が制約されることから、上下の余白が左右の余白に比べて大きくなります。

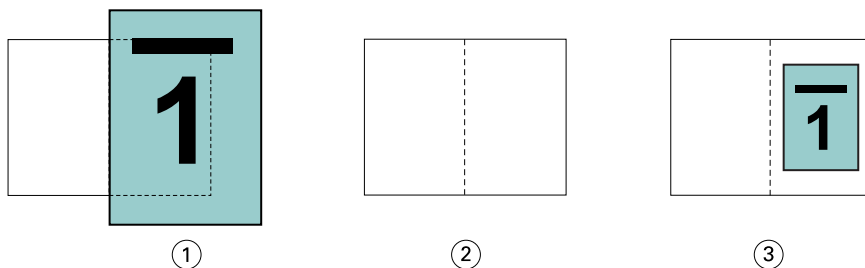
たとえば、13x19 インチの書類は、11x17 インチの用紙の 1/2 サイズ (8.5x11 インチ) に縮小されます。



- 1 書類サイズ - 13x19 インチ
- 2 用紙サイズ - 用紙サイズ 11x17 インチ (1/2 = 8.5x11 インチ)
- 3 結果 - 書類サイズ 13x19 インチが用紙サイズの 1/2 (8.5x11 インチ) になるように縮小

下の例は、異なる系列の用紙や、非標準サイズの用紙で用紙に合わせて縮小 > 出力可能領域オプションを使用したところです。

A4 サイズの書類を、レターサイズ of 用紙に合わせて縮小できます。書類サイズは、レターサイズ of 用紙 (8.5 x 11 インチ) の 1/2 である 5.5 x 8.5 インチに縮小されます。



- 1 書類サイズ - A4 (210x297 mm)
- 2 用紙サイズ - 用紙サイズ 8.5x11 インチ (1/2 = 5.5x8.5 インチ)
- 3 結果 - A4 サイズの書類が 1/2 (5.5x8.5 インチ) の用紙サイズになるように縮小

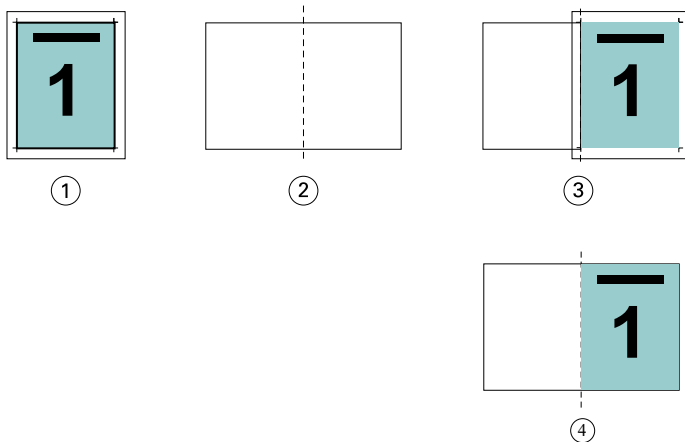
用紙に合わせて縮小 > オフ

用紙に合わせて縮小オプションをオフにすると、書類サイズは 100% の倍率で印刷されます。選択した用紙サイズの 1/2 サイズに収まらない内容は切り捨てられます。

場合によっては、意図的に切り捨てることもあります。たとえば、書類にプリンターのマークが含まれていて、用紙サイズの 1/2 のサイズに収まっていない場合、用紙に合わせて縮小オプションをオフにすると、内容が 100% の倍率で印刷されます。一方、このオプションをオンにすると、ページ全体の内容 (プリンターのマークを含む) が指定された用紙サイズに合わせて縮小されます。

同様に、フルブリードを設定するために書類サイズを用紙サイズの 1/2 より大きく設定している場合、用紙に合わせて縮小オプションをオフにすると、ページ内容を 100% の倍率で印刷します。

次の図は、8.5 x 11 インチの内容にページマークが入ることで書類ページのサイズが 10.2 x 12.5 インチになっている例を示しています。用紙に合わせて縮小オプションをオフにすることにより、ページマークがクリッピングされ、ページ内容が 100% の倍率で用紙の 1/2 のサイズに印刷されます。



- 1 書類サイズ - 10.2x12.7 インチ、目的の内容 8.5x11 インチ
- 2 用紙サイズ - 用紙サイズ 11x17 インチ (1/2 = 8.5x11 インチ)
- 3 切り捨て前
- 4 結果 - 目的の内容 (8.5x11 インチ) が 100%の倍率で印刷

用紙に合わせて縮小 - シートサイズまたは出力可能領域

用紙に合わせて縮小オプションには、書類ページに合わせて縮小する手段として、用紙サイズに合わせて縮小と出力可能領域に合わせて縮小の 2 通りの方法があります。

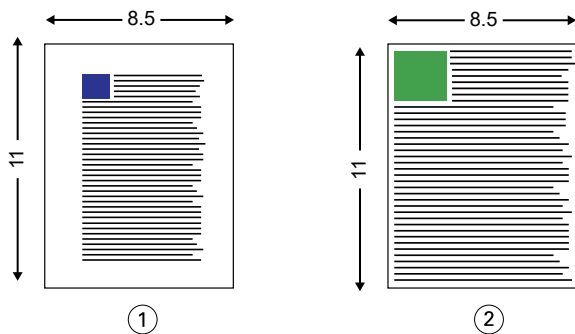
用紙に合わせて縮小のオプションには、それぞれ長所と短所があります。

用紙に合わせて縮小 > シートサイズでは、拡大縮小率の計算中に用紙サイズを最大限使用します。ただし、オリジナル書類のレイアウトにより、拡大縮小が意図した結果にならない場合があります。コンテンツのクリッピングが発生することがあります。

用紙に合わせて縮小 > 出力可能領域では、用紙サイズの出力可能領域を使用するため、コンテンツのクリッピングが発生しません。ただし、シートサイズを選択した場合に比べると、書類の縮小率は大きくなります。

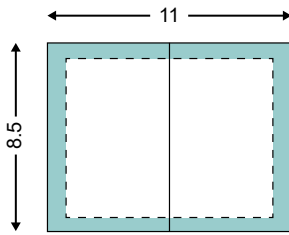
それぞれのオプションの結果については、次の図を参照してください。

1 つ目の図は同じ用紙サイズでレイアウトの異なる 2 種類の書類を示しています。

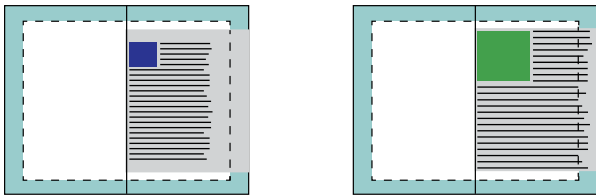


- 1 4 方向に余白を多くとった書類 (オリジナル)
- 2 4 方向に余白をほとんどとらない書類 (オリジナル)

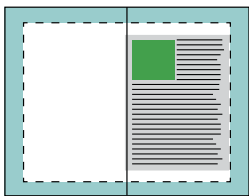
2 つ目の図は、出力可能領域を白く表示したシートを示しています。



3つ目の図は、用紙に合わせて縮小>シートサイズオプションを選択した場合の出力結果を示しています。余白を多くとった書類は出力可能領域内に収まっていますが、余白が少ない書類の方は面付けして印刷される際にコンテンツがクリッピングされてしまいます。



4つ目の図は、余白の少ない書類で用紙に合わせて縮小>出力可能領域を選択した場合の出力結果を示しています。書類の内容はすべて印刷されますが、上と下に余白が生じてしまいます。



ページの調整

ページ調整は、オリジナル書類で定義したページレイアウトを変更するものではありません。ページ調整では、印刷可能領域（テキストと画像に割り当てられたスペース）にマージン（印刷可能領域の周囲の白またはブランクのスペース）を加えたページ内容全体をずらします。

Booklet Maker では、次の3つのオプションを使用してページ内容を配置し、微調整できます。

- ページ調整 - 背表紙またはページの中央に揃えてページ内容を配置します。
- とじしろ増幅値 - とじるとき余白（とじしろ）を追加します。
- クリープ補正用紙種類 - 中とじまたは複合中とじを選択した場合にクリープによって生じるページ内容のずれを補正します。

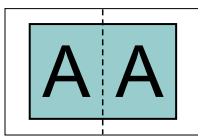
メモ： ページ調整のオプションは、書類サイズの拡大縮小率を変更するものではありません。用紙に合わせて縮小オプションをオフに設定した場合、書類の内容のうち用紙サイズに収まらない部分はクリッピングされます。クリッピングされないようにするには、ページ調整およびとじしろのオプションを使用してページ内容の位置を調整します。

ページを調整する

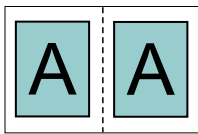
Booklet Maker では、ページ調整オプションでページ内容の最初の位置（センターまたは背表紙）を指定します。後でこの位置は、とじしろの値を増やすことでさらに調整できます。

ページ調整オプションでは、ページ内容の最初の位置を背表紙または中央のどちらかに合わせて指定します。

- Command WorkStation の「ジョブのプロパティ」の「レイアウト」タブで製本を選択し、画面の指示に従ってページ調整オプションを設定します。
- 背表紙（デフォルト）—書類ページの内容は、シート中央の折り目に当たる背の部分に合わせて配置されます。



- センター—書類ページの内容は、シートの 1/2 サイズの中央に配置されます。

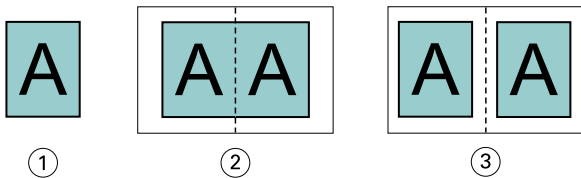


用紙に合わせて縮小オプションでページを調整する

用紙に合わせて縮小オプションをオン（有効）またはオフ（無効）にすることでページを調整できます。

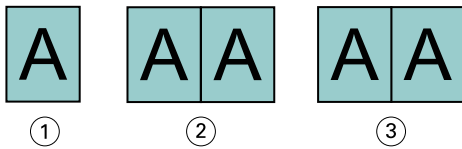
用紙に合わせて縮小をオンにしてページを調整する

次の図は、書類サイズが用紙の 1/2 のサイズより小さい場合のページ配置を示しています。



- 1 書類サイズ < 用紙の 1/2 サイズ
- 2 背の部分に合わせて配置されたページ
- 3 中央に配置されたページ

次の図は、書類サイズが用紙の 1/2 のサイズに等しい場合のページ配置を示しています。この場合、見た目の違いはありません。

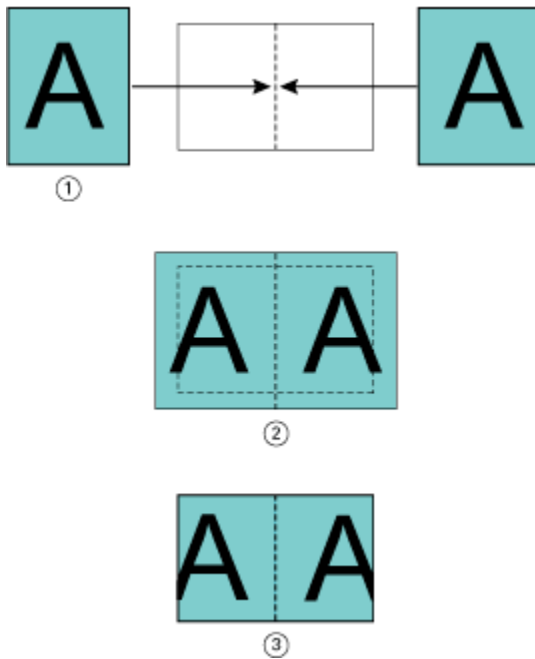


- 1 書類サイズ=用紙の 1/2 サイズ
- 2 背の部分に合わせて配置されたページ
- 3 中央に配置されたページ

メモ：書類サイズが用紙の 1/2 のサイズよりも大きくて用紙に合わせて縮小オプションがオンになっている場合、最終的な印刷結果は元の書類の縦横比によって決まります。

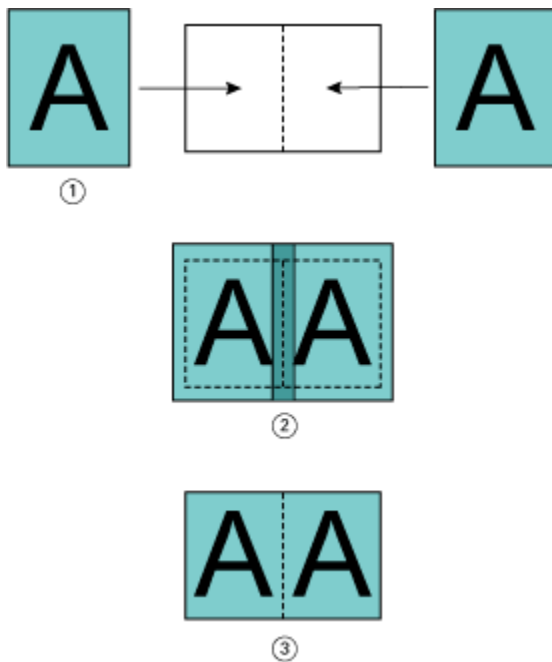
用紙に合わせて縮小をオフにしてページを調整する

次の図は、書類サイズが用紙の 1/2 のサイズより大きくて用紙に合わせて縮小がオフになっている場合、ページ配置を背表紙にしたときのページ配置を示しています。



- 1 書類サイズ > 用紙の 1/2 サイズ
- 2 ページを背の部分に合わせて配置、用紙に合わせて縮小 > オフ
- 3 最終的な印刷結果

次の図は、書類サイズが用紙の 1/2 のサイズより大きくて用紙に合わせて縮小がオフになっている場合、ページ配置をセンターにしたときのページ配置を示しています。



- 1 書類サイズ > 用紙の 1/2 サイズ
- 2 ページを中央に配置、用紙に合わせて縮小 > オフ
- 3 最終的な印刷結果

ページ調整ととししろ

とししろは、印刷したジョブをとじたり、他の仕上げオプションを適用したりするための追加マージン（余白）です。

Booklet Maker では、ページ調整オプションで最初のページ内容の配置（中央または背表紙）を指定します。その後でとししろの値を設定することによって、さらにページ内容の配置を微調整することができます。とししろ増幅値オプションにより、ブックレット内の隣接したページ間の余白を増やします（単位はミリまたはインチ）。

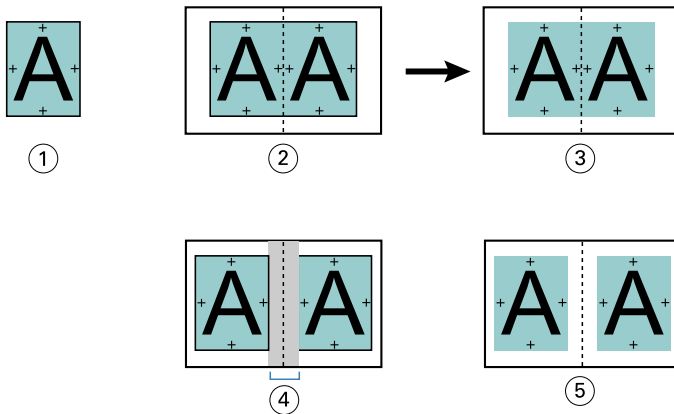
メモ：とししろで指定する値は、オリジナル書類で指定したページのマージンやレイアウトを変更するものではありません。とししろは、製本の仕上げに必要な余白を確保するための追加マージンです。

プリンターでサポートされているとししろ値の範囲の詳細については、『印刷ガイド』を参照してください。

背表紙に揃えた配置で、とししろ有りの場合

ページを背表紙に揃えて配置している場合、背表紙から片方のページ内容までの余白は、とししろ値の 1/2 です。

次の図は、ページ調整で背表紙を選択してとししろ無しで印刷した結果と、とししろを追加して印刷した結果を示しています。

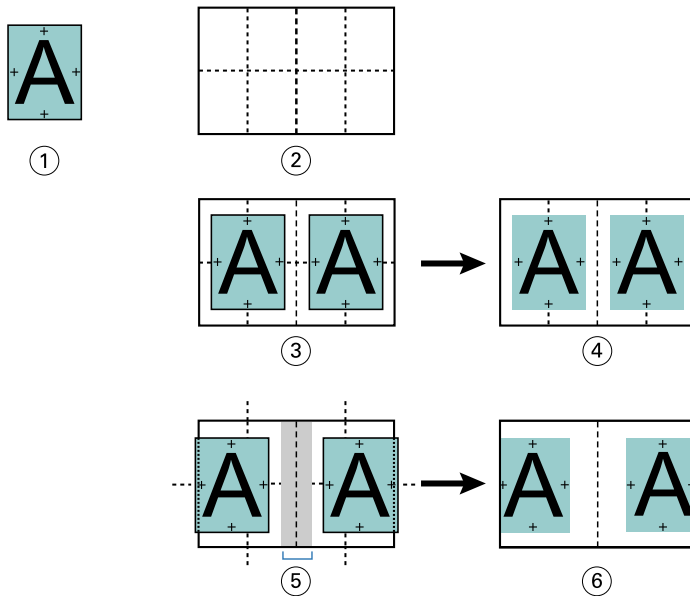


- 1 書類サイズ<用紙の 1/2 サイズ
- 2 背表紙に揃えた配置で、とじしろ無しの場合
- 3 図 2 の印刷結果
- 4 背表紙に揃えた配置で、とじしろ有りの場合
- 5 図 4 の印刷結果

中央揃えの配置で、とじしろ有りの場合

ページが中央揃えに配置されている場合、背表紙からページ内容までの余白は、とじしろ値の 1/2 の値に、中央に配置した際にできている元の余白分を追加した値になります。

次の図は、ページ調整で中央を選択してとじしろ無しで印刷した結果と、とじしろを追加して印刷した結果を示しています。



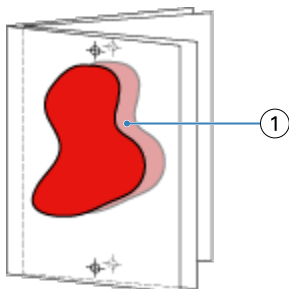
- 1 書類サイズ<用紙の 1/2 サイズ
- 2 用紙サイズ
- 3 中央揃えの配置で、とじしろ無しの場合
- 4 図 3 の印刷結果
- 5 中央揃えの配置で、とじしろ有りの場合
- 6 図 5 の印刷結果

メモ：とじしろ値を増やす場合は、シートの端または用紙の印画可能領域を超えるページ内容はクリッピングされることがあるので注意してください。

クリープ補正用紙種類

クリープが発生するのは、厚紙に印刷された中とじまたは複合中とじのブックレット、またはページ数の多いブックレットです。クリープ補正用紙種類を使用してクリープの影響を補正できます。

シートを折り重ねて折り丁（ブックレットのページを形成するように折り重ねられたシート）を作成する際には、シートを重ねるたびにページ内容の位置が少しずつずれていきます。そのため、ブックレットを裁断すると、冊子の中央に近いページほど外側のマージンが狭くなります。その結果、ページの内容が切り落とされたり、印刷位置が用紙の端に近くなりすぎたりします。



- 1 クリープ

1-up 無線とじでの用紙種類の混合

製本ジョブが 1-up 無線とじの場合のみ、Booklet Maker のジョブのプロパティの Booklet Maker で用紙種類の混合設定を指定できます。用紙種類の混合機能の拡張では、「用紙種類の混合」ダイアログとビューアが Booklet Maker のウィンドウに統合されます。

メモ: 1-up 無線とじでの用紙種類の混合はプリンタードライバーではサポートされていません。この機能を使用するには、ジョブを Command WorkStation の待機キューに送信する必要があります。

「用紙種類の混合」ビューアは、完成品の実際のページ付けを表示するので、「用紙種類の混合」ダイアログで行った選択内容がリアルタイムで反映されます。ジョブのレイアウトをページまたはシートとして見ることができます。

Booklet Maker の 1-up 無線とじでは「用紙種類の混合」で以下の指定ができます。

- 章の開始 - 両面印刷のジョブで章の開始が指定されているときは、間接的ブランクが挿入されます。
- ページ範囲とそのページ範囲の用紙。
- ブランクページの挿入とその挿入ページの用紙 - ユーザーの指定によるブランクページの挿入は、直接的ブランクです。「用紙種類の混合」ビューアでは、直接的ブランクと間接的ブランクの表示が異なります。

メモ: タブ挿入および表紙定義設定は、Booklet Maker の「用紙種類の混合」では指定できません。

Booklet Maker の「用紙種類の混合」を使用する場合、用紙タブのほうは無効になります。Booklet Maker で行った選択内容が、用紙タブと Fiery Compose に表示されます。

Booklet Maker で用紙種類の混合設定を指定する

製本タイプとして 1-up 無線とじを選択すると、用紙種類の混合ビューアが表示されます。

1-up 無線とじをサポートしないプリンターもあります。1-up 無線とじをサポートしない場合、このオプションは製本タイプメニューに表示されません。

- 1 Command WorkStation のジョブセンターでジョブを選択し、ジョブのプロパティを開きます。
- 2 レイアウトタブでブックレットを選択します。
- 3 製本タイプとして 1-up 無線とじを選択します。
- 4 とじ辺を選択します。
- 5 本文用紙サイズと表紙用紙サイズを指定します。

メモ: Booklet Maker の用紙種類の混合では表紙定義を選択できません。表紙の定義は、標準の Booklet Maker オプションを使用して作成します。

- 6 表紙設定と、他の必要な設定を行います。

7 用紙種類の混合ビューアまでスクロールダウンし、次の設定を行います。

- ページタブ - クリックすると、書類のページに従って整理されたブックレットのレイアウトと、シートとの関連が表示されます。
- シートタブ - クリックすると、シートに従って整理されたブックレットのレイアウトと、ページとの関連が表示されます。
- 章の開始ページフィールド - 各章を開始するページの番号をコンマで区切って入力します。ビューアでは、章の開始ページはマーカーで表されます。必要に応じて、間接的ブランクページが挿入されます。以下のグラフィックでは、章開始マーカーと、10 ページの後に挿入された間接的ブランクページを示しています。



- 新規ページ範囲 - アイコンまたはボタンをクリックしてページ番号を入力し、指定したページ範囲に用紙設定を適用します。



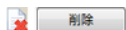
- 新規挿入 - アイコンまたはボタンをクリックして任意の場所にブランクページを挿入し、その挿入ページに用紙設定を適用します。



- 編集 - アイコンまたはボタンをクリックしてページ範囲または新規挿入用紙設定を変更します。



- 削除 - アイコンまたはボタンをクリックしてページ範囲または新規挿入用紙設定を削除します。



Fiery server に適用する用紙設定の詳細は、取扱説明書の『印刷ガイド』および『ユーティリティー』を参照してください。

用紙種類の混合でジョブのナビゲーションを行う

製本タイプとして 1-up 無線とじを選択すると、用紙種類の混合ビューアが表示されます。

- 用紙種類の混合ビューアで、書類内を移動するには次の方法があります。
 - スクロールバー。
 - ナビゲーション用矢印 - 内側の矢印をクリックすると、次のページまたは前のページに順に移動します。外側の矢印をクリックすると、書類の最初または最後に移動します。テキストフィールドには該当のアクションが表示されます。特定のページに移動するには、そのページ番号をフィールドに入力します。移動先がない場合、矢印は無効になります。ブランクの挿入を追加すると、もう 1 組のナビゲーション用矢印が表示され、ブランクの挿入間を前後に移動できます。



ジョブのレイアウトをページとして表示する

ジョブのページ付けをページ表示またはシート表示するよう選択できます。文書のページとシートは互いに対応しているので、どのページがどのシートで印刷されるかがわかります。

- ジョブをページ表示するには、ビューアの一番上にあるページタブをクリックします。



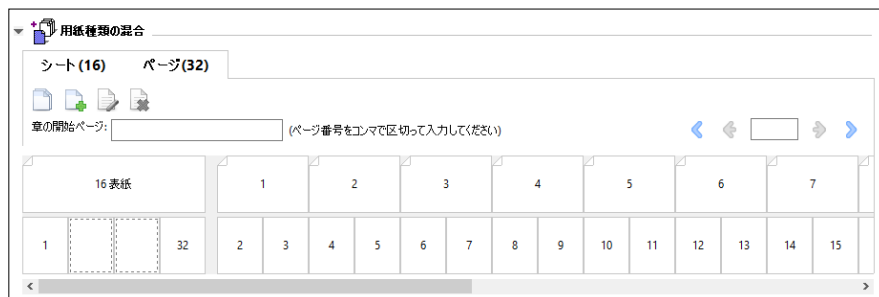
下記は、ジョブのページ表示です。タブ上の「ページ」の後の数字は書類ページ数で、各ページは最上段にサムネイルで表示されています。各ページはソース書類を普通に読む順序で表示されます。

次の段には、プリンターでシートが並ぶ順序を表示します。表紙の内容は、読む順序で先頭に表示されます。この例では書類の最初の2ページが表紙となっています。ジョブの最後である裏表紙の内容は、スクロールバーまたはその他のシートツールを使用して表示します。

ジョブのレイアウトをシートとして表示する

ジョブをシート表示するときは、シートの順序が重要なポイントとなります。

- ジョブをシート表示するには、ビューアの一番上にあるシートタブをクリックします。



一番上の段のサムネイルで、プリンター上での実際の印刷順序が表示されます。次の段には、どのページがどのシートに印刷されるかが表示されます。たとえば、以下の図の表紙のシートには、おもて表紙（書類の最初の2ページの内容）、背表紙（最後から3ページ目の内容）、裏表紙（書類の最後の2ページの内容）が含まれています。

メモ：表紙は、プリンターによっては最後のシートに出力されることもありますが、常に先頭に表示されません。

Booklet Maker 用紙種類の混合の制限事項

1-up 無線とじの場合の用紙種類の混合では、次の操作を実行できません。

- 内容が表紙として割り当てられた書類ページの**前**、ページ間、またはページの**後**にページを挿入すること。
- 仕上がり、製本済み設定となる本の外側にページを挿入すること。
- 表紙を物理的に分割するようなページを挿入すること。
- 1つのジョブで異なるサイズの用紙を指定すること。新規ページ範囲および新規インサートの用紙サイズの選択は、本文折り丁と同じサイズに限られます。

メモ：Z 折り丁の挿入に対応したプリンターは、本文折り丁の2倍の用紙サイズに対応します。

表紙を追加する

Booklet Maker では、中とじのブックレットに表紙を追加し、表紙の用紙を指定することができます。

Booklet Maker には、中とじのブックレットの場合のみ、印刷済みの表紙を差し込む方法と、文書内で用紙を指定して印刷する方法の2つの表紙オプションが用意されています。文書内の表紙の場合、追加オプションを指定できます。プリンターが無線とじバインダーなどの製本用フィニッシャーを備えている場合、追加のオプションについては取扱説明書の『印刷ガイド』を参照してください。

- 1 プリンタードライバーまたは Command WorkStation のジョブのプロパティのレイアウト > 製本タブにある製本タイプで中とじを選択し、とじ辺を選択します。
- 2 ブックレットの本文の用紙サイズとページ調整の設定を指定します。
- 3 表紙 > 内容入力メニューで、以下のいずれかを行います。

- 印刷済みの表紙を挿入するには、**印刷済み**を選択します。印刷済みの表紙は、別途印刷されるブックレットの本文ページにマージされます。このオプションを選択すると、**おもて表紙と裏表紙**のオプションは使用できません。
- 文書内の表紙を指定するには、**おもてと裏を別に印刷**を選択します。このオプションを指定すると、表紙ページと本文ページは単一ジョブとして印刷されます。原稿とは別に1枚のシートに面付けされ、冊子の表紙が作られます。

オリジナルの原稿に製本の表紙ページや表紙アートワークが含まれている場合、書類内の表紙を指定できます。表紙の内容は書類の最初のページおよび最後のページ、または書類の最初の2ページおよび最後の2ページ、またはそれらの組み合わせのいずれかになります。このオプションを選択すると、**おもて表紙と裏表紙**のオプションを指定できます。

- **おもて表紙/裏表紙オプション**（文書内の表紙のみ）—おもて表紙と裏表紙を、シートの両面に印刷するか、片面に印刷にするか、または両面ともブランクにするかを指定できます。元の書類にブランクページを作成する必要はありません。

メモ：文書内の表紙を上とじのとじ位置で印刷すると、裏表紙の外側は自動的に180度回転しておもて表紙の方向と一致します。

- 4 表紙の用紙、サイズ、および給紙トレイを指定するには、**表紙定義**をクリックして**表紙用紙設定**ウィンドウを開きます。このオプションは印刷済みの表紙と書類内の表紙の両方で使用できます。

- 5 挿入する印刷済みの表紙、または文書内の表紙について、用紙および用紙サイズを指定します。
- 6 挿入する印刷済みの表紙、または文書内の表紙を印刷する用紙が入ったトレイを選択し、OK をクリックします。

アプリケーション内で書類サイズを変更する

書類を作成したアプリケーションの印刷設定でオリジナルの書類のサイズを変更します。

書類サイズを変更する前に、使用するプリンターで変更後の用紙サイズがサポートされていることを確認します。

- 1 元の文書を開き、アプリケーションの印刷設定またはページ設定メニューに移動します。
- 2 使用するプリンターをプリンター名メニューから選択します。
- 3 使用するサイズを使用可能な用紙サイズの一覧から選択し、OK をクリックします。

メモ：一覧から使用する用紙サイズを選択する際、用紙の短辺/長辺給紙を考慮する必要はありません。

測定単位を変更する

測定にはミリメートル、ポイント、またはインチを使用できます。

メモ：プリンタードライバーでは、測定単位を変更することはできません。

- 1 Command WorkStation で編集 > 環境設定を選択します。
- 2 地域をクリックして地域設定ペインを開きます。
- 3 測定単位メニューから測定単位を選択して OK をクリックします。

メモ：次回 Command WorkStation を起動するまで、変更は反映されません。

ブックレットをプレビューする

ブックレットをプレビューウィンドウまたは Fiery プレビューウィンドウでプレビューできます。

メモ：プリンタードライバーで Booklet Maker を操作している場合、ジョブをプレビューすることはできません。

- ジョブセンターの Command WorkStation 待機リストで、印刷ジョブを選択し、アクション>プレビューを選択します。
 - スプール後待機のジョブの場合、Fiery プレビューウィンドウにジョブのプレビューが表示されます。
 - 処理後待機のジョブの場合、プレビューウィンドウにジョブのプレビューが表示されます。

ブックレット印刷事例

Booklet Maker 印刷事例では、ウィザードを使用して、3つの標準ブックレットタイプ（無線とじ、中とじおよび複合中とじ）を作成する手順の概要を説明します。

- [無線とじのブックレットを印刷する](#) (374 ページ)
- [中とじのブックレットを印刷する](#) (374 ページ)
- [複合中とじのブックレットを印刷する](#) (375 ページ)
- [1-up 無線とじブックレットを印刷する](#) (375 ページ)

無線とじのブックレットを印刷する

ウィザードを使用して無線とじブックレットを印刷することができます。

- 1 Booklet Maker には、プリンタードライバーまたは Command WorkStation のジョブのプロパティからアクセスします。
- 2 ウィザード起動をクリックします。
- 3 製本タイプと製本用のとじ位置を選択し、次へをクリックします。
- 4 本文の用紙サイズを指定し、次へをクリックします。
- 5 ページ調整ととじしろ値（オプション）を設定し、次へをクリックします。
- 6 設定概要でブックレットの設定を確認し、完了をクリックして、プリンタードライバーまたは Command WorkStation のジョブのプロパティのレイアウト>製本に戻ります。
- 7 プリンタードライバーまたは Command WorkStation のジョブのプロパティで、他の印刷オプション（任意）と仕上げオプション（折り、ステープル、とじなど）を設定し、OK をクリックします。

中とじのブックレットを印刷する

ウィザードを使用して、中とじのブックレットを印刷することができます。

- 1 Booklet Maker には、プリンタードライバーまたは Command WorkStation のジョブのプロパティからアクセスします。
- 2 ウィザード起動をクリックします。
- 3 製本タイプと製本用のとじ位置を選択し、次へをクリックします。

- 4 表紙ソースと内容を指定します。
- 5 表紙ソースと内容で**おもてと裏を別に印刷**を選択した場合は、表紙の印刷方法として**内側または外側**を指定するため、**おもて表紙印刷または裏表紙印刷**を選択します。次へをクリックします。
- 6 表紙ソースと内容で**挿入**を選択した場合は、次へをクリックします。
- 7 本文の用紙サイズを選択し、表紙を指定するために**表紙定義**をクリックします。
- 8 表紙用紙設定ウィンドウで、用紙の種類とサイズ、表紙用給紙トレイなどのオプションを指定します。
- 9 OK をクリックし、次へをクリックします。
- 10 ページ調整、とじしろ値、クリープ補正（オプション）を設定します。
- 11 設定概要でブックレットの設定を確認し、完了をクリックして、プリンタードライバーまたは Command WorkStation のジョブのプロパティのレイアウト > 製本に戻ります。
- 12 他の印刷オプション（任意）と仕上げオプション（折り、ステープル、とじなど）を設定し、OK をクリックします。

複合中とじのブックレットを印刷する

ウィザードを使用して複合中とじブックレットを印刷することができます。

- 1 プリンタードライバーまたは Command WorkStation のジョブのプロパティから Booklet Maker にアクセスします。
- 2 ウィザード起動をクリックします。
- 3 製本タイプと綴じ辺を選択し、次へをクリックします。
- 4 本文の用紙サイズとサブセット内のシート数を選択し、次へをクリックします。
- 5 ページ調整、とじしろ値、クリープ補正用紙種類（任意）を設定し、次へをクリックします。
- 6 設定概要でブックレットの設定を確認し、完了をクリックして、プリンタードライバーのレイアウト > ブックレットまたは Command WorkStation のジョブのプロパティに戻ります。
- 7 プリンタードライバーまたは Command WorkStation のジョブのプロパティで、他の印刷オプション（任意）と仕上げオプション（折り、ステープル、綴じなど）を設定し、OK をクリックします。

1-up 無線とじブックレットを印刷する

ウィザードを使用して 1-up 無線とじブックレットを印刷することができます。

メモ： Fiery server でサポートされている場合、この設定を使用できます。

- 1 プリンタードライバーまたは Command WorkStation のジョブのプロパティから Booklet Maker にアクセスします。
- 2 ウィザード起動をクリックします。
- 3 製本タイプと製本用のとじ位置を選択し、次へをクリックします。

- 4 本文の用紙サイズを指定し、次へをクリックします。
- 5 ページ調整ととじしろ値（オプション）を設定し、次へをクリックします。
- 6 設定概要でブックレットの設定を確認し、完了をクリックして、レイアウト > 製本（プリンタードライバーまたは Command WorkStation のジョブのプロパティ内）に戻ります。
- 7 プリンタードライバーまたは Command WorkStation のジョブのプロパティで、他の印刷オプション（任意）と仕上げオプション（折り、ステープル、とじなど）を設定し、OK をクリックします。

Booklet Maker の制限事項

Booklet Maker には、PDF ファイルやキュータイプなどに関する制限があります。

セキュリティ付き PDF ファイル

Adobe PDF ファイルは、セキュリティ設定を使用して保存できます。セキュリティ設定により、PDF ファイルに対する開く/印刷/編集の操作が制限されます（「制限付きのドキュメント」）。これらの制限付きのドキュメントを Booklet Maker から印刷することはできません。

キュータイプ

Booklet Maker は、直接接続キューに送られたジョブをサポートしません。Booklet Maker 印刷ジョブは、待機キューまたは印刷キューに送信する必要があります。

印刷オプション/Command WorkStation のジョブのプロパティ

- 「バリアブルデータ印刷」オプションは Booklet Maker ではサポートしていません。
- Booklet Maker での用紙種類の混合は、製本ジョブが 1-up 無線とじの場合のみサポートされています。[1-up 無線とじでの用紙種類の混合](#)（369 ページ）を参照してください。
- 「PPT 白背景除去」（PowerPoint 用）オプションは Booklet Maker ではサポートしていません。

Booklet Maker 用語集

以下に製本処理に関連する用語を示します。

2-up 面付け	1 枚の用紙の裏表に 2 枚の書類ページを印刷します。
システム管理者	Command WorkStation および Fiery server のコントロールパネルの全機能にアクセスできます。システム管理者のパスワードが必要です。
位置調整	ページ調整コントロールでは、シートの予め定義したスロット内でページの位置を指定します。たとえば、ページのサイズがスロットより小さくなるように変更された場合、その位置に対応するコントロールをクリックして、ページをスロットの左上に配置することができます。
縦横比	幅と高さの関係（比率）を示します。通常、「縦向き」は高さよりも幅が短い場合を指します。「横向き」は、幅が高さより長い場合を指します。

裏カラープロファイル	用紙の裏面のみに適用されるデフォルトのカラープロファイルを選択します。ジョブのプロパティで異なるカラープロファイルを指定すると、この属性は上書きされます。
ブリード	トリミングマークの外までコンテンツを拡張させることを指します。印刷エリアがトリミングしたページの端まで拡張されるようにします。
クリッピングインジケータ	指定された拡大値が大きく、ページがシートの端よりはみだして印刷される場合に表示されます。ウィンドウがレイアウトモードの場合、クリップしたページの端がイエローでハイライト表示されます。ウィンドウがプレビューモードの場合は、拡大縮小率フィールドの左側にクリッピングアイコンが表示されます。また、ページのプレビューにシートの端で切り取られたコンテンツが表示されます。
クリープ	クリープまたは製本クリープは、中とじおよび複合中とじで折り丁を複数回折ることにより、内容エリアがずれることを指します。
クリープ調整	中とじが指定された場合、製本クリープを自動的に補正します。
クリープ調整メニュー	クリープ調整メニューは、中とじが指定された場合、自動的に製本クリープを補正します。
カスタム	カスタムでは拡大縮小率、仕上がり高さおよび仕上がり幅フィールドがそれぞれ有効になるので、新しい倍率の値を指定できます。元の高さと幅が参照用に表示されます。数値を指定すると、Impose は自動的にその他のフィールドをアップデートして、ページの縦横比を保持します。
両面印刷	シートの両面に印刷します。
給紙辺	プリンターに最初に入る用紙の面。
フィニッシャー	折り、ステープル、製本など印刷後の処理作業用に作られたデバイスを指します。
仕上げ	折り、ステープル、製本など印刷後の処理作業を指します。
高さを合わせる	シートの各ページスロットの高さに合うようにページを縮小拡大します。
幅に合わせる	シートの各ページスロットの幅に合うようにページを縮小拡大します。
固定ページ	固定ページモードでは、同じサイズのページを含む書類を面付けできます。
折り目	折る位置を示す点線です。
おもてカラープロファイル	用紙の表側のみに適用されるデフォルトのカラープロファイルです。ジョブのプロパティで異なるカラープロファイルを指定すると、この属性は上書きされます。
ギャングアップ	ギャングアップ印刷は、異なる画像やページをそれぞれ別のシートに配置するのではなく、1枚のシート上にまとめて配置します。
とじしろ	綴じなどの仕上げオプションのための追加の余白を指します (ページマージンとは異なります)。

印画領域	マークを実際に作れる用紙のエリアを指します。
インラインカバー	同じジョブで本文ページとともに印刷される表紙/裏表紙。
ジョブラベル	ジョブ名、シート情報、日時に使用する説明テキストを保持します。
横	横向き書類では、幅が高さより長くなります。
レイアウトビュー	レイアウトビューモードは、番号付けされたページを表示し、面付けしたジョブでのソース書類ページの位置がわかるようになっています。レイアウトビューで各ページを回転させることもできます。
左とじ	本の左端を綴じることを指します。左から右方向に読む文章に適しています。
マージン	印刷可能エリアの周囲の余白または空きスペースです。マージンは書類によって異なります。
用紙カラープロファイル	用紙の両面に適用されるデフォルトのカラープロファイルです。ジョブのプロパティで異なるカラープロファイルを指定すると、この属性は上書きされます。
ページ混合	ページ混合モードでは、サイズが異なるページを含む書類を面付けできます。
複合中とじ	中とじと無線とじ法を組み合わせたものです。中とじでは、折り丁をまとめて折り、サブセットを作ります。無線とじと同様、サブセットを一枚一枚重ねてのりづけします。
オフライン仕上げ	表紙を別に印刷し、印刷後に本文と合わせる方法です。
オフセット	オフセットの数値は調整位置を参考に計算され、新しい調整位置を指定すると、ゼロにリセットされます。
オペレーター	ジョブセンターの全機能にアクセスできます。デバイスセンターでは、 Configure 、バックアップ/復帰、パスワードの変更およびジョブログの削除にはアクセスできません。 Paper Catalog やメディアカタログ、仮想プリンター、カラー管理機能を表示することはできますが、編集はできません。オペレーターのパスワードが必要です。
パンツール	ジョブの任意の部分をビューにドラッグできます。
無線とじ	複数ある折り丁を個別に折り、折り目にそって重ね合わせてから、綴じる方法です。背を平らにして、のりづけします。
縦	縦向き書類では、幅は高さより短くなります。
後処理給紙トレイ	プリンターのフューザーをバイパスするブランク、または印刷済みの用紙を給紙できるトレイ。
プレビュー表示	プレビュー表示モードでは、最終的な印刷結果に近い形で表示されます。「WYSIWYG (What You See Is What You Get)」と呼ばれることもあります。
印字可能エリア	ページ内容（テキストおよび/または画像）に割り当てられたスペース。

印刷マーク	折りの位置、カット、マージン、とじしろ、ブリードを決定します。印刷マークは、印刷したシートのメインの内容エリアの外側に表示されます。
印刷スプレッドシート	面付け済みのジョブとして印刷される順番とレイアウトでページを表示します。
印刷中	Fiery server の場合、印刷中とは Fiery server からプリンターへのラスターイメージの高速転送を意味します。ラスターイメージの高速転送により、RAM が次のジョブのために解放されます。印刷ジョブのファイルは通常ディスクに保存されますが、ラスターイメージは印刷ジョブの処理中または処理後に RAM に保持されます。ただし、ユーザーまたはオペレーターが指示すれば、ラスターイメージを元の印刷ジョブのファイルと共にディスクに保存できます。ラスターイメージをディスクに保存することには利点があります。ラスターファイルは処理済みのファイルなので、すばやく印刷できます。また、ラスターファイルは元の書類と同じようにページ識別されているため、ラスターファイルの個別ページにアクセスできます。
処理済み/待機	ジョブの処理または RIP (ラスターライズ) 処理には、印刷のためのスプール済みのラスターファイルの作成 (ラスターイメージ) が含まれます。処理済み/待機ジョブは、プリンターに送信されるまで待機キューで保持されます。
リーダースプレッドシート	読まれるべき順番とレイアウトでページを表示します。
右とじ	本の右端を綴じることを指します。右から左方向に読む文章に適しています。
RIP	RIP はラスターイメージ処理の略称です。ラスターイメージ処理では、印刷処理の最初の部分でジョブが送信されます。ジョブに指定された印刷オプションが解釈され、ラスターイメージファイルが作成されます。このラスターファイル (ラスターイメージ) 内では、カラーデータがプリンターにレンダリングされる各ドットに関連付けられています。プリンターはこのカラーデータに従って、シアン、マゼンタ、イエロー、またはブラックのトナーをページ上の適切な位置に付着させます。
中とじ	複数あるシートの共通の中央折り目部分を糸/ステープルで綴じる方法です。中とじは最も基本的な綴じ方で、一般的にブックレットに使用されます。
用紙サイズにあわせる	端がはみ出ないように、ページを用紙に合わせて縮小する方法です。用紙サイズにあわせるはデフォルトモードです。
シート	印刷プレスで印刷ジョブをイメージ出力する用紙のことです。
折り丁 (一枚)	折りを入れた一枚のシートで、連続した順番でブックレットのページを構成します。ブックレットの各折り丁は同じように折りを入れます。
片面印刷	シートの片面のみに印刷することを指します。
サイズメニュー	サイズメニューには、現在選択しているプリンターの PPD (PostScript printer description) ファイルで定義されたすべてのページサイズを表す項目が含まれます。

背表紙	中央の折り目で折り丁を半折してそろえて、糸または糊付けします。
スプール済み/待機	オペレーターによるジョブ管理の準備中、Fiery server でジョブがスプールおよび待機している状態になります。オペレーターが出力先を割り当てたら、ジョブが処理用にスプールされます。
スプール中	ジョブは印刷用に送信されると、Fiery server のハードディスクに保存されます。ファイルはネットワークからパケット形式で送信されたり、ディスクから送られたりします。ジョブは、キュー内では、送信された順番に表示され、オペレーターが介入しない限り、その順番に従って印刷ワークフローで処理されます。ジョブが中断されると、そのジョブはスプールキューに送られ、次の指示を待ちます。このため、スプールキューは待機キューとも呼ばれます。
上とじ	本の上端を綴じることを指します。
トリミングマーク	裁断位置を定義する実線です。